

# Enterprise Vault™ 管理者ガイド

12.3

# Enterprise Vault™: 管理者ガイド

最終更新日: 2018-03-19。

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2018 Veritas Technologies LLC. All rights reserved.

Veritas、Veritas ロゴ、Enterprise Vault、Compliance Accelerator、Discovery Accelerator は、Veritas Technologies LLC または同社の米国およびその他の国における関連会社の商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Veritas 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティソフトウェア (「サードパーティプログラム」) が含まれる場合があります。一部のサードパーティプログラムはオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスの下で利用できます。ソフトウェアに付属している使用許諾契約は、それらのオープンソースまたは無償ソフトウェアライセンスで規定されている権利または義務を変更するものではありません。この Veritas 製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載する製品は、使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバース・エンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されています。Veritas Technologies LLC からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

文書は「現状有姿のまま」提供され、市販性、特定目的との適合性または権利を侵害していないことを含むすべての明示または黙示の条件、表明および保証は、そのような免責が法的に無効であるとされた場合を除き、免責されます。VERITAS TECHNOLOGIES LLC は本書の供給、実行、または使用に関連した付随的、間接的な損害に対する責任を負わないものとします。本書に含まれる情報は、事前の通知なく変更される場合があります。

ライセンス対象ソフトウェアおよび資料は、FAR 12.212 の規定によって商用コンピュータソフトウェアとみなされ、場合に応じて、FAR セクション 52.227-19「Commercial Computer Software - Restricted Rights」、DFARS 227.7202「Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation」、その後継規制の規定により、Veritas がオンプレミスとして提供したか、ホストサービスとして提供したかにかかわらず、制限された権利の対象となります。米国政府による本ソフトウェアの使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Veritas Technologies LLC  
500 E Middlefield Road  
Mountain View, CA 94043

<https://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートは、世界中にサポートセンターを設けています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と、その時点でのエンタープライズテクニカルサポートポリシーに従って提供されます。サポートサービスとテクニカルサポートに連絡する方法について詳しくは、次の当社の Web サイトを参照してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP.html](https://www.veritas.com/support/ja_JP.html)

次の URL で Veritas Account の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

既存のサポート契約に関して当社に問い合わせる場合は、次に示すご利用の地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

全世界 (日本以外)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

テクニカルサポートに連絡する前に、Veritas Quick Assist (VQA) ツールを実行して製品のマニュアルに記載されているシステムの必要条件を満たしていることを確認してください。VQA は Veritas サポート Web サイトの次の記事からダウンロードできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## マニュアル

最新版のマニュアルを確認してください。各マニュアルの 2 ページ目に最終更新日が表示されています。最新のマニュアルは Veritas の Web サイトで入手できます。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100040095](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100040095)

## マニュアルのフィードバック

お客様のフィードバックは当社の財産です。改善点のご指摘やマニュアルの間違い、脱字などのご報告をお願いします。その際、マニュアルのタイトル、バージョン、章タイトル、セクションタイトルも合わせてご報告ください。フィードバックは次のアドレスに送信してください。

[evdocs@veritas.com](mailto:evdocs@veritas.com)

次の Veritas コミュニティサイトでマニュアルの情報を参照したり、質問することもできます。

<https://www.veritas.com/community>

# 目次

第 1 章	本書について .....	15
	必要な知識 .....	15
	Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先 .....	15
	Enterprise Vault トレーニングモジュール .....	18
第 2 章	管理者のセキュリティの管理 .....	19
	管理者のセキュリティについて .....	19
	役割ベースの管理 .....	20
	事前定義済みロールについて .....	21
	ロールと Enterprise Vault 管理コンソール .....	24
	役割ベースの管理 (RBA) と分類機能 .....	30
	役割と Enterprise Vault Operations Manager .....	30
	役割と Enterprise Vault Reporting .....	30
	事前定義済みの RBA ロールを使った操作 .....	31
	RBA ロールのカスタマイズ .....	34
	現在の役割の資格の判断 .....	36
	すべての役割と割り当てのリセット .....	36
	権限を使ったアクセス制御 .....	37
	ボルトサービスアカウントの変更 .....	38
第 3 章	日常的な管理 .....	41
	システムの状態の監視 .....	42
	アプリケーションログの監視 .....	42
	Exchange メールボックスアーカイブレポートについて .....	43
	Exchange メールボックスアーカイブレポートの設定 .....	43
	Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用 .....	44
	より多くの情報の取得 .....	46
	MSMQ キューの監視 .....	46
	タスクとサービスの起動または停止について .....	47
	タスクの開始または停止 .....	47
	サービスの開始または停止 .....	48
	Windows イベントビューアによるログのチェック .....	48
	ジャーナルメールボックスの監視 .....	49
	デフォルトの ANSI コードページ (ACP コードページ) の使用 .....	51

ディスクの監視について .....	52
ボルトストアのディスク領域のチェック .....	52
ディスク領域とインデックス .....	55
SQL データベースの保守について .....	55
ボルトストアデータベースの保守 .....	56
ディレクトリデータベースの保守 .....	56
フィンガープリントデータベース保守 .....	57
監視データベースの保守 .....	58
FSA レポートデータベース保守 .....	59
SQL AlwaysOn 可用性グループの使用 .....	59
SQL AlwaysOn 可用性グループを実装するときに使用する PowerShell cmdlet .....	59
SQL AlwaysOn 可用性グループの実装 .....	59
ボルトストアグループの管理と共有について .....	63
ボルトストアグループのボルトストアの状態の表示 .....	64
ボルトストアの共有レベルの変更 .....	64
ボルトストアの別のボルトストアグループへの移動 .....	66
ボルトストアグループの削除 .....	66
フィンガープリントデータベースの監視 .....	67
単一インスタンスストレージによって発生するアーカイブ領域の削減の 監視 .....	68
セーフコピーの管理について .....	69
Enterprise Vault のセーフコピーの削除設定 .....	69
パーティションがバックアップされていることのチェック .....	69
パーティションロールオーバーの管理について .....	70
パーティションロールオーバーの設定 .....	71
ロールオーバー順序の変更 .....	73
パーティションロールオーバーの強制 .....	74
削除済みアイテムの回復 .....	75
有効期限と削除について .....	76
ストレージの有効期限の設定 .....	76
ショートカットの削除の設定 .....	77
保持カテゴリと保持期間の処理 .....	78
保持カテゴリの作成 .....	78
保持計画について .....	79
保持計画の作成 .....	80
Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用 .....	81
保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について .....	84
保持計画がストレージの有効期限切れに与える影響 .....	84
保持フォルダの設定 .....	85
プロビジョニンググループの保守について .....	93
新しいメールボックスのアーカイブの有効化 .....	94
非表示のメールボックスの確認 .....	96

選択したアーカイブに対するリーガルホールドの適用と解除について .....	97
アーカイブ移動について .....	98
アーカイブの移動の働き方 .....	99
サイト内でのメールボックスアーカイブの移動について .....	101
サイト間でのメールボックスアーカイブの移動について .....	103
サイト内でのジャーナルアーカイブの移動について .....	105
アーカイブの移動の設定について .....	106
アーカイブの移動の実行 .....	108
アーカイブ移動の監視 .....	114
アーカイブの移動後のアーカイブの削除 .....	117
[失敗]と[エラー]状態の移動操作の管理 .....	118
アーカイブ移動のレポートと監視 .....	118
アーカイブの削除 .....	119
アーカイブを管理するための PowerShell cmdlet .....	120
アーカイブ cmdlet でのエラー処理 .....	120
ボルトストアの削除 .....	122
システムメッセージの設定 .....	123
インデックスボリュームについて .....	124
ディレクトリデータベースの移動 .....	124
ボルトストアデータベースの移動 .....	125
フィンガープリントデータベースの移動 .....	125
監視データベースの移動 .....	125
監査データベースの移動 .....	126
ボルトサービスアカウントのパスワードの変更 .....	126

## 第 4 章

## レコード管理のための Enterprise Vault の使用

.....	128
レコード管理の導入 .....	128
レコードと非レコードについて .....	129
Enterprise Vault でアイテムをレコードとしてマーク付けする方法 .....	130
必要なレコードタイプの設定 .....	131
ユーザーのデフォルトのレコードタイプの設定 .....	132
必要な保持カテゴリの作成 .....	133
保持カテゴリと保持計画の関連付け .....	134
対象ユーザーへの保持計画の適用 .....	135
個々のアイテムのレコードタイプの変更をユーザーに許可する方法 .....	136
レコード管理のための分類機能の使用 .....	139
EVPM と分類機能の間で生じる可能性のある矛盾 .....	140
一般的な設定シナリオ .....	140
ユーザーを Capstone 関係者として設定し、すべてのアイテムを永続 レコードとしてマーク付けする方法 .....	141

ユーザーを <b>Capstone</b> 関係者として設定し、分類を使って永続レコードセットから特定のアイテムを除外する方法 .....	141
ユーザーを <b>Capstone</b> 非関係者として設定する方法 .....	143
レコードとしてマーク付けされたアイテムのアーカイブ内での検索 .....	144
<b>Enterprise Vault Search</b> の詳細検索機能を使ってレコードを検索する方法 .....	145
詳細検索ユーザーのレコード検索を簡易化する方法 .....	145
結果ペインにレコードタイプと ID を表示するための <b>Enterprise Vault Search</b> のカスタマイズ .....	146
1 つ以上のアーカイブのレコード管理設定の表示 .....	147
アーカイブからのアイテムのエクスポート .....	148

## 第 5 章                    自動的にイベントをフィルタ処理 ..... 150

イベントのフィルタについて .....	150
イベントフィルタによって生成されるイベント .....	150
イベントフィルタの設定 .....	151
イベントフィルタの例 .....	152

## 第 6 章                    インデックスの管理 ..... 153

インデックスウィザードについて .....	153
インデックスタスクとサブタスクについて .....	154
インデックスサブタスクの削除の設定 .....	155
アップグレードウィザードについて .....	155
確認ウィザードについて .....	156
同期ウィザードについて .....	157
再構築ウィザードについて .....	157
場所の変更ウィザード .....	158
インデックスウィザードの使用 .....	159
インデックスタスクの管理 .....	160
インデックス処理の除外の管理 .....	167
インデックス処理の除外の動作 .....	168
インデックス処理の除外の管理 .....	168
インデックスボリュームの表示 .....	168
<b>PowerShell cmdlet</b> のインデックス付けについて .....	169
<b>PowerShell cmdlet</b> の実行 .....	170
<b>Get-IndexServerForIndexLocation</b> の使用 .....	170
<b>Set-IndexMetadataSyncLevel</b> の使用 .....	170

第 7 章	Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定 .....	172
	Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定について .....	172
	Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定の編集 .....	172
	Domino メールボックスとデスクトップポリシーの新しい設定を適用する方法 .....	173
	Domino メールボックスポリシーの詳細設定 .....	173
	アーカイブ全般: Domino メールボックスポリシー .....	173
	Domino デスクトップポリシーの詳細設定 .....	175
	ボルトキャッシュ: Domino デスクトップポリシー .....	175
第 8 章	Exchange メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定 .....	177
	Exchange メールボックスおよびデスクトップの拡張設定について .....	177
	Exchange メールボックスとデスクトップの詳細設定の編集 .....	177
	Exchange メールボックスとデスクトップの新しい設定を適用する方法 .....	178
	Exchange メールボックスポリシーの詳細設定 .....	178
	アーカイブ全般 (Exchange メールボックスポリシーの詳細設定) .....	178
	Exchange デスクトップポリシーの詳細設定 .....	188
	Office Mail App (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定) .....	189
	Outlook (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定) .....	190
	2013 より前の OWA バージョン (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定) .....	210
	Vault Cache (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定) .....	217
	仮想ボルト (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定) .....	222
第 9 章	Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定 .....	233
	Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定の編集 .....	233
	アーカイブ全般 (Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定) .....	234
	RMS で保護されているアイテムの平文コピー ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	234
	配布リストを展開 ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	235
	DL 展開動作が失敗 (Exchange のアーカイブの一般設定) .....	236
	継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	236
	ジャーナルの遅延 ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	236
	アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	237
	ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般]設定) .....	237



ジャーナルアイテムをキューに入れる ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	237
アーカイブ名をリセット ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	238
失敗したアイテムを受信トレイに戻す ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	238

## 第 10 章      Exchange パブリックフォルダポリシーの詳細設定 .....

Exchange パブリックフォルダの詳細設定の編集 .....	239
アーカイブ全般 (Exchange パブリックフォルダポリシーの詳細設定) .....	240
期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	240
カスタムショートカットを右から左にフォーマットするコードページ ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	240
事前通知の保留中はアーカイブしない ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	241
継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	241
アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	241
ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	242
失敗したメッセージを「アーカイブしない」に設定 ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	242
ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 ([Exchange アーカイブ全般] 設定) .....	242

## 第 11 章      SMTP ポリシーの詳細設定 .....

SMTP ポリシーの詳細設定の編集 .....	244
ジャーナルレポート設定 .....	244
RMS で保護されているアイテムの平文コピー (SMTP ポリシーの詳細設定) .....	245
ジャーナルレポート処理 (SMTP ポリシーの詳細設定) .....	245

## 第 12 章      サイトプロパティの詳細設定 .....

サイトプロパティの詳細設定について .....	247
サイトプロパティの詳細設定の編集 .....	247
サイトプロパティに新しい設定を適用する方法 .....	248
サイトプロパティの詳細設定 .....	248
コンテンツの変換 (サイトプロパティの詳細設定) .....	248
ファイルシステムアーカイブ (サイトプロパティの詳細設定) .....	259
IMAP (サイトプロパティの詳細設定) .....	260

	インデックス (サイトプロパティの詳細設定) .....	262
	Skype for Business (サイトプロパティの詳細設定) .....	267
	SQL Server (サイトプロパティの詳細設定) .....	267
	SMTP (サイトプロパティの詳細設定) .....	268
	ストレージ (サイトプロパティの詳細設定) .....	270
<b>第 13 章</b>	<b>コンピュータプロパティの詳細設定</b> .....	273
	コンピュータプロパティの詳細設定について .....	273
	コンピュータプロパティの詳細設定の編集 .....	273
	コンピュータプロパティに新しい設定を適用する方法 .....	274
	コンピュータプロパティの詳細設定 .....	274
	エージェント (コンピュータプロパティの詳細設定) .....	274
	IMAP (コンピュータプロパティの詳細設定) .....	275
	サーバーインデックス (コンピュータプロパティの詳細設定) .....	276
	ストレージ (コンピュータプロパティの詳細設定) .....	290
<b>第 14 章</b>	<b>タスクプロパティの詳細設定</b> .....	293
	タスクプロパティの詳細設定の編集 .....	293
	SMTP アーカイブタスクの詳細プロパティ .....	293
	SMTP アーカイブタスクのチェックポイント間隔 .....	294
	SMTP アーカイブタスク概要レポートを更新する頻度 .....	294
	変更のないチェックポイントの最大発生回数 .....	294
<b>第 15 章</b>	<b>個人用ストアの管理詳細プロパティ</b> .....	295
	[個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定について .....	295
	[個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定の編集 .....	295
	PST メッセージのサンプリング ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設 定) .....	296
	移行の状態の変更割合 ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設 定) .....	296
	メッセージの種類の除外リスト ([個人用ストアの管理]プロパティの詳 細設定) .....	296
<b>第 16 章</b>	<b>分類ポリシーの詳細設定</b> .....	297
	分類ポリシーの詳細設定の編集 .....	297
	分類設定 (分類ポリシーの詳細設定) .....	297
	保持カテゴリの選択 (分類ポリシーの設定) .....	298

<b>第 17 章</b>	<b>ストレージキューの管理</b> .....	299
	ストレージキューについて .....	299
	ストレージキューでセーフコピーが保持されるしくみ .....	300
	ストレージキューにあるセーフコピーの数の確認 .....	300
	ストレージの詳細設定の表示または変更 .....	301
	ストレージキューの場所の変更 .....	302
	ストレージキューの場所を開くまたは閉じる .....	303
<b>第 18 章</b>	<b>自動監視機能</b> .....	304
	自動監視機能について .....	304
	[サイトプロパティ]の監視機能 .....	305
	Enterprise Vault Operations Manager による監視について .....	305
	Operations Manager へのアクセス .....	306
	MOM を使った監視について .....	307
	MOM のインストール .....	308
	MOM の設定 .....	308
	SCOM を使った監視機能について .....	310
	Enterprise Vault サーバー用の SCOM 監視機能の設定 .....	311
	以前の SCOM Management Pack の使用または削除 .....	315
	オプションの SCOM 設定 .....	316
	SCOM 監視に関する注意事項 .....	316
<b>第 19 章</b>	<b>拡張コンテンツプロバイダの管理</b> .....	317
	拡張コンテンツプロバイダについて .....	317
	拡張コンテンツプロバイダのプロパティ .....	318
	拡張コンテンツプロバイダの管理者ロールの割り当て .....	318
	拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションロールの割り当て .....	318
	拡張コンテンツプロバイダの有効化 .....	319
	コンテンツプロバイダレポートの表示 .....	319
<b>第 20 章</b>	<b>アーカイブのエクスポート</b> .....	321
	アーカイブのエクスポートウィザードについて .....	321
	エクスポートしたファイルのインポート (移行) .....	322
	PST 設定ファイルとエクスポートされたアーカイブ .....	323
	アーカイブのエクスポートウィザードでのエクスポートの開始 .....	324
<b>第 21 章</b>	<b>Enterprise Vault のメッセージキュー</b> .....	325
	Enterprise Vault メッセージキューへのアクセス .....	325
	MSMQ キューの概要 .....	326
	Exchange メールボックスタスクのキュー .....	328

Exchange メールボックスタスクキューについての注意点 .....	331
Exchange ジャーナルタスクのキュー .....	332
Exchange ジャーナルタスクキューについての注意点 .....	333
Exchange パブリックフォルダタスクキュー .....	334
Exchange パブリックフォルダタスクキューについての注意点 .....	335
取り込みのキュー .....	336
取り込みのキューに関する注意点 .....	337
ストレージサービスのキュー .....	337
ストレージサービスのキューに関する注意点 .....	338

## 第 22 章 カスタマイズとベストプラクティス ..... 339

メールボックスのアーカイブ戦略 .....	339
メールボックスのアーカイブ戦略について .....	339
経過日数ベースのアーカイブの注意点 .....	340
クォータベースのアーカイブ、または経過日数とクォータベースのアー カイブに関する注意点 .....	340
Exchange Server 2010 管理フォルダのアイテムのアーカイブに関す る注意点 .....	345
添付ファイルがあるアイテムのみのアーカイブ .....	350
ジャーナルメールボックスの Enterprise Vault の設定をカスタマイズ する方法 .....	351
メールボックスのアーカイブの無効化 .....	353
パブリックフォルダをアーカイブする場合のベストプラクティス .....	353
パフォーマンスの調整について .....	354
Windows 一時フォルダの移動 .....	355
ストレージサービスコンピュータのパフォーマンスの向上 .....	355

## 第 23 章 ビルディングブロック構成でのフェールオーバー ..... 359

ビルディングブロック構成での Enterprise Vault サービスについて .....	359
ビルディングブロックの追加必要条件 .....	360
フェールオーバー後のサービスの場所の更新 .....	362
FSA アーカイブのフェールオーバー後の追加処理 .....	363
SMTP アーカイブのフェールオーバー後の追加処理 .....	363
Skype for Business アーカイブのフェールオーバー後の追加処理 .....	364

## 付録 A Enterprise Vault で使うポート ..... 366

Enterprise Vault で使われるポートについて .....	366
Enterprise Vault プログラムのファイアウォールの設定 .....	366

付録 B	便利な SQL クエリー .....	371
	SQL クエリーについて .....	371
付録 C	トラブルシューティング .....	372
	インストールの問題 .....	372
	Enterprise Vault サーバー: インストールの問題 .....	372
	デスクトップクライアント: インストールの問題 .....	373
	Microsoft SQL Server の問題 .....	373
	エラー: ODBC SQL Server Driver Connection is Busy .....	374
	SQL Server のライセンス数の超過 .....	374
	Enterprise Vault データベースを移動した後のパスワードのリセット方 法 .....	375
	サーバーの問題 .....	375
	MSMQ 配信不能メッセージキューを開いたときのエラーの修正 .....	375
	クライアントの問題 .....	376
	MAPIVC.INF の問題 (クライアント) .....	376
	Enterprise Vault ユーザーから見える問題 .....	377
	メールボックスの有効化または処理の問題 .....	378
	Enterprise Vault システムメールボックスのチェック .....	379
	ボルトキャッシュの同期の問題 .....	380
	ボルトキャッシュの診断ページの表示 .....	380
	ボルトキャッシュの診断について .....	381
	ボルトキャッシュの診断の使用を進めました .....	382
	結果のエクスポート .....	383
	クライアントの同期の状態テキスト .....	383
	Enterprise Vault サーバーのボルトキャッシュの問題の識別と解決 .....	386
	エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決 .....	388
	IIS ログファイルの検査 .....	391
	Enterprise Vault コンポーネントに関する問題 .....	394
	トラブルシューティング: すべてのタスクとサービス .....	394
	トラブルシューティング: ファイルシステムアーカイブ .....	396
	トラブルシューティング: ディレクトリサービス .....	397
	トラブルシューティング: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク .....	400
	トラブルシューティング: アイテムの復元 .....	403
	トラブルシューティング: インデックス .....	403
	トラブルシューティング: ストレージサービス .....	403
	トラブルシューティング: ショッピングサービス .....	406
	トラブルシューティング: Web Access アプリケーション .....	410

トラブルシューティング: Enterprise Vault Operations Manager と監 視データベース .....	411
トラブルシューティング: Enterprise Vault Reporting と FSA レポート .....	411
特定の問題 .....	412
ユーザーのアイテムの復元 .....	415
トラブルシューティングを支援する技法 .....	415
Veritas Quick Assist .....	416
オンデマンド実行: [今すぐ実行] .....	416
Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用 .....	416
Exchange メールボックスタスクから移動されたアイテムのレポート .....	417
管理コンソールからの DTrace の実行 .....	418
Deployment Scanner の使用 .....	419
Outlook アドインログが含まれているメールメッセージの作成 .....	420
レジストリ設定の修正方法 .....	421
インデックスサービスの移動について .....	423
ボルトディレクトリデータベースのインデックスのデータ構造の注意点 .....	424
インデックスサービスの移動 .....	424

付録 D	Enterprise Vault アカウントとパーミッション .....	428
	アカウントおよび権限について .....	428

# 本書について

この章では以下の項目について説明しています。

- [必要な知識](#)
- [Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先](#)

## 必要な知識

Enterprise Vault を管理するには、次の製品についての実用的な知識が必要です。

- Windows Server の管理タスク
- Microsoft SQL Server
- Microsoft Message Queue Server
- IIS (Internet Information Services)
- 使用しているアーカイブストレージのハードウェアとソフトウェア

Domino サーバー、Microsoft Exchange、Microsoft SharePoint とともに Enterprise Vault を使う場合は、これらの製品の実用的な知識も必要です。

## Enterprise Vault についての詳しい情報の入手先

[表 1-1](#) に、Enterprise Vault に付属のマニュアルの一覧を示します。このマニュアルは、Veritas [ドキュメントライブラリ](#) から PDF および HTML 形式でも入手可能です。

表 1-1 Enterprise Vault マニュアルセット

マニュアル	コメント
Veritas Enterprise Vault ドキュメントライブラリ	<p>横断検索の可能な Windows のヘルプ (.chm) 形式の次のドキュメントがすべて含まれています。Acrobat (.pdf) 形式のマニュアルへのリンクも含まれています。</p> <p>このライブラリには、次を含む複数の操作でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Windows エクスプローラで Enterprise Vault インストール先フォルダのサブフォルダ Documentation¥language¥Administration Guides を参照し、EV_Help.chm ファイルを開きます。</li> <li>■ 管理コンソールの [ヘルプ] メニューで [Enterprise Vault のヘルプ] をクリックします。</li> </ul>
導入および計画	Enterprise Vault の機能の概要を説明します。
Deployment Scanner	Enterprise Vault をインストールする前に必要なソフトウェアと設定を確認する方法を説明します。
インストールおよび設定	Enterprise Vault の設定に関する詳細な情報を提供します。
アップグレードの手順	既存の Enterprise Vault インストールを最新バージョンにアップグレードする方法を説明します。
Domino サーバーアーカイブの設定	Domino メールファイルとジャーナルデータベースからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
Exchange Server アーカイブの設定	Microsoft Exchange ユーザーメールボックス、ジャーナルメールボックス、パブリックフォルダからアイテムをアーカイブする方法を説明します。
ファイルシステムアーカイブ (FSA) の設定	ネットワークファイルサーバーに保存されているファイルをアーカイブする方法を説明します。
IMAP の設定	Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブへの IMAP クライアントアクセスを設定する方法を説明します。
SharePoint Server アーカイブの設定	Microsoft SharePoint サーバーの文書をアーカイブする方法を説明します。
Skype for Business のアーカイブの設定	Skype For Business のセッションをアーカイブ化する方法を説明します。
SMTP アーカイブの設定	他のメッセージングサーバーから SMTP メッセージをアーカイブする方法を説明します。



マニュアル	コメント
Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類	Windows Server の新しいエディションに組み込まれた分類エンジンを使用して、新規と既存のすべてのアーカイブ済みコンテンツを分類する方法について説明します。
Veritas Information Classifier を使用した分類	Veritas Information Classifier を使用して、業界標準の分類ポリシーの包括的なセットを基準に新規とアーカイブ済みのすべてのコンテンツを評価する方法について説明します。Enterprise Vault を使用した分類を初めて行う場合は、以前の直観的でないファイル分類インフラストラクチャエンジンではなく、Veritas Information Classifier の使用をお勧めします。
管理者ガイド	日常的な管理を実行する方法を説明します。
PowerShell コマンドレット	Enterprise Vault PowerShell コマンドレットを実行して、さまざまな管理タスクを実行する方法を説明します。
監査	Enterprise Vault サーバー上でイベントの監査情報を収集する方法を説明します。
バックアップと回復	システムエラーが起きた場合にデータ損失を防止する効果的なバックアップ戦略の実装方法や、回復手段を利用する方法を説明します。
レポート	Enterprise Vault サーバー、アーカイブ、アーカイブ済みアイテムの状態に関するレポートを提供する、Enterprise Vault Reporting の実装方法を説明します。FSA レポートを設定すると、ファイルサーバーとそのボリューム用の追加レポートを利用できます。
NSF 移行	Domino ファイルと Notes NSF ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブにインポートする方法を説明します。
PST 移行	Outlook PST ファイルから内容を Enterprise Vault アーカイブに移行する方法を説明します。
ユーティリティ	Enterprise Vault のツールとユーティリティについて説明します。
レジストリ値	レジストリ値を一覧表示している参照用の文書で、さまざまな側面から Enterprise Vault の動作を修正する場合に使うことができます。
管理コンソールのヘルプ	Enterprise Vault 管理コンソールのヘルプ。
Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ	Enterprise Vault Operations Manager のヘルプ。

サポートされているデバイスとソフトウェアのバージョンの最新情報について詳しくは、『Enterprise Vault [Compatibility Charts](#)』を参照してください。

## Enterprise Vault トレーニングモジュール

Veritas 教育サービスでは、基本的な管理から詳細トピック、トラブルシューティングまで、Enterprise Vault の包括的なトレーニングを提供します。教室でのトレーニングや仮想トレーニングなど、さまざまな形式でトレーニングできます。

Enterprise Vault トレーニング、カリキュラムのパス、認定オプションについて詳しくは、<https://www.veritas.com/services/education-services> を参照してください。

# 管理者のセキュリティの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [管理者のセキュリティについて](#)
- [役割ベースの管理](#)
- [権限を使ったアクセス制御](#)
- [ボルトサービスアカウントの変更](#)

## 管理者のセキュリティについて

Enterprise Vault は Enterprise Vault 管理者の機能を制御する次のメカニズムを備えています。

役割ベースの管理 (RBA) 多くの管理タスクでは、ボルトサービスアカウントに関連付けられたすべての権限が必要なわけではありません。**Enterprise Vault** の事前定義済み RBA ロールは、個々の管理者に自分の管理タスクを実行するために必要な権限のみを付与できます。

ユーザーは、担当範囲に一致する役割を個人またはグループに割り当てて、その役割に含まれるタスクを実行できます。権限は個々の管理者ではなく役割に関連付けられているため、各管理者の権限を編集せずに役割の権限を制御できます。

次の役割が含まれます。

- 管理者の役割は、通常、メッセージ、Exchange、ストレージのような機能領域で機能を限定します。**Enterprise Vault** は、複数の事前定義済みの管理者の役割を提供します。これは、機能領域に関連しているコマンドとコンテナへの管理コンソール内でのアクセスを制限します。また、これらの役割は、**Enterprise Vault Operations Manager** と **Enterprise Vault Reporting** を使うときに参照できるものを限定します。
- アプリケーション役割は、通常、特定の **Enterprise Vault** アプリケーションを実行するために必要になる操作を実行することを可能にします。アプリケーション役割は管理コンソールへのアクセス制御を意図していません。
- タスク役割は **Exchange Server** タスクを実行するボルトサービスアカウント以外のアカウントを有効にします。

管理者権限 管理コンソールツリーの次のコンテナに対して、アクセス権を付与または拒否できます。

- ファイルサーバー
- Exchange
- Domino
- SharePoint
- Enterprise Vault サーバー
- アーカイブディスカバリ検索サービス

管理者の役割を割り当てたり、管理者権限を使うことで、管理コンソールへのアクセスを制御できます。

## 役割ベースの管理

**Enterprise Vault** の事前定義済み RBA ロールは、割り当てられた管理者が実行できる操作とタスクに関連付けられます。

- 操作とは、権限のある処理または機能を表す低水準の権限です。役割がタスクを実行するアクセス権を持つかどうかを管理コンソールで判断する場合、チェックされるのはその役割に関連付けされた操作です。

名前の接頭辞に「{STO}」または「{DIR}」が付く操作は、管理コンソールの表示に影響しない内部操作です。その他の外部操作は、管理者が参照する管理コンソールの表示を制御します。

- タスクは、特定のジョブを実行するために必要な権限を集合的に提供する操作のグループです。

役割は、タスクと、場合によっては操作とその他の役割の集合です。

## 事前定義済みロールについて

必要に応じて、提供されている事前定義済みロールを使ったり、このロールをカスタマイズしたり、新しいロールを作成したりできます。

ロールを割り当てることによって、個々の管理者の権限がジョブの担当範囲に一致するように調整できます。このしくみは、個々のロールを修正して担当範囲の変更に対処できる柔軟性があります。

表 2-1 事前定義済み管理者ロール

ロール	説明
ディスカバリ検索サービス管理者	<p>アーカイブディスカバリ検索サービスの設定を行います。このサービスは、<b>Enterprise Vault</b> インストール先のすべてのアーカイブをサードパーティのクライアントアプリケーションで作成して実行する方法を提供します。</p> <p><b>メモ:</b> デフォルトでは、この役割が割り当てられたユーザーには、サービスの <b>API</b> メソッドを使って検索の実行、検索状態の確認、結果の取得を行う権限がありません。これらの <b>API</b> メソッドは、タスクアプリケーションの役割を使うユーザーなど、<b>[EVT アーカイブの検索を実行]</b>タスクを実行する権限を持つユーザーのみが使用できます。</p>
Domino 管理者	<p>NSF 移行など <b>Domino</b> のアーカイブの日常管理を担当します。<b>Enterprise Vault Operations Manager</b> では、<b>Domino</b> 情報とパラメータを表示できます。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ <b>IMAP 管理者</b></li><li>■ <b>NSF 管理者</b></li><li>■ <b>検索管理者</b></li></ul>

ロール	説明
Exchange 管理者	<p>Exchange Server のアーカイブの日常管理を担当します。</p> <p>Enterprise Vault Operations Manager では、Exchange Server 情報とパラメータを表示できます。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ IMAP 管理者</li><li>■ 検索管理者</li></ul>
拡張コンテンツプロバイダの管理者	<p>拡張コンテンツプロバイダの日常的な管理に必要なコンポーネントを集めた管理コンソールインターフェースを表示します。</p>
ファイルサーバー管理者	<p>ファイルサーバーのアーカイブの日常管理を担当します。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 検索管理者</li></ul>
IMAP 管理者	<p>IMAP の日常管理を担当します。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 検索管理者</li></ul>
インデックス管理者	<p>インデックスの実行を適切に保つために必要なコンポーネントを主に集めて管理コンソールを表示します。この管理者には、各種の対象のアーカイブポリシー設定に対するアクセス権はありません。</p>
メッセージ管理者	<p>Exchange Server と Domino のアーカイブの日常管理を担当します。この管理者は、ファイルシステムのアーカイブや SharePoint のアーカイブなど、製品の他の部分へのアクセス権を持っていません。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ Domino 管理者</li><li>■ Exchange 管理者</li></ul>
NSF 管理者	<p>NSF ファイルの管理に必要なコンポーネントを集めた管理コンソールインターフェースを表示します。Enterprise Vault Operations Manager では、Domino 情報とパラメータを表示できます。</p>

ロール	説明
メイン管理者	その他の事前定義済み管理者ロールのすべてのタスクを実行できます。ボルトサービスアカウントやディレクトリの <b>SQL Server</b> の変更などの再設定タスクは実行できません。
PST 管理者	個人用ストアの管理に必要なコンポーネントを集めた管理コンソールインターフェースを表示します。 <b>Enterprise Vault Operations Manager</b> では、 <b>Exchange Server</b> の情報とパラメータを表示、管理できます。
検索管理者	<b>Enterprise Vault</b> による検索アプリケーションの日常管理を担当します (検索ポリシーの定義、検索プロビジョニンググループの設定、クライアントアクセスプロビジョニングタスクの作成と設定など)。
SharePoint 管理者	<p><b>SharePoint</b> アーカイブの管理に必要なコンポーネントを集めた管理コンソールインターフェースを表示します。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul>
SMTP 管理者	<p><b>SMTP</b> のアーカイブの日常管理を担当します。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul>
ストレージ管理者	<p>ストレージの実行を適切に保つために必要なコンポーネントを主に集めて管理コンソールを表示します。この管理者には、各種の対象のアーカイブポリシー設定に対するアクセス権はありません。</p> <p>デフォルトでは、このロールに割り当てられたユーザーは、次のロールに関連付けられた権限も取得します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インデックス管理者</li> </ul>

表 2-2 事前定義済みタスクロール

ロール	説明
タスクアプリケーション	<p>この役割はアーカイブへのアクセスを提供し、ボルトサービスアカウント以外アカウントによる <b>Exchange Server</b> タスクの実行を許可します。<b>Enterprise Vault</b> はボルトサービスアカウント以外のアカウントによる <b>Exchange Server</b> タスクを実行する設定を行う場合に、この役割を自動的に与えます。</p> <p>アーカイブディスカバリ検索サービスを使う場合、検索の実行や作業に使うアカウントにこのロールを付与することをお勧めします。</p>

表 2-3 事前定義済みアプリケーションロール

ロール	説明
コンプライアンス削除アプリケーション	このロールにより、サードパーティアプリケーションは、たとえば「忘れられる権利」などのデータ保護の法律に従うために、Enterprise Vault アーカイブからアイテムを完全に削除できます。
拡張コンテンツプロバイダアプリケーション	<p>このロールにより、他社のアプリケーションが拡張コンテンツプロバイダとして機能できます。また、拡張コンテンツプロバイダの作成、削除、読み込み、更新やあらゆるアーカイブにアイテムを格納することをアプリケーションに許可します。</p> <p>Enterprise Vault Operations Manager では、すべての情報とパラメータを表示できます。</p> <p>このロールでは、拡張コンテンツプロバイダのプロパティに対する完全な更新権を有効にすることはできません。たとえば、拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションが自身の有効と無効を切り替えたり、自身のスケジュールを変更、上書きすることはできません。</p> <p>このロールは管理コンソールへのアクセスを可能にしません。このロールは拡張コンテンツプロバイダのアプリケーション用に作成されたものであり、管理者用ではないためです。</p>
監視側のアプリケーション	Enterprise Vault の状態を照会できるタスク。
プレースホルダアプリケーション	FSAUndelete ユーティリティを実行できます。このロールは、アーカイブからのアイテムの削除の取り消しを可能にします。

## ロールと Enterprise Vault 管理コンソール

表 2-4 は、供給された管理者ロールで利用可能である管理コンソールの機能と処理を示します。

---

**メモ:** 事前定義済みのプレースホルダアプリケーションロールは管理コンソールへのアクセスを可能にしません。

---



表 2-4 管理コンソールの機能と処理

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
ディスカバリ検索サービス管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス: アーカイブディスカバリ検索サービス</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブディスカバリ検索サービスデータベースのインストールまたは移動</li> <li>■ アーカイブディスカバリ検索サービスの設定</li> <li>■ 要求エンドポイントの設定</li> <li>■ 結果の場所のカスタマイズ</li> </ul>
Domino 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: Domino</li> <li>■ ポリシー: Domino; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: Domino メールボックスアーカイブ; Domino ジャーナル; Domino プロビジョニング</li> <li>■ アーカイブ: Domino メールボックス; Domino ジャーナル</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ メールボックスの有効化</li> <li>■ メールボックスの無効化</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ Domino フォーム</li> <li>■ 分類</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IMAP 管理者</li> <li>■ NSF 管理者</li> <li>■ 検索管理者</li> </ul>		

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
Exchange 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: Exchange</li> <li>■ ポリシー: Exchange; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: メールボックスアーカイブ; パブリックフォルダ; Exchange ジャーナル; Exchange プロビジョニング</li> <li>■ アーカイブ: Exchange ジャーナル; Exchange メールボックス; パブリックフォルダ; 共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ メールボックスの有効化</li> <li>■ メールボックスの無効化</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ Exchange メッセージクラス</li> <li>■ 分類</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IMAP 管理者</li> <li>■ 検索管理者</li> </ul>		
拡張コンテンツプロバイダの管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 拡張子: 作成を除くすべての拡張子操作。</li> <li>■ アーカイブ: 共用アーカイブとカスタムアーカイブ</li> <li>■ ポリシー: 保持と分類</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトプロパティ]タブ: サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ 拡張コンテンツプロバイダの管理</li> <li>■ 共用アーカイブの管理</li> <li>■ 分類</li> </ul>
ファイルサーバー管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: ファイルサーバー</li> <li>■ ポリシー: ファイルアーカイブ; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: ファイルサーバーのアーカイブ</li> <li>■ アーカイブ: ファイルシステム; 共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ 分類</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul>		

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
IMAP 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クライアントアクセス: IMAP、検索</li> <li>■ ポリシー: IMAP、検索</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: クライアントアクセスプロビジョニング</li> </ul>	
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul>		
インデックス管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ サービス: インデックス、タスク制御、ストレージ、アーカイブディスカバリ検索サービス</li> <li>■ タスク: インデックス</li> <li>■ アーカイブ: すべての種類のアーカイブ</li> <li>■ インデックス: すべてのインデックスサーバー</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブディスカバリ検索サービス</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ インデックス管理</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: インデックス; 詳細</li> </ul>
メッセージ管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: Exchange; Domino</li> <li>■ ポリシー: Exchange; Domino ジャーナル; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: メールボックスアーカイブ; パブリックフォルダ; Exchange ジャーナル; Exchange プロビジョニング; Domino メールボックスアーカイブ; Domino ジャーナル; Domino プロビジョニング</li> <li>■ アーカイブ: ジャーナル; メールボックス; パブリックフォルダ; 共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ メールボックスの有効化</li> <li>■ メールボックスの無効化</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール</li> <li>■ NSF のインポート</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ Exchange メッセージクラス</li> <li>■ Domino フォーム</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Domino 管理者</li> <li>■ Exchange 管理者</li> </ul>		

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
NSF 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシー: Domino メールボックス; Domino デスクトップ; 保持と分類</li> <li>■ アーカイブ: NSF のインポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: レコード</li> <li>■ NSF のインポート</li> <li>■ Domino フォーム</li> <li>■ 分類</li> </ul>
メイン管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: すべて対象</li> <li>■ ポリシー: すべてのポリシー</li> <li>■ サービス: すべてのサービス</li> <li>■ タスク: すべてのタスク</li> <li>■ アーカイブ: すべての種類のアーカイブ</li> <li>■ ボルトストア: すべてのボルトストア</li> <li>■ インデックス: すべてのインデックスサーバーおよびインデックスサーバーグループ</li> <li>■ 個人用ストアの管理: すべての機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ アーカイブディスカバリ検索サービス</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ 分類</li> <li>■ メールボックスの無効化</li> <li>■ ワークスペースの無効化</li> <li>■ Domino フォーム</li> <li>■ メールボックスの有効化</li> <li>■ ワークスペースの有効化</li> <li>■ Exchange メッセージクラス</li> <li>■ アーカイブのエクスポート</li> <li>■ アーカイブのインポート</li> <li>■ NSF のインポート</li> <li>■ インデックス管理</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: すべてのタブ</li> <li>■ サービスの場所の更新</li> </ul>
	<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Exchange 管理者</li> <li>■ 拡張コンテンツプロバイダの管理者</li> <li>■ インデックス管理者</li> <li>■ SMTP 管理者</li> </ul>	
PST 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポリシー: PST 移行; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: Mailbox アーカイブ; PST 検索; PST 収集; PST 移行</li> <li>■ ボルトストア: すべてのボルトストア</li> <li>■ 個人用ストアの管理: すべての機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ アーカイブのインポート</li> <li>■ アーカイブのエクスポート</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ 分類</li> </ul>

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
検索管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ クライアントアクセス: 検索</li> <li>■ ポリシー: 検索</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: クライアントアクセスプロビジョニング</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトプロパティ]タブ: 検索</li> <li>■ 検索プロビジョニンググループの定義</li> <li>■ 検索ポリシーの定義</li> <li>■ クライアントアクセスプロビジョニングタスクの設定</li> </ul>
SharePoint 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: SharePoint</li> <li>■ ポリシー: SharePoint; 保持と分類</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ タスク: SharePoint</li> <li>■ アーカイブ: SharePoint; 共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワークスペースの有効化</li> <li>■ ワークスペースの無効化</li> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール、レコード</li> <li>■ 拡張機能</li> <li>■ 分類</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul>		
SMTP 管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象: SMTP</li> <li>■ ポリシー: SMTP; 保持と分類</li> <li>■ タスク: SMTP アーカイブ</li> <li>■ サービス: タスク制御</li> <li>■ アーカイブ: すべての種類のアーカイブ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般、アーカイブの設定、レコード</li> <li>■ 分類</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 検索管理者</li> </ul> <p><b>メモ:</b> SMTP 管理者役割を持つアカウントは Enterprise Vault サーバーのローカル管理者、または管理コンソールを実行するコンピュータのローカル管理者である必要があります。</p>		

ロール	利用可能な管理コンソールのコンテナ	利用可能な管理コンソールの処理
ストレージ管理者	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タスク: インデックス</li> <li>■ サービス: ストレージ; インデックス; タスク制御</li> <li>■ アーカイブ: すべての種類のアーカイブ</li> <li>■ ボルトストア: すべてのボルトストア</li> <li>■ インデックス: すべてのインデックスサーバーおよびインデックスサーバーグループ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [サイトのプロパティ]タブ: 全般; アーカイブの設定; サイトスケジュール; ストレージの有効期限</li> <li>■ アーカイブのインポート</li> <li>■ アーカイブのエクスポート</li> <li>■ 拡張機能</li> </ul>
<p>デフォルトでは、このロールは、次のロールが利用できる、管理コンソールのコンテナとアクションへのアクセスも提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ インデックス管理者</li> </ul>		

## 役割ベースの管理(RBA)と分類機能

Enterprise Vault 分類機能を管理するには、Vault Administration Console の次の RBA ロールが 1 つ以上必要です。

- Domino 管理者
- Exchange 管理者
- 拡張コンテンツプロバイダの管理者
- ファイルサーバー管理者
- NSF 管理者
- メイン管理者
- PST 管理者
- SharePoint 管理者
- SMTP 管理者

## 役割と Enterprise Vault Operations Manager

ボルトサービスアカウント以外のユーザーが Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションにアクセスするには、適切な管理者役割に割り当てられている必要があります。ユーザーは、Operations Manager のタブとテーブルのうち、割り当てられた役割で利用可能なもののみ表示できます。役割に対して利用可能なタブとテーブルは、管理コンソールでその役割に対して利用可能なコンテナと同じです。メイン管理者役割は、Operations Manager のすべてのタブとテーブルを参照できます。

## 役割と Enterprise Vault Reporting

ボルトサービスアカウント以外のユーザーが Enterprise Vault Reporting のレポートにアクセスするには、適切な管理者役割に割り当てられている必要があります。

デフォルトの管理者役割には、それらの役割に適した Enterprise Vault Reporting レポートへのアクセス権があります。

各役割で利用可能なレポートについて詳しくは、『レポート』ガイドを参照してください。

---

**メモ:** Enterprise Vault Reporting を設定したら、Enterprise Vault Reporting の役割ベースのセキュリティの同期を有効にしてください。

『レポート』ガイドの Enterprise Vault Reporting の役割ベースのセキュリティの同期の有効化に関する記述を参照してください。

---

## 事前定義済みの RBA ロールを使った操作

Enterprise Vault は RBA ロールと役割メンバーシップを管理できる 4 つの PowerShell cmdlet を提供します。これらのすべての cmdlet を使うにはボルトサービスアカウントを利用してログインする必要があります。

**表 2-5**                      役割メンバーシップを管理するための Cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVRBARole	この cmdlet は Enterprise Vault ディレクトリに存在する RBA ロールを一覧表示します。
Get-EVRBARoleMember	この cmdlet は RBA ロールのメンバーを一覧表示します。
Add-EVRBARoleMember	この cmdlet は RBA ロールにメンバーを追加します。
Remove-EVRBARoleMember	この cmdlet は RBA ロールからメンバーを削除します。

次のセクションは Enterprise Vault RBA ロールメンバーシップを管理するために RBA cmdlet を使う方法を示します。

- 「RBA ロールのリスト」
- 「RBA ロールのメンバーのリスト」
- 「RBA ロールメンバーシップの管理」

### RBA ロールのリスト

Enterprise Vault ディレクトリ内のすべての RBA ロールをリストするには Get-EVRBARole を使います。すべてのロールをリストするか、またはロール名のすべてまたはその一部を指定して一致するロールのみをリストすることができます。

Get-EVRBARole は、各 RBA ロールについて次のロールプロパティを一覧表示します。

- 名前。Enterprise Vault RBA ロールの名前。

- RoleGuid Enterprise Vault RBA ロールの GUID。
- TaskLinkDescription 関連付けられた TaskLink の説明。
- TaskLinkGuid 関連付けられた TaskLink の GUID。

### RBA ロールをリストする方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Get-EVRBARole を実行して、ロールをリストします。

次に例を示します。

```
Get-EVRBARole -Name ex*
```

この例では、Get-EVRBARole は、「Exchange 管理者」や「拡張コンテンツプロバイダ管理者」など「ex」を含むすべての RBA ロールをリストします。

-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は Get-EVRBARole によって自動的に判別されます。

Get-EVRBARole は、他の cmdlet に対するパイプ処理された入力として使うことのできる、タイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole のオブジェクトを返します。

その他の使用例を含む、Get-EVRBARole の実行について詳しくは、Enterprise Vault 管理シェルのプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help -full Get-EVRBARole
```

### RBA ロールのメンバーのリスト

RBA ロールのすべてのメンバーをリストするには Get-EVRBARoleMember を使います。

Get-EVRBARoleMember は、RBA ロールメンバーごとに次のロールプロパティを一覧表示します。

- 名前。メンバーの Windows アカウント名。RBA ロールメンバーは、Active Directory ユーザー、グループまたはセキュリティプリンシパルである場合があります。
- SID メンバーの Windows セキュリティ ID。



## RBA ロールメンバーをリストする方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Get-EVRBARoleMember を実行して、ロールメンバーをリストします。

次に例を示します。

```
Get-EVRBARoleMember -Identity "File Server Administrator"
```

この例では、Get-EVRBARoleMember は、「ファイルサーバー管理者」ロールのすべてのメンバーをリストします。-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は Get-EVRBARoleMember によって自動的に判別されます。

Get-EVRBARoleMember は、他の cmdlet に対するパイプ処理された入力として使うことのできる、タイプ Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRoleMember のオブジェクトを返します。

その他の使用例を含む、Get-EVRBARoleMember の実行について詳しくは、Enterprise Vault 管理シェルのプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help -full Get-EVRBARoleMember
```

## RBA ロールメンバーシップの管理

Enterprise Vault には、RBA ロールのメンバーを管理するために使うことができる

Add-EVRBARoleMember と Remove-EVRBARoleMember cmdlet が用意されています。

これらの cmdlet を使うには、ボルトサービスアカウントを使ってログインする必要があります。

### Enterprise Vault RBA ロールにメンバーを追加する方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Add-EVRBARoleMember を実行して、メンバーを追加します。

次に例を示します。

```
Add-EVRBARoleMember -Identity "File Server Administrator" -Members  
"JohnDoe", "fsaAdmins",  
"S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"
```

この例では、Add-EVRBARoleMember は JohnDoe というユーザー、fsaAdmins セキュリティグループ、その SID によって識別されるもう 1 つのアカウントを「ファイルサーバー管理者」ロールに割り当てます。-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は Add-EVRBARoleMember によって自動的に判別されます。

Add-EVRBARoleMember は、出力をまったく返さないか、または他の cmdlet へのパイプ処理された入力として使うことのできるタイプ

Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole の新たに修正されたオブジェクトを返します。

### Enterprise Vault RBA ロールからメンバーを削除する方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Remove-EVRBARoleMember を実行して、メンバーを削除します。

次に例を示します。

```
Remove-EVRBARoleMember -Identity "File Server Administrator"  
-Members "JohnDoe", "fsaAdmins",  
"S-1-5-21-1529523603-1500826627-74573220-1119"
```

この例では、Remove-EVRBARoleMember は JohnDoe というユーザー、fsaAdmins セキュリティグループ、その SID によって識別されるもう 1 つのアカウントを「ファイルサーバー管理者」ロールから削除します。-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は Remove-EVRBARoleMember によって自動的に判別されます。

Remove-EVRBARoleMember は、出力をまったく返さないか、または他の cmdlet へのパイプ処理された入力として使うことのできるタイプ

Symantec.EnterpriseVault.Admin.EVRbaRole の新たに修正されたオブジェクトを返します。

使用例を含む、Add-EVRBARoleMember と Remove-EVRBARoleMember の実行について詳しくは、Enterprise Vault 管理シェルのプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help -full Add-EVRBARoleMember
```

```
Get-Help -full Remove-EVRBARoleMember
```

## RBA ロールのカスタマイズ

カスタム RBA ロールを作成する、または特定のロールが実行することを許可されている低レベルの操作を変更する場合は、最初に Enterprise Vault ディレクトリから RBA ストアを XML ファイル形式でダウンロードする必要があります。その後で、XML を編集して、お使いの環境の要件に合わせて RBA ストアをカスタマイズできます。RBA ストアに必要な変更を加えたら、それを Enterprise Vault ディレクトリにアップロードできます。

Enterprise Vault には、RBA ストアのダウンロードとアップロードを実行できる 2 つの PowerShell cmdlet が用意されています。これらの cmdlet を使うには、ボルトサービスアカウントを使ってログインする必要があります。

表 2-6 RBA スタアの cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVRBAAzStoreXml	Enterprise Vault ディレクトリから EvAzStore.xml というファイルに RBA スタアをダウンロードします。
Set-EVRBAAzStoreXml	EvAzStore.xml から Enterprise Vault ディレクトリに RBA スタアをアップロードします。

次のセクションでは、これらの cmdlet を使って RBA スタアのダウンロードとアップロードを行う方法について説明します。

- 「RBA スタアのダウンロード」
- 「RBA スタアのアップロード」

## RBA スタアのダウンロード

RBA スタアを Enterprise Vault ディレクトリからダウンロードするには、Get-EVRBAAzStoreXml を使います。Get-EVRBAAzStoreXml は、指定場所の EvAzStore.xml という XML ファイルに RBA スタアを書き込みます。

### Enterprise Vault ディレクトリから RBA スタアを抽出する方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Get-EVRBAAzStoreXml を実行して RBA スタアを抽出します。

次に例を示します。

```
Get-EVRBAAzStoreXml -FolderPath "C:¥EvAzStoreXmlLocation"  
-EVDirectoryServer "evserver.example.com"
```

このコマンドは -FolderPath パラメータを使って Get-EVRBAAzStoreXml が RBA スタアをダウンロードする場所を指定します。-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は Get-EVRBAAzStoreXml によって自動的に判別されます。

その他の使用例を含む、Get-EVRBAAzStoreXml の実行について詳しくは、Enterprise Vault 管理シェルのプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help -full Get-EVRBAAzStoreXml
```

## RBA スタアの編集

RBA スタアの編集について詳しくは、Veritas サポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100040698>

## RBA ストアのアップロード

EvAzStore.xml の RBA ストアを指定場所から Enterprise Vault ディレクトリにアップロードするには、Set-EVRBAAzStoreXml を使います。

### Enterprise Vault ディレクトリに RBA ストアをアップロードする方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。
- 3 Set-EVRBAAzStoreXml を実行して RBA ストアをアップロードします。

次に例を示します。

```
Set-EVRBAAzStoreXml -FolderPath "C:¥EvAzStoreXmlLocation"  
-EVDirectoryServer "evserver.example.com"
```

このコマンドは、-FolderPath パラメータを使って、Get-EVRBAAzStoreXml が EvAzStore.xml ファイル内に必要な RBA ストアを検索できる場所を指定します。  
-EVDirectoryServer パラメータは必須ですが、可能な場合は  
Get-EVRBAAzStoreXml によって自動的に判別されます。

その他の使用例を含む、Set-EVRBAAzStoreXml の実行について詳しくは、Enterprise Vault 管理シェルのプロンプトで次のコマンドを入力してください。

```
Get-Help -full Set-EVRBAAzStoreXml
```

## 現在の役割の資格の判断

現在の役割や実行可能なタスクを判断するために、役割の資格を一覧表示できます。

### 現在の役割資格を判断する方法

- 1 管理コンソールで、[ディレクトリ]コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[役割の表示]をクリックします。
- 2 一覧のコピーを保持する場合は、[クリップボードにコピー]をクリックします。必要に応じて、このテキストを文書やメールメッセージに貼り付けることができます。
- 3 [OK]をクリックします。

## すべての役割と割り当てのリセット

インストール時と同じ状態にするために、レジストリ値を使ってすべての役割と役割の割り当てをリセットできます。

ResetAuthorizationStore 値について詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

## 権限を使ったアクセス制御

Enterprise Vault をインストールまたはアップグレードすると、ボルトサービスアカウントのみで管理コンソールにアクセスできます。必要に応じて、ボルトサービスアカウントを使って管理用役割を割り当てることができます。

管理者は、付与されている役割に関係なく、その役割に関連するすべての管理コンソールのコンテナにアクセスできます。たとえば、メッセージ管理者は、Enterprise Vault サイトのすべての Exchange Server と Domino サーバーにアクセスできます。

管理者権限を割り当てて、管理コンソールの個々のコンテナへのアクセス権を付与または拒否できます。たとえば、管理者に 1 つの Exchange Server コンピュータへのアクセス権を付与できます。

権限を割り当てて、次の管理コンソールのコンテナへのアクセス権を付与または拒否できます。

- ファイルサーバー
- Exchange Server
- Domino サーバー
- SharePoint Web アプリケーション
- Enterprise Vault サーバー

コンテナの権限を修正するとすぐに、定義した一覧によってコンテナとその内容へのアクセスが制御されます。この場合の唯一の例外として、ボルトサービスアカウントは常にアクセス権を持ちます。

たとえば、特定の Exchange Server へのアクセス権を持たないメッセージ管理者は、その Exchange Server のメールボックスを有効にできません。これは、メールボックスの有効化ウィザードは、管理者がその Exchange Server 上のメールボックスを一覧表示することを許可しないためです。

すべての管理者がコンテナへのアクセス権を持つ状態に戻す必要がある場合は、そのコンテナの管理者権限一覧にあるすべてのエントリを削除する必要があります。

### コンテナへのアクセス権を付与または拒否する方法

- 1 ボルトサービスアカウントを使って、管理コンソールを起動します。
- 2 管理コンソールで、権限を適用するファイルサーバー、Exchange Server、SharePoint Web アプリケーション、または Enterprise Vault サーバーを右クリックし、ショートカットメニューの「プロパティ」をクリックします。
- 3 「管理者権限」タブをクリックします。一覧に、このコンピュータを管理する権限を付与または拒否された特定のユーザーやグループが表示されます。
- 4 一覧にエントリを追加する場合は、「追加」をクリックし、次のように操作します。

- 最初のエントリを一覧に追加する際に、一覧にエントリを追加するとアクセス権を付与されたユーザーへのアクセスが制限されるという警告が表示されます。[OK]をクリックします。
  - [ユーザーとグループの追加]ウィンドウで、コンテナへのアクセス権を付与または拒否するユーザーやグループを追加します。[OK]をクリックします。  
これで[管理者権限]一覧に追加したユーザーとグループが表示され、それぞれの横に[付与]と[拒否]オプションが表示されます。
- 5 リストからエントリを削除する場合は、そのエントリをクリックして選択し[削除]をクリックします。
  - 6 必要に応じて、各ユーザーとグループに対して、このコンテナに対するアクセス権を付与する場合は[付与]を、コンテナに対するアクセス権を拒否する場合は[拒否]を選択します。
  - 7 一覧からエントリを削除する場合は、エントリをクリックして選択し、[削除]をクリックします。
  - 8 [OK]をクリックして[コンピュータプロパティ - XXXXXX]を閉じます。  
一覧からすべてのエントリを削除した場合は、このコンテナへのアクセスを許可された役割のすべての管理者がアクセスできるようになったことを示す警告が表示されます。[OK]をクリックします。

## ボルトサービスアカウントの変更

このセクションでは、ボルトサービスアカウントを変更する場合の手順について説明します。

---

**メモ:** アカウント名を変更すると大量の作業が発生し、それに伴う間違いを修正するのに時間がかかる可能性があるため、可能な場合はアカウント名を変更しないことを推奨します。

---

アカウントを変更する前に、次のことを確認してください。

- 新しいボルトサービスアカウントが、Enterprise Vault サイトにある各 Enterprise Vault コンピュータの Administrators グループに属し、権限がフルコントロール(すべて)です。
- Exchange Server アーカイブが実装されている場合は、新しいアカウントが Microsoft Exchange Server で完全な権限を持っています。
- Microsoft Message Queue のセキュリティ設定で、Enterprise Vault キューに対する Administrators グループのアクセス権が付与されています。

- 新しいアカウントが **SQL Server** でデータベース作成者としてのアクセス権を持っています。
- ファイルシステムアーカイブを使う場合、次の項目に対し、新しいアカウントにアクセス許可と権限があることを確認する必要があります。
  - すべての対象 **Windows** ファイルサーバー。
  - **FSA** エージェントがインストールされている他の **Windows** サーバー。**Windows** 以外のファイルサーバーの **FSA** レポートプロキシサーバーなどです。

ファイルサーバーでボルトサービスアカウントをローカル **Administrators** グループのメンバーにしない場合、このアカウントに一連の最小限の権限および権限を付与する必要があります。『**Symantic Enterprise Vault** ファイルシステムアーカイブ (**FSA**) の設定』の付録、「**Windows** ファイルサーバー上のボルトサービスアカウントに必要なアクセス権および権限」を参照してください。

**FSA** エージェントがインストールされているサーバーでは、必要なアクセス許可および権限の設定に **EVFSASetRightsAndPermissions** ユーティリティを使用できます。『ユーティリティ』ガイドの「**EVFSASetRightsAndPermissions**」を参照してください。

- **SharePoint Server** アーカイブが実装されたら、**SharePoint** のサイト、または古いボルトサービスアカウントを含んでいるグループに新しいボルトサービスアカウントを追加してください。新しいアカウントは **SharePoint Server** のローカル管理者である必要があります。

ボルトサービスアカウントの権限を設定する方法について詳しくは『インストール/設定』の **Enterprise Vault** の必要なソフトウェアと設定に関する説明を参照してください。

次の点に注意してください。

- ボルトサービスアカウントに新しいパスワードを指定したり、ボルトサービスアカウント自体を変更したりするには、常に管理コンソールを使います。指示がない限り、**Windows** サービス **MMC** スナップインを使って **Enterprise Vault** サービスのログオン資格情報を編集しないでください。
- ボルトサービスアカウントのパスワードのみを変更し、任意のコンピュータに **FSA** エージェントをインストールした場合、**FSA** エージェントサービスが使うログオン資格情報を更新する必要があります。『ファイルシステムアーカイブ (**FSA**) の設定』の「**FSA** エージェントサービスのログオン資格情報の更新」を参照してください。

### ボルトサービスアカウントを変更する方法

- 1 既存のボルトサービスアカウントとして管理コンソールを起動します。
- 2 管理コンソールで[ディレクトリプロパティ]を開き、[サービスアカウント]タブをクリックします。
- 3 新しいアカウントを参照するように、ボルトサービスアカウントの詳細を変更します。

- 4 SharePoint Server で、Enterprise Vault SharePoint の設定ウィザードを実行し、新しいボルトサービスアカウントの資格情報を指定してください。
- 5 Enterprise Vault アドオンをインストールしたら、アドオンのボルトサービスアカウントの資格情報を変更することが必要な場合もあります。この設定方法に関する情報は、アドオンに関連するマニュアルを参照してください。
- 6 Enterprise Vault サイトにあるすべての Enterprise Vault サーバーで、すべての Enterprise Vault サービスを再起動します。
- 7 Enterprise Vault サービスがインストールされているその他のコンピュータの Enterprise Vault サービスを再起動します。FSA エージェントがインストールされているコンピュータにインストールされている FSA エージェントサービスも再起動します。

さまざまなアカウントの概要と Enterprise Vault に必要なパーミッションについては次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022472>



# 日常的な管理

この章では以下の項目について説明しています。

- システムの状態の監視
- アプリケーションログの監視
- **Exchange** メールボックスアーカイブレポートについて
- **MSMQ** キューの監視
- タスクとサービスの起動または停止について
- **Windows** イベントビューアによるログのチェック
- ジャーナルメールボックスの監視
- ディスクの監視について
- **SQL** データベースの保守について
- **SQL AlwaysOn** 可用性グループの使用
- ボルトストアグループの管理と共有について
- セーフコピーの管理について
- パーティションロールオーバーの管理について
- 削除済みアイテムの回復
- 有効期限と削除について
- 保持カテゴリと保持期間の処理
- プロビジョニンググループの保守について
- 新しいメールボックスのアーカイブの有効化

- 選択したアーカイブに対するリーガルホールドの適用と解除について
- アーカイブ移動について
- アーカイブの削除
- アーカイブを管理するための PowerShell cmdlet
- ボルトストアの削除
- システムメッセージの設定
- インデックスボリュームについて
- ディレクトリデータベースの移動
- ボルトストアデータベースの移動
- フィンガープリントデータベースの移動
- 監視データベースの移動
- 監査データベースの移動
- ボルトサービスアカウントのパスワードの変更

## システムの状態の監視

Enterprise Vault では、Enterprise Vault システムの健全性を監視するチェックが自動的に実行されます。

Enterprise Vault はチェックの結果を管理コンソールの [状態] セクションに表示します。状態の結果を毎日チェックして、表示された問題を修正します。

環境のチェックをカスタマイズするには、次の操作を実行できます。

- 1 実行するチェックを選択します。
- 2 チェックによってエラーが報告されるレベルを修正します。
- 3 それぞれのチェックをいつ実行するかを指定します。

p.305 の「[サイトプロパティ]の監視機能」を参照してください。

## アプリケーションログの監視

さまざまな Enterprise Vault のサービスとタスクからのメッセージは、それぞれのコンピュータのイベントログに記録されます。これらの各ログでエラーメッセージをチェックし、必要に応じて適切な操作を行う必要があります。

イベントビューアを使う場合、[表示]メニューのオプションを使ってメッセージをフィルタ処理できます。

表 3-1 に Enterprise Vault が使うイベントログを示します。

表 3-1 Enterprise Vault のイベントログ

イベントログ	内容
アプリケーションログ	アプリケーションログには、コンポーネントが起動または停止したことを示すか、訂正の動作を行うことが必要になる Enterprise Vault のイベントが含まれます。
Veritas Enterprise Vault	文書変換または Veritas Enterprise Vault CryptoModule からのイベントを除くすべての Enterprise Vault イベント。アプリケーションログに格納されるイベントもここに表示されます。
Veritas Enterprise Vault Converters	文書変換によって発生するイベント。
Veritas Enterprise Vault CryptoModule	Veritas Enterprise Vault CryptoModule が生成するイベント。 Enterprise Vault と FIPS 140-2 について詳しくは、Veritas サポート Web サイトの次の記事を参照してください。 <a href="https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/ev_12_FIPS_00">https://www.veritas.com/content/support/en_US/doc/ev_12_FIPS_00</a>

## Exchange メールボックスアーカイブレポートについて

Exchange メールボックスアーカイブタスクが実行されるたびに、Exchange メールボックスアーカイブレポートが自動的に作成されます。Exchange メールボックスアーカイブタスクは、アーカイブ実行が完了すると、または毎日継続的にアーカイブされるように設定されている場合は指定した時間にレポートを作成します。

## Exchange メールボックスアーカイブレポートの設定

次の Exchange メールボックスアーカイブレポートの設定が可能です。

- Enterprise Vault が保持するレポートの数
- Enterprise Vault が毎日レポートを作成する時間 (メールボックスのアーカイブタスクで継続的にアーカイブが行われる場合)

### Exchange メールボックスアーカイブレポートを設定する方法

- 1 Exchange メールボックスアーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバーに、ボルトサービスアカウントでログオンします。
- 2 管理コンソールで、[Exchange メールボックスタスクプロパティ: レポート]タブを開きます。

- 3 [保持するレポートの数]で、Enterprise Vault で保持する Exchange メールボックスアーカイブレポートの数を設定します。

---

**メモ:** これによって、スケジュールされたアーカイブ実行で保持されるレポート数と、即時実行されるアーカイブ実行で保持される数の両方が決まります。

---

- 4 Exchange メールボックスアーカイブタスクで継続的なアーカイブを設定している場合、[次の時刻にレポートを作成]で、Exchange メールボックスアーカイブタスクがレポートを作成する時間を設定します。

Exchange メールボックスアーカイブタスクが継続してアーカイブを行わない場合、この設定による影響はありません。

## Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用

Exchange メールボックスアーカイブレポートは、次の場所から開くことができます。

- 管理コンソール、および直接 Web ブラウザからアクセスできる、Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web サイト
- Enterprise Vault サーバーの Exchange Mailbox Archiving フォルダ

### Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページの使用

Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページを開くには、ユーザーアカウントを Exchange 管理者ロールに割り当てする必要があります。

p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。

Enterprise Vault サーバーで Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページをローカルに開くと、ブラウザをより高い権限で実行しない限り、ユーザーアクセス制御 (UAC) によりページが表示されない場合があります。UAC について詳しくは、Microsoft 社の Web サイトで次の記事を参照してください。

<https://technet.microsoft.com/library/cc709691.aspx>

#### Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページを開く方法

- 1 Exchange 管理者ロールが割り当てられたアカウントを使って、Exchange メールボックスアーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバーにログインします。
- 2 管理コンソールで、[Exchange メールボックスタスクプロパティ: レポート]タブを開きます。
- 3 [レポート表示]をクリックすると、Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページが開きます。

次のような URL を使って Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページを直接開くこともできます。

<https://EVserver/EnterpriseVault/ExchangeArchivingReports.aspx?ExchSvr=ExchangeServer>

それぞれの内容は次のとおりです。

- **EVserver** は Exchange メールボックスアーカイブタスクをホストする Enterprise Vault サーバーです。
- **ExchangeServer** は Exchange メールボックスアーカイブタスクが対象とする Exchange メールボックスです。

この Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページは、次のレポートへのリンクを含んでいます。

- タスクがアーカイブ中である場合は、Exchange メールボックスアーカイブタスクの、HTML による進行状況レポート。
- Exchange メールボックスアーカイブタスクで完了された各実行についての、HTML による短いレポート。HTML の短いレポートには、それぞれ詳しいレポートの HTML バージョンのリンクが含まれています。
- Exchange メールボックスアーカイブタスクで完了された各実行についての、CSV による詳しいレポート。

サイト内の Enterprise Vault サーバーが複数の Exchange サーバーを対象としている場合、以下のような URL から Exchange メールボックスアーカイブレポートのサイト概要ページを確認できます。

<https://EVserver/EnterpriseVault/ExchangeArchivingReports.aspx>

この場合、**EVserver** はサイト内のどの Enterprise Vault サーバーでも可能です。

このページは、サイトで対象になるすべての Exchange サーバーをリストし、各 Exchange サーバーを対象とする Enterprise Vault サーバーの個々の Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページへのリンクを提供します。

## Enterprise Vault サーバーでの Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用

Exchange メールボックスアーカイブタスクは、タスクをホストする Enterprise Vault サーバーにレポートを保存します。

このタスクは、Enterprise Vault インストール先フォルダの `Reports¥Exchange Mailbox Archiving` サブフォルダにレポートを保存します（たとえば `C:¥Program Files (x86)¥Enterprise Vault`）。

`Reports¥Exchange Mailbox Archiving` は対象のそれぞれの Exchange サーバー、および次のサブフォルダを含む各フォルダを含んでいます。

- `RunNow` は、メールボックスのアーカイブタスクの即時実行からのレポートを含んでいます。
- `Scheduled` は、メールボックスのアーカイブタスクのスケジュールされた実行からのレポートを含んでいます。

これらのフォルダのそれぞれは各レポートのサブフォルダを含んでいます。個々のレポートフォルダは、次の規則を使って命名されます。

`RunType_yyyymmdd_hhmmss`

それぞれの内容は次のとおりです。

- `RunType` は `[RunNow]` または `[Scheduled]` です。
- `yyymmdd_hhmmss` はレポートが作成された日時です。

各レポートフォルダは HTML 形式の簡潔なレポートおよび詳細なレポート、CSV 形式の詳細レポートを含んでいます。

---

**メモ:** まだアーカイブされている Exchange メールボックスアーカイブタスクの進行状況レポートは、Exchange メールボックスアーカイブレポートの Web ページから要求されると生成されます。Enterprise Vault サーバーのディスクにはアーカイブされません。

---

## より多くの情報の取得

Exchange メールボックスアーカイブレポートについて詳しくは、Veritas サポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100038085>

## MSMQ キューの監視

発生するおそれのある問題を迅速に見つけることができるように、MSMQ キューを監視することが重要です。

### キューのパフォーマンスを監視する方法

- ◆ Windows パフォーマンスモニターを使います。

Windows パフォーマンスモニターを継続的に実行して、すべてのキューのメッセージ数を表示させると便利です。

p.325 の「[Enterprise Vault メッセージキューへのアクセス](#)」を参照してください。

キューの正常な動作をすぐに把握できるようになるため、過度のバックログにも気づけるようになります。このようなバックログの原因は、ただちに調査してください。

## タスクとサービスの起動または停止について

次のいずれかの操作を行う場合など、さまざまな理由から **Enterprise Vault** のタスクまたはサービスを停止する必要があることがあります。

- タスク、ポリシー、サービスの設定の変更。サービス設定の多くでは、新しい設定を有効にするには、1 つ以上のサービスを停止してから再開する必要があります。設定を有効にするために再開の操作が必要かどうかについて詳しくは各サービスとタスクのプロパティのヘルプを参照してください。
- ハードウェア設定の変更。
- サービスの再設定。
- トラブルシューティング。

### タスクの開始または停止

タスクは、管理コンソールから開始し、停止できます。

#### タスクを開始する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの **[Enterprise Vault サーバー]** を展開します。
- 2 開始しようとしているタスクを実行するコンピュータの名前を展開します。
- 3 **[タスク]** をクリックします。  
右ペインに、そのコンピュータ上のタスクが表示されます。
- 4 右ペインで、開始するタスクをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
  - ツールバーの **[タスクを開始]** をクリックします。
  - タスクの名前を右クリックし、ショートカットメニューの **[開始]** をクリックします。

#### タスクを停止する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの **[Enterprise Vault サーバー]** を展開します。
- 2 停止しようとしているタスクを実行しているコンピュータの名前を展開します。
- 3 **[タスク]** をクリックします。  
結果ペインに、そのコンピュータ上のタスクが表示されます。
- 4 右ペインで、停止するタスクをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
  - ツールバーの **[タスクを停止]** をクリックします。
  - タスクの名前を右クリックし、ショートカットメニューの **[停止]** をクリックします。

## サービスの開始または停止

サービスは、管理コンソールと Windows のコントロールパネルのサービスアプレットの両方から開始し、停止できます。

コマンドラインユーティリティの **EVService** があることに注意してください。これにより、ローカルまたはリモートで Windows サービスの開始と停止が可能になります。**EVService** は、バックアップ手順を自動化する場合に便利です。このユーティリティは **Enterprise Vault** プログラムフォルダ (C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault など) 内にあります。使い方のガイドラインについて詳しくは、『ユーティリティ』を参照してください。

### サービスを開始する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで「Enterprise Vault サーバー」を展開します。
- 2 開始しようとしているサービスを実行するコンピュータの名前を展開します。
- 3 「サービス」をクリックします。  
右ペインに、そのコンピュータ上のサービスが表示されます。
- 4 右ペインで、開始するサービスをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
  - ツールバーの「サービスを開始」をクリックします。
  - サービスの名前を右クリックし、ショートカットメニューの「開始」をクリックします。

### サービスを停止する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで「Enterprise Vault サーバー」を展開します。
- 2 停止しようとしているサービスを実行しているコンピュータの名前を展開します。
- 3 「サービス」をクリックします。  
結果ペインに、そのコンピュータ上のサービスが表示されます。
- 4 右ペインで、停止するサービスをクリックします。
- 5 次のいずれかの操作を行います。
  - ツールバーの「サービスを停止」をクリックします。
  - サービスの名前を右クリックし、ショートカットメニューの「停止」をクリックします。

## Windows イベントビューアによるログのチェック

Enterprise Vault のすべてのサービスとタスクは、診断ログの情報を標準の Enterprise Vault イベントログに書き込みます。このイベントログは、標準の Windows イベントビューアを使って表示できます。



診断ログによる情報出力の量は、そのサービスまたはタスクに対して設定した診断ログのレベルによって異なります。**Enterprise Vault** は、多数のログエントリを生成します。ログファイルが大きくなりすぎないように処理する必要があります。

イベントビューアには、ログファイルを確実に適切なサイズにする次の方法があります。

- イベントビューアでは、新しいイベントで古いイベントを置き換えることがデフォルト設定です。これによって、すべてのイベントが確実にログに記録されます。
- すべてのログエントリに上書きできない保管期間を指定できます。
- ログファイルの最大サイズを設定し、ログファイルに、必要な数の履歴が含まれるようにできます。
- イベントビューアを使って、すべてのログエントリを保管し、ログファイルを手動で消去できます。

適切なレポートツールをすでに購入している場合は、アプリケーションログの情報を使って、独自のカスタムレポートにすることができます。

ログファイルの制御について詳しくはイベントビューアのヘルプを参照してください。

### Windows イベントビューアによるログのチェック

- 1 イベントビューア (`eventvwr.exe`) を起動します。
- 2 イベントビューアの左ペインで、[アプリケーション] ログまたはいずれかの **Enterprise Vault** ログをクリックします。
  - Veritas Enterprise Vault
  - Veritas Enterprise Vault Converters
  - Veritas Enterprise Vault CryptoModule選択したログがイベントビューアにロードされます。

## ジャーナルメールボックスの監視

メッセージが、1 つ以上の特定の **Microsoft Exchange** ジャーナルメールボックスに渡される場合、**Microsoft Exchange Server** システムによって送受信されるすべてのメッセージをアーカイブするように **Enterprise Vault** を設定できます。

**Exchange** ジャーナルタスクは継続的に実行され、ジャーナルメールボックス内のアイテムをチェックしたらそれらをすぐにアーカイブします。これらのアイテムは、アーカイブされるとメールボックスから削除されます。ショートカットは作成されません。

ジャーナルメールボックスを監視し、アイテムが即座にアーカイブされることを確認することが大切です。システムの再起動が必要な種類のシステム障害が発生していた場合、この確認を行うことが特に重要です。

Exchange ジャーナルタスクを実行している場合、ジャーナルメールボックス内のメッセージはメールボックスに到着した直後にアーカイブする必要があります。

### ジャーナルメールボックスをチェックする方法

- 1 Microsoft Outlook を実行します。
- 2 ジャーナルメールボックスへのアクセス権を持っているプロファイルにログオンします。
- 3 Inbox フォルダに、1 日以上経過したメッセージがないことをチェックします。1 日以上経過したメッセージがある場合は、おそらく問題が存在します。
- 4 次のフォルダを調査します。これらのフォルダは、Enterprise Vault Exchange ジャーナルサービスのフォルダの下にあります。

最大サイズ超	Exchange ジャーナルポリシーに設定されている最大サイズを超えるメッセージが含まれます。
Failed Codepage nnn	<p>問題を修正するには、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 不足しているコードページをインストールします。</li> <li>■ デフォルトの ANSI コードページ (ACP コードページ) を使います。</li> </ul> <p>これらのタスクについては、後で説明します。</p> <p>コードページを正しく設定したら、アーカイブに失敗したメッセージを、再度処理されるようにジャーナルの[受信トレイ]に戻します。</p>
失敗した DL 展開	Enterprise Vault が配布リストを展開できないためにアーカイブできないアイテムが含まれています。
失敗した外部フィルタ	<p>カスタムフィルタで処理できないメッセージが含まれています。</p> <p>Enterprise Vault イベントログを調べて問題の原因を特定します。</p> <p>ルールセットファイルが正しいXMLスキーマを参照していることもチェックしてください。</p>
Failed to copy	<p>破損の可能性があるメッセージが含まれています。アイテムをデスクトップにドラッグしてみます。次に、デスクトップ上のアイテムをダブルクリックします。</p> <p>これで、メッセージが破損していないことがわかる場合があります。メッセージをデスクトップから Inbox フォルダにドラッグした場合、Exchange ジャーナルタスクによってそれらのメッセージのアーカイブが再試行されます。Failed to copy フォルダにある破損したバージョンを忘れずに削除します。</p>

Failed to store	アーカイブできないメッセージが含まれています。アーカイブの失敗の原因は、ストレージサービスに問題がある可能性があります。これらのアイテムはすべて <b>Inbox</b> フォルダに戻すことができるため、 <b>Exchange</b> ジャーナルタスクによって、それらのアーカイブが再試行されます。
無効なジャーナルレポート	ジャーナルレポート ( <b>P1</b> エンベロープメッセージ) が <b>Microsoft</b> 社の仕様に準拠しないメッセージが含まれます。

### コードページを追加する方法

- 1 必要なコードページを **Exchange** ジャーナルタスクコンピュータにインストールします。
- 2 **Exchange** メールボックスタスクコンピュータで類似した問題が発生することを防ぐには、それぞれの **Exchange** メールボックスタスクコンピュータにコードページをインストールします。
- 3 ビルディングブロック構成を使っている場合、サイト内のすべての **Enterprise Vault** サーバーで変更を繰り返します。

## デフォルトの ANSI コードページ (ACP コードページ) の使用

**Enterprise Vault** では、`CodePages.txt` というファイルにコードページの一覧があります。このファイルは、**Enterprise Vault** プログラムフォルダ (たとえば `C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault`) にインストールされています。

このファイルから該当するコードページのエントリを削除すると、**Enterprise Vault** で強制的にデフォルトの **ANSI** コードページ (**ACP** コードページ) を使うようになります。**ACP** コードページでは適切な変換結果が得られないことがわかった場合は、`Codepages.txt` のエントリを元に戻し、不足しているコードページをインストールします。

### コードページのエントリを削除する方法

- 1 **Exchange** ジャーナルタスクコンピュータで `CodePages.txt` を編集し、問題の原因になったコードページのエントリを削除します。
- 2 **Exchange** メールボックスタスクコンピュータで類似した問題が発生することを防ぐには、それぞれの **Exchange** メールボックスタスクコンピュータで、`CodePages.txt` に同じ変更を加えます。
- 3 ビルディングブロック構成を使っている場合、サイト内のすべての **Enterprise Vault** サーバーで変更を繰り返します。

# ディスクの監視について

ボルトストアとインデックスを格納しているディスクに、十分な空き領域があることをチェックする必要があります。どれだけの領域が必要であるかは、**Enterprise Vault** の使用状況によって異なります。ただし、監視を続けていくと、さまざまな **Enterprise Vault** データベースがディスク領域を消費する速度をすぐに把握できるようになります。

## ボルトストアのディスク領域のチェック

ボルトストアデータベース用の十分なディスク領域があることを確認する必要があります。インストールした **Enterprise Vault** が通常の実行状態に到達したら、ディスク領域が消費される速度を推測し、それに従って計画を立てることができます。

ディスク領域が不足している場合は、**SQL Enterprise Manager** を使って、別のディスクに新しい **SQL** デバイスを作成し、その新しいデバイスまでデータベースを拡張できます。

## 管理サービスがディスク領域を監視する方法

管理サービスは、他の **Enterprise Vault** サービスが起動すると自動的に実行します。

管理サービスの主なタスクは、次の内容を監視することです。

- ローカルハードディスク上の空き領域。デフォルトで、管理サービスはすべてのローカルハードディスクを監視するが、必要に応じて特定のディスクに制限できます。
- 利用可能な仮想メモリの量。

管理サービスには、チェックの種類ごとに警告しきい値と危険しきい値があります。警告しきい値に達すると、管理サービスは **Windows** アプリケーションログに警告メッセージを書き込みます。危険しきい値に達すると、管理サービスはすべての **Enterprise Vault** サービスを停止します。

問題が発生する前に **Enterprise Vault** を停止することで、安定性を維持できます。しかし、必要に応じて訂正の動作を行えるように、アプリケーションログで **Enterprise Vault** メッセージを監視することは重要です。

表 3-2 に、管理サービスで使うしきい値を示します。

表 3-2 管理サービスのしきい値

チェック	警告しきい値	危険しきい値	メッセージの例
ローカルハードディスク上の空き領域	最大の 95%	最大の 99%	<div>■ 警告メッセージ:</div> <div>The system is running out of disk space on drives C: and D: - delete any unwanted files.</div> <div>Enterprise Vault will be shut down when 99% of the disk space is used.</div> <div>■ 危険メッセージ:</div> <div>Insufficient disk space is available on drive C: for Enterprise Vault to run.</div> <div>Enterprise Vault will now be shut down; to correct this problem, delete any unwanted files and restart Enterprise Vault.</div>
仮想メモリ	限度の 90%	限度の 95%	<div>■ 警告メッセージ:</div> <div>The system is running out of Virtual Memory - free memory by closing any unwanted applications.</div> <div>Enterprise Vault will be shut down when 95% of Virtual Memory is used.</div>

管理サービスの修正

通常、管理サービスを変更する必要はありません。ただし、場合によっては、監視をオフにする、または修正する必要があります。たとえば、ほぼいっぱいになっているにもかかわらず、**Enterprise Vault** で使われていないディスクがシステム上に存在することがあります。管理サービスはすべてのローカルディスクを監視するため、**Enterprise Vault** に十分な容量がある場合でも、**Enterprise Vault** を停止することがあります。このような場合は、ディスクの監視を停止する必要がある可能性があります。

**メモ:** 管理サービスを不必要に停止しないでください。**Enterprise Vault** を使うには、管理サービスが常に存在している必要があります。管理サービスを停止すると、同じコンピュータ上の他のすべての **Enterprise Vault** サービスも停止します。また、他のサービスのいずれかを起動したときに、管理サービスが実行されていない場合は、管理サービスが自動的に起動します。

### 管理サービスによる監視を一時停止する方法

- 1 Windows の[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックします。
- 2 サービスのリストで[Enterprise Vault Admin Service]をクリックします。
- 3 [操作]メニューで、[一時停止]をクリックします。

監視を再開するには、[操作]メニューの[再開]をクリックします。

### 管理サービスの以降のインスタンスの動作を修正するには

- 1 Windows の[コントロールパネル]の[サービス]をダブルクリックします。
- 2 サービスのリストで[Enterprise Vault Admin Service]をダブルクリックします。
- 3 管理サービスが実行されている場合は、[停止]をクリックします。他の Enterprise Vault サービスを停止するよう求めるメッセージが表示されたら[はい]をクリックします。
- 4 [開始パラメータ]ボックスに使用するパラメータを入力します。

管理サービスで監視するディスクを指定する方法。管理サービスはデフォルトですべてのローカルハードディスクを監視します。

次の開始パラメータを入力します。

`/DISKS[=list]`

`list` は 1 つ以上の監視対象ディスクを指定します。リスト内に空白またはタブを含めないでください。ディスク名にコロン(:)を含めることもできます。

たとえば、ディスク C、E、F のみを監視するには、次のいずれかを入力します。

`/DISKS=C:E:F:`

`/DISKS=CEF`

管理サービスを開始するたびにこの開始パラメータを適用するには、次のように `/SAVE` パラメータを追加します。

`/DISKS=C:E:F: /SAVE`

`/DISKS=CEF /SAVE`

すべてのディスクを監視するには (デフォルト動作を復元するには)、次のように入力します。

`/DISKS`

[サービス]コントロールパネルで[開始]をクリックしたときに開始される管理サービスのインスタンスの監視をオフにする方法。

次の開始パラメータを入力します。

`/NOMONITOR`

管理サービスを開始するたびに監視をオフにする方法。 次の開始パラメータを入力します。

`/NOMONITOR /SAVE`

[サービス]コントロールパネルで[開始]をクリックしたときに開始される管理サービスのインスタンスの監視をオンにする方法。 次の開始パラメータを入力します。

`/MONITOR`

管理サービスを開始するたびに監視をオンにする方法。 次の開始パラメータを入力します。

`/MONITOR /SAVE`

管理サービスを開始するたびに変更を適用する方法。 次の開始パラメータを入力します。

`/SAVE`

たとえば、管理サービスを開始するたびに、ディスク E と F を監視するには、次のように入力します。

`/DISKS=EF /SAVE`

- 5 [開始]をクリックして、管理サービスを開始します。
- 6 必要に応じて他の Enterprise Vault サービスを開始します。

## ディスク領域とインデックス

インデックス用のディスク領域が不足している場合、インデックスサービスがインデックスを格納するために使う新しいインデックスの場所を作成できます。必要に応じて、さらに場所を追加できます。新しい場所が追加されると、インデックスサービスは、新しいアーカイブのインデックスを作成するときにその場所を使うことを選択することがあります。インデックスサービスが特定の場所を使うようにする場合は、[場所をクローズ]を使って他のすべての場所をクローズして、1 つの場所だけをオープンしたままにします。

Enterprise Vault はクローズした場所に新しいインデックスを作成せず、クローズした場所にある既存のインデックスを更新しません。Enterprise Vault は、必要に応じて、オープンな場所に新しいインデックスを自動的に作成します。

## SQL データベースの保守について

Microsoft SQL Enterprise Manager を使うとすべての Enterprise Vault データベースを保守できますが、他に使いたいツールがある場合は、代替となるツールを使うこともできます。Microsoft SQL Enterprise Manager の使い方について詳しくは Microsoft SQL Server のマニュアルを参照してください。

計画的なバックアップ手順の一部として、すべてのデータベースをバックアップします。採用する手順によっては、各データベースのバックアップが終了した後でトランザクションログを切り捨てることも可能です。

詳しくは『Veritas Enterprise Vault™ バックアップと回復』ガイドを参照してください。

トランザクションログによっては、割り当てられているディスク領域のすべてが必要ではない場合もあります。この場合、割り当てられている領域を適切なサイズに縮小できます。トランザクションログで必要とする領域が正確に把握できるようになるまで、この操作は実行しないでください。

## ボルトストアデータベースの保守

割り当てられている領域についてボルトストアデータベースとトランザクションログによって使われたサイズを監視し、必要に応じて適切な操作を行います。

各ボルトストアデータベースの初期サイズは次のとおりです。

データデバイス	100 MB
トランザクションログ	80 MB
合計	180 MB

ボルトストアデータベースのコンポーネントの名前は次のとおりです。

データベース名	EVVSvaultstore_ <i>n</i>
データデバイス名	EVVSvaultstore_ <i>n</i>
ログデバイス名	EVVSvaultstore_ <i>n</i> LOG

名前で使われている変数は次のとおりです。

- 「**vaultstore**」は、スペースを削除したボルトストアの名前です。
- 「***n***」は内部で生成される整数です。この値によって、データベース名は Enterprise Vault サイト全体で一意になることが保証されます。

## ディレクトリデータベースの保守

ディレクトリデータベースは Enterprise Vault の設定情報を格納します。10 MB というデータデバイスの初期サイズは、10,000 のアーカイブをサポートするために選択されました。このデータベースのサイズは、多くの場合、それほど増加しません。

ディレクトリデータベースの初期サイズは次のとおりです。

データデバイス	10 MB
---------	-------



トランザクションログ	25 MB
合計	35 MB

ディレクトリデータベースのコンポーネントの名前は次のとおりです。

データベース名	EnterpriseVaultDirectory
データデバイス名	VaultDev
ログデバイス名	VaultLog

## フィンガープリントデータベース保守

各ボルトストアグループにはフィンガープリントデータベースがあります。可能な例外の 1 つに、デフォルトのアップグレードグループがあります。これは直前に **Enterprise Vault 8.0** にアップグレードした場合に **Enterprise Vault** が作成します。フィンガープリントのデータベースの共有設定を行わない限り、デフォルトのアップグレードグループにはこのデータベースは含まれていません。

初期ディスク領域には合計 **212 MB** が必要です。

フィンガープリントデータベースには、グループのボルトストアに格納されている各 **Enterprise Vault** 単一インスタンスストレージパーツ (SIS パーツ) に関する情報が保持されています。フィンガープリントデータベースには、プライマリファイルグループのほか、**32** の非プライマリファイルグループがあり、これらのグループには SIS パーツに関する情報が保持されています。

**Enterprise Vault** 単一インスタンスストレージを使ってアイテムを共有する場合、**Enterprise Vault** は大量の SIS パーツデータを生成します。そのため、非プライマリファイルグループのサイズは急速に増大する場合があります。有効なアーカイブと取り込みのパフォーマンスを確保するには、非プライマリファイルグループをボルトストアグループの共有の量に対して適切に配置する必要があります。ボルトストアグループの作成時、またはデフォルトのアップグレードグループの共有の設定時にファイルグループの場所を設定できます。

『インストール/設定』のボルトストアグループの作成とボルトストアグループの共有の設定に関する説明を参照してください。

フィンガープリントデータベースの設定後にファイルグループの場所を追加または変更するのは、**SQL Server** 管理タスクです。詳しくは、**Microsoft SQL Server** のマニュアルを参照してください。

フィンガープリントデータベースの初期サイズは次のとおりです。

プライマリファイルグループ	100 MB
---------------	--------

非プライマリファイルグループ	32 MB (32 の非プライマリファイルグループごとに 1 MB)
----------------	------------------------------------

トランザクションログ	80 MB
------------	-------

合計	212 MB
----	--------

フィンガープリントデータベースのコンポーネントの名前は次のとおりです。

データベース名	EVVSGvaultstoregroup_n_m
---------	--------------------------

データデバイス名	EVVSGvaultstoregroup_n_m
----------	--------------------------

ログデバイス名	EVVSGvaultstoregroup_n_mLOG
---------	-----------------------------

名前で使われている変数は次のとおりです。

- 「**vaultstoregroup**」は、空白を削除したボルトストアグループの名前です。
- 「**n**」と「**m**」は内部で生成される整数です。

## 監視データベースの保守

監視データベースは、Enterprise Vault 監視エージェントによって収集されたデータを格納します。データは、Enterprise Vault Operations Manager と、Enterprise Vault Reporting で生成される一部のレポートで使われます。

データの追加に伴ってデータベースを拡張できる領域があることを確認します。

監視データベースの初期サイズは次のとおりです。

データデバイス	100 MB
---------	--------

トランザクションログ	80 MB
------------	-------

合計	180 MB
----	--------

監視データベースのコンポーネントの名前は次のとおりです。

データベース名	EnterpriseVaultMonitoring
---------	---------------------------

データデバイス名	EnterpriseVaultMonitoring_Data
----------	--------------------------------

ログデバイス名	EnterpriseVaultMonitoring_Log
---------	-------------------------------

## FSA レポートデータベース保守

FSA レポートを設定すれば、Enterprise Vault は少なくとも 1 つの FSA レポート用データベースを作成します。データは、FSA レポートによって生成されるデータ分析レポートに使われます。

『レポート』の FSA レポート用データベースの保守に関する記述を参照してください。

## SQL AlwaysOn 可用性グループの使用

Enterprise Vault は SQL AlwaysOn 可用性グループをサポートします。この章に記載の手順を使って、Enterprise Vault 環境において可用性グループを実装することができます。

SQL AlwaysOn 可用性グループを実装する前に、ベリタスサポート Web サイトの Enterprise Vault SQL ベストプラクティスガイドの推奨事項を確認してください。

[https://www.veritas.com/support/ja\\_JP/article.100012617](https://www.veritas.com/support/ja_JP/article.100012617)

## SQL AlwaysOn 可用性グループを実装するときに使用する PowerShell cmdlet

Enterprise Vault は Enterprise Vault 環境での AlwaysOn 可用性グループの実装時に使うことができる、次の PowerShell cmdlet を提供します。

- `Get-EVDatabaseDetail`: Enterprise Vault データベースの構成について情報を取得します。
- `Set-EVDatabaseDetail`: 可用性グループにデータベースを追加した後にデータベースに接続するために、Enterprise Vault を再構成することができます。

これらの両方の cmdlet は、この章で説明される手順で使われます。

コマンドレットのヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると `Get-EVDatabaseDetail` の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Get-EVDatabaseDetail -detailed
```

## SQL AlwaysOn 可用性グループの実装

表 3-3 で、Enterprise Vault 環境で可用性グループを使うために完了する必要がある手順を説明します。これらの手順を記載順に完了する必要があります。

表 3-3 SQL AlwaysOn 可用性グループの実装

手順	作業	詳細の参照先セクション
手順 1	すべての Enterprise Vault サービスを停止して、可用性グループを設定する間に Enterprise Vault が変更をデータベースに書き込まないようにします。	p.60 の「 <a href="#">Enterprise Vault サービスの停止</a> 」を参照してください。
手順 2	Enterprise Vault 環境をサポートするために可用性グループを配備します。	p.60 の「 <a href="#">SQL AlwaysOn 可用性グループの配備</a> 」を参照してください。
手順 3	既存の Enterprise Vault データベースの設定を見つけてます。	p.61 の「 <a href="#">Get-EVDatabaseDetail を使って既存のデータベース設定を見つける</a> 」を参照してください。
手順 4	可用性グループのリスナーを使って、データベースに接続するよう Enterprise Vault を再設定します。	p.62 の「 <a href="#">Set-EVDatabaseDetail を使った Enterprise Vault の再設定</a> 」を参照してください。
手順 5	すべての Enterprise Vault サービスを再起動します。	p.63 の「 <a href="#">Enterprise Vault サービスの開始</a> 」を参照してください。

## Enterprise Vault サービスの停止

Enterprise Vault 環境で AlwaysOn 可用性グループを実装する前にすべての Enterprise Vault サーバーですべての Enterprise Vault サービスを停止して、実装中にデータベースが変更されないようにしてください。

## SQL AlwaysOn 可用性グループの配備

環境のすべての Enterprise Vault サービスを停止している場合は、SQL AlwaysOn 可用性グループを配備できます。

Enterprise Vault データベースを提供する SQL サーバーを維持し、可用性グループのプライマリサーバーにすることができます。

1 つ以上の SQL サーバーを追加配備し、SQL の管理ツールを使ってプライマリサーバーと追加サーバーを含む新しい可用性グループを作成します。

すべての Enterprise Vault データベースのバックアップを作成して、グループ化したいすべてのデータベースを新しい可用性グループに追加します。

## Get-EVDatabaseDetail を使って既存のデータベース設定を見つける

Get-EVDatabaseDetail は、Enterprise Vault 環境に対応するため AlwaysOn 可用性グループを実装するときに役立つ Enterprise Vault データベースの詳細を提供します。

新しい可用性グループに Enterprise Vault データベースを追加する当初は SQL インスタンスそれぞれが使うデータベースを含め、このすべてのデータベースの詳細を Get-EVDatabaseDetail を使って一覧表示できます。

たとえば、次の手順を使って、すべての Enterprise Vault データベースの詳細をリストします。

### すべての Enterprise Vault データベースの詳細をリストする方法

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルで、次のコマンドを実行します。

```
Get-EVDatabaseDetail
```

各データベースについて、このコマンドは次を出力します。

```
IsCollationOK      : True
IsInAG              : False
IsAccessible        : True
DBName              : EnterpriseVaultAudit
SQLInstanceName     : evsql
SQLServerVersion    : 11.0.3128.0
Type                : Audit
SQLServerName       : EVSQL
IsClustered         : False
```

この例では、ディレクトリデータベースが可用性グループにまだ追加されておらず、「EVSQL¥evsql」という SQL インスタンスを現在使っていることが示されています。

データベースを可用性グループに追加している場合は、Get-EVDatabaseDetail を再び使って、正しい結果が得られているかどうかを確認できます。

すべてのデータベースの詳細を表示するには、単に Get-EVDatabaseDetail を再び実行できます。または、新しい可用性グループにまだ追加されていない Enterprise Vault データベースのみを特定するには、次の例の手順を使うことができます。

## 可用性グループに追加されていない Enterprise Vault データベースの詳細をリストする方法

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルで、次のコマンドを実行します。

```
Get-EVDatabaseDetail | where {$_.IsInAG -eq $FALSE}
```

次の例の出力は、Enterprise Vault ディレクトリデータベースが可用性グループにまだ追加されていないことを示しています。

```
IsCollationOK      : True
IsInAG              : False
IsAccessible        : True
DBName              : EnterpriseVaultDirectory
SQLInstanceName     : evsql
SQLServerVersion    : 11.0.3128.0
Type                : Directory
SQLServerName        : EVSQL
IsClustered         : False
```

## Set-EVDatabaseDetail を使った Enterprise Vault の再設定

Set-EVDatabaseDetail は、Enterprise Vault データベースの SQL Server 接続の詳細を更新します。

可用性グループに追加したすべての Enterprise Vault データベースに対して、Set-EVDatabaseDetail を実行して、それらのデータベースを可用性グループに追加する前に使った SQL インスタンスをリスナー名に置換する必要があります。この操作は、すべての Enterprise Vault データベースに対して単一の操作で実行、または個別に実行することができます。

たとえば、次の手順を使って、可用性グループリスナー「evaglistener」を使うようにすべての Enterprise Vault のデータベースを再設定できます。

### すべての Enterprise Vault のデータベースを再設定する方法

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルで、次のコマンドを実行します。

```
Get-EVDatabaseDetail | Set-EVDatabaseDetail -ServerName
evaglistener
```

Get-EVDatabaseDetail を使ってすべての Enterprise Vault データベースを取得し、リスナー「evaglistener」を使うように各データベースを再設定する Set-EVDatabaseDetail にパイプ処理します。

Set-EVDatabaseDetail では、成功しても出力が生成されないことに注意してください。

Get-EVDatabaseDetail と Set-EVDatabaseDetail を使って、個別に Enterprise Vault を再設定することもできます。たとえば、より複雑な環境で次の手順を使って、指定した SQL インスタンスを現在使っているデータベースのみを再設定できます。

#### 指定したリスナーを使う Enterprise Vault データベースを再設定する方法

- ◆ Enterprise Vault 管理シェルで、次のコマンドを実行します。

```
Get-EVDatabaseDetail | where {$_.SQLInstanceName -eq 'evsql'} |  
Set-EVDatabaseDetail -ServerName evaglistener
```

Get-EVDatabaseDetail を使って、SQL インスタンス「evsql」を現在使っているすべての Enterprise Vault データベースを取得し、リスナー「evaglistener」を使うように各データベースを再設定する Set-EVDatabaseDetail にパイプ処理します。

### Enterprise Vault サービスの開始

Enterprise Vault 環境に AlwaysOn 可用性グループを実装した場合に、すべての Enterprise Vault サービスをすべての Enterprise Vault サーバーで開始できます。

## ボルトストアグループの管理と共有について

このセクションでは、次の操作の実行方法について説明します。

- ボルトストアグループのボルトストアの状態を表示します。
- ボルトストアの共有レベルを変更します。
- ボルトストアを別のボルトストアグループに移動します。
- ボルトストアグループを削除します。
- フィンガープリントデータベースを監視します。
- 単一インスタンスストレージによるアーカイブ領域の削減を監視します。

各ボルトストアグループのフィンガープリントデータベースをバックアップ設定の一部としてバックアップする必要があります。

詳しくは『Veritas Enterprise Vault™ バックアップと回復』ガイドを参照してください。

---

**メモ:** ボルトストアグループとボルトストアを作成する方法と組織に適した共有設定を設定する方法については、『インストール/設定』のストレージの設定に関する説明を参照してください。

---

## ボルトストアグループのボルトストアの状態の表示

管理コンソールには、ボルトストアグループの各ボルトストアの状態の概略が表示されます。

### ボルトストアグループのボルトストアの状態の概略を表示する方法

- 1 管理コンソールで、サイトを展開し、[ボルトストアグループ]を展開します。
- 2 左ペインで、詳細を表示するボルトストアグループをクリックします。

管理コンソールの右ペインに、グループの各ボルトストアの詳細が一覧表示されます。F5 キーをクリックすると、いつでもこの表示を更新できます。

Enterprise Vault には、グループの各ボルトストアについて次の情報が表示されます。

- 名前: ボルトストアの名前。
- 状態: ボルトストアの状態。状態は、[利用可能]または[削除対象マーク付き]のいずれかです。
- バックアップモード: ボルトストアがバックアップモードの場合は、この列に[はい]と表示されます。ボルトストアのバックアップモードを設定またはクリアするには、ボルトストアを右クリックし、[バックアップモードの設定]または[バックアップモードのクリア]を選択します。
- 共有の種類: ボルトストアの共有レベルを示します。ボルトストアの共有レベルは、その親ボルトストアグループのプロパティの[共有]タブで変更できます。  
[p.64 の「ボルトストアの共有レベルの変更」](#)を参照してください。
- コンピュータ: ボルトストアで使う Enterprise Vault ストレージサービスを備えたコンピュータ。
- セーフコピー: セーフコピーの設定。この設定は、Enterprise Vault がセーフコピーを削除するタイミングを決定します。セーフコピーの設定は、ボルトストアプロパティの[セーフコピー]ページで変更できます。
- ジャーナルセーフコピー: ジャーナルセーフコピーの設定。この設定は、Enterprise Vault がジャーナルセーフコピーを削除するタイミングを決定します。セーフコピーの設定は、ボルトストアプロパティの[セーフコピー]ページで変更できます。

特定のボルトストアの詳細を表示するには、ボルトストアを右クリックし、[プロパティ]を選択します。

## ボルトストアの共有レベルの変更

ボルトストアグループ内のどのボルトストアの共有のレベルも変更できます。グループに今後追加する新しいボルトストアを含む、すべてのボルトストアで特定の共有レベルを使うように設定することもできます。



ボルトストアの共有レベルは、次のいずれかである必要があります。

- [共有しない]。ボルトストアは **Enterprise Vault** 単一インスタンスストレージに参加しません。
- [ボルトストア内で共有する]。ボルトストアは自己の内部でのみ **SIS** パーツを共有します。
- [グループ内で共有する]。ボルトストアは、[グループ内で共有する]共有レベルを持つグループの他のボルトストア内でも **SIS** パーツを共有します。

共有レベルを変更するには、そのボルトストアグループで共有を設定ウィザードを実行する必要があります。ボルトストアグループには、少なくとも 1 つのボルトストアが含まれている必要があります。

---

**メモ:** 共有を設定ウィザードはいつでも再実行できますが、ボルトストアの共有レベルに対する変更は過去にさかのぼっては適用されません。

---

#### ボルトストアグループに共有を設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ボルトストアグループ]が表示されるまで、**Enterprise Vault** サイトの階層を展開します。
- 2 [ボルトストアグループ]コンテナを展開して、既存のボルトストアグループを表示します。
- 3 共有を設定するボルトストアグループを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 4 [共有]タブをクリックします。  
 [共有]タブには、ボルトストアグループのボルトストアとその現在の共有レベルが一覧表示されます。
- 5 [共有を設定]をクリックします。  
 共有を設定ウィザードが起動します。
- 6 デフォルトのアップグレードグループの特殊な場合として、グループのフィンガープリントデータベースがまだ存在していない場合、**Enterprise Vault** によってグループのフィンガープリントデータベースを設定できます。
- 7 共有を設定ウィザードを使うと、手順を追って、ボルトストアグループのボルトストアの共有レベルを設定できます。ボルトストアの共有レベルを個別に設定したり、共有レベルを現在のすべてのボルトストアに適用したりできます。  
 1 つ以上のボルトストアの共有レベルを[ボルトストア内で共有する]または[グループ内で共有する]に変更した場合、ウィザードでは、変更を行う前に接続性テストを実行するように求めるメッセージが表示されます。接続性テストは、ネットワークの接続性が、選択した共有設定をサポートするのに十分であるかどうかを判断するのに役立ちます。

ウィザードでは、最後のページの[完了]をクリックするまで変更は行われません。

接続性テストの結果が良好ではなかった場合、次のいずれかを実行できます。

- [戻る]をクリックし、ボルトストアの共有レベルを変更し、接続性テストを再実行します。
- [キャンセル]をクリックして変更を破棄します。

接続性テストについて詳しくは、管理コンソールのヘルプの共有を設定ウィザードの項を参照してください。

## ボルトストアの別のボルトストアグループへの移動

ほとんどの場合、異なるボルトストアグループにボルトストアを移動できません。

ボルトストアは、次のすべての条件が該当する場合にのみ、別のボルトストアグループに移動できます。

- 以前に **Enterprise Vault 8.0** にアップグレードしました。
- **Enterprise Vault** で **Enterprise Vault 8.0** にアップグレードされたボルトストアか、またはデフォルトのアップグレードグループ内で作成したボルトストアです。
- ボルトストアの共有レベルは[共有しない]で、変更したことはありません。

ボルトストアの移動時には共有レベル[共有しない]が保持されることに注意してください。

### ボルトストアを別のボルトストアグループに移動する方法

- 1 ボルトストアを右クリックし、ショートカットメニューの[ボルトストアグループの変更]を選択します。  
ボルトストアグループの変更ウィザードが起動します。
- 2 ボルトストアグループの変更ウィザードに従って操作します。  
詳しくはウィザードに付属のヘルプを参照してください。

## ボルトストアグループの削除

ボルトストアや関連するアーカイブを使わなくなったボルトストアグループは、削除できます。削除すると、ボルトストアに含まれているすべてのパーティションとアーカイブ、さらにこれらのパーティションやアーカイブに格納されているすべてのアイテムが完全に削除されます。

ボルトストアグループを削除できるのは、ボルトストアグループデータベースが **SQL AlwaysOn** 可用性グループに含まれておらず、グループ内のすべてのボルトストアに次のすべての条件が該当する場合のみです。

- 自動的に有効化されたアーカイブのデフォルトのボルトストアでない。
- アーカイブ対象に関連付けられたアーカイブが含まれていない。

- 状態が[利用可能]である。
- バックアップモードでない。
- ボルトストアデータベースが **SQL AlwaysOn** の可用性グループに含まれていない。含まれている場合は、最初に可用性グループからボルトストアデータベースを削除する必要がある。

ボルトストアグループを削除すると、各ボルトストアの状態が[削除対象マーク付き]に変更されます。ボルトストアのアーカイブ内のアイテムへのショートカットは機能しなくなります。

**Enterprise Vault** が削除処理を完了するまでに長い時間がかかることがあります。ボルトストア内に、リーガルホールド上にあるアイテム、または他のボルトストアで参照されている **SIS** パーツが含まれている場合、**Enterprise Vault** はボルトストアに削除用のマークを設定しますが、これらの条件が該当しなくなるまで、ボルトストアまたはボルトストアグループを削除しません。

---

**メモ:** ボルトストアグループを削除した後に、削除プロセスを停止したり、元に戻したりすることはできません。この操作を実行すると、リーガルホールド以外のアイテムまたは保持カテゴリに適用される、あらゆる形式の削除保護が上書きされます。

---

#### ボルトストアグループを削除する方法

- 1 管理コンソールで、削除するボルトストアグループを選択します。
- 2 管理コンソールの右ペインに、グループのボルトストアの状態が表示されます。**F5** をクリックして表示を更新します。右ペインに各ボルトストアの現在状態と、バックアップモードが設定されているかどうかが表示されます。状態が[利用可能]になっていて、バックアップモードが設定されていない場合のみ、ボルトストアを削除できます。
- 3 ボルトストアグループを右クリックして、ショートカットメニューで[削除]を選択します。
- 4 警告ダイアログボックスで、[削除]をクリックします。

グループ内の各ボルトストアの状態が[削除対象マーク付き]に変更されます。ボルトストアグループのアイコンも、削除用にマークされたことを示すように変更されます。

**Enterprise Vault** が最終的に削除を完了すると、管理コンソールからボルトストアとボルトストアグループが削除されます。

## フィンガープリントデータベースの監視

[サイトプロパティ]の[監視]タブで監視機能を有効にすると、ボルトストアグループのフィンガープリントデータベースに関する複数のアラートが利用可能になります。利用可能なアラートは次のとおりです。

- [ボルトストアのフィンガープリントデータベースバックアップ]。バックアップされていないフィンガープリントデータベースに関する警告を Enterprise Vault が発行するまでの日数。デフォルト値は 3 です。
- [ボルトストアのフィンガープリントデータベースログのバックアップ]。バックアップされていないフィンガープリントデータベースのトランザクションログに関する警告を Enterprise Vault が発行するまでの日数。デフォルト値は 1 です。
- [ボルトストアのフィンガープリントデータベースログのサイズ]。フィンガープリントデータベースのトランザクションログに使える利用可能な領域の割合です。この割合を超えると、Enterprise Vault が領域の使用状況に関する警告を発行します。デフォルト値は 85% です。

p.305 の「[[サイトプロパティ](#)]の監視機能」を参照してください。

フィンガープリントデータベースのバックアップは、バックアップ設定の一部として行う必要があります。

詳しくは『Veritas Enterprise Vault™ バックアップと回復』ガイドを参照してください。

## 単一インスタンスストレージによって発生するアーカイブ領域の削減の監視

Enterprise Vault Reporting がインストールされて設定されている場合、Enterprise Vault 単一インスタンスストレージによるアーカイブストレージの削減に関する情報を示すレポートにアクセスできます。

単一インスタンスストレージに関連するレポートを次に示します。

- 単一インスタンスストレージ削減の概略。このレポートには、Enterprise Vault サイトの各ボルトストアグループについて、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。
- ボルトストアグループごとの単一インスタンスストレージ削減。このレポートには、ボルトストアグループの各ボルトストアについて、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。
- ファイルの種類ごとの単一インスタンスストレージ削減。このレポートには、ボルトストアグループに含まれるファイルの各種類について、Enterprise Vault の単一インスタンスストレージによって発生したストレージ削減が表示されます。

単一インスタンスストレージのレポートには、Microsoft SQL Server Reporting Services のレポートマネージャ Web アプリケーションから、または管理コンソールからアクセスできます。詳しくは、『レポート』ガイドを参照してください。

## セーフコピーの管理について

アーカイブ先ボルトストアパーティションのバックアップを作成するまでアーカイブ済みアイテムを維持するように Enterprise Vault を設定できます。アーカイブから削除までの期間、Enterprise Vault は元のアイテムをセーフコピーとして扱います。各ボルトストアで、元の場所ではなく Enterprise Vault のストレージキューにセーフコピーを保存できます。このオプションは、再びすぐに領域を使えるようにアーカイブの直後に元のアイテムを削除するという利点があります。

ボルトストアパーティションのバックアップを作成したら、Enterprise Vault はセーフコピーを削除できます。ショートカットとプレースホルダを作成するように設定している場合は、この時点で Enterprise Vault が作成します。

---

**メモ:** Enterprise Vault は、ストレージサービスを起動したときやボルトストアからバックアップモードをクリアするときにセーフコピーを削除します。

---

セーフコピーの設定について詳しくは、『インストール/設定』の「Enterprise Vault のセーフコピーについて」を参照してください。

## Enterprise Vault のセーフコピーの削除設定

既存のボルトストアセーフコピーの削除を設定するには

- 1 管理コンソールの左ペインの[ボルトストアグループ]コンテナを展開し、ボルトストアを検索します。
- 2 ボルトストアを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [ボルトストアプロパティ]の[セーフコピー]タブの[デフォルトの動作]リストでオプションを選択します。
- 4 ジャーナルアーカイブに異なる動作を設定する場合は、[ジャーナルアーカイブ用]リストでオプションを選択します。

---

**メモ:** このオプションを利用できるのは、[デフォルトの動作]が[はい、元の場所に保持します]に設定されている場合のみです。ジャーナルに異なる設定が必要な場合は、別のボルトストアを使うことができます。

---

## パーティションがバックアップされていることのチェック

セーフコピーを保存する場合、Enterprise Vault はセーフコピーを削除する前にパーティションのバックアップが作成されていることを確認する必要があります。

各ボルトストアの作成時に、次のオプションから選択します。

- [アーカイブ属性を使用]。アーカイブ属性がクリアされたパーティションのファイルはバックアップ作成済みであると見なされ、**Enterprise Vault** は対応するセーフコピーを削除します。このオプションは、バックアップソフトウェアによってバックアップ後にアーカイブ属性がクリアされる場合にのみ該当します。
- [トリガファイルを確認]。**Enterprise Vault** がトリガファイルをパーティションで検出すると、そのパーティションのバックアップは作成されたと見なされます。通常、このトリガファイルは、バックアップソフトウェアによってパーティションに配置されます。このオプションを選択すると、パーティションでトリガファイルの存在を確認する頻度を設定することもできます。

後から管理コンソールで、この設定を変更できます。

**パーティションデータのバックアップが作成されたことを確認するために Enterprise Vault が使う方法を設定するには**

- 1 管理コンソールの左ペインの[ボルトストアグループ]コンテナを展開し、パーティションを含むボルトストアを選択します。
- 2 右ペインでパーティションを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [バックアップ]タブをクリックします。
- 4 次のいずれかのオプションを選択します。
  - [アーカイブ属性を使用]
  - [トリガファイルを確認]。
- 5 [トリガファイルを確認]オプションを選択した場合は、パーティションのスキャン間隔を設定して、**Enterprise Vault** がパーティションでトリガファイルを確認する頻度を決めることもできます。[パーティションスキャン間隔]オプションを選択し、スキャン間隔を分単位で設定します。
- 6 [OK]をクリックします。

## パーティションロールオーバーの管理について

---

**メモ:** 次の情報は、標準のボルトストアパーティションにのみ適用されます。スマートパーティションには、自動ロールオーバー機能はありません。また、複数のスマートパーティションをアーカイブ用に同時に開くことができます。これは、標準のボルトストアパーティションには当てはまりません。標準のボルトストアパーティションでは、各ボルトストアで開くことができるパーティションは 1 つに限られます。

---

各ボルトストアには、**Enterprise Vault** によってアーカイブ済みデータが格納される物理的場所として、少なくとも 1 つのパーティションが含まれる必要があります。ボルトストアのデータが大きくなった場合、さらにパーティションを作成して容量を追加できます。

ボルトストアのオープンパーティションは手動で変更できます。たとえば、オープンパーティションをホストするディスクが許容量に達したら、そのパーティションを終了して別のディスクでパーティションを開きます。

**Enterprise Vault** には自動パーティションロールオーバー機能もあります。この機能では、特定の基準が満たされたときに、アーカイブが 1 つのパーティションから別のパーティションにロールオーバーされるようにパーティションを設定できます。たとえば、ホストディスクの空き領域が 5% のみになったときに、パーティションが次に使用可能なパーティションにロールオーバーされるように設定できます。特定の日付にパーティションがロールオーバーされるように設定することもできます。

これらの両方の機能をサポートするために、各パーティションは次の 3 つのいずれかの状態になります。

- [クローズ]。クローズされているパーティションは、手動でパーティションをオープンするまで、またはパーティションのロールオーバーが可能になるまでアーカイブできません。
- [オープン]。各ボルトストアには 1 つのオープンパーティションのみを含めることができます。**Enterprise Vault** ではデータはオープンパーティションにアーカイブされます。パーティションロールオーバーがない場合、パーティションをホストするディスクが一杯になったときにパーティションは自動でクローズされますが、別のパーティションはオープンされません。  
ただし、オープンパーティションでロールオーバーが有効で、準備完了パーティションがそのロールオーバー条件を満たしている場合、準備完了パーティションは自動的にオープンされます。
- [準備完了]。各ボルトストアには、パーティションのロールオーバーが実行されたときに **Enterprise Vault** で使用できる準備完了パーティションをいくつでも格納できます。

## パーティションロールオーバーの設定

パーティションロールオーバーを使う各ボルトストアでは、オープンパーティションに対してロールオーバーを有効にし、少なくとも 1 つの準備完了パーティションが存在するようにする必要があります。ユーザーが操作しなくても、延長期間中にパーティションロールオーバーが機能するように設定するには、ボルトストア内の各準備完了パーティションでもパーティションロールオーバーを有効にする必要があります。そうしないと、ロールオーバーが有効になっていない最初のパーティションでパーティションロールオーバーは停止します。つまり、一連のパーティション全体で **Enterprise Vault** がロールオーバーするように設定するには、それぞれのパーティションでパーティションロールオーバーの準備を行い、パーティションロールオーバーを有効にする必要があります。

---

**メモ:** Centera パーティションではロールオーバーを有効にできないため、Enterprise Vault は Centera パーティションからロールオーバーできません。ただし、Centera パーティションにロールオーバーの準備を行うことはできます。

---

新規パーティションウィザードを使ってパーティションを作成するときに、パーティションごとにパーティションロールオーバーを有効にして、設定することができます。新しいボルトストアパーティションの作成について詳しくは、『インストール/設定』ガイドの「ストレージの設定」の章を参照してください。[ボルトストアパーティションプロパティ]ページを使って、既存のボルトストアパーティションのパーティションロールオーバーを設定することもできます。

次のいずれかのオプションを使って、各パーティションがロールオーバーするように設定できます。

- [容量に基づいて有効化]。このパーティションに対してパーティションのロールオーバーが有効になり、パーティションをホストするボリュームの空き容量に従って実行されます。
- [時間に基づいて有効化]。パーティションロールオーバーは、このパーティションに対して有効にされ、指定した時間基準に従って発生します。
- [時刻または容量に基づいて有効化]。パーティションのロールオーバーは有効になり、ボリュームの基準または時間の基準のどちらでも最初に一致する基準に従って実行されます。たとえば、ホストのボリュームの空き容量が **5%** よりも少なくなったとき、または指定した日付のうちのどちらかが先に発生した時点でロールオーバーするように、パーティションを設定できます。

選択内容に応じて、適切なロールオーバー基準を設定できます。[容量に基づいて有効化]か[時刻または容量に基づいて有効化]のいずれかを選択した場合は、パーティションのホストボリュームの残りの空き容量に従ってパーティションのロールオーバーがトリガされるように適切に設定できます。次のいずれかの基準を設定して、ロールオーバーをトリガします：

- 空き容量の割合。
- 特定の空き容量 (MB、GB または TB)。

[時刻に基づいて有効化]か[時刻または容量に基づいて有効化]のいずれかを選択した場合は、パーティションのロールオーバーがトリガされるように適切に設定できます。次のいずれかの基準を設定して、ロールオーバーをトリガします：

- 経過期間 (日、週、月または年)。
- ロールオーバーが実行される特定の日時。

このように柔軟な設定が可能のため、パーティションロールオーバーは複数の方法で管理できます。純粋にボリュームベースの方式を実行して、ホストディスクが容量に近づいたときにロールオーバーする一連のパーティションを設定できます。通常、この方式では、独立した物理ディスク上にパーティションを作成する必要があります。ただし、1 つのファ



イルシステムに複数の物理ボリュームをマウントしている場合は、1つのディスクに複数のパーティションをホストすることができます。この場合、Enterprise Vault はホストファイルシステムの空き容量ではなく、物理ボリュームの空き容量に基づいてロールオーバーします。

パーティションロールオーバーに時間ベース方式を使うと、使用環境に適した任意の時間基準に従ってロールオーバーできます。たとえば、毎週末、または毎月特定の日付にロールオーバーするようにパーティションを設定できます。

---

**メモ:** 日付ベースのパーティションロールオーバーを使う場合は、各パーティションがオープンしている間、十分なストレージ容量があることを確認する必要があります。

---

Enterprise Vault では、ボリュームと時間の基準を組み合わせることもできます。

#### 既存のパーティションでパーティションロールオーバーを有効にして設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[ボルトストアグループ]コンテナを展開し、パーティションロールオーバーを設定するボルトストアを選択します。
- 2 右ペインでパーティションを右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [ロールオーバー]タブをクリックします。
- 4 [パーティションロールオーバー]リストで次のいずれかのオプションを選択します。
  - [容量に基づいて有効化]
  - [時刻に基づいて有効化]
  - [時刻または容量に基づいて有効化]
- 5 使用可能なオプションを使って、このパーティションに適したロールオーバー基準を設定します。

## ロールオーバー順序の変更

ロールオーバー準備完了パーティションを作成し、設定するとき、パーティションが使用される順序は設定しているロールオーバー基準によって異なります。デフォルトでは、ボリュームベースの基準で設定されているパーティションは、ロールオーバーの準備が完了した順序と同じ順序で使われます。時間ベースの基準で設定されているパーティションは、ロールオーバーの日付で決まる順序で使われます。

[ボルトストアプロパティ] の [パーティションロールオーバー] タブを使ってパーティションロールオーバー順序を変更できます。

---

**メモ:** ボリュームベースのロールオーバー用に設定されているパーティションは、任意の順序で配置できます。ただし、時間ベースのロールオーバー用に設定されているパーティションのロールオーバー順序には従う必要があります。たとえば、10月3日にロールオーバーするように設定しているパーティションより前に、10月10日にロールオーバーするように設定しているパーティションを移動することはできません。

---

#### ロールオーバー順序を変更する方法

- 1 管理コンソールで、ボルトストアを右クリックして、[プロパティ] をクリックします。
- 2 [パーティションロールオーバー] タブをクリックします。
- 3 準備完了パーティションの一覧から、変更する位置にあるパーティションを選択します。
- 4 パーティションが正しい位置になるまで、[上に移動] または [下に移動] をクリックします。
- 5 準備完了パーティションが正しい順序になるまで、前の2つの手順を繰り返します。

## パーティションロールオーバーの強制

PowerShell cmdlet の `Start-PartitionRollover` を使ってパーティションロールオーバーを強制的に行うことができます。この cmdlet を実行すると、指定したボルトストアのオープンパーティションが強制的にクローズされ、利用可能な場合、最初の準備完了パーティションがオープンされます。

---

**メモ:** `Start-PartitionRollover` は、現在のオープンパーティションのロールオーバー基準に関係なく、強制的にパーティションロールオーバーを行います。

---

#### パーティションロールオーバーを強制的に行う方法

- 1 Enterprise Vault 管理シェルを開きます。
- 2 `Start-PartitionRollover` を実行します。

この cmdlet の構文は次のとおりです。

```
Start-PartitionRollover -EVServerName server -VaultStore  
vault_store
```

それぞれの内容は次のとおりです。

`server` は、パーティションロールオーバーを強制するボルトストアのストレージサービスを実行する Enterprise Vault サーバーです。

`vault_store` は、パーティションロールオーバーを強制するボルトストアの名前または ID です。

次に例を示します。

```
Start-PartitionRollover EV1 VS1
```

このスクリプトによって **Enterprise Vault** サーバー **EV1** に接続され、このサーバー上で **ボルトストア VS1** がストレージサービスを使っているかどうかを検証されます。使われている場合、**Start-PartitionRollover** はボルトストア **VS1** でパーティションロールオーバーを強制的に行います。

## 削除済みアイテムの回復

**Enterprise Vault** はユーザーが誤って削除したアイテムを一定の期間内に回復できるようにするために、削除したアイテムを保持することができます。この回復機能は、サイトプロパティの[アーカイブの設定]タブで設定できます。

回復を有効にすると、**Enterprise Vault** は[サイトプロパティ]の[アーカイブの設定]ページで指定した期間、削除したアイテムを保持します。この期間が終了すると、アイテムは完全に削除されます。

ユーザーがアーカイブ済みアイテムを削除するとアイテムはインデックスから削除されるため、アーカイブを参照したり検索しても見つけることはできません。ただし、メールボックスショートカットなどのアイテムへの直接のリンクは引き続き機能します。削除されたアイテムは、アーカイブクォータの使用率の計算に含まれません。

ユーザーは、削除されたアイテムのコピーをショートカットを使って取り込むことができます。ユーザーが取り込んだアイテムを修正せずに再度アーカイブした場合は、アイテムは削除された状態のままなので検索できません。

回復できるのは、ユーザーによって削除されたアイテムのみです。保持期間の期限が切れているために **Enterprise Vault** が削除したか、データ保護の法律に従ってサードパーティアプリケーションで削除されたアイテムをリカバリすることはできません。すでにユーザーによって削除されているアイテムが、ストレージの有効期限によって削除された場合も、そのアイテムを回復できません。

### アーカイブから削除されたアイテムを回復する方法

- 1 管理コンソールで、[アーカイブ]コンテナが表示されるまでツリーを展開します。
- 2 [アーカイブ] コンテナを展開し、削除されたアイテムを含むアーカイブが存在するコンテナをクリックします。
- 3 削除されたアイテムを含むアーカイブを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 4 [削除済みアイテム]タブをクリックします。このタブに、回復可能なアイテム数が表示されます。
- 5 [アイテムを回復]をクリックします。これによって、アーカイブ内の回復可能なすべてのアイテムが回復されます。特定のアイテムを選択することはできません。

## 有効期限と削除について

Enterprise Vault は次のことを自動的に行うことができます。

ストレージの有効期限    アイテムの保持期間の期限が切れたら、アーカイブからアイテムを削除します。

ショートカットの削除    ユーザーの **Exchange** メールボックスフォルダと **Exchange** パブリックフォルダからショートカットを削除します。一定の期間を経たショートカットを削除するか、アーカイブから削除されたアイテムへのショートカットを削除するように **Enterprise Vault** を設定できます。

## ストレージの有効期限の設定

ストレージの有効期限を設定すると、**Enterprise Vault** ストレージサービスは、アイテムの保持期間が切れた場合に、アーカイブから自動的にアイテムを削除します。次回、**Exchange** または **Domino** メールボックスタスクを実行する場合、[孤立したショートカットを削除]オプションがポリシーで選択されていれば、自動的にメールボックスから関連ショートカットが削除されます。同じように、**Exchange** パブリックフォルダタスクは、パブリックフォルダ内の期限が切れたアイテムに関連付けられたショートカットを削除します。

カレンダーアイテム、タスクアイテム、ミーティングアイテムなどの特定のアイテムがアーカイブされるときに、メールボックス内の元のアイテムはショートカットに置き換えられません。デフォルトでは、アーカイブタスクはショートカットの削除を実行するときに、元のアイテムを削除しません。このようなアイテムをショートカットの削除に含めるには、DeleteNonShortcutItems レジストリを設定します。この設定について詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

**Exchange Server** アーカイブのストレージ有効期限がアーカイブされた日付に基づき、期限が切れていないカレンダーアイテム、ミーティングアイテム、タスクアイテム (終了日が将来に設定されているアイテム) をアーカイブするように **Enterprise Vault** を設定している場合には、**Exchange** メールボックスポリシーの詳細設定[将来のアイテムの保持カテゴリ]を使うことを推奨します。これによって、アーカイブされたカレンダーアイテム、ミーティングアイテム、タスクアイテムが終了日前にストレージの有効期限によって削除されることがなくなります。

p.184 の「[将来のアイテムの保持カテゴリ \(Exchange アーカイブの\[全般\] 設定\)](#)」を参照してください。

### ストレージの有効期限を設定する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、適切なボルトサイトが表示されるまで階層を展開します。
- 2 ボルトサイトを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。

- 3 [サイトプロパティ]ダイアログボックスで、[ストレージの有効期限]タブをクリックします。
- 4 使用する設定を選択し、[OK]をクリックします。
- 5 **Exchange** または **Domino** メールボックスポリシーまたは **Exchange** パブリックフォルダポリシーでも、ショートカット削除を設定する必要があります。**Exchange** または **Domino** メールボックスタスクおよび **Exchange** パブリックフォルダタスクは、次回実行時に期限の切れたアイテムのショートカットを自動的に削除します。

## ショートカットの削除の設定

ショートカットの削除は、**Exchange** メールボックスタスクおよび **Exchange** パブリックフォルダタスクで行われます。これらのタスクによって、期限が切れたアイテムのショートカットが自動的に削除されます。**Exchange** メールボックスポリシーおよび **Exchange** パブリックフォルダポリシーの[ショートカットの削除]タブで、次の追加のショートカット削除オプションを利用できます。

- [フォルダ内のショートカットを削除]。**Enterprise Vault** はショートカットの経過時間を判断するために更新日かアーカイブされた日付を使います。[サイトプロパティ]の[ストレージの有効期限]タブでどの日付を使うかを指定できます。
- 孤立したショートカットを削除。孤立したショートカットとは、以前にアーカイブから削除されたアイテムのショートカットのことです。

カレンダーアイテム、タスクアイテム、ミーティングアイテムなどの特定のアイテムがアーカイブされた場合、元のアイテムはショートカットに置き換えられません。デフォルトでは、アーカイブタスクはショートカットの削除を実行するときに、元のアイテムを削除しません。このようなアイテムをショートカットの削除に含めるには、DeleteNonShortcutItems レジストリを設定します。この設定について詳しくは、『レジストリ値』ガイドを参照してください。

期限が切れていないカレンダーアイテム、ミーティングアイテム、タスクアイテムをアーカイブするように **Enterprise Vault** を設定した場合は、終了日が将来に設定されているアイテムはユーザーのメールボックスから削除されません。

### ショートカットの削除オプションを設定する方法

- 1 管理コンソールで、適切な **Exchange** メールボックスポリシーまたはパブリックフォルダポリシーが表示されるまで階層を展開します。
- 2 ポリシーを右クリックします。ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 3 ポリシーのダイアログボックスで、[ショートカットの削除]タブをクリックします。
- 4 必要なオプションを選択して、[OK]をクリックします。

## 保持カテゴリと保持期間の処理

Enterprise Vault では、アイテムをアーカイブするときに、保持カテゴリを自動的に割り当ててアイテムの保持期間を指定します。さまざまな種類のデータにさまざまな保持カテゴリを定義できます。Enterprise Vault では、アーカイブを監視しているため、保持期間が切れたときにアイテムを削除できます。

保持計画で保持カテゴリの機能を拡張します。保持カテゴリを指定して 1 つ以上のアーカイブ内のアイテムに割り当てるのと同様に、保持計画では、たとえば、Enterprise Vault の分類機能を使用してアイテム进行分类するかどうか、保持計画で設定した保持カテゴリによって Enterprise Vault で以前にアイテムに割り当てられた保持カテゴリが上書きされるかどうかなどの追加オプションを選択できます。

また、保持計画を使用して、それぞれ独自の有効期限設定を持つ 1 つ以上の保持フォルダをユーザーのアーカイブに作成することもできます。ユーザーは仮想ボルトや Enterprise Vault Search などの機能を使用して、これらの保持フォルダにアクセスしたり、これらの保持フォルダとの間でアイテムを移動したりできます。

## 保持カテゴリの作成

アイテムがアーカイブされるときに保持カテゴリを割り当てることによって、格納されているアイテム进行分类できます。このカテゴリ分類によって、カテゴリ別に検索できるため、アイテムの取り込みが簡単になります。保持カテゴリは、アイテムを保持する最小の期間も決定します。

ユーザーは一覧から保持カテゴリを選択し、メールボックス内のアイテムに割り当てることができます。Enterprise Vault がアイテムをアーカイブすると、適切な保持カテゴリで格納されます。

後で保持カテゴリを修正すると、変更は過去にさかのぼって適用されます。たとえば、保持期間が 5 年の「Customer Accounts」という保持カテゴリがあり、その保持期間を 10 年に変更した場合、「Customer Accounts」保持カテゴリによってすでにアーカイブされているアイテムは、最低 10 年保持されます。

保持カテゴリは必要な数だけ作成できます。独自のニーズに合わせて標準の保持カテゴリを修正することもできます。

保持カテゴリには、次のことを可能にする設定も含まれます。

- 期限切れのアイテムの自動削除を禁止。
- ユーザーによるアイテムの削除を禁止。
- 保持カテゴリをユーザーに非表示。
- 保持カテゴリをロック。

これらのいずれかの設定を変更した場合は、**Vault Administration Console** で保持カテゴリのプロパティを開いてください。この設定は、新規保持カテゴリウィザードにはありません。

次の点に注意してください。

- **WORM** ストレージデバイスにアイテムを無期限に格納する場合は、デバイスの保持設定が正しく行われていることを確認します。詳しくは、『インストール/設定』ガイドの「**Enterprise Vault** ハードウェア必要条件」を参照してください。
- 保持フォルダや分類機能など、**Enterprise Vault** の特定の機能は、アーカイブ済みアイテムの保持カテゴリを更新し、カテゴリがユーザーによって変更されないようにすることができます。

### 保持カテゴリを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでボルトサイト階層を展開します。
- 2 [ポリシー]、[保存と分類]の順に展開します。
- 3 [カテゴリ]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規]、[保持カテゴリ]の順に選択します。

新規保持カテゴリウィザードが起動します。

- 4 ウィザードに従って操作します。

## 保持計画について

保持計画では、他の多数の設定に保持カテゴリを関連付けて、それらのすべてを1つ以上のアーカイブに適用できます。保持計画で適用できる追加設定には次の内容が含まれます。

- 分類ポリシー
- 1つ以上の保持フォルダ
- 期限切れアイテムの破棄条件

保持計画をアーカイブに適用すると、アーカイブ内のアイテムの保持期間をより高度に制御できます。特に、保持計画では**Enterprise Vault** でアイテムをアーカイブするときに自動的に指定されたのとは異なる保持期間を指定することによって、アーカイブ済みアイテムを破棄できます。たとえば、**Enterprise Vault** で最初に割り当てられた保持カテゴリではなく、保持計画に関連付けられた保持カテゴリに従って、影響を受けるアイテムが**Enterprise Vault** によって期限切れになるように保持計画を構成できます。

### 分類ポリシーについて

保持計画で分類ポリシーを設定することを選択する場合、保持計画を割り当てるアーカイブに対して、分類ポリシーで次について決めます。

- Enterprise Vault がインデックスを付けてアーカイブすると同時にアイテムを分類するかどうか。Enterprise Vault によって分類タグが適用されると、Compliance Accelerator や Discovery Accelerator などのアプリケーションのユーザーは分類タグを使って、検索やレビューを実行するときにアイテムをフィルタ処理できます。
- ユーザーが手動でアイテムを削除する、または Enterprise Vault が自動的にそれらを期限切れにするときに、アイテムを分類するかどうか。

分類機能について詳しくは、『分類』ガイドを参照してください。

## 保持フォルダについて

---

**メモ:** ここに記載されている保持フォルダは、Enterprise Vault マニュアルの他の場所に記載されている Domino とファイルシステムアーカイブの保持フォルダとは異なります。Domino とファイルシステムアーカイブの保持フォルダは、Enterprise Vault がアイテムをアーカイブするアーカイブ元に作成しますが、ここに記載されている保持フォルダはアーカイブ自体の中に作成します。

このリリースでは、Exchange アーカイブとインターネットメールアーカイブ内にのみ、この2番目の種類の保持フォルダを作成できます。

---

保持フォルダ機能を使用すると、ユーザーのアーカイブ内のアーカイブ済みアイテムの保持と有効期限をフォルダレベルで管理できます。この機能を使用すると、これらのアーカイブに単一の保持フォルダまたはフォルダの階層を作成できます。各保持フォルダに設定された属性によって、Enterprise Vault がこのフォルダ内のアイテムに適用する保持および有効期限設定が決まります。たとえば、保持期間が1年の保持カテゴリをアイテムに適用するフォルダを作成して、Enterprise Vault がこれらのアイテムに以前に適用した保持カテゴリを上書きできます。さらに、保持フォルダのサブフォルダが保持フォルダの保持および有効期限設定を継承するのか、それとも独自の設定を持つのかを選択できます。

保持フォルダに対して定義する保持および有効期限設定は、関連する保持計画やサイトレベルなど、別の場所の Enterprise Vault で定義する設定を上書きします。

ユーザーは仮想ボルト、Enterprise Vault 検索、IMAP などの機能を使って、保持フォルダにアクセスしたり、保持フォルダとの間でアイテムを移動したりできます。

## 保持計画の作成

保持計画に割り当てる保持カテゴリや分類ポリシーを定義した後にのみ、保持計画を作成することを推奨します。

保持計画を作成して1つ以上のアーカイブを適用した後に、保持計画を修正することができます。また、それらのアーカイブと計画の関連付けを解除したり、別の計画を割り当てたりすることもできます。



## 保持計画の作成方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでツリー表示を展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [計画]を右クリックして、[新規]をポイントして[保持計画]をクリックします。  
[新しい保持計画]ウィザードが表示されます。
- 4 ウィザードのページの手順に従って次のように入力します。
  - 新しい保持計画の名前。名前は一意である必要があり、最大 **40** 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。
  - 計画の説明。説明は、最大 **127** 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
  - 保持計画と関連付ける保持カテゴリ。適当な保持カテゴリが存在しない場合は、ウィザードで作成するためのオプションが表示されます。
  - 必要に応じて、Enterprise Vault で保持計画で処理するアイテムを分類する分類機能を使用できるようにするかどうかを指定します。アイテムを分類することを選択する場合、必要な分類ポリシーを選択する必要もあります。
  - 必要に応じて、計画が適用されるアーカイブに保持フォルダを作成するかどうかを指定します。
  - 影響を受けるアイテムに割り当てる有効期限設定。

## Enterprise Vault アーカイブへの保持計画の適用

保持計画を作成した後、1 つ以上のアーカイブを適用できます。保持計画を次の機能のいずれかに関連付けることができるように、管理コンソールにはこれを行うための多数の方法が用意されています。

- Exchange、Domino、IMAP、または SMTP プロビジョニンググループ
- Exchange ジャーナルアーカイブ、Domino ジャーナルアーカイブ、または SMTP アーカイブ
- FSA ボリュームまたはフォルダポリシー
- パブリックフォルダの対象
- SharePoint 対象またはサイトコレクション
- メールボックスの有効化ウィザードを実行することによってアーカイブを手動で有効にするメールボックス。

これらの各機能のドキュメントで、保持計画を関連付ける方法が説明されています。  
**PowerShell cmdlet** の `Set-EVArchive` で、選択したアーカイブに保持計画を適用することもできます。詳しくは『**PowerShell cmdlet**』ガイドを参照してください。

---

**注意:** 同じユーザーが 2 つの異なるプロビジョニンググループ (IMAP プロビジョニンググループと SMTP メールボックスジャーナルプロビジョニンググループなど) のターゲットである場合は、関連付けられた保持計画がユーザーのアーカイブに同じ保持設定を適用するようにします。そうしないと、ある計画の保持設定が、アーカイブに適用するときに別の保持設定を上書きしてしまいます。

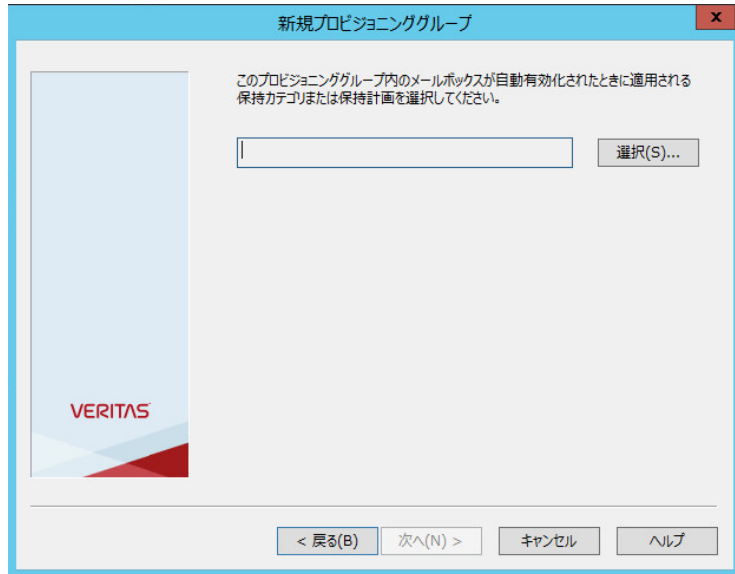
---

保持計画を目的の機能に関連付けた後、対象のアーカイブへの変更を適用するための適切なプロビジョニングタスクまたはアーカイブタスクを実行する必要があります。たとえば、IMAP プロビジョニンググループの場合はクライアントアクセスプロビジョニングタスク、SharePoint サイトコレクションの場合は **SharePoint** アーカイブタスクを実行する必要があります。

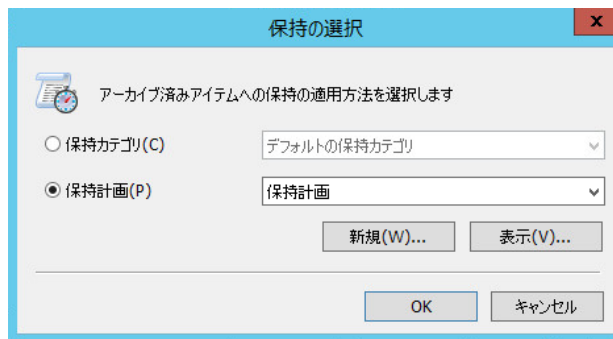
例として、次の手順で新しい **Exchange** プロビジョニンググループの設定時に保持計画を選択する方法が説明されています。

#### 保持計画を **Exchange** プロビジョニンググループに関連付けるには

- 1 管理コンソールの左側のペインで、階層を展開して[対象]コンテナを表示します。
- 2 **Exchange** ドメインを展開します。
- 3 [プロビジョニンググループ]コンテナを右クリックして、[新規]をポイントして[プロビジョニンググループ]をクリックします。  
新規プロビジョニンググループウィザードが表示されます。
- 4 必要な保持カテゴリまたは保持計画を指定するように求めるメッセージが表示されるまで、ウィザードを実行します。



- 5 [選択]をクリックして、[保持の選択]ダイアログボックスを開きます。



- 6 必要な保持計画を選択するか、[新規]をクリックして新しい保持計画を作成します。
- 7 ウィザードの残りのページを実行します。
- 8 **Exchange** プロビジョニングタスクを実行し、保持計画を対象アーカイブに適用します。
- 9 メールボックスを同期します。これを行うには、**Exchange** メールボックスアーカイブタスクのプロパティダイアログボックスを開き、[同期]タブの[同期]をクリックします。

## 保持計画と連携して機能する PowerShell cmdlet について

Enterprise Vault には保持計画の作成や修正に使える PowerShell cmdlet が複数あります。これらの cmdlet は管理コンソールの同等の機能と同じ機能を実行します。

表 3-4 保持計画の作成や修正のための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVRetentionPlan	Enterprise Vault サイトで構成したすべての保持計画の一覧を返します。計画に関連付けた分類ポリシーを含む、さまざまなプロパティによって一覧をフィルタ処理できます。  特定の保持計画とこの計画で定義した保持フォルダ情報のプロパティを返すこともできます。
New-EVRetentionPlan	保持計画を作成します。
Remove-EVRetentionPlan	指定した保持計画が使用中でない場合は、削除します。
Set-EVRetentionPlan	関連付けられた保持カテゴリや、分類ポリシー、保持フォルダなど、既存の保持計画のプロパティを設定または更新します。

これらの cmdlet について詳しくは、『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

## 保持計画がストレージの有効期限切れに与える影響

保持計画をアーカイブに適用すると、Enterprise Vault がアーカイブ内のアイテムを削除する方法を変更できます。具体的には、次の設定オプションによってストレージの有効期限切れの動作が決定されます。

- 保持計画のプロパティにある[有効期限]タブの[アイテムの有効期限が切れたら、次のアイテムを使用してください。]オプション。これを[この保持計画で設定された保持カテゴリ] (PowerShell cmdlet の New-EVRetentionPlan と Set-EVRetentionPlan では OverrideRetention に短縮されています) に設定すると、保持計画で設定した保持カテゴリにより、Enterprise Vault が取り込み時に各アイテムに対してスタンプするアイテムレベルの保持カテゴリが上書きされます。
- 関連付けられた分類ポリシーのプロパティにある[アイテムの保持カテゴリを設定] (PowerShell cmdlet の New-EVClassificationPolicy と Set-EVClassificationPolicy では DetermineRC に短縮されています)。このオプションを選択すると、Enterprise Vault が各アイテムにスタンプするアイテムレベルの保持カテゴリによって、関連する保持計画の設定に関係なく、他のすべてのカテゴリが上書きされます。

表 3-5 が示すように、上記の 2 つの設定オプションはストレージの有効期限切れの動作を決定する上で重要な役割を担います。

表 3-5                      保持計画の適用時のストレージの有効期限切れの動作

保持計画を適用するかどうか	Override Retention を実行するかどうか	分類が有効かどうか	DetermineRC を実行するかどうか	アイテムの期限切れを行う基準
いいえ	適用なし	適用なし	適用なし	アイテムレベルの保持カテゴリ
はい	いいえ	いいえ	適用なし	アイテムレベルの保持カテゴリ
はい	いいえ	はい	はい	アイテムレベルの保持カテゴリ
はい	いいえ	はい	いいえ	アイテムレベルの保持カテゴリ
はい	はい	いいえ	適用なし	計画レベルの保持カテゴリ
はい	はい	はい	いいえ	計画レベルの保持カテゴリ

## 保持フォルダの設定

- Enterprise Vault では保持フォルダを設定する方法がいくつか提供されています。
- 管理コンソールで[新しい保持計画]ウィザードを実行すると、保持フォルダを設定できます。そして、保持計画を作成したら、新しい保持フォルダをこれに追加したり、保持計画のプロパティを編集して既存の保持フォルダを修正したりできます。
  - 保持フォルダの属性を XML ファイルで定義した後、PowerShell cmdlet を使用して、このファイルを 1 つ以上の保持計画に関連付けられます。

### 複数の言語での保持フォルダ代替名の指定

複数の国にまたがる組織では、保持フォルダにアクセスするユーザーに合わせて、保持フォルダの名前をローカライズすることが求められます。たとえば、組織内に英語を使用するユーザーとフランス語を使用するユーザーがいるとします。このような場合は、保持フォルダの属性を定義する際に、英語ユーザー向けのフォルダ名と、フランス語ユーザー向けの代替フォルダ名を指定できます。

この機能では、Enterprise Vault の以前のバージョンの制限が解決されています。以前は、複数の言語で保持フォルダ名を指定するには、言語固有の保持計画を複数作成す

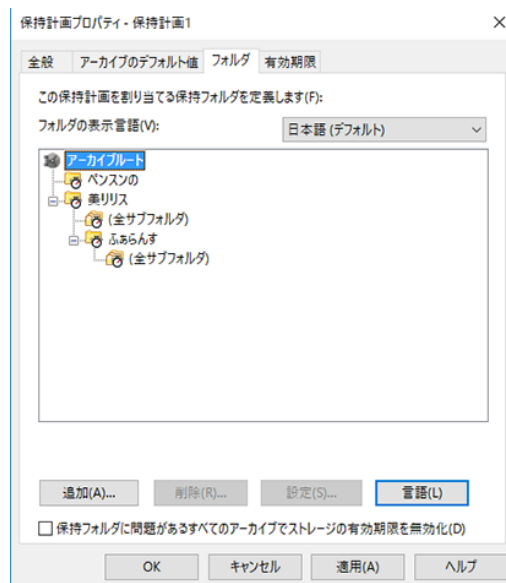
る必要がありました。Enterprise Vault 12.3 以降ではその必要がなくなり、複数言語での保持フォルダの代替名を備えた 1 つの保持計画を作成できるようになりました。

各ユーザーの任意の言語を判断するために、Enterprise Vault は、(Exchange アーカイブの場合) Exchange メールボックスの地域の設定、または (インターネットメールアーカイブの場合) Enterprise Vault 検索で選択した言語のいずれかをチェックします。使用する言語が Enterprise Vault でサポートされていない場合、または Enterprise Vault で言語がサポートされているがその言語で代替フォルダ名を指定していない場合、Enterprise Vault のデフォルト言語のフォルダ名が使用されます。

管理コンソールを使用して保持フォルダを設定するときに、または XML ファイルにそれらの属性を定義するときに、保持フォルダの代替名を指定できます。

## 管理コンソールを使用した保持フォルダの設定

必要な保持フォルダは、新しい保持計画の作成または既存の保持計画のプロパティを変更する処理の一部として定義できます。たとえば、既存の計画のプロパティを開いて[フォルダ]タブをクリックすると、これと関連付けられている保持フォルダを追加、削除、修正できます。



新しい保持フォルダを追加するには、次の項目を指定する必要があります。

- ユーザーのアーカイブに表示されることになる保持フォルダの名前。  
オプションで、別の言語を使用するユーザーに合わせて、フォルダ名に複数の変形を指定できます。

- 保持フォルダのサブフォルダが親から保持設定を継承するか、独自に設定するか。
- その保持フォルダと関連付ける保持カテゴリ。
- 保持フォルダに関連付けた保持カテゴリによって影響されるフォルダ内のアイテムの個々の保持カテゴリを上書きするかどうか。

管理コンソールのオンラインヘルプで、これを使用して保持フォルダを設定する方法に関する幅広い情報を確認できます。

## 保持フォルダの属性を定義する XML ファイルの作成

Enterprise Vault にはサンプルの XML ファイル `RetentionFoldersSample.xml` が用意されています。必要に応じて、このファイルをコピーしたり修正したりできます。このファイルは、Enterprise Vault インストールフォルダ (例: `C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Modules\EnterpriseVault`) の `Modules\EnterpriseVault` サブフォルダにあります。

次に、保持フォルダの属性を定義する一般的な XML ファイルの例を示します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<RetentionFolderRoot>
  <RetentionFolder Name="Inbox" RetentionCategory="1-year" Expiry="Item"
    Inheritance="ThisFolderOnly">
    <RetentionFolder Name="Legal" RetentionCategory="5-year" Expiry="Item"
      Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders" />
    <RetentionFolder Name="Finance" RetentionCategory="2-year" Expiry="Folder"
      Inheritance="ThisFolderOnly" />
  </RetentionFolder>
  <RetentionFolder Name="Inbox" RetentionCategory="1-year" Expiry="Item"
    Inheritance="AllSubfolders"/>
  <RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="2-year" Expiry="Item"
    Inheritance="ThisFolderOnly" >
    <RetentionFolder Name="2018" RetentionCategory="5-year" Expiry="Item"
      Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders" />
    <RetentionFolder Name="2020" RetentionCategory="2-year" Expiry="Folder"
      Inheritance="AllSubfolders" />
    <RetentionFolder Name="2020" RetentionCategory="1-year" Expiry="Folder"
      Inheritance="ThisFolderOnly" />
  </RetentionFolder>
</RetentionFolderRoot>
```

このファイルは `Inbox` と `Business` という 2 つの最上位レベル保持フォルダを定義します。それぞれの保持フォルダには 2 つのサブフォルダ (`Legal` と `Finance`、および `2018` と `2020`) が含まれています。独自の XML ファイル内で、保持フォルダを必要なだけ指定できます。

表 3-6 に、作成する保持フォルダごとに設定する必要がある属性と必須の値を示します。すべての属性は必須です。

表 3-6 保持フォルダの属性

属性	指定内容
Name	<p>保持フォルダの名前。この名前には最大 255 文字を含めることができますが、¥ の文字を含めることはできません。</p> <p>ターゲットアーカイブ内に名前を指定したフォルダがすでに存在する場合、Enterprise Vault は XML ファイル内で定義されている内容に合わせて保持設定を更新します。それ以外の場合、Enterprise Vault はアーカイブ内にフォルダを作成します。</p> <p>別の言語を使用するユーザーに合わせて、フォルダ名に複数の変化形を指定できます。</p> <p>p.89 の「XML ファイルでのローカライズ済みフォルダ名の指定」を参照してください。</p>
RetentionCategory	<p>保持フォルダに関連付ける既存の保持カテゴリの名前。</p> <p>Enterprise Vault がフォルダの内容にこの保持カテゴリをどの程度適用するかは、Expiry 属性と Inheritance 属性の設定方法に応じて決まります。</p>
Expiry	<p>保持フォルダに関連付けられた保持カテゴリによってフォルダ内のアイテムの個々の保持カテゴリを上書きするかどうか。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ Item。Enterprise Vault では、保持フォルダに関連付けられた保持カテゴリではなく、個々の保持カテゴリに従って各アイテムが自動的に期限切れになります。</li><li>■ Folder。Enterprise Vault では、保持フォルダに関連付けられた保持カテゴリに従って、各アイテムが自動的に期限切れになります。この保持カテゴリは、アイテムの個々の保持カテゴリを上書きします。</li></ul> <p><b>メモ:</b> 分類機能で個々のアイテムの保持カテゴリを更新できるようにする分類ポリシーに保持計画に関連付けている場合、Folder オプションは選択できません。この場合、分類機能で他のすべての保持カテゴリ割り当てメソッドが上書きされます。</p> <p>分類機能について詳しくは、『分類』ガイドを参照してください。</p> <p>Item と Folder の値では大文字と小文字が区別されます。たとえば、Item を item または ITEM と指定することはできません。</p>



属性	指定内容
Inheritance	<p>このフォルダに定義された保持設定の範囲。オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ ThisFolderOnly。この設定は保持フォルダ内のアイテムに適用されますが、サブフォルダ内のアイテムには適用されません。</li><li>■ ThisFolderAndAllSubfolders。この設定は保持フォルダとそのすべてのサブフォルダ内のアイテムに適用されます。</li><li>■ AllSubfolders。この設定は保持フォルダのサブフォルダ内のアイテムに適用されますが、保持フォルダ自体のアイテムには適用されません。</li></ul> <p>AllSubfolders オプションを有効にするには、XML ファイル内で保持フォルダを 2 回定義する必要があります (最初は ThisFolderOnly オプションを使用し、次に AllSubfolders オプションを使用する)。次に例を示します。</p> <pre>&lt;RetentionFolder Name="Inbox" RetentionCategory="1-year"   Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly"&gt;   &lt;RetentionFolder Name="Business" RetentionCategory="5-years"     Expiry="Item" Inheritance="ThisFolderOnly"/&gt; &lt;/RetentionFolder&gt; &lt;RetentionFolder Name="Inbox" RetentionCategory="1-year"   Expiry="Item" Inheritance="AllSubfolders"&gt;</pre> <p>これにより、フォルダがユーザーのアーカイブ内に保持フォルダとして永続するようになって、名前変更や削除を実行できなくなります。</p> <p>この保持フォルダのサブフォルダの属性を定義するときには、ノード (つまり、ThisFolderOnly の継承設定を指定するノード) のペア内の最初の &lt;RetentionFolder&gt; ノード内にのみ定義する必要があります。したがって、前述の例では、最初の &lt;RetentionFolder&gt; ノード内の「Business」サブフォルダの属性が定義されますが、AllSubfolders の継承設定をもつノード内ではこれは行われません。</p> <p>3 つの値ではすべて大文字と小文字が区別されます。たとえば、ThisFolderOnly を thisfolderonly のように指定することはできません。</p>

## XML ファイルでのローカライズ済みフォルダ名の指定

次の例では、複数の言語で保持フォルダの名前を指定する方法を示します。この XML ファイルは、英語名の Money と Legal、およびそれらに対応するフランス語名の Argent と Légal を含む 2 つの保持フォルダの属性を定義します。

```
<RetentionFolderRoot>
  <Languages>
    <Language>en-GB</Language>
    <Language>fr-FR</Language>
  </Languages>

  <RetentionFolder Name="Money" RetentionCategory="5 years"
    Expiry="Folder" Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders">
```

```
<Name Lang="en-GB">Money</Name>
<Name Lang="fr-FR">Argent</Name>
</RetentionFolder>

<RetentionFolder Name="Legal" RetentionCategory="2 years"
  Expiry="Folder" Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders">
  <Name Lang="fr-FR">Légal</Name>
</RetentionFolder>
</RetentionFolderRoot>
```

ファイルの先頭の <Languages> ノードは、フォルダ名に使用する言語として、英国英語 (en-GB) とフランス語 (fr-FR) を指定します。表 3-7 に、フォルダ名に使用できる言語を一覧表示します。

表 3-7 保持フォルダ名でサポート対象となる言語

言語	コード	言語	コード
中国語 (簡体字、中華人民共和国)	zh-CN	フランス語	fr-FR
中国語 (繁体字、台湾)	zh-TW	ドイツ語	de-DE
デンマーク語	da-DK	ヘブライ語	he-IL
オランダ語	nl-NL	ハンガリー語	hu-HU
英語	en-US	イタリア語	it-IT
英語 (オーストラリア)	en-AU	日本語	ja-JP
英語 (アイルランド)	en-IE	韓国語	ko-KR
英語 (マレーシア)	en-MY	ポーランド語	pl-PL
英語 (ニュージーランド)	en-NZ	ポルトガル語	pt-BR
英語 (シンガポール)	en-SG	ロシア語	ru-RU
英語 (南アフリカ)	en-ZA	スペイン語	es-ES
英語 (英国)	en-GB	スウェーデン語	sv-SE

言語コードでは、大文字と小文字が区別されません。たとえば、en-GB を、EN-GB または en-gb と入力できます。

必要な言語を <Languages> ノードで指定したら、個々のフォルダの代替名を各 <RetentionFolder> ノード内に入力することができます。たとえば、前述の XML ファイルでは、Money フォルダの代替名を次のように設定します。

```
<RetentionFolder Name="Money" RetentionCategory="5 years"
  Expiry="Folder" Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders">
  <Name Lang="en-GB">Money</Name>
  <Name Lang="fr-FR">Argent</Name>
</RetentionFolder>
```

次の点に注意してください。

- 各フォルダ名には、**255** 文字まで入力できます。
- 代替名を指定しないすべての言語で、デフォルトのフォルダ名が使用されます。前述の **XML** ファイルの例から抜き出した次の部分で、デフォルトのフォルダ名は **Legal** ですが、フランス語のユーザー用にのみフォルダ名が **Légal** になります。

```
<RetentionFolder Name="Legal" RetentionCategory="2 years"
  Expiry="Folder" Inheritance="ThisFolderAndAllSubfolders">
  <Name Lang="fr-FR">Légal</Name>
</RetentionFolder>
```

- フォルダの代替名を指定できるのは、**<Languages>** ノードで指定した言語のみです。そのため、前述の **XML** ファイルの例では、**<Languages>** ノードに **<Language>de-DE</Language>** エントリが含まれていないため、**<Name Lang="de-DE">...</Name>** ノードを追加することは正しくありません。
- **AllSubfolders** の継承設定があるために保持フォルダを **2** 回に定義する必要がある場合は、ノード (つまり、**ThisFolderOnly** の継承設定を指定するノード) のペア内の最初の **<RetentionFolder>** ノード内に、その代替名だけを入力します。次に例を示します。

```
<RetentionFolder Name="Money" RetentionCategory="5 years"
  Expiry="Folder" Inheritance="ThisFolderOnly">
  <Name Lang="en-GB">Money</Name>
  <Name Lang="fr-FR">Argent</Name>
</RetentionFolder>
<!-- The node below does not specify alternative folder names -->
<RetentionFolder Name="Money" RetentionCategory="5 years"
  Expiry="Folder" Inheritance="AllSubfolders"/>
```

## XML ファイルにある保持フォルダ情報の保持計画へのインポート

XML ファイルで保持フォルダの情報を定義した後は、それを 1 つ以上の保持計画にインポートできます。**Enterprise Vault** には、保持計画と関連する保持フォルダを設定する際に使用できる複数の **PowerShell cmdlet** が用意されています。[表 3-8](#) にこれらの **cmdlet** の説明を示します。

表 3-8 保持計画と保持フォルダを設定するための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVRetentionPlan	既存の保持計画と関連付けられた保持フォルダのプロパティを返します。
New-EVRetentionPlan	保持計画を作成して、XML ファイル内で定義した保持フォルダの情報にインポートします。
Set-EVRetentionPlan	既存の保持計画に関連付けられている保持フォルダの情報を更新します。

たとえば、次のコマンドは、1 つ以上の保持フォルダの属性が定義されている XML ファイル `folders.xml` が内部で指定されている保持計画を作成します。XML ファイル内でこれらのフォルダに対して定義されている保持設定は、保持計画に関連付けられている「5 年間」の保持カテゴリを上書きします。

```
New-EVRetentionPlan -Name "Projects Retention Plan" -Description  
"Plan for adding retention folders" -RetentionCategory "5 years"  
-FolderXmlPath "c:¥My XML Files¥folders.xml"
```

詳しくは、『PowerShell Cmdlets』ガイドを参照してください。

## 別の言語の名前を持つ保持フォルダを伝達する前の注意事項

次のガイドラインを確認することで、別の言語の名前を持つ保持フォルダを設定する保持計画を適用するときに発生する問題のリスクを最小限に抑えることができます。

### Exchange メールボックスのアーカイブ

- たとえば、Money という英語名の保持フォルダをユーザーのアーカイブに設定済みであるとします。このフォルダは、ユーザーのメールボックス内にある同じ名前フォルダにリンクされています。ここで、フランス語のユーザー用に、保持フォルダの名前を Argent に変更するとします。これを実行する前に、これらのユーザーにメールボックス内の Money フォルダの名前を Argent に変更するように依頼します。  
ユーザーが自分のメールボックス内のフォルダ名を変更する前に、これらのユーザーのアーカイブにある保持フォルダ名を変更すると、問題が発生する可能性があります。ユーザーが事前にメールボックスのフォルダ名を変更していれば問題は起きません。最良の方法は、ユーザーがメールボックスのフォルダ名を変更するまでは、アーカイブとメールボックスの同期を一時的に無効にし、その後アーカイブにフォルダの変更を伝達することです。Vault 管理コンソールを使用して、Exchange メールボックスタスクのプロパティを編集することでアーカイブとメールボックスの同期を無効にできます。

- 同様に、ユーザーが **OWA** から自分のメールボックスのプロファイル言語を変更する場合は、アーカイブ内の保持フォルダの名前を変更する前に、保持フォルダにリンクされているメールボックスのフォルダ名を変更する必要があります。
- ユーザーのアーカイブ内の保持フォルダに、フォルダ名をローカライズするなどの変更を適用するには、ユーザーのメールボックスを再同期化する必要があります。または、**PowerShell** コマンドレットを使用して、**Set-EVArchive** フォルダに変更を加えることができます。

---

**メモ:** ユーザーのメールボックスを再同期化する前に、アーカイブフォルダとメールボックスフォルダを同期するオプションをオフにします。**Vault** 管理コンソールの **[Exchange メールボックスアーカイブタスク]** のプロパティで、**[同期]** タブの **[フォルダの階層と権限]** をオフにします。

---

## インターネットメールアーカイブ

- 別の言語の名前を持つ保持フォルダを伝達する前に、**Enterprise Vault** 検索で適切な言語設定を選択していることを確認するようユーザーに促します。**Enterprise Vault** は、各ユーザーが使用する言語を特定するためにこの設定を確認します。  
**Enterprise Vault** 検索の言語設定は、**[環境設定]** ダイアログボックスの **[地域]** タブにあります。
- ユーザーのアーカイブ内の保持フォルダに、フォルダ名をローカライズするなどの変更を適用するには、適切なプロビジョニングタスクを実行する必要があります。インターネットメールプロビジョニンググループに属するユーザーの場合は、クライアントアクセスプロビジョニングタスクを実行します。**SMTP** メールボックスジャーナルプロビジョニンググループに属するユーザーの場合は、**SMTP** プロビジョニングタスクを実行します。  
 または、**PowerShell** コマンドレットを使用して、**Set-EVArchive** フォルダに変更を加えることができます。ただし、注意が必要なのは、適切なプロビジョニングタスクが次に実行されたときに、このタスクがコマンドレットを使用してそれ以前に加えた変更を上書きする点です。
- 同じユーザーが **IMAP** プロビジョニンググループと **SMTP** メールボックスジャーナルプロビジョニンググループの両方のターゲットである場合は、関連付けられた保持計画が、同じ保持設定をユーザーのアーカイブに適用するようにします。そうしないと、ある計画の保持設定が、アーカイブに適用するときに別の保持設定を上書きしてしまいます。

## プロビジョニンググループの保守について

**Exchange** と **Domino** のプロビジョニングタスクは、対象の一覧に新しいメールボックスが含まれる場合に自動的にそのメールボックスをプロビジョニングします。プロビジョニン

グタスクを実行したときに、対象の一覧に含まれないメールボックスに対する警告は表示されません。

メールボックスを自動的に有効にするように選択している場合は、表示される最初のプロビジョニンググループに従ってメールボックスをプロビジョニングします。したがって、プロビジョニングタスクを実行する前にメールボックスを正しいグループに入れることが重要です。

---

**メモ:** 継承されたボルトストアやインデックスサービスを使うように選択し、プロビジョニンググループに複数のサーバーのメールボックスが含まれる場合は、このプロビジョニンググループに従って有効にするメールボックスに、異なるボルトストアやインデックスサービスを使うことがあります。選択した設定オプションによっては、ボルトストアやインデックスサービスが定義されていないために特定のサーバーのメールボックスを有効にできないこともあります。

---

## 新しいメールボックスのアーカイブの有効化

次の方法で、新しい Microsoft Exchange Server メールボックスのアーカイブを有効にできます。

- **Enterprise Vault** で、新しい Microsoft Exchange Server メールボックスのアーカイブを自動で有効にできます。  
この場合、**Enterprise Vault** によって、デフォルトのボルトストア内にメールボックスのアーカイブが自動的に作成されます。
- 特定の Microsoft Exchange Server メールボックスのアーカイブを手動で有効にできます。メールボックスのアーカイブを自動で有効にするように **Enterprise Vault** を設定していない場合、この方法を使ってメールボックスのアーカイブを有効にする必要があります。

**Enterprise Vault** で新しいメールボックスのアーカイブを自動で有効にすることは、新しい Microsoft Exchange Server メールボックスがあるときに、各メールボックスを常に手動で有効にする必要がないことを意味します。

手動でアーカイブを有効にすることの利点は、作成されるアーカイブごとに、特定のボルトストアをアーカイブの場所として選択できる点です。

**Enterprise Vault** で新しいメールボックスのアーカイブを自動で有効にする場合、新しいアーカイブは、**Exchange** メールボックスタスクが次に実行されるときに作成されることに注意してください。デフォルトのボルトストア以外の場所にアーカイブしたい新しいメールボックスがある場合、**Exchange** メールボックスタスクが実行される前に、そのメールボックスのアーカイブを手動で有効にする必要があります。メールボックスを有効にしないと、そのメールボックスのアーカイブは **Enterprise Vault** によって自動的に有効にされ、デフォルトの場所にアーカイブが作成されます。

新しいアーカイブをすべて同じボルトストアに配置する場合は、**Enterprise Vault** で自動的にアーカイブが作成されるようにすることが、作業が最小になるオプションです。このオプションを有効または無効にするのは容易です。たとえば、**Exchange** メールボックスタスクの初回実行時には **Enterprise Vault** でアーカイブを自動的に作成し、次にオプションを無効にして、新しいメールボックスを手動で有効にすることができます。

**Enterprise Vault** でメールボックスのアーカイブを自動で有効にすると、新しいアーカイブはデフォルトの場所に格納されます。

### **Enterprise Vault** で新しいメールボックスのアーカイブを自動で有効にする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトの名前が表示されるまで、ボルトサイト階層を展開します。
- 2 目的のボルトサイトを展開し、[アーカイブ対象]を展開します。
- 3 [Exchange]を展開します。
- 4 必要なドメインを展開します。
- 5 [プロビジョニンググループ]をクリックします。  
一覧に示されるプロビジョニンググループがない場合は、次のようにプロビジョニンググループを 1 つ作成します。
  - [プロビジョニンググループ]を右クリックし、ショートカットメニューで[新規作成]、[プロビジョニンググループ]の順にクリックします。
  - 新規プロビジョニンググループ ウィザードの手順に従います。
- 6 右ペインで、自動的に有効にする予定のメールボックスを含めるプロビジョニンググループをダブルクリックします。
- 7 [プロビジョニンググループプロパティ]で、[アーカイブのデフォルト値]タブをクリックします。
- 8 [メールボックスを自動的に有効化]を選択します。
- 9 新しいメールボックスのアーカイブに特定のボルトストアを使う場合は、[継承されたボルトストアを上書き]をクリックして[変更]をクリックし、使用するボルトストアを指定します。

ボルトストアを指定しない場合は、**Enterprise Vault** サーバーのプロパティに定義されたボルトストアが使われます。**Enterprise Vault** サーバーのプロパティにボルトストアが定義されていない場合は、**Exchange Server** のプロパティに定義されているボルトストアが使われます。

- 10** 新しいメールボックスのアーカイブ時に特定のインデックスサービスを使う場合は、[継承されたインデックスサービスを上書き]をクリックして[変更]をクリックし、使用するインデックスサービスを指定します。

インデックスサービスを指定しない場合は、Enterprise Vault サーバーのプロパティに定義されたインデックスサービスが使われます。Enterprise Vault サーバーのプロパティにインデックスサービスが定義されていない場合は、Exchange Server のプロパティに定義されているインデックスサービスが使われます。

- 11** 新しいアーカイブに格納されるアイテムに使うデフォルトの保持カテゴリを選択します。

ユーザーは利用可能な保持カテゴリの一覧から、使用する別の保持カテゴリを選択できます。

- 12** [OK] を選択します。

### メールボックスのアーカイブを手動で有効にする方法

- 1** ツール メニューで、[メールボックスの有効化]をクリックします。

メールボックスの有効化ウィザードが起動します。

- 2** ウィザードに従って操作します。

次の点に注意してください。

- 新しいメールボックスを手動で無効にできます。これにより、Enterprise Vault がメールボックスのアーカイブを自動で有効にすることを停止します。次に特定の時点で、メールボックスを有効にする必要があります。有効にしないと、Enterprise Vault はそのメールボックスのアイテムのアーカイブを行いません。
- メールボックスを有効にすると、Enterprise Vault はオープンしているインデックスの場所の 1 つを自動的に選択して、そのメールボックスのアーカイブに関連付けられているインデックスデータを格納するために使います。メールボックスを有効にする前に、オープンしているインデックスの場所を使っていいかを確認します。Enterprise Vault では、メールボックスのアーカイブを有効にした後、メールボックスのインデックスの場所は変更できません。
- 既存のアーカイブを選択して、有効にするメールボックスに使えます。これは、メールボックスを同じ Enterprise Vault サイト内の別の Exchange Server に移行したとき、メールボックスのアーカイブを有効にして前と同じアーカイブを使う場合に便利です。

## 非表示のメールボックスの確認

デフォルトでは、Enterprise Vault は[Exchange グローバルアドレス一覧]に一覧表示されたメールボックスのみをアーカイブします。Enterprise Vault 管理コンソールには、非表示のメールボックスはメールボックスの有効化ウィザードに一覧表示されず、Exchange メールボックスアーカイブタスクのレポートにも表示されません。非表示のメールボックス



を Enterprise Vault でアーカイブする場合は、レジストリ設定の ProcessHiddenMailboxes を使います。

Enterprise Vault では無効になっている Active Directory アカウントのメールボックスは処理されません。レジストリ値 ProcessHiddenMailboxes を設定していたとしても、非表示の無効アカウントのメールボックスは処理されません。Enterprise Vault でアカウントが無効になっているユーザーのメールボックスが含まれるようにするには、レジストリ値の ProcessHiddenMailboxes と ExcludeDisabledADAccounts の両方を設定します。これらの設定について詳しくは『レジストリ値』を参照してください。

## 選択したアーカイブに対するリーガルホールドの適用と解除について

Enterprise Vault でアーカイブされたアイテムは、次のいずれかの方法で削除することができます。

- 保持期間が期限切れになったアーカイブアイテムは、Enterprise Vault が自動的に削除します。
- ユーザーは 1 つ以上のアーカイブアイテムを手動で削除できます。

ある状況では、削除されることを防ぐために、アーカイブされたアイテムをリーガルホールドの状態にする必要があります。このような場合、アーカイブのリーガルホールドの状態を表示したり変更するために、PowerShell の次の cmdlet を実行します。

Get-EVArchive	指定されたユーザーがアクセス権を持つ Enterprise Vault アーカイブの一覧を返します。
Set-EVArchive	対象となるアーカイブのプロパティを設定します。

cmdlets は、Enterprise Vault サーバーの Enterprise Vault 管理シェルで直接実行します。

### Enterprise Vault PowerShell cmdlets を実行する方法

- 1 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。

PowerShell は Enterprise Vault スナップインを開き、ロードします。cmdlet をシェルで使えるようになりました。

- 2 PowerShell のコマンドプロンプトで、必要なコマンドを入力します。これらの cmdlet について詳しくは、『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

すべての cmdlet についてヘルプも利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると Get-EVArchive cmdlet の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Get-EVArchive -detailed
```

## アーカイブ移動について

Enterprise Vault のアーカイブ移動ウィザードを使うと、既存の Domino と Exchange のメールボックスアーカイブやジャーナルアーカイブから他のボルトストアにある新しいアーカイブまたは既存のアーカイブに内容を移動できます。

このウィザードを使って、1 つのサイト内のボルトストア間、2 つのサイト間でメールボックスアーカイブを移動できます。これには、異なる Enterprise Vault ディレクトリで制御されている 2 つのサイト間の移動も含まれます。

アーカイブ移動では、Enterprise Vault サイト内でだけでのジャーナルアーカイブの移動がサポートされます。

アーカイブの移動は、1 人または数人のユーザーを、ボルトストア間またはサーバーやサイトを越えて移動するように設計されています。大量のユーザーを移動する必要がある場合のパフォーマンスへの影響について詳しくは、『Enterprise Vault Performance Guide』(<https://www.veritas.com/docs/100000918>) を参照してください。

---

**メモ:** アーカイブ移動では、移動先サーバーが Enterprise Vault 11.0 以降を実行している場合に宛先サーバーへのアーカイブを移動できます。

---

アーカイブ移動では、元のアーカイブとアーカイブ先のアーカイブが移動の時にメールボックスに関連付けられるかどうかに応じて各移動操作が異なります。アーカイブ移動はアーカイブが次のとおりであると見なします。

- メールボックスに関連付けられていれば、そのメールボックスのアーカイブが有効にされているかどうかに関係なく、アクティブ
- メールボックスに関連付けられていなければ非アクティブ

アーカイブの移動では、次の種類のアーカイブに対する移動操作がサポートされます。

- Domino メールボックスとジャーナルのアーカイブ
- Exchange メールボックスとジャーナルのアーカイブ

アーカイブの移動は次の種類のアーカイブをサポートしません。

- ファイルシステムアーカイブ (FSA) のアーカイブ
- SharePoint のアーカイブ
- 共有アーカイブ
- Exchange パブリックフォルダのアーカイブ
- インターネットメールアーカイブ
- SMTP アーカイブ

また、アーカイブの移動は次の状況での移動を防ぎます。

- 移動元のアーカイブがアーカイブの使用限度を超過し、移動先が新しいアーカイブの場合。
- アーカイブ元が閉じられている場合。
- アーカイブ元に、**Discovery Accelerator** がリーガルホールドにしたアイテムが含まれる場合。
- アーカイブ先がアーカイブの使用限度を超過した場合。

アーカイブが使用限度を超過する場合は、管理コンソールの[アーカイブプロパティ]: [アーカイブの使用限度]タブで限度を増やす必要があります。

## アーカイブの移動の働き方

ウィザードを使って複数のアーカイブの移動操作を実行すると、各移動はアーカイブの移動タスクで制御されます。アーカイブの移動タスクは、アーカイブの移動の一環として実行する必要がある処理を担います。たとえば、アーカイブの移動タスクは移動元アーカイブから移動先アーカイブに内容をコピーします。アーカイブの移動タスクは、他のアーカイブ操作を実行する間に必要な待機時間も管理します。たとえば、アーカイブの移動タスクはメールボックスのアーカイブタスクでメールボックスのショートカットが移動先アーカイブのアイテムを参照するまで待機します。

各アーカイブの移動操作では、アーカイブの移動タスクは次のように一覧表示されている順序で実行されます。

- **Enterprise Vault** が内容をこれ以上アーカイブしないように移動元アーカイブを閉じます。
- 移動元アーカイブの名前を変更します。
- 移動元アーカイブから移動先アーカイブに内容をコピーします。
- ユーザーのメールボックスと移動先アーカイブのパーミッションを同期します。
- メールボックスのアーカイブタスクでショートカットが移動先アーカイブのアイテムを参照するまで待機します(メールボックスのアーカイブの場合)。
- 移動先のボルトストアのバックアップが作成されるまで待機します。
- 移動先アーカイブにすべてのデータが存在することを検証します。移動先アーカイブに存在しないアイテムがある場合には、アーカイブの移動タスクは移動元の内容のコピーを繰り返します。以降のすべての手順でも繰り返します。これを繰り返すことができるのは5回までです。それ以上繰り返すとアーカイブの移動タスクは移動操作に失敗します。

検証が正常に完了すると移動操作は完了します。必要に応じて、移動元アーカイブを削除できます。

## Compliance Accelerator と Discovery Accelerator による アーカイブ移動への影響

使用環境で Compliance Accelerator または Discovery Accelerator を使うと、アーカイブの移動操作に特定の制限が起きる可能性があります。アプリケーションは両方とも次の状況でアーカイブに対象を登録できます。

- アーカイブのアイテムが Compliance Accelerator または Discovery Accelerator 検索の結果に表示される。
- アーカイブのアイテムが Compliance Accelerator または Discovery Accelerator レビューセットに含まれる。

Compliance Accelerator または Discovery Accelerator がアーカイブに影響している場合は、アーカイブを移動できますが、移動操作の終了時にアーカイブを削除できません。

Discovery Accelerator では、ケースをリーガルホールド状態にして、ケースに含まれているアーカイブ済みアイテムの削除を防止することもできます。アーカイブ移動では、リーガルホールド状態にした Discovery Accelerator ケース内のアイテムが含まれているアーカイブの移動および削除を防止します。

## アーカイブ移動とインデックスレベル

既存のアーカイブ先にアーカイブを移動すると、アーカイブ先は移動前のインデックスレベルを保持します。

ただし、新しいアーカイブ先にアーカイブを移動するとき、アーカイブ移動が設定するインデックスレベルは、移動後にアーカイブがメールボックスに関連付けられるかどうかによって異なります。

移動後に新しいアーカイブ先がメールボックスに関連付けられる場合、アーカイブはメールボックスのインデックスレベルを継承します。移動後にメールボックスの関連付けがなければ、アーカイブ移動は移動先のサイトのデフォルトのインデックスレベルをアーカイブに設定します。

## アーカイブの移動とユーザーが削除したアイテム

Enterprise Vault を使うと、アーカイブから削除するアイテムを回復できるように一定期間維持できます。[サイトプロパティ: アーカイブの設定]ページの[ユーザーが削除したアイテムの回復を有効にする]オプションを使ってこの機能を有効にできます。Enterprise Vault は、設定した日数の間ユーザーが削除したアイテムを維持します。

---

**メモ:** 移動操作時に、アーカイブの移動では削除したアイテムを移動元アーカイブから移動先アーカイブにコピーしません。そのため、削除したアイテムは移動先アーカイブから回復できません。

---

## アーカイブ移動と保持計画

アーカイブ移動操作のソースアーカイブに保持計画を割り当てている場合は、追加の手順を実行して保持計画がアーカイブ先に確実に転送されるようにする必要があります。そうしなければ、**Enterprise Vault** で新規アーカイブに追加するアイテムに間違った保持と分類の設定が適用される危険性があります。手順は、アーカイブ先がプロビジョニンググループに属しているかどうかによって異なります。

- アーカイブ先がプロビジョニンググループに属している場合は、**Enterprise Vault** は次のプロビジョニングの実行時に保持計画をアーカイブ先に割り当てます。それまで待機することを望まない場合は、管理コンソールの[今すぐ実行]機能を使ってプロビジョニングを即座に実行します。
- ジャーナルアーカイブや、プロビジョニンググループに属さないその他のアーカイブタイプの場合は、管理コンソールでアーカイブのプロパティを編集することで保持計画を割り当てることができます。**PowerShell cmdlet** の `Set-EVArchive` を使って保持計画を割り当てすることもできます。`Set-EVArchive` について詳しくは、『**PowerShell コマンドレット**』ガイドを参照してください。

アーカイブ先への保持計画の割り当てが完了したら、アーカイブのインデックスを再構築します。この操作により、**Enterprise Vault** では新しくアーカイブされたアイテムすべてに正しい保持と分類の設定が確実に適用されます。この操作では **Enterprise Vault** によって分類ポリシーの破棄ルールに一致する特定のアイテムが破棄される場合があります。

p.157 の「[再構築ウィザードについて](#)」を参照してください。

## サイト内でのメールボックスアーカイブの移動について

アーカイブ移動を使うと、**Enterprise Vault** サイト内でアーカイブを移動できます。たとえば、これは既存のアーカイブを新しいストレージデバイスに移動する場合に便利です。また、アーカイブを新しいサーバーに移動して、**Enterprise Vault** バージョン 8.0 で導入された、最適化された単一インスタンスストレージモデルなどの機能を利用することもできます。

**Enterprise Vault** サイト内では、アーカイブ移動で次の移動がサポートされています。

- アクティブなアーカイブの新しいアーカイブへの移動
- 非アクティブなアーカイブのアクティブなアーカイブへの移動
- アクティブなアーカイブの非アクティブなアーカイブへの移動

## アクティブなアーカイブの新しいアーカイブへの移動

このセクションでは、元のボルトストア内にあるアーカイブが有効になっているユーザーのデフォルトアーカイブを、宛先ボルトストア内の新しいアーカイブに移動する場合について説明します。この場合、移動先の新しいアーカイブが自動的に後続のアーカイブのデフォルトアーカイブになります。

このアーカイブ移動操作の大まかな手順は次のとおりです。

- アーカイブ移動は、**Enterprise Vault** で内容がこれ以上アーカイブされないように元のアーカイブを閉じます。ただし、元のアーカイブには読み取り専用モードで引き続きアクセスできます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブの名前を変更します。これによって、アーカイブの作成日と移動操作の日付がアーカイブの名前に追加されます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブから移動先にデータをコピーします。
- **Enterprise Vault** はユーザーの **Domino** または **Exchange** メールボックスと新しいアーカイブのアクセス権限を同期します。  
これ以降、**Enterprise Vault** では、新しい内容がアーカイブ先にアーカイブされます。
- 宛先サーバー上のメールボックスアーカイブタスクでは、ユーザーのメールボックス内のすべてのショートカットが移動先サイトの新しいアーカイブの内容を指します。  
アーカイブ移動は、環境内でメールボックスショートカットを使っていない場合でもこの手順を完了します。
- アーカイブ移動は宛先ボルトストアがバックアップされるまで待機します。
- アーカイブ移動はアーカイブ先にすべてのデータが存在することを検証します。

移動操作はこの時点で完了し、元のアーカイブを削除できるようになります。

## 非アクティブなアーカイブのアクティブなアーカイブへの移動

このセクションでは、元のボルトストア内にあるアーカイブが有効になっているユーザーの非デフォルトアーカイブを、宛先ボルトストア内の既存のデフォルトアーカイブに移動する場合について説明します。

この移動操作の大まかな手順は次のとおりです。

- アーカイブ移動は元のアーカイブを閉じます。ただし、元のアーカイブには読み取り専用モードで引き続きアクセスできます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブの名前を変更します。これによって、アーカイブの作成日と移動操作の日付がアーカイブの名前に追加されます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブから移動先にデータをコピーします。
- 必要であれば、宛先サーバーのメールボックスアーカイブタスクは実行され、ショートカットを処理します。  
アーカイブ移動は、環境内でメールボックスショートカットを使っていない場合でもこの手順を完了します。
- アーカイブ移動は宛先ボルトストアがバックアップされるまで待機します。
- アーカイブ移動はアーカイブ先にすべてのデータが存在することを検証します。

移動操作はこの時点で完了し、元のアーカイブを削除できるようになります。

## アクティブなアーカイブの非アクティブなアーカイブへの移動

このセクションでは、元のボルトストア内にあるアーカイブが有効になっているユーザーのデフォルトアーカイブを、宛先ボルトストア内の非アクティブなアーカイブに移動する場合について説明します。

このアーカイブ移動操作の大きな手順は次のとおりです。

- アーカイブ移動は、**Enterprise Vault** で内容がこれ以上アーカイブされないように元のアーカイブを閉じます。ただし、元のアーカイブには読み取り専用モードで引き続きアクセスできます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブの名前を変更します。これによって、アーカイブの作成日と移動操作の日付がアーカイブの名前に追加されます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブから移動先にデータをコピーします。
- アーカイブ移動は宛先ボルトストアがバックアップされるまで待機します。
- アーカイブ移動はアーカイブ先にすべてのデータが存在することを検証します。

移動操作はこの時点で完了し、元のアーカイブを削除できるようになります。

## その他のメールボックスアーカイブの移動

アーカイブが有効になっているメールボックスに関連付けされていない元のアーカイブなど、その他のメールボックスアーカイブをボルトストア間で移動することもできます。これらのアーカイブは新しいアーカイブ先に移動することも、メールボックスに関連付けされていない他の既存のアーカイブに移動することもできます。

このような場合は、アーカイブ移動により、1 つのアーカイブから別のアーカイブに内容が移動されます。ただし、元のアーカイブとアーカイブ先はどちらもアーカイブが有効になっているユーザーに関連付けされていないため、**Enterprise Vault** ではショートカットの処理が完了されません。

## サイト間でのメールボックスアーカイブの移動について

アーカイブ移動を使うと、**Enterprise Vault** サイト間でアーカイブを移動できます。これには、異なる **Enterprise Vault** ディレクトリに所属するサイトも含まれます。たとえば、サイト間での移動は、ユーザーが新しい場所に移動し、新しいサイトのメールサーバーにユーザーのメールボックスを移動する場合に便利です。

---

**メモ:** 移動操作を 2 つの **Active Directory** ドメイン間で実行する場合は、移動の処理に 1 方向の信頼が必要です。移動先ドメインが移動元ドメインを信頼している必要があります。

---

**Enterprise Vault** サイト間では、アーカイブ移動で次のような移動がサポートされています。

- 非アクティブなアーカイブのアクティブなアーカイブへの移動

## サイト間でのアクティブなアーカイブの移動

アーカイブ移動を使うと、Enterprise Vault サイト間でアーカイブを移動できます。これは、個々のユーザーのメールボックスを別の Enterprise Vault サイトの異なる Domino または Exchange メールサーバーに移動する場合に便利です。

この場合、元のサイトのユーザーのアーカイブを無効にしてからメールボックスを移動し、そのメールボックスのアーカイブを移動先で有効にする必要があります。これを実行すると、アーカイブの移動を使って、関連付けされたアーカイブを移動先のサイトに移動できます。

このセクションでは、ユーザーのメールボックスを移動するために実行する必要のある処理と、アーカイブの移動に必要な後続の手順を説明します。

ユーザーのメールボックスを移動する方法

- 元のサイトのユーザーのメールボックスのアーカイブを無効にします。
- ユーザーのメールボックスを元のメールサーバーから移動先のサイトのメールサーバーに移動します。
- 移動先の Enterprise Vault サーバーでユーザーのメールボックスをプロビジョニングします。
- 移動先サイトでユーザーのアーカイブを有効にします。

---

**メモ:** [メールボックスの有効化]ウィザードを実行して元のサイトへのメールボックスの関連付けを削除する前に、必ずプロビジョニングタスクを実行します。

---

移動先のサイトでユーザーのメールボックスのアーカイブが有効になっていますが、ユーザーのメールボックスの既存のショートカットはまだ元のアーカイブを指します。新規の内容は新しく作成されたアーカイブ先にアーカイブされます。

ユーザーのメールボックスを移動し、移動先のサイトでアーカイブを有効にすると、非アクティブな元のアーカイブを移動できます。この場合、移動操作には、次の手順が含まれます。

- アーカイブ移動は元のアーカイブを閉じます。ただし、元のアーカイブには読み取り専用モードで引き続きアクセスできます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブの名前を変更します。これによって、アーカイブの作成日と移動操作の日付がアーカイブの名前に追加されます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブから移動先にデータをコピーします。
- 宛先サーバー上のメールボックスアーカイブタスクでは、ユーザーのメールボックス内のすべてのショートカットが移動先サイトの新しく作成されたアーカイブの内容を指します。



アーカイブ移動は、環境内でメールボックスショートカットを使っていない場合でもこの手順を完了します。

- アーカイブ移動は宛先ボルトストアがバックアップされるまで待機します。
- アーカイブ移動はアーカイブ先にすべてのデータが存在することを検証します。

移動操作はこの時点で完了し、元のアーカイブを削除できるようになります。

## サイト間でのその他のメールボックスアーカイブの移動

元のサイトの非アクティブなアーカイブを、移動先のサイトの既存の非アクティブなアーカイブまたは新しいアーカイブに移動することもできます。

ただし、**Enterprise Vault** は移動先がユーザーのメールボックスと関連付けられる既存のアーカイブである場合のみ、ショートカット処理を完了します。

これらのアーカイブ移動操作の大まかな手順は次のとおりです。

- アーカイブ移動は、**Enterprise Vault** で内容がこれ以上アーカイブされないように元のアーカイブを閉じます。ただし、元のアーカイブには読み取り専用モードで引き続きアクセスできます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブの名前を変更します。これによって、アーカイブの作成日と移動操作の日付がアーカイブの名前に追加されます。
- アーカイブ移動は元のアーカイブから移動先にデータをコピーします。
- 移行先アーカイブがユーザーメールボックスと関連付けられている場合、**Enterprise Vault** はユーザーの **Domino** または **Exchange** メールボックスの権限を新しいアーカイブに同期させます。
- 移行先アーカイブがユーザーメールボックスと関連付けられている場合、宛先サーバーのメールボックスアーカイブタスクでは、ユーザーのメールボックスのすべてのショートカットが移行先アーカイブの内容を指します。  
アーカイブ移動は、環境内でメールボックスショートカットを使っていない場合でもこの手順を完了します。
- アーカイブ移動は宛先ボルトストアがバックアップされるまで待機します。
- アーカイブ移動はアーカイブ先にすべてのデータが存在することを検証します。

移動操作はこの時点で完了し、元のアーカイブを削除できるようになります。

## サイト内でのジャーナルアーカイブの移動について

アーカイブ移動では、**Domino** ジャーナルアーカイブと **Exchange** ジャーナルアーカイブを **Enterprise Vault** サイト内でのみ移動できます。ジャーナルタスクで現在使われているジャーナルアーカイブは移動できません。現在使われている元のジャーナルアーカイブを移動する場合は、まず、宛先ボルトストア内の新しいアーカイブを使うようにジャー

ナルタスクを設定する必要があります。ジャーナルタスクで使うアーカイブを変更するには、管理コンソールを使ってジャーナルメールボックスのプロパティを編集します。

非アクティブなジャーナルアーカイブは、新しいアーカイブ、既存のアクティブなアーカイブ、別の非アクティブなアーカイブに移動できます。

## アーカイブの移動の設定について

次の2つのXML設定ファイルを使ってアーカイブの移動の動作を制御できます。

- アーカイブ移動タスクを制御する `EvMoveArchiveTask.exe.config`
- タスク監視サービスを制御する `EvTaskGuardian.exe.config`

### アーカイブ移動タスクの設定

`EvMoveArchiveTask.exe.config` は、このファイルが存在するサーバー上のストレージサービスに関連付けされたボルトストア内のアーカイブ移動を制御します。

このファイルの基本バージョンは、**Enterprise Vault** のインストール先フォルダ (たとえば `C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault`) にあります。インストール先フォルダには、`Example EvMoveArchiveTask.exe.config` と呼ばれる別のファイルもあります。このファイルには、アーカイブ移動タスクを制御するために変更できる追加設定の例が含まれています。

#### アーカイブ移動タスクのデフォルト動作を変更する方法

- 1 後で復帰する必要がある場合は、`EvMoveArchiveTask.exe.config` の名前を変更します。
- 2 `Example EvMoveArchiveTask.exe.config` の設定を次のように編集します。

- `RescheduleIntervalInMins`

各移動操作に対して、アーカイブ移動は移動の各ステージ間でスリープ状態に入ります。たとえば、アーカイブ移動はショートカット処理やアーカイブ先のバックアップ処理で待機する間スリープ状態になります。

`RescheduleIntervalInMins` には、このスリープ状態の長さを分単位で設定します。この間隔が終了し、処理スロットが利用可能な場合は、アーカイブ移動の処理が再開されます。

同時に多数のアーカイブを移動する環境では、より長い間隔に設定することを考慮してください。

5と1000の間の値を指定します。デフォルト値は30です。

- `SkipDuplicateItems`

アーカイブ移動で元のアーカイブからのアイテムが宛先ボルトストアで重複していることが見つかった場合は、最初の10個の重複についてはエラーがイベントログに書き込まれ、その後は移動操作に失敗のマークが付けられます。これは、

重複の存在によって元のアーカイブがすでにアーカイブ先に移動していることがあるためです。

**メモ:** 単一のボルトストア内のすべてのアイテムには、一意のトランザクション ID が必要です。単一のボルトストア内の 2 つのアイテムのトランザクション ID が同じ場合、アーカイブ移動はその 2 つのアイテムが重複していると見なします。

この動作は、SkipDuplicateItems を 1 に設定して変更できます。これにより、アーカイブ移動は重複アイテムをログに書き込みますが、それらをスキップして移動操作を続行します。

- ReportVersions  
処理される元の各アーカイブについては、アーカイブ移動によって Enterprise Vault のインストール先フォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にある Reports\Move Archive サブフォルダにレポートファイルが作成されます。たとえば移動処理の失敗の後などに同じアーカイブを再び移動する場合、アーカイブ移動は 2 回目のアーカイブ処理時に別のレポートを作成します。ReportVersions には、最も古いファイルを削除する前に、元の各アーカイブに対して保持するレポートファイル数を設定します。1 と 100 の間の値を指定します。デフォルト値は 5 です。

- 3 ファイルの名前を EvMoveArchiveTask.exe.config に変更します。
- 4 アーカイブ移動タスクを再起動します。

## タスク監視サービスの設定

アーカイブの処理中にアーカイブ移動が一時エラー状態になると、少しの間待機してからアーカイブを再試行します。タスク監視サービスの設定ファイルで RetryTimeInMinutes キーを使ってデフォルトの再試行間隔を変更できます。EvTaskGuardian.exe.config は、このファイルが存在する各 Enterprise Vault サーバー上の再試行間隔を制御します。

このファイルの基本バージョンは、Enterprise Vault のインストール先フォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にあります。インストール先フォルダには Example EvTaskGuardian.exe.config と呼ばれる別のファイルもあります。このファイルには、RetryTimeInMinutes キーの例も含まれます。

デフォルト値:	30
最小値:	5
最大値:	1000

### タスク監視サービスのデフォルト動作を変更する方法

- 1 後で復帰する必要がある場合は、EvTaskGuardian.exe.config の名前を変更します。
- 2 Example EvTaskGuardian.exe.config の RetryTimeInMinutes 設定を編集します。
- 3 ファイル名を EvTaskGuardian.exe.config に変更します。
- 4 タスク監視サービスを再起動します。

### アーカイブ移動のパフォーマンスの変更

デフォルトでは、アーカイブ移動操作はサーバーの他の Enterprise Vault タスクより優先度が低いです。[アーカイブの移動タスク]プロパティの[設定値]タブを使って、アーカイブ移動の優先度設定とその他のパフォーマンスの設定を変更できます。

[設定値]タブのオプションを使ってアーカイブ移動のパフォーマンスを調節する方法については、次のベリタスサポート Web サイトで利用可能な『Enterprise Vault パフォーマンスガイド』を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100000918>

### アーカイブ移動のパフォーマンスを変更する方法

- 1 管理コンソールで、[アーカイブの移動タスク]を右クリックし、[プロパティ]をクリックします。
- 2 [設定値]タブをクリックします。
- 3 必要に応じて設定を変更し、[OK]をクリックします。

[他の処理に対するアーカイブの移動操作の優先度]か[移動操作ごとのスレッドの数]を変更した場合は、変更を有効にするためにアーカイブ移動タスクを再起動してください。

[同時移動操作の数]を変更した場合は、変更を有効にするためにタスク制御サービスを再起動してください。

## アーカイブの移動の実行

アーカイブ移動ウィザードを実行するには、ボルトサービスアカウントを使ってログインする、またはメイン管理者役割が割り当てられているアカウントを使う必要があります。

異なる Enterprise Vault ディレクトリで制御されている 2 つのサイト間での移動の場合、元のユーザーアカウントは移動先の Enterprise Vault ディレクトリのメイン管理者役割に割り当てする必要があります。

アーカイブに Enterprise Vault 拡張コンテンツプロバイダを使ってアーカイブされたアイテムが含まれている場合、元のユーザーには追加の役割が必要です。メイン管理者の

役割の他に、宛先ディレクトリの拡張コンテンツプロバイダアプリケーション役割に元のユーザーを割り当てる必要があります。

詳しくは『管理者ガイド』のロールベースの管理に関する説明を参照してください。

### アーカイブ移動を実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインの[アーカイブ]を右クリックし、[アーカイブの移動]をクリックします。
- 2 ウィザードのページの手順に従って適切なオプションを選択します。

## 移動先サイトの選択

アーカイブ移動を使うと、現在の Enterprise Vault サイト内または 2 つのサイト間でメールボックスアーカイブとジャーナルアーカイブを移動できます。このページを使ってアーカイブを移動するサイトを選択します。

---

**メモ:** サイト内でのみジャーナルアーカイブを移動できます。

---

### サイト内でアーカイブを移動する方法

- ◆ [現在の Enterprise Vault サイト内でアーカイブを移動]オプションを選択します。

### 別のサイトにアーカイブを移動する方法

- 1 [別の Enterprise Vault サイトにアーカイブを移動]オプションを選択します。
- 2 宛先ボルトストアを制御する[ディレクトリサービスコンピュータ]の名前を入力します。

## サイトの選択

アーカイブを複数のサイトがある宛先に移動するように選択した場合は、このページを使うと移動先のサイトを選択できます。

### 移動先サイトを選択する方法

- ◆ [移動先のサイト]一覧からサイトを選択します。

## アーカイブの選択

このページを使用して、移動するアーカイブやアーカイブ先を選択します。対象のアーカイブのみ表示されます。

アーカイブの移動では、次の種類のアーカイブに対する移動操作がサポートされます。

- Domino メールボックスとジャーナルのアーカイブ
- Exchange メールボックスとジャーナルのアーカイブ

アーカイブの移動は次の種類のアーカイブをサポートしません。

- ファイルシステムアーカイブ (FSA) のアーカイブ
- SharePoint のアーカイブ
- 共有アーカイブ
- Exchange パブリックフォルダのアーカイブ
- インターネットメールアーカイブ
- SMTP アーカイブ

また、アーカイブの移動は次の状況での移動を防ぎます。

- 移動元のアーカイブがアーカイブの使用限度を超過し、移動先が新しいアーカイブの場合。
- アーカイブ元が閉じられている場合。
- アーカイブ元に、Discovery Accelerator がリーガルホールドにしたアイテムが含まれる場合。
- アーカイブ先がアーカイブの使用限度を超過した場合。

アーカイブが使用限度を超過する場合は、管理コンソールの[アーカイブプロパティ]: [アーカイブの使用限度]タブで限度を増やす必要があります。

#### アーカイブを追加する方法

- 1 [追加]をクリックします。
- 2 [移動元を選択]ダイアログボックスを使って、移動するアーカイブを追加します。

アーカイブが有効になっているユーザーが現在使っているアーカイブを移動する場合は、新しいアーカイブにのみ移動できます。この場合、[新規アーカイブ]が、アーカイブの横にある[アーカイブ先]列に自動的に選択され、これを変更することはできません。サイト内でアクティブなアーカイブのみを移動できます。

非アクティブなアーカイブを移動するときは、現在のサイトまたは別のサイトにある既存のアーカイブをアーカイブ先として選択できます。

#### アーカイブ先を選択する方法

- 1 選択するアーカイブ先の元となるアーカイブを選択します。
- 2 [移動]、[対象の選択]の順にクリックします。
- 3 [対象の選択]ダイアログボックスを使って、アーカイブ先を選択します。

#### 新しいアーカイブ先にアーカイブを移動する方法

- 1 1 つ以上のアーカイブを選択します。
- 2 [移動]、[新規アーカイブ]の順にクリックします。

### 一覧からアーカイブを削除する方法

- ◆ アーカイブを選択して、[削除]をクリックします。

このページ上の元のアーカイブとアーカイブ先のペアについての詳細情報を表示することもできます。

### 元のアーカイブとアーカイブ先のペアのプロパティを表示する方法

- 1 表示するプロパティの行を選択します。
- 2 [プロパティ]をクリックします。

## アーカイブ先の選択

このダイアログボックスを使って、アーカイブ先に設定するアーカイブを検索します。

### 特定のアーカイブを検索する方法

- 1 検索ボックスにアーカイブの名前のすべてまたは一部を入力します。
- 2 検索アイコンをクリックします。

入力した文字列が含まれるアーカイブの名前が一覧表示されます。

一覧にあるアーカイブのプロパティを表示できます。

### アーカイブのプロパティを表示する方法

- 1 プロパティを表示するアーカイブを選択します。
- 2 [プロパティ]をクリックします。

### アーカイブをアーカイブ先として設定する方法

- ◆ アーカイブを選択して[OK]をクリックします。

## 宛先ボルトストアの選択

アーカイブを新しいアーカイブ先に移動するように選択した場合は、このページを使うとそれぞれの宛先ボルトストアを選択できます。各アーカイブ先は、関連付けされた元のアーカイブとは異なるボルトストア内にある必要があります。

### 宛先ボルトストアを選択する方法

- 1 1つ以上の元のアーカイブを選択します。
- 2 [対象の選択]をクリックします。
- 3 [ボルトストアを選択してください]ダイアログボックスを使って、選択したアーカイブの宛先ボルトストアを選択します。

## 課金用アカウントの選択

このページを使って、アーカイブ先に割り当てられる課金用アカウントを変更します。デフォルトでは、新しいアーカイブ先に、元のアーカイブと同じ課金用アカウントが割り当てられます。既存のアーカイブ先の場合、新しい課金用アカウント列には、すでにアーカイブに割り当てられている課金用アカウントが表示されます。

### 課金用アカウントを変更する方法

- 1 変更する課金用アカウントのアーカイブを検索します。
- 2 新しい課金用アカウント列に、次のような形式で新しい課金用アカウントを入力します。

`domain¥username`

課金用アカウントの横にある参照アイコンをクリックし、[ユーザーまたはグループを選択]ダイアログボックスを使って新しい課金用アカウントを選択することもできます。

## 保持カテゴリの関連付け

1 つの Enterprise Vault サイトから別のサイトにアーカイブを移動する場合は、このページを使って元の保持カテゴリと移動先の保持カテゴリを関連付けることができます。

アーカイブの移動を実行すると、元の保持カテゴリごとに、名前と保持期間の設定に基づいて移動元と一致する保持カテゴリを移動先サイトで検出が試行されます。一致するカテゴリを検出した場合は、「移動先の保持カテゴリ」列に表示されます。アーカイブ移動によって自動的に関連付けされた移動先の保持カテゴリを変更できます。

右の列のチェックアイコンは、アーカイブ移動が保持カテゴリを自動的に関連付けしたことを示します。アーカイブ移動ウィザードを最初に実行する時、このアイコンは緑です。アーカイブ移動では、ウィザードを実行するたびに行った選択が記憶され、次の実行時は記憶された選択がデフォルトになります。アーカイブ移動ウィザードを再び実行するとき、関連付けされた保持カテゴリはグレーのチェックアイコンによって識別されます。

Exchange 管理フォルダの場合、アーカイブ移動は、移動元の関連付けられたすべての保持カテゴリを、1 つの移動先保持カテゴリにのみマッピングします。移動先保持カテゴリは変更できますが、変更すると元のすべての保持カテゴリが、選択した 1 つの移動先カテゴリにマッピングされます。

元の保持カテゴリと一致する移動先が検出されなかった場合は、その保持カテゴリごとに移動先保持カテゴリを選択する必要があります。たとえば、Enterprise Vault 12.2 以降では、保持カテゴリに 5 年などの保持期間ではなく、2021 年 12 月 31 日などの固定の有効期限を設定できます。以前のバージョンの Enterprise Vault では、固定の有効期限を設定した保持カテゴリはサポートされません。そのため、2 つのバージョンの Enterprise Vault 間でアーカイブを移動する場合、一方のバージョンではこの種類の保持カテゴリをサポートし、他方のバージョンではサポートしないことがあります。この場合、サポート外の保持カテゴリと他方のサポート対象の保持カテゴリをペアにする必要があります。



### 移動先の保持カテゴリを選択または変更する方法

- 1 変更する移動先の保持カテゴリの元の保持カテゴリを検出します。
- 2 [移動先の保持カテゴリ]列で、元の各保持カテゴリ別のドロップダウンリストを使って、移動先の保持カテゴリを選択します。

このページ上の元の保持カテゴリと移動先の保持カテゴリのペアについての詳細情報を表示することもできます。

### 元の保持カテゴリと移動先の保持カテゴリのペアのプロパティを表示する方法

- 1 表示するプロパティの行を選択します。
- 2 [プロパティ]をクリックします。

移動先のサイトに適切な保持カテゴリが見つからない場合は、移動先サイトで管理コンソールを使って作成できます。処理を終了したら、このページで[更新]をクリックして、新しい保持カテゴリを選択できるようにします。

## 移動することを選択したアーカイブのレビュー

このページを使うと、アーカイブ移動ウィザードを閉じる前に移動することを選択したアーカイブをレビューできます。

このページではアーカイブごとに次の項目が一覧表示されます。

- [種類]。このアイコンは、アーカイブの種類を示します(Domino メールボックスアーカイブ、Domino ジャーナルアーカイブ、Exchange メールボックスアーカイブ、Exchange ジャーナルアーカイブ)。
- [アーカイブ元]。元のアーカイブの名前。
- [移行先アーカイブ]。移動先のアーカイブの名前。元のアーカイブを新しいアーカイブに移動する場合、この列に[<新規アーカイブ>]が表示されます。
- [宛先ボルトストア]。アーカイブ先をホストするボルトストアの名前。

移動することを選択したアーカイブをレビューしたら、[完了]をクリックします。

## 状態ページの表示

アーカイブ移動の進捗状況を監視する場合は、このページで[アーカイブの移動状態]ダイアログボックスを表示]オプションを選択します。

特定のストレージサーバーに関連付けされたアーカイブを初めて移動する場合、Enterprise Vault によってそのサーバー上にアーカイブ移動タスクが作成されます。このタスクは、タスク制御サービスを起動するたびに自動的に開始されるように設定されています。すぐにタスクを開始する場合は、[新しいタスクを今すぐ開始]オプションを選択します。このオプションは、ストレージサーバーごとに 1 回のみ Enterprise Vault に表示されます。

## アーカイブ移動の監視

送信したすべてのアーカイブ移動操作は、[アーカイブの移動状態]ページに表示されます。アーカイブ移動ウィザードを実行するとき、[[アーカイブの移動状態]ダイアログボックスを表示]オプションを選択した場合、ウィザードを閉じると Enterprise Vault には、[アーカイブ移動状態]ページが表示されます。また、ページはいつでも表示できます。

### [アーカイブの移動状態]ページを表示する方法

- ◆ 管理コンソールで、[アーカイブ]を右クリックし、[アーカイブの移動状態]をクリックします。

[アーカイブの移動状態]ページには、各移動操作に関する次の情報が表示されます。

- [アーカイブ元]。元のアーカイブの元の名前。これは、アーカイブ移動で名前を変更する前のアーカイブ名です。
- [移動の状態]。このアーカイブの現在の移動状態。  
p.115 の「[アーカイブの移動状態](#)」を参照してください。
- [移行先アーカイブ]。移動先のアーカイブの名前。元のアーカイブを新しいアーカイブに移動すると、この列に[ <新規アーカイブ >]と表示されます。
- [移動元サーバー]。移動元のストレージサービスコンピュータの完全修飾ドメイン名。
- [宛先サーバー]。移動先のストレージサービスコンピュータの完全修飾ドメイン名。
- [開始時刻]。アーカイブが送信された日時。

### 一覧の任意の移動操作についてその他の情報を表示する方法

- 1 移動操作を選択します。
- 2 [プロパティ]をクリックします。

[アーカイブの移動プロパティ]ダイアログボックスに、移動操作に関連付けされたログファイルの名前と場所などの追加情報が表示されます。

### 送信したアーカイブの最新の状態を確認する方法

- ◆ ツールバーの更新ボタンをクリックします。

多数のアーカイブを移動する場合は、[アーカイブの移動状態]ページの検索機能を使って特定の移動元のアーカイブを検索できます。

### 元のアーカイブを検索する方法

- 1 [次の名前を含む元のアーカイブを検索します:]ボックスにある元のアーカイブの名前をすべてまたは一部入力します。
- 2 検索ボタンをクリックします。

列の見出しをクリックして[アーカイブの移動状態]ページの列をソートすることもできます。

## [アーカイブの移動状態]ページでの移動操作の修正

[アーカイブの移動状態]ページを使うと、キューにあるアーカイブの移動操作を選択的に修正できます。たとえば、移動先のサイト別に操作をソートし、これらすべての移動操作を選択し、サイトの保守中に操作を停止することができます。

---

**メモ:** ショートカット処理段階では移動操作を停止できません。

移動状態が[完了]または[完了しました (エラーあり)]であるときには、[再起動]を使うことができます。

移動状態に[失敗]または[エラー]と示されているときには、[続行]または[失敗したアイテムの再試行]を使うことができます。

---

### 移動操作を修正する方法

- 1 開始、停止、または他の処理を実行するアーカイブを選択します。
- 2 [開始]、[停止]、または選択可能な他の処理をクリックします。
- 3 [更新]ボタンをクリックして、選択したアーカイブの状態が変わっているか確認します。

## アーカイブの移動状態

状態が[失敗]または[エラー]の移動操作は赤色で表示され、続行するにはユーザーの介入が必要です。

[アーカイブの移動状態]ページのアーカイブは、次のような状態になります。

- [キューに登録されました]。アーカイブは、処理のためにキューに登録されます。アーカイブ移動では、アーカイブ移動タスクが実行されるとアーカイブ処理が開始されます。タスクがそのスケジュールに従って実行されるまで待機するか、またはタスクを右クリックして、[今すぐ実行]をクリックできます。
- [手順 1 / 5 - コピー中 (x%)]。アーカイブ移動では、アーカイブが処理されます。
- [手順 2 / 5 - ショートカットの更新を待機しています]。アーカイブ移動は、元のアーカイブからアーカイブ先へアイテム移動を完了し、Domino または Exchange メールボックスアーカイブタスクでユーザーメールボックスのショートカットが更新されるまで待機します。タスクがそのスケジュールに従って実行されるまで待機するか、またはタスクを右クリックして、[今すぐ実行]をクリックできます。

---

**メモ:** 無効になっているアーカイブのショートカット処理は、すべてのメールボックスに対してメールボックスアーカイブタスクを実行する場合にのみ行われます。

---

この段階で、アーカイブ移動は、ショートカット処理が完了しているかどうか、完了していない場合はスリープ状態になっているかどうかをチェックします。デフォルトのスリー

ブ状態の長さは30分です。スリープ状態が終了すると、アーカイブ移動では、ショートカット処理が完了しているかどうか再度チェックされます。

アーカイブ移動は、環境内でメールボックスショートカットを使っていない場合でもこの手順を完了します。

- [手順 3 / 5 - ショートカットを更新しています]。Domino または Exchange メールボックスアーカイブタスクによって、ユーザーのメールボックス内のショートカットが更新されています。
- [手順 4 / 5 - 宛先のバックアップを待機しています]。アーカイブ移動は、アーカイブ先を含むボルトストアがバックアップされるのを待機します。この段階で、アーカイブ移動は、アーカイブ先がバックアップされているかどうか、バックアップされていない場合はスリープ状態になっているかどうかをチェックします。デフォルトのスリープ状態の長さは30分です。スリープ状態が終了すると、アーカイブ移動では、アーカイブ先がバックアップされているかどうか再度チェックされます。
- [手順 5 / 5 - 移動されたアイテムを確認しています (x%)]。アーカイブ移動は、アーカイブ先が元のアーカイブから移動したすべてのアイテムを含んでいることをチェックしています。これには、ユーザーが削除したアイテム、またはデータ保護の法律に従ってサードパーティアプリケーションで削除された、自動的に期限切れになったアイテムは含まれません。
- [エラー]。アーカイブ移動は、アーカイブのエラーが発生すると、5回アーカイブ移動を試行して、それでもエラーが発生すると状態を[失敗]に変更します。再試行の間では、アーカイブ移動はアーカイブの状態を[エラー]に設定します。  
状態が[エラー]の移動操作は赤色で表示され、続行するにはユーザーの介入が必要です。
- [完了]。アーカイブ移動はこのアーカイブのすべての処理を完了しました。
- [完了しました (エラーあり)]。アーカイブ移動はすべての処理を完了しましたが、エラーがありました。  
エラー状態で完了した移動操作について詳しくは、ベリタスサポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。  
<https://www.veritas.com/docs/100022631>
- [失敗]。アーカイブ移動は、アーカイブの処理に失敗しました。  
状態が[失敗]の移動操作は赤色で表示され、続行するにはユーザーの介入が必要です。

アーカイブ移動操作に失敗した理由を確認するには、Enterprise Vault インストール先フォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) の Reports\Move Archive サブフォルダにあるアーカイブ移動レポートファイルをチェックします。

p.118 の「アーカイブ移動のレポートと監視」を参照してください。

アーカイブ移動では、確認中にエラーが発生した場合を除いて、[失敗]または[エラー]の状態の移動操作で[続行]または[失敗したアイテムの再試行]を使用できます。移動

状態が[完了]または[完了しました (エラーあり)]であるときには、[再起動]を使うことができます。

p.118 の「[失敗]と[エラー]状態の移動操作の管理」を参照してください。

## アーカイブの移動後のアーカイブの削除

Enterprise Vault によってアーカイブの移動を完了すると、[アーカイブの移動状態]ページの状態は、[完了]になります。このページから完了済みアーカイブを削除でき、また、元のアーカイブも削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。

---

**メモ:** Compliance Accelerator または Discovery Accelerator がアーカイブに影響している場合、あるいは Discovery Accelerator によってアーカイブのアイテムがリーガルホールド状態になっている場合は、アーカイブを削除できません。

---

p.100 の「Compliance Accelerator と Discovery Accelerator によるアーカイブ移動への影響」を参照してください。

移動操作の終了時に、アーカイブの状態が[完了しました (エラーあり)]になる場合があります。移動中にアーカイブ移動によってエラーが記録されても、移動操作を終了するほど重大なエラーと見なされない場合にこの状態になります。エラー状態で完了したアーカイブを削除する前に、アーカイブのアーカイブ移動ログファイルをチェックして、エラーが重大または予想外のものでないことを確認する必要があります。たとえば、ストレージデバイスの障害により一部のアイテムが見つからなくなる可能性があります。

エラー状態で完了した移動操作について詳しくは、ベリタスサポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022631>

### 完了済みアーカイブを削除する方法

- 1 [アーカイブの移動状態]ページから削除する完了済みアーカイブを選択します。
- 2 ツールバーの[削除]ボタンをクリックします。
- 3 [元のアーカイブを削除していいですか?]のメッセージで、関連付けされた元のアーカイブを削除する場合は[はい]をクリックし、削除しない場合は[いいえ]をクリックします。

[アーカイブの移動状態]ページからアーカイブを削除するときに元のアーカイブを削除しないことを選択した場合は、後で管理コンソールからアーカイブを削除できます。

---

**メモ:** 他のアーカイブまたはボルトストアと共有する SIS パーツが原因で 1 つ以上のソースアーカイブまたはボルトストアを削除できないエラーが発生した場合は、SQL を介して手動でボルトストアを削除しないでください。問題調査のため、Veritas テクニカルサポートでケースをオープンしてください。

---

## [失敗]と[エラー]状態の移動操作の管理

状態が[失敗]または[エラー]の移動操作は赤色で表示され、続行するにはユーザーの介入が必要です。

移動操作は、一時的な問題が原因で失敗したりエラー状態で完了したりする場合があります。たとえば、データコピーの初期段階で元のボルトストアが使用不能なため移動操作に失敗することがあります。その場合は、問題を解決した後で移動操作を再試行できます。

アーカイブ移動では、確認中にエラーが発生した場合を除いて、[失敗]または[エラー]の状態の移動操作を再試行できます。

[再起動]、[続行]、[失敗したアイテムの再試行]の使用:

- 移動の状態が[完了しました]または[完了しました (エラーあり)]のいずれかであるときに、[再起動]を使用します。
- 移動の状態が[失敗]または[エラー]であるときに、[続行]または[失敗したアイテムの再試行]を使用します。

エラー状態で完了した移動操作について詳しくは、ベリタスサポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022631>

### 移動操作を再試行する方法

- 1 [アーカイブの移動状態]ページで、状態が[失敗]または[エラー]の移動操作を 1 つ以上選択します。
- 2 選択した移動操作を右クリックして、[失敗したアイテムの再試行]をクリックします。
- 3 [OK]をクリックして要求を確認します。

アーカイブ移動は移動操作を再送信し、処理の再開前に、最初に状態が[キューに登録されました]に復帰します。

アーカイブ移動は、再試行された移動操作の処理を開始するときに、エラーの最初の時点から処理を開始します。

同様に、[続行]を使って、失敗したアイテムを再試行することなく続行できます。

## アーカイブ移動のレポートと監視

アーカイブ移動によって、Enterprise Vault のインストール先フォルダ (通常は C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault) にある Reports\Move Archive サブフォルダにレポートファイルが移動操作ごとに 3 つまで作成されます。

アーカイブ移動は次の規則に従って 3 つのレポートファイルに名前を付けます。

```
MoveArchive_archive_yyyymmddhhmmss.txt  
MoveArchive_archive_yyyymmddhhmmss_Errors.txt  
MoveArchive_archive_yyyymmddhhmmss_Verification_nnnn.txt
```

それぞれの内容は次のとおりです。

- **archive** は、アーカイブの名前です。
- **yyymmddhhmmss** は、レポートが生成された日時です。
- **nnnn** は、連番を表します。管理可能なサイズの検証ファイルを生成するため、アーカイブ移動は最大ファイルサイズに到達するたびに、検証レポートを新しいファイルにロールオーバーします。この連番は、ファイルの順序を示します。

MoveArchive\_archive\_yyyymmddhhmmss.txt には、移動操作の概略レポートが含まれます。レポートには、各段階の開始および終了時間を含めて、移動操作の開始および終了時間が表示されます。処理されたアイテムの数も表示されます。

MoveArchive\_archive\_yyyymmddhhmmss\_Errors.txt は、移動操作中に発生したエラーをレポートします。

MoveArchive\_archive\_yyyymmddhhmmss\_Verification\_nnnn.txt には、元のアイテムと、アーカイブ先の対応するアイテム間の差異を示すレポートが含まれます。

アーカイブ移動検証エラーのトラブルシューティング方法について詳しくは、ベリタスサポート Web サイトの次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022631>

## アーカイブの削除

管理コンソールで状態が[利用可能]または[クローズ]である場合、アーカイブを削除できます。アーカイブを削除するには、管理コンソールまたは Remove-EVArchive PowerShell コマンドレットを使用できます。

次の点に注意してください。

- アーカイブを削除すると、元に戻せず、削除プロセスを停止できません。
- 関連付けられているメールボックスがあるアーカイブを削除する場合には注意が必要です。**Exchange** メールボックスタスクが、削除済みのアーカイブにアーカイブしようすると、多数のエラーが発生します。アーカイブへのアクセス権があるユーザーに、アーカイブの設定を変更するよう通知して、削除しようとしているアーカイブにアーカイブしないようにしてください。アーカイブのプロパティページの[権限]タブを使用して、アーカイブへのアクセス権があるユーザーを確認します。
- 削除操作中に発生するエラーをトラブルシューティングするには、**DirectoryService**、**StorageDelete**、**Microsoft** 管理コンソール (MMC)、PowerShell で DTrace を実行します。

アーカイブを削除するには

- 1 管理コンソールで、アーカイブがリストに表示されている状態で **F5** キーを押して、表示を更新します。これにより、アーカイブの現在の状態が表示されます。
- 2 削除するアーカイブを右クリックし、ショートカットメニューの[削除]をクリックします。
- 3 プロンプトが表示されたら、アーカイブの削除を確認します。

アーカイブの状態が[削除対象マーク付き]に変更されます。アーカイブのプロパティを表示できなくなり、アーカイブ内のアイテムへのショートカットは機能しなくなります。

## アーカイブを管理するための PowerShell cmdlet

表 3-9 は、Enterprise Vault 管理シェルがアーカイブを管理するために提供する PowerShell コマンドレットの一覧です。コマンドレットについて詳しくは『PowerShell コマンドレット』ガイドを参照してください。

表 3-9 アーカイブを管理するための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-EVArchive	Enterprise Vault サイト内の一部またはすべてのアーカイブの一覧を返します。
Remove-EVArchive	Enterprise Vault サイトから指定したアーカイブを削除します。
Set-EVArchive	既存のアーカイブの指定された設定を更新します。

## アーカイブ cmdlet でのエラー処理

アーカイブ cmdlet は PowerShell ホストに直接エラー情報を書き込みます。

表 3-10 に、cmdlet から戻されるエラーの標準セットを示します。

表 3-10 アーカイブ cmdlet でのエラー

ErrorID	エラーの理由	処理
ArchiveAlreadyMarkedFor Deletion	指定したアーカイブにすでに削除のマークが付いています。	処理は不要です。



ErrorID	エラーの理由	処理
ArchiveAssociatedWithTargets	このアーカイブは 1 つ以上のターゲットに関連付けられているため削除できません。	表示されているターゲットを別のアーカイブを使用するように設定して、操作を再試行します。アーカイブが <b>SharePoint</b> サイトコレクションに関連付けられている場合は、そのサイトコレクションを <b>Enterprise Vault</b> から削除して、操作を再試行します。
ArchiveInUse	指定したアーカイブは使用中です。削除できるのは、状態が[利用可能]または[クローズ]のアーカイブのみです。	アーカイブが使用中ではなくなるまで待つてから、操作を再試行します。
ArchiveNotFoundInDirectory	指定したアーカイブが <b>Enterprise Vault</b> ディレクトリに見つかりません。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ そのアーカイブがすでに <b>Enterprise Vault</b> から削除されていないか確認します。</li> <li>■ 指定したアーカイブ ID が既存のアーカイブに対応していることを確認します。</li> </ul>
ArchiveProtectedFromDeletion	指定したアーカイブは、削除されないように保護されています。	[アーカイブプロパティ]ダイアログボックスの[詳細]タブで、[アーカイブされたアイテムとこのアーカイブの削除を許可する]を選択します。
ArchiveUnderInProgressMove Operation	指定したアーカイブは移動中のため削除できません。	管理コンソールの[アーカイブの移動状態]ページを確認します。アーカイブの移動操作が正常に完了した後、削除を再試行します。
AssociatedVaultStoreIn BackupMode	指定したアーカイブに関連付けられているボルトストアがバックアップモードになっています。	Clear-VaultStoreBackupMode を使用して、ボルトストアのバックアップモードをクリアします。
EnterpriseVaultDirectoryServer NotReachable	<b>Enterprise Vault</b> ディレクトリサーバーに接続できません。	入力に指定したアーカイブ ID が既存の <b>Enterprise Vault</b> ディレクトリに属していることを確認します。
EnterpriseVaultDirectoryService NotAvailable	<b>Enterprise Vault Directory Service</b> が実行されていません。	<b>Enterprise Vault Directory Service</b> を開始して、削除を再試行します。
EnterpriseVaultStorageServer NotReachable	<b>Enterprise Vault</b> ストレージサーバーに接続できません。	<b>Enterprise Vault</b> ストレージサーバーに接続でき、cmdlet を実行しているユーザーがこのサーバーに対して適切な権限を持っているかどうかを確認します。

ErrorID	エラーの理由	処理
EnterpriseVaultStorageServiceNotAvailable	Enterprise Vault ストレージサービスが実行されていません。	Enterprise Vault ストレージサービスを開始して、削除を再試行します。
FailedToDetermineCustomArchiveType  または UnexpectedError	予期しないエラーが発生しました。	イベントログと DTrace ログで詳細をチェックします。
InvalidFormat	アーカイブ ID が有効な形式ではありません。	正しい形式でアーカイブ ID を指定していることを確認します。
NullOrEmptyWhitespaceNotAllowed	アーカイブ ID に空白が含まれているか、指定した入力 が Null または空です。	有効なアーカイブ ID を指定します。
UnauthorizedAccess	この操作を実行する権限がありません。	指定したアーカイブを削除する適切な権限があることを確認します。

## ボルトストアの削除

不要になったボルトストアを削除できます。削除すると、ボルトストアに含まれているすべてのパーティションとアーカイブ、さらにそれらに格納されているすべてのアイテムが完全に削除されます。

ボルトストアを削除できるのは、次のすべての条件がボルトストアに該当する場合のみです。

- 自動的に有効化されたアーカイブのデフォルトのボルトストアでない。
- アーカイブ対象に関連付けられたアーカイブが含まれていない。
- 状態が[利用可能]である。
- バックアップモードでない。
- ボルトストアデータベースが **SQL AlwaysOn** の可用性グループに含まれていない。含まれている場合は、最初に可用性グループからボルトストアデータベースを削除する必要があります。

---

**メモ:** ボルトストアが属しているボルトストアグループを削除して、ボルトストアを削除することもできます。ボルトストアグループを削除する場合は、そこに含まれているすべてのボルトストアもこのセクションに記載されている基準を満たす必要があります。ボルトストアグループのデータベースが **SQL AlwaysOn** 可用性グループに含まれている場合は、このボルトストアグループを削除する前に、可用性グループからそのデータベースを削除する必要があります。

---

ボルトストアを削除すると、その状態が[削除対象マーク付き]に変更されます。ボルトストアのアーカイブ内のアイテムへのショートカットは機能しなくなります。

**Enterprise Vault** が削除処理を完了するまでに長い時間がかかることがあります。ボルトストア内に、リーガルホールド上にあるアイテム、または他のボルトストアで参照されている SIS パーツが含まれている場合、**Enterprise Vault** はボルトストアに削除用のマークを設定しますが、これらの条件が該当しなくなるまで、ボルトストアを削除しません。

---

**メモ:** ボルトストアを削除した後に、削除プロセスを停止したり、元に戻したりすることはできません。この操作を実行すると、リーガルホールド以外のアイテムまたは保持カテゴリに適用される、あらゆる形式の削除保護が上書きされます。

---

### ボルトストアを削除する方法

- 1 管理コンソールで、削除するボルトストアが含まれているボルトストアグループを選択します。
- 2 管理コンソールの右ペインに、グループのボルトストアの状態が表示されます。F5 をクリックして表示を更新します。右ペインに各ボルトストアの現在状態と、バックアップモードが設定されているかどうかが表示されます。状態が[利用可能]になっていて、バックアップモードが設定されていない場合のみ、ボルトストアを削除できます。
- 3 削除するボルトストアを右クリックし、ショートカットメニューの[削除]をクリックします。
- 4 警告ダイアログボックスで、[削除]をクリックします。

ボルトストアの状態が[削除対象マーク付き]に変更されます。

**Enterprise Vault** が最終的に削除を完了すると、リストからボルトストアが削除されます。

## システムメッセージの設定

システムメッセージは、ユーザーが **Enterprise Vault Web Access** アプリケーションを使うときに表示されます。このメッセージを使うと、たとえば、ハードウェアの変更のためにサービスが中断される予定の期間を示すことができます。

システムメッセージは、ショートカットを使ってアイテムを取り込んでいるユーザーには表示されず、**Enterprise Vault Web Access** アプリケーションを使って検索しているユーザーにのみ表示されます。このメッセージは、**Enterprise Vault** サイトのすべてのユーザーに提供されます。

### 管理コンソールからシステムメッセージを変更する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、適切なボルトサイトが表示されるまで階層を展開します。
- 2 ボルトサイトを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。

- 3 [サイトプロパティ]ダイアログボックスで、[全般] タブをクリックします。
- 4 必要に応じて [システムメッセージ] を編集します。
- 5 [OK] をクリックして変更を受け入れます。
- 6 IIS Admin Service を停止してから再起動し、変更を有効にします。

## インデックスボリュームについて

インデックスボリュームがいっぱいになると、Enterprise Vault は自動的に新しいボリュームを作成します。管理コンソールにあるアーカイブのプロパティの[詳細]タブに、インデックスボリュームの数が表示されます。

新しい各インデックスボリュームは、以前と同じインデックスルートパスには作成されません。新しいインデックスの場所は、インデックスサービスの空いているインデックスルートパスからランダムに選択されます。

通常のメールボックスアーカイブよりもファイルシステムアーカイブのアーカイブ、ジャーナルアーカイブ、パブリックフォルダアーカイブでロールオーバーが発生する可能性が高くなります。

Enterprise Vault 6.0 SP1 より前に作成されたロールオーバーアーカイブは、マスターアーカイブにマージされません。現在のロールオーバーアーカイブに引き続きアーカイブし、必要に応じてそのアーカイブのインデックスが複数のインデックスボリュームに展開されます。

## ディレクトリデータベースの移動

SQL Server のインスタンス間でディレクトリデータベースを移動できます。これは、再設定やディザスタリカバリに役立ちます。

### ディレクトリデータベースを移動する方法

- 1 新しい SQL Server に、ディレクトリデータベースを移動します。
- 2 ボルトサービスアカウントに新しいデータベースにアクセスするための適切な権限があることを確認します。  
  
『インストール/設定ガイド』の SQL ログインアカウントの作成に関するセクションを参照してください。
- 3 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault アイコンを右クリックします。
- 4 ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 5 [ディレクトリの SQL Server の変更]をクリックします。
- 6 新しい SQL Server を入力します。

## ボルトストアデータベースの移動

異なる SQL Server にボルトストアデータベースを移動できます。これは、再設定やディザスタリカバリに役立ちます。

### ボルトストアデータベースを移動する方法

- 1 Enterprise Vault ストレージサービスを停止します。
- 2 新しい SQL Server に、ボルトストアデータベースを移動します。
- 3 ボルトサービスアカウントに新しいデータベースにアクセスするための適切な権限があることを確認します。  
  
『インストール/設定ガイド』の SQL ログインアカウントの作成に関するセクションを参照してください。
- 4 管理コンソールで、データベースを移動したボルトストアを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 [データベース]タブをクリックします。
- 6 [SQL Server]フィールドで、新しい SQL Server の名前を入力します。
- 7 [OK]をクリックします。
- 8 Enterprise Vault ストレージサービスを再起動します。

## フィンガープリントデータベースの移動

必要に応じて、ディザスタリカバリ時などに、ボルトストアグループのフィンガープリントデータベースを別の SQL Server に移動できます。

フィンガープリントデータベースを移動する方法について詳しくは、ベリタスサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100019415>

## 監視データベースの移動

SQL Server のインスタンス間で監視データベースを移動できます。これは、再設定やディザスタリカバリに役立ちます。

### 監視データベースを移動する方法

- 1 新しい SQL Server に、EnterpriseVaultMonitoring データベースを移動します。
- 2 ボルトサービスアカウントに新しいデータベースにアクセスするための適切な権限があることを確認します。  
  
『インストール/設定ガイド』の SQL ログインアカウントの作成に関するセクションを参照してください。
- 3 SQL Enterprise Manager、SQL Query Analyzer、または同様のツールを使って、EnterpriseVaultMonitoring データベースをホストしている SQL Server に接続します。
- 4 次の SQL コマンドを入力して実行します。

```
USE EnterpriseVaultDirectory
```

```
UPDATE MonitoringSettings SET SQLServer = "New_SQL_Server"
```

*New\_SQL\_Server* は、新しい SQL Server の名前です。

## 監査データベースの移動

必要に応じて、たとえばディザスタリカバリの間に、異なる SQL Server に監査データベースを移動できます。データベースを移動したら、監査が有効になる各 Enterprise Vault サーバーで次の手順を完了してください。

### 監査データベースを移動する方法

- 1 新しい SQL Server に、監査データベースを移動します。
- 2 Enterprise Vault サーバーで、ODBC データソースアドミニストレータを使って EVAudit ODBC データソースで新しい SQL Server を選択します。
- 3 ODBC データソースアドミニストレータでのテストが可能になったら、データソースをテストします。

## ボルトサービスアカウントのパスワードの変更

ボルトサービスアカウントのパスワードを変更する場合、すべての Enterprise Vault サーバーで変更内容が更新されることが重要です。最善の方法は、ボルトサービスアカウントとしてログインしている間にパスワードを変更することです。

### ボルトサービスアカウントのパスワードを変更する方法

- 1 ボルトサービスアカウントとして管理コンソールを起動します。
- 2 左ペインで[Enterprise Vault]を展開します。
- 3 [ディレクトリ]を右クリックして[プロパティ]をクリックします。

- 4 [ディレクトリプロパティ]で、[サービスアカウント]タブをクリックします。
- 5 **Ctrl+Alt+Del** を押し、パスワードを変更するオプションを選択します。
- 6 アカウントのパスワードを変更し、[ディレクトリプロパティ]タブに戻ります。
- 7 [ディレクトリプロパティ]タブでパスワードを変更し、[OK]をクリックします。

# レコード管理のための Enterprise Vault の使用

この章では以下の項目について説明しています。

- レコード管理の導入
- レコードと非レコードについて
- Enterprise Vault でアイテムをレコードとしてマーク付けする方法
- 必要なレコードタイプの設定
- ユーザーのデフォルトのレコードタイプの設定
- 個々のアイテムのレコードタイプの変更をユーザーに許可する方法
- レコード管理のための分類機能の使用
- EVPM と分類機能の間で生じる可能性のある矛盾
- 一般的な設定シナリオ
- レコードとしてマーク付けされたアイテムのアーカイブ内での検索
- 1 つ以上のアーカイブのレコード管理設定の表示
- アーカイブからのアイテムのエクスポート

## レコード管理の導入

---

メモ: レコード管理を実行するには、Enterprise Vault 保持機能のライセンスが必要です。

---



この章では、Enterprise Vault を使ってアーカイブ済みアイテムにレコードとしてマーク付けする方法について説明します。このためには、Capstone や同様なレコード管理システムの必要条件を満たすようにします。

Capstone はアメリカ国立公文書記録管理局 (NARA) が提唱している電子メールなどの文書の管理方法です。Capstone の目的は、NARA が 2012 年に発行した [Managing Government Records Directive \(M-12-18\)](#) の要件を米国連邦機関が満たすことができるようにすることです。この指示に従い、連邦機関は可能なかぎり紙を排除し、電子的な記録管理方式を使う必要があります。また、永続レコードと一時レコードの両方をアクセス可能な電子形式で管理する必要もあります。

## レコードと非レコードについて

Capstone のレコード管理方式では、レコードは管理操作を記述するもの、または管理ビジネスを実行するために使われるものを表します。各レコードタイプは永続または一時のいずれかです。レコードの法的な定義を満たさないアイテムは、非レコードとして分類されます。

### 永続レコード

永続レコードは、米国国立公文書館に長期間保持する歴史的な価値があるレコードです。次のユーザーは、Capstone のガイドラインに従って、永続レコードとしてマーク付けするのにふさわしいアイテムを送受信する可能性があります。

- 上位の連邦機関または構成組織の関係者。
- 永続的価値があると推定される電子メールを定期的に作成または受信する他のスタッフメンバー。
- 永続的価値がある電子メールを作成または受信する他のユーザー。

米国国立公文書館では、代理機関が永続的アカウントの状態を割り当てるときに『United States Government Policy and Supporting Positions』(Plum Book)、『U.S. Government Manual』、その他のソースを参照することを推奨しています。この章では、「Capstone 関係者」は電子メールを永続レコードとしてマーク付けするのに適している可能性のあるユーザーを意味します。

レコード管理プロセスを簡素化するために、Capstone ではこのようなユーザーのアカウント内のすべての電子メールをデフォルトで永続レコードとして取り扱うよう推奨しています。ただし、Capstone は電子メールによっては保持する価値がない可能性があることを認めています。このような場合、アカウントユーザーは電子メールを非永続的としてマーク付けすることができます。

Capstone 方式では、連邦機関が永続レコードを米国国立公文書館に定期的に転送する必要があります。米国国立公文書館はレコードのセキュリティ上の分類に応じて、転送された永続レコードを公開することがあります。

## 一時レコード

一時レコードには政府またはビジネスの情報が含まれますが、価値は限定的である可能性があります。連邦機関はこのようなレコードを米国国立公文書館に転送しませんが、連邦機関の要求に基づいて一定期間維持する必要があります。

Capstone では、上位の政策立案者ではないが、レコードを構成する電子メールを送受信する可能性のあるユーザーに対して、すべての電子メールをデフォルトで一時レコードとしてマーク付けするよう推奨しています。ただし、このようなユーザーは特定の電子メールを永続レコードまたは非レコードとしてマーク付けすることができます。

この章では、「Capstone 非関係者」という用語は電子メールを一時レコードとしてマーク付けするのに適している可能性のあるユーザーを意味します。

## 非レコード

非レコードは、個人の電子メールや慈善活動への寄付依頼など、政府またはビジネスの情報を含まないアイテムを意味します。電子メールがデフォルトで永続レコードまたは一時レコードとしてマーク付けされているユーザーは、必要に応じて電子メールを非レコードとして個別にマーク付けすることもできます。

# Enterprise Vault でアイテムをレコードとしてマーク付けする方法

デフォルトでは、Enterprise Vault はアーカイブされたすべてのアイテムを非レコードとして処理します。ただし、Enterprise Vault がアーカイブ済みアイテムに割り当てる保持カテゴリを設定することで、この動作を変更することができます。Enterprise Vault がアイテムに保持カテゴリを割り当てると同時に、このアイテムに何らかのレコードとしてマーク付けするように各保持カテゴリを設定することができます。さまざまな一連の保持カテゴリをアイテムに割り当てることにより、各アイテムを適切なレコードタイプとしてマーク付けすることができます。

Enterprise Vault には、必要な保持カテゴリをアイテムに割り当てることによってアイテムをレコードまたは非レコードとしてマーク付けする方法がいくつか用意されています。たとえば、次の操作を実行できます。

- 1 つ以上の保持計画を作成し、それぞれを異なる保持カテゴリに関連付けます。次に、必要な保持計画を選択したユーザーのメールボックスに適用するためのプロビジョニンググループを複数設定します。  
たとえば、特定の Exchange ユーザーのすべてのアイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けするとします。アイテムを永続レコードとしてマーク付けし、アイテムに保持計画を関連付けて、その保持計画を Exchange プロビジョニンググループで定義された対象のメールボックスに適用するように、保持カテゴリを設定できます。同様な方法で、他のユーザーのアイテムに別のレコードタイプ（一時など）をマーク付けすることができます。

p.132 の「[ユーザーのデフォルトのレコードタイプの設定](#)」を参照してください。

- **Enterprise Vault Policy Manager (EVPN)** などの機能を使って、ユーザーメールボックスのフォルダごとに異なる保持カテゴリを割り当てます。その後、ユーザーは特定のメールボックスフォルダ内のアイテムをドラッグして別のフォルダにドロップすることで、これらのアイテムを永続レコード、一時レコード、または非レコードとしてマーク付けすることができます。

たとえば、特定のユーザーのすべてのアイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けする保持計画を適用したとします。これらのユーザーが選択したアイテムを一時レコードまたは非レコードとしてマーク付けできるようにするには、**EVPN** を使って「**Temporary Records**」と「**Personal**」というフォルダをメールボックスに追加します。「**Temporary Records**」フォルダにはアイテムを一時レコードとしてマーク付けする保持カテゴリが含まれていて、「**Personal**」フォルダにはアイテムをレコードとしてマーク付けしない保持カテゴリが含まれています。ユーザーはアイテムを適切なフォルダにドラッグアンドドロップして、アイテムのレコードタイプを変更できます。

p.136 の「[個々のアイテムのレコードタイプの変更をユーザーに許可する方法](#)」を参照してください。

- **Enterprise Vault** 分類機能を使うと、特定の基準と一致するアイテムに適切な保持カテゴリを割り当てることができます。

たとえば、クレジットカード番号などの個人を識別可能な情報が含まれているアイテムを検索し、該当するアイテムを非レコードとしてマーク付けする保持カテゴリに割り当てるように分類ルールを設定できます。

p.139 の「[レコード管理のための分類機能の使用](#)」を参照してください。

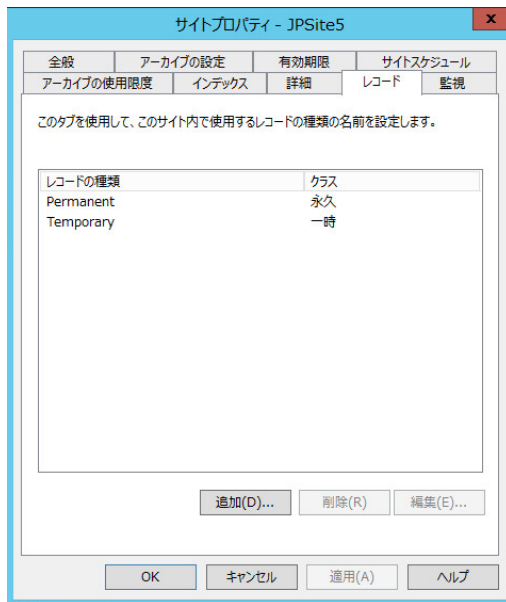
## 必要なレコードタイプの設定

**Capstone** では、アイテムを永続レコードまたは一時レコードとしてマーク付けするのが慣習です。普通のレコードとしてはマーク付けしません。管理を記録するためのこの単純な方式は、多くの場合に適切に機能しますが、異なる方法を採用した場合やより複雑な必要条件がある場合は、十分でない可能性があります。たとえば、特定のアイテムを、個人情報が含まれていてもレコードとしてマーク付けすることができます。

**Enterprise Vault** はアイテムを永続または一時レコードとしてマーク付けできる 2 つのレコードタイプを備えています。アイテムを永続または一時レコードとして追加するのに、追加のレコードタイプを設定することはできません。各タイプの 1 つのみが許可されます。ただし、その他の種類のレコードとしてアイテムをマーク付けするのに、任意の数のカスタムレコードタイプを設定することができます。それから、追加の各レコードタイプを保持カテゴリに関連付けて、それをレコードタイプでマーク付けする対象のアイテムに割り当てることができます。

### 必要なレコードタイプの設定方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを右クリックして[プロパティ]をクリックします。
- 2 [サイトプロパティ]ダイアログボックスで、[レコード]タブをクリックします。



- 3 次の 1 つ以上の操作をします。
  - [追加]をクリックして新しいレコードタイプを作成します。レコードタイプには、50 文字までの英数字または空白文字を含む一意の名前を付ける必要があります。
  - [削除]をクリックして選択したレコードタイプを削除します。永続および一時レコードタイプ、または保持カテゴリと関連付けたカスタムレコードタイプを削除することはできません。
  - [編集]をクリックして選択したレコードタイプの名前を変更します。

## ユーザーのデフォルトのレコードタイプの設定

さまざまなユーザーグループのデフォルトレコードタイプを設定するには、次の方法が効果的です。

- 1 つ以上の保持カテゴリを作成して、永続または一時など、必要とされるレコードタイプをアイテムにマーク付けします。

---

**メモ:** アイテムにレコードとしてマーク付けするよう、既存の保持カテゴリのプロパティを編集することができます。ただし、これらの保持カテゴリが割り当てられている既存のアイテムは自動的にレコードになります。

---

- 1 つ以上の保持計画を作成し (または既存の保持計画のプロパティを編集し)、各計画を新しい保持カテゴリの 1 つに関連付けます。
- 対象ユーザーに保持計画を適用します。

次のセクションでは、これらの操作の実行方法について説明します。

## 必要な保持カテゴリの作成

アイテムを永続的なレコード、一時的なレコードなどとしてマーク付けする保持カテゴリを複数作成できます。

---

**メモ:** 次の手順を実行するには、Enterprise Vault 保持機能のライセンスが必要です。

---

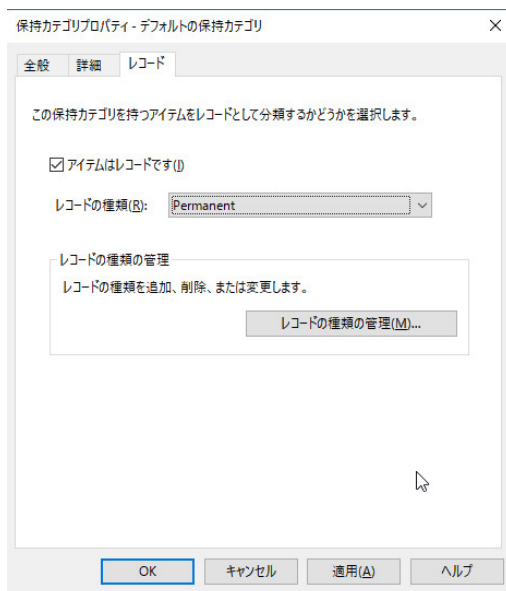
### 必要な保持カテゴリを作成する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [カテゴリ]コンテナを右クリックし、[新規]、[保持カテゴリ]の順にクリックします。
- 4 [新規保持カテゴリ]ウィザードの指示に従います。

保持カテゴリには、目的に応じて「Permanent Retention Category」または「Temporary Retention Category」などの名前を付けることができます。

- 5 ウィザードを終了したら、右側ペインの新しい保持カテゴリをダブルクリックしてプロパティを表示します。

- 6 [レコード]タブをクリックします。



- 7 この保持カテゴリを適用するアイテムにレコードとしてマーク付けする場合は、[アイテムはレコードです]を選択して、必要なレコードタイプを選択します。

[レコードタイプの管理]をクリックすることによって、選択対象のレコードタイプを修正できます。

- 8 作成する保持カテゴリごとに手順 1 から 7 までを繰り返します。

## 保持カテゴリと保持計画の関連付け

保持計画を使うと、必要な保持カテゴリなどの複数の保持設定を対象ユーザーのメールボックス内のアイテムに効果的に適用することができます。たとえば、アイテムを永続レコードとしてマーク付けする必要がある **Capstone** 関係者が複数識別されたとします。これらのユーザー専用の保持計画を作成し、これらのユーザーのアイテムに、アイテムを永続レコードとしてマーク付けする保持カテゴリを割り当てるように保持計画を設定することができます。他の保持カテゴリ (アイテムを一時レコードまたは非レコードとしてマーク付けするものなど) に、**Capstone** 非関係者や他のユーザーグループに適用する追加の保持計画を関連付けることができます。

保持計画を作成して、必要な保持カテゴリに関連付けるには、次の手順に従います。

### 保持計画の作成方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまでツリー表示を展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナ、[保持と分類]コンテナの順に展開します。
- 3 [計画]を右クリックして、[新規]をポイントして[保持計画]をクリックします。  
[新しい保持計画]ウィザードが表示されます。
- 4 ウィザードのページの手順に従って次のように入力します。
  - 新しい保持計画の名前。名前は一意である必要があり、最大 **40** 個の英数字記号とスペース文字を含めることができます。  
たとえば、保持計画の対象者がアイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けするユーザーである場合は、「**Capstone Official Plan**」という名前を付けることができます。保持計画の対象者がアイテムを一時レコードとしてマーク付けするユーザーである場合は、「**Capstone Temporary Plan**」という名前の保持計画を作成できます。
  - 計画の説明。説明は、最大 **127** 個の英数字、スペース、または特殊文字を含めることができます。
  - 必要な保持カテゴリ:たとえば、レコードタイプが永続または一時に設定されているもの。
  - 必要に応じて、Enterprise Vault で保持計画で処理するアイテムを分類する分類機能を使用できるようにするかどうかを指定します。アイテムを分類することを選択する場合、必要な分類ポリシーを選択する必要もあります。
  - 影響を受けるアイテムに割り当てる有効期限設定。

## 対象ユーザーへの保持計画の適用

保持計画を作成した後、1つ以上のアーカイブを適用できます。保持計画を次の機能のいずれかに関連付けることができるように、管理コンソールにはこれを行うための多数の方法が用意されています。

- Exchange、Domino、または IMAP プロビジョニンググループ
- Exchange ジャーナルアーカイブ、Domino ジャーナルアーカイブ、または SMTP アーカイブ
- FSA ボリュームまたはフォルダポリシー
- パブリックフォルダの対象
- SharePoint 対象またはサイトコレクション
- メールボックスの有効化ウィザードを実行することによってアーカイブを手動で有効にするメールボックス。

これらの各機能のドキュメントで、保持計画を関連付ける方法が説明されています。表 4-1 に、より一般的なアーカイブ対象と、これらに保持計画を関連付けるためのさまざまな方法を示します。

表 4-1 アーカイブ対象に保持計画を適用する方法

アーカイブ対象	保持計画を適用するには、以下を使います。
Exchange メールボックス	Exchange プロビジョニンググループ、メールボックスの有効化ウィザード、または PowerShell cmdlet Set-EVArchive。
Domino メールボックス	Domino プロビジョニンググループ、メールボックスの有効化ウィザード、または PowerShell cmdlet Set-EVArchive。
インターネットメール	クライアントアクセスプロビジョニンググループまたは PowerShell cmdlet Set-EVArchive。
SMTP	SMTP アーカイブのプロパティ設定、または PowerShell cmdlet Set-EVArchive。

保持計画を割り当てた後、対象のアーカイブに割り当てを適用するための適切なプロビジョニングタスクまたはアーカイブタスクを実行する必要があります。たとえば、Exchange プロビジョニンググループの場合は、Exchange プロビジョニングタスクを実行する必要があります。

## 保護計画と経過日数に基づくアーカイブについて

Enterprise Vault がユーザーのアイテムをアーカイブするときに効力がある保護計画は、Enterprise Vault がこれらのアイテムに割り当てる保持カテゴリと関連付けられたレコードタイプを決めます。アイテムをすぐにアーカイブするのではなく、アイテムが一定の期間を経過しているときにアイテムをアーカイブする選択をした場合、これは考慮事項になる可能性があります。

たとえば、数か月経過した後にはじめてアーカイブされるアイテムをユーザーが受信するとします。また、ユーザーがアイテムを受信する時点から Enterprise Vault がアーカイブするまでの期間で、ユーザーに適用されている保持計画を変更するとします。Enterprise Vault はアイテムをアーカイブするときに、古い保持計画ではなく新しい保持計画で指定された保持カテゴリと、関連付けられたレコードタイプを割り当てます。

# 個々のアイテムのレコードタイプの変更をユーザーに許可する方法

特定のユーザーのすべてのアイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けするように Enterprise Vault が設定されている場合に、これらのユーザーが、選択したアイテムを一時レコードまたは非レコードとして再分類できるようにしたいことがあります。同様に、



デフォルトのレコードタイプが一時に設定されているユーザーが、選択したアイテムを永続レコードまたは非レコードとしてマーク付けしなければならないことがあります。**Enterprise Vault Policy Manager (EVPM)** を使うと、ユーザーメールボックスのフォルダごとに異なる保持カテゴリを割り当てることができます。その後、ユーザーは特定のフォルダ内のアイテムをドラッグして別のフォルダにドロップすることで、これらのアイテムを永続レコード、一時レコード、または非レコードとしてマーク付けすることができます。

EVPM の使用方法について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドを参照してください。

## サンプル EVPM 初期設定ファイル

Mike Smith のすべてのアイテムをデフォルトで一時レコードとしてマーク付けするように Enterprise Vault が設定されているとします。次の EVPM 初期設定ファイルにより、Mike Smith の受信トレイ内に「Permanent Records」というフォルダが作成されます。「Permanent Records」フォルダには「Permanent Retention Category」という保持カテゴリが設定されているため、Mike Smith はアイテムを新しいフォルダに移動して、これらのアイテムを永続レコードとしてマーク付けすることができます。

```
[Directory]
DirectoryComputerName = evserver
SiteName = Site1

[Filter]
Name = Filter1
CreateShortcut = True
DeleteOriginal = True
UnreadMail = True
UseInactivityPeriod = True
InactivityUnits = Days
InactivityPeriod = 14

[Mailbox]
LDAPQuery = (cn=Mike Smith)

[Folder]
Name = ¥Inbox¥Permanent Records
FilterName = Filter1
RetentionCategory = Permanent Retention Category
OverrideArchiveLocks = True
```

次の例では、初期設定ファイルにより、アイテムがデフォルトで永続レコードとしてマーク付けされるユーザーのメールボックス内に 2 つのフォルダが作成されます。1 つのフォルダは一時レコード用で、もう 1 つのフォルダは非レコード用です。

```
[Directory]
DirectoryComputerName = evserver
SiteName = Site1

[Filter]
Name = Filter1
CreateShortcut = True
DeleteOriginal = True
UnreadMail = True
UseInactivityPeriod = True
InactivityUnits = Days
InactivityPeriod = 14

[Mailbox]
LDAPQuery= (cn=Anne Tyler)

[Folder]
Name= ¥Inbox¥Temporary Records
FilterName= Filter1
RetentionCategory= Temporary Retention Category
OverrideArchiveLocks= True

[Folder]
Name= ¥Inbox¥Personal
FilterName= Filter1
RetentionCategory= Non Record Category
OverrideArchiveLocks= True
```

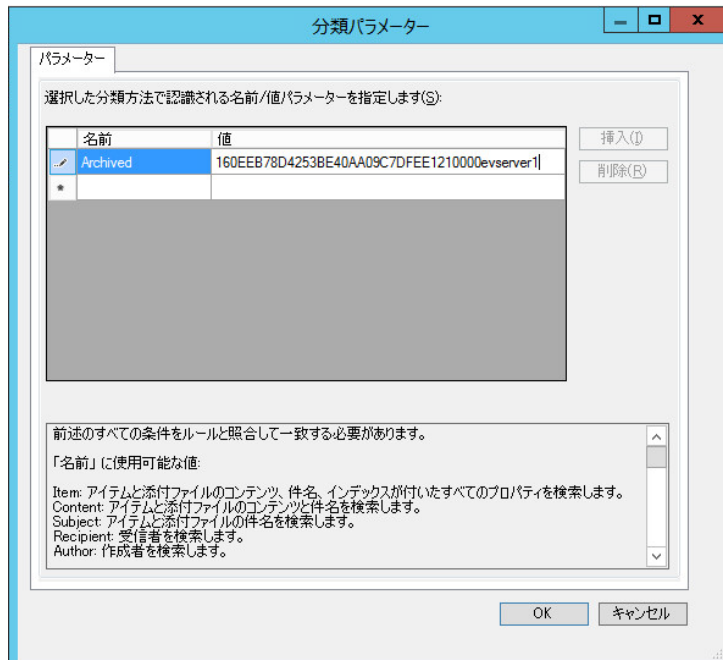
## EVPM を使ってレコード管理用のフォルダを設定する場合の注意 点

- アーカイブされていないアイテムを新しいフォルダの 1 つに移動すると、Enterprise Vault はメールボックスアーカイブタスクを実行するときに適切な保持カテゴリを適用します。一方、ショートカット (アーカイブ済みアイテム) をフォルダの 1 つに移動すると、Enterprise Vault は次にショートカットを処理するときに新しい保持カテゴリを適用します。この動作は、サイトプロパティの[アーカイブの設定]タブの保持カテゴリ設定を使って制限できます。
- フォルダの保持カテゴリが他のポリシー設定によって上書きされないようにするには、EVPM 初期設定ファイルで **OverrideArchiveLocks** を **true** に設定することが重要です。

## レコード管理のための分類機能の使用

Enterprise Vault 分類機能を使うと、特定の基準と一致するアイテムに適した保持カテゴリを割り当てることができます。たとえば、クレジットカード番号などの個人を識別可能な情報をアイテム内で検索し、該当するアイテムを非レコードとしてマーク付けする保持カテゴリに割り当てるように分類ルールを設定できます。

また、特定のアーカイブ内のすべてのアイテムを永続レコードとしてマーク付けするとします。そのためには、各アイテムの **archiveid** プロパティを調べる分類ルールを設定し、このプロパティが指定したアーカイブ ID と一致する場合に、アイテムを永続レコードとしてマーク付けする保持カテゴリを割り当てることができます。**Veritas Information Classifier** 方式を使ってアイテムに **evtag.category** プロパティを割り当てるルールでは、次のような適切なパラメータを設定することができます。



このようなルールを使うと、アーカイブ内の既存のアイテムを再分類して、アイテムをレコードとしてマーク付けすることができます。

アイテムが複数の分類ルールに一致するため、これらのすべての分類ルールが、そのアイテムへの保持カテゴリの割り当てを巡って競合する場合があります。この場合、アイテムをレコードとしてマーク付けする保持カテゴリは、そうでない保持カテゴリよりも優先します。アイテムを永続レコードとしてマーク付けする保持カテゴリは、一時レコードとしてマーク付けする保持カテゴリよりも優先します。また、それらは他のあらゆる種類のレコードとしてアイテムをマーク付けする保持カテゴリよりも優先します。

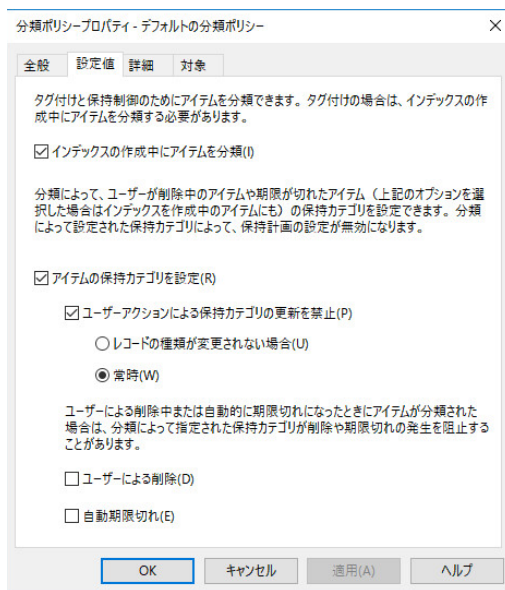
Enterprise Vault の分類機能の使用方法について詳しくは、『分類』ガイドを参照してください。

## EVPM と分類機能の間で生じる可能性のある矛盾

Enterprise Vault Policy Manager (EVPM) を使ってメールボックスフォルダごとに異なる保持カテゴリを割り当てると、ユーザーが個々のアイテムのレコードタイプを変更できるようになるので便利です。ユーザーはアイテムをフォルダ間で移動して、保持カテゴリや、各アイテムに関連付けられたレコードタイプを変更することができます。ただし、この方法には、分類機能によってアイテムに割り当てられた保持カテゴリが上書きされるという欠点があります。したがって、デフォルト以外の保持カテゴリを個々のアイテムに割り当てるには、EVPM と分類機能の両方ではなく、いずれかを選択することをお勧めします。

レコード管理に分類機能を使う場合は、移動されたアイテムの保持カテゴリの更新を常に防止するように分類ポリシーを設定することをお勧めします。図 4-1 に、これを行う方法を示します。

図 4-1 [分類ポリシープロパティ] ダイアログボックスの [設定] タブ



## 一般的な設定シナリオ

このセクションでは、アイテムをデフォルトで永続レコードとしてマーク付けするユーザーを Capstone 関係者として設定する方法や、デフォルトのレコードタイプが一時であるユーザーを Capstone 非関係者として設定する方法について、例をいくつか示します。

## ユーザーを Capstone 関係者として設定し、すべてのアイテムを永続レコードとしてマーク付けする方法

次の手順では、選択したユーザーを **Capstone** 関係者として設定し、すべてのアイテム (既存アイテムと新規にアーカイブしたアイテムの両方) を永続レコードとしてマーク付けして米国国立公文書館に送信する方法について説明します。この手順では **Microsoft Exchange** ユーザーを例として使いますが、他の種類のユーザーに合わせて簡単に調整することができます。

### ユーザーを **Capstone** 関係者として設定し、すべてのアイテムを永続レコードとしてマーク付けする方法

- 1 「Permanent Retention Category」のような保持カテゴリを作成します。関連するアイテムが **Enterprise Vault** によって永続レコードとしてマーク付けされるように保持カテゴリを設定します。
- 2 「Capstone Official Plan」のような保持計画を作成します。次のように保持計画を設定します。
  - 保持カテゴリを手順 1 で作成した保持カテゴリ (「Permanent Retention Category」) に設定します。
  - アイテムを分類する選択は行わないでください。
  - 保持計画で設定した保持カテゴリに従ってアイテムを期限切れにするように選択します。
- 3 「Capstone Officials」のようなプロビジョニンググループを作成します。次のようにプロビジョニンググループを設定します。
  - **Capstone** 関係者のリストを対象として追加します。
  - [アーカイブ処理]プロパティ内で[全体ロック]機能を有効にした **Exchange** メールボックスポリシーを選択します。
  - 手順 2 で作成した保持計画 (「Capstone Official Plan」) を選択します。
- 4 **Exchange** プロビジョニングタスクを実行し、保持設定を **Capstone** 関係者に適用します。
- 5 メールボックスを同期します。これを行うには、**Exchange** メールボックスアーカイブタスクのプロパティダイアログボックスを開き、[同期]タブの[同期]をクリックします。
- 6 アーカイブ対象メールボックスをまだ有効にしていない場合は、有効にします。

## ユーザーを Capstone 関係者として設定し、分類を使って永続レコードセットから特定のアイテムを除外する方法

この前のセクションでは、**Capstone** 関係者のすべてのアーカイブ済みアイテムを永続レコードとしてマーク付けする方法について説明しました。ただし、アイテムには重要でない

情報や個人情報が含まれているため、すべてのアイテムを米国国立公文書館に送信するのは適切でないことがあります。分類機能を使うと、このようなアイテムを検索し、一時レコードまたは非レコードとしてマーク付けするよう Enterprise Vault に指示することができます。次の手順では、この方法について説明します。この手順では SMTP ユーザーを例として使いますが、他の種類のユーザーに合わせて簡単に調整することができます。

Enterprise Vault がアイテムのインデックス処理と分類を行っているときに、次の手順を実行すると、保持カテゴリ「Permanent Retention Category」がアイテムに割り当てられて、永続レコードとしてマーク付けされます。ただし、分類ルールと一致するアイテムには異なる保持カテゴリが適用されるため、これらは一時レコードまたは非レコードとしてマーク付けされます。

Enterprise Vault の分類機能の使用方法については、『分類』ガイドを参照してください。

ユーザーを **Capstone** 関係者として設定し、分類を使って永続レコードセットから特定のアイテムを除外する方法

- 1 「Permanent Retention Category」のような保持カテゴリを作成します。関連するアイテムが Enterprise Vault によって永続レコードとしてマーク付けされるように保持カテゴリを設定します。
- 2 「Temporary Retention Category」のような保持カテゴリを作成します。関連するアイテムが Enterprise Vault によって一時レコードとしてマーク付けされるように保持カテゴリを設定します。
- 3 永続レコードとしてマーク付けしないアイテムに適した保持カテゴリを適用するための分類ルールをいくつか作成します。これらのルールの内容は、次のとおりです。
  - 一時レコードとしてマーク付けするアイテムに関するルール。たとえば、既知のアドレスやドメインに送受信されたアイテムや、永続レコードを構成しないアイテムなどが該当します。  
この場合は、対応するアイテムのプロパティ値として保持カテゴリ「Temporary Retention Category」を割り当てるようにルールを設定する必要があります。
  - レコードとしてマーク付けしないアイテムに関するルール。この分類には、クレジットカード番号などの個人情報を含むアイテムなどが該当する可能性があります。  
この場合は、アイテムをレコードとしてマーク付けしない保持カテゴリの名前をプロパティ値として割り当てるようにルールを設定する必要があります。
- 4 オプション[アーカイブ中またはインデックス作成中にアイテムを分類]と[アイテムの保持カテゴリを設定]が両方とも有効になっている分類ポリシーを作成します。
- 5 「Capstone Official Plan」のような保持計画を作成します。次のように保持計画を設定します。
  - 保持カテゴリを手順 1 で作成した保持カテゴリ（「Permanent Retention Category」）に設定します。
  - 手順 4 で作成した分類ポリシーに従ってアイテムを分類するように選択します。

- 6 SMTP アーカイブを作成するか、既存の SMTP アーカイブのプロパティを編集して、手順 5 で作成した保持計画 (「Capstone Official Plan」) を SMTP アーカイブに割り当てます。
- 7 アーカイブに関連付けされた SMTP ターゲットアドレスをまだ追加していない場合は、追加します。

## ユーザーを Capstone 非関係者として設定する方法

次の手順では Capstone 非関係者のアイテムをデフォルトで一時レコードとしてマーク付けしますが、これらのユーザーは選択したアイテムを永続レコードとして指定することもできます。いくつか変更すれば、同様な手順を実行して Capstone 関係者のアイテムをデフォルトで永続的なレコードとしてマーク付けすることができますが、これらの関係者は選択したアイテムを一時レコードまたは非レコードとして指定することができます。

### ユーザーを Capstone 非関係者として設定する方法

- 1 「Permanent Retention Category」のような保持カテゴリを作成します。関連するアイテムが Enterprise Vault によって永続レコードとしてマーク付けされるように保持カテゴリを設定します。
- 2 「Temporary Retention Category」のような保持カテゴリを作成します。関連するアイテムが Enterprise Vault によって一時レコードとしてマーク付けされるように保持カテゴリを設定します。
- 3 「Capstone Temporary Plan」のような保持計画を作成します。次のように保持計画を設定します。
  - 保持カテゴリを手順 2 で作成した保持カテゴリ (「Temporary Retention Category」) に設定します。
  - アイテムを分類する選択は行わないでください。
  - この保持計画で設定した保持カテゴリでなく、現在の保持カテゴリに従ってアイテムを期限切れにするように選択します。
- 4 「Capstone Non-Officials」のようなプロビジョニンググループを作成します。次のようにプロビジョニンググループを設定します。
  - Capstone 非関係者のリストを対象として追加します。
  - [アーカイブ処理]プロパティ内で[全体ロック]機能を有効にした Exchange メールボックスポリシーを選択します。
  - 手順 3 で作成した保持計画 (「Capstone Temporary Plan」) を選択します。
- 5 Exchange プロビジョニングタスクを実行し、保持設定を Capstone 非関係者に適用します。
- 6 メールボックスを同期します。これを行うには、Exchange メールボックスアーカイブタスクのプロパティダイアログボックスを開き、[同期]タブの[同期]をクリックします。

- 7 Enterprise Vault Policy Manager (EVPN) を使って、保持カテゴリが「Permanent Retention Category」に設定されている各対象メールボックス内にフォルダを作成します。これは、ユーザーが永続レコードとして指定するアイテムの移動先となるフォルダです。  
  
p.136 の「個々のアイテムのレコードタイプの変更をユーザーに許可する方法」を参照してください。
- 8 アーカイブ対象メールボックスをまだ有効にしていない場合は、有効にします。

## レコードとしてマーク付けされたアイテムのアーカイブ内での検索

アイテムにレコードとしてマーク付けするために、Enterprise Vault はアイテムの複数のメタデータプロパティにレコード情報をバビュレートします。表 4-2 にこれらのプロパティの説明を示します。

表 4-2 レコードのメタデータプロパティ

プロパティ	短い形式	指定内容
isrecord	isrc	Enterprise Vault がアイテムをレコードとしてマーク付けした (True) かしなかった (False) かを示します。
recordid	rcid	アイテムの一意のレコード ID。これは、次のような文字、数字、記号からなる文字列です。  201602221649270000~0~9039eb282e3d4083b79f3298dc8a1e60
recordtype	rtyp	レコードタイプ: 永続または一時など。  recordtype プロパティがあるのは、Enterprise Vault がレコードとしてマーク付けしたアイテムのみです。それ以外のアイテムにはありません。

Enterprise Vault Search、Compliance Accelerator、または Discovery Accelerator を使って検索すると、Enterprise Vault がレコードとしてマーク付けしたアイテムのみが表示されるように結果をフィルタ処理できます。たとえば、Enterprise Vault Search の簡易検索ボックスに入力できるクエリーの一部を次に示します。

isrc:True	レコードとしてマーク付けされたすべてのアイテムを検索します。
isrc:False	すべての非レコードタイプアイテムを検索します。
rcid:record_id	指定したレコード ID を持つアイテムを検索します。
rtyp:permanent	永続レコードとしてマーク付けされたすべてのアイテムを検索します。



rtyp:temporary

一時レコードとしてマーク付けされたすべてのアイテムを検索します。

## Enterprise Vault Search の詳細検索機能を使ってレコードを検索する方法

Enterprise Vault Search を使って詳細検索を実行する場合は、カスタムテキストフィールドに必要な条件を入力して、レコードとしてマーク付けされたアイテムを検索することができます。たとえば、次のクエリーは Enterprise Vault が永続的なレコードとしてマーク付けしたすべてのアイテムを検索します。



Enterprise Vault Search

cc666 > Inbox

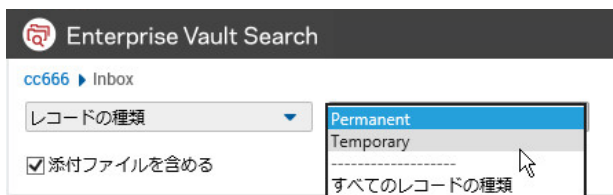
rtyp 次のいずれかを含む permanent

☒ 添付ファイルを含める

Enterprise Vault Search のオンラインヘルプに、詳細検索のカスタムフィールドの表示をまだオンにしていない場合にオンにする方法が示されています。

## 詳細検索ユーザーのレコード検索を簡易化する方法

Enterprise Vault の役割で組織内の他のユーザーの検索ポリシーを定義できる場合は、Enterprise Vault Search の機能を拡張してユーザーのレコード検索を簡易化することができます。検索ポリシーを通してユーザーに設定できる機能には、次のように、詳細検索のドロップダウンリストからレコードのプロパティや値を選択するためのオプションなどがあります。



Enterprise Vault Search

cc666 > Inbox

レコードの種類

☒ 添付ファイルを含める

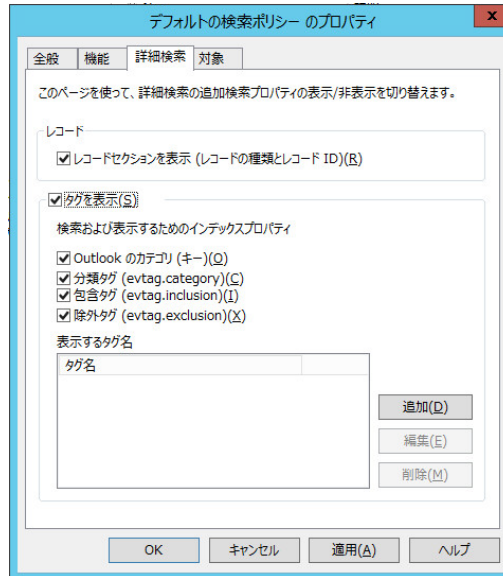
Permanent  
Temporary  
-----  
すべてのレコードの種類

これを使うと、カスタムフィールドの表示をオンにして、検索するプロパティの名前や値を入力する手間が省けます。次の手順では、ドロップダウンリストで利用できる追加オプションの作成方法を示します。検索ポリシーの定義方法について詳しくは、『インストール/設定』ガイドを参照してください。

詳細検索ユーザーのレコード検索を簡易化するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [ポリシー]コンテナを展開します。

- 3 [検索]コンテナをクリックします。
- 4 右ペインで変更する検索ポリシーを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 5 [詳細検索]タブをクリックします。



- 6 [レコードセクションを表示]を選択します。

## 結果ペインにレコードタイプと ID を表示するための Enterprise Vault Search のカスタマイズ

デフォルトでは、Enterprise Vault Search の結果ペインに検索条件と一致するレコードタイプと ID は表示されません。ただし、次の手順に従うと、結果ペインに 2 つの列を追加してレコード情報を表示することができます。

結果ペインにレコードタイプと ID を表示するように Enterprise Vault Search をカスタマイズする方法

- 1 検索を実行して、結果ペインにアイテムの一部をポピュレートします。  
結果ペインが空の間は列をカスタマイズできません。
- 2 結果ペインでは、列ヘッダーを右クリックし、次に[列]をポイントします。  
ドロップダウンリストが表示されます。
- 3 [列のカスタマイズ]をクリックします。

- 4 [列のカスタマイズ]ダイアログボックスで、次に示す 2 つのプロパティを追加します。

プロパティ名	列ヘッダー	順序
<input checked="" type="checkbox"/> msgc	アイテムの種類	
<input type="checkbox"/> impo	重要度	
<input checked="" type="checkbox"/> natc	添付ファイル	
<input checked="" type="checkbox"/> auth	差出人	
<input checked="" type="checkbox"/> subj	件名	
<input checked="" type="checkbox"/> date	受信日	
<input checked="" type="checkbox"/> size	サイズ	
<input checked="" type="checkbox"/> clif	フォルダ	
<input type="checkbox"/> flag	フラグ	
<input type="checkbox"/> recordtype	レコードの種類	
<input type="checkbox"/> rcid	レコード ID	

ヘルプ リセット 完了

- 5 [完了]をクリックします。

## 1 つ以上のアーカイブのレコード管理設定の表示

Enterprise Vault には、1 つ以上のアーカイブ内のレコード管理設定に関する情報を取得できる、Get-EVRecordSettings という PowerShell cmdlet が用意されています。この cmdlet を実行すると、各アーカイブ内で次の情報を判別できます。

- アーカイブに適用された保持計画
- 保持計画に関連付けられている保持カテゴリの名前と ID。
- 保持カテゴリに関連付けられているレコードタイプ: 永続、一時、またはなし

この cmdlet には、情報が提供されるアーカイブのリストをフィルタ処理する際に使うことができる、さまざまなオプションパラメータが用意されています。たとえば、特定の保持計画や保持カテゴリを持つアーカイブ、またはデフォルトのレコードタイプ (永続) であるアーカイブに出力を制限することができます。

Get-EVRecordSettings の実行方法のガイドラインについては、『PowerShell Cmdlets』ガイドを参照してください。

# アーカイブからのアイテムのエクスポート

採用しているレコード管理システムによって、長期間他の場所で保持するためにアーカイブからアイテムをエクスポートしなければならない可能性があります。たとえば、Capstone のレコード管理方式では、永続レコードを米国国立公文書館に定期的に転送するのが慣習になっています。次の Web ページにこれらの転送方法のガイダンスが示されています。

<http://www.archives.gov/records-mgmt/policy/transfer-guidance.html>

米国国立公文書館は一時レコードや非レコードには関心がないため、転送する必要はありません。

Enterprise Vault には、選択したアイテムをアーカイブからエクスポートするときに使うことができる PowerShell cmdlet が 2 つ用意されています。表 4-3 にこれらの cmdlet の説明を示します。

表 4-3                      アイテムをエクスポートするための PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Export-EVArchive	<p>指定したアーカイブからアイテムをエクスポートします。エクスポート対象を指定した検索条件に一致するアイテムに制限できます。たとえば、先月に受信、送信、または作成されたアイテムのみをエクスポートすることができます。</p> <p>EML や PST を含む一連の形式のアイテムをエクスポートするように選択できます。デフォルトでは、各アイテムが元の形式でエクスポートされます。Microsoft Exchange アイテムの場合は MSG、SMTP アイテムの場合は EML、テキストファイルの場合は TXT のようになります。</p>

cmdlet	説明
Export-EVNARAArchive	<p>Enterprise Vault が永続的なレコードとしてマーク付けしたアイテムのみをエクスポートします。指定した日付範囲内に収まるか、指定した検索基準に一致するレコードにエクスポート対象を制限できます。Export-EVArchive と同じように、一連の形式のアイテムをエクスポートできます。</p> <p>Export-EVNARAArchive は、カンマ区切り値 (.csv) 形式のロードファイルも作成します。ユーザーはこのファイルをアイテムと一緒に国立公文書記録管理局に送信することができます。この cmdlet によって正常にエクスポートされた各アイテムに対して、ロードファイルは次の情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ エクスポートされたアイテムのファイル名。PST へのエクスポートの場合、ロードファイルには PST ファイルの名前が示されています。</li><li>■ レコード ID。</li><li>■ タイトル。メッセージの場合は件名行です。その他のアイテムの場合は、元のファイル名です。</li><li>■ アイテムのインデックス付きコンテンツから取得された説明。デフォルトでは、Enterprise Vault は各アイテムのコンテンツ全体にインデックスを付けて、最初の 128 文字を検索結果に表示するプレビュー文字列として処理します。ロードファイルに示されるのはこの文字列です。ただし、サイトまたはアーカイブレベルでインデックスを設定してプレビューの長さを大きくしたり、アイテムのコンテンツにインデックスを付けない簡易インデックスに切り替えたりできます。これらの設定に行った変更は、ロードファイルに示された説明に反映されています。</li><li>■ アイテムの作成者。</li><li>■ アイテムを作成した日付。</li><li>■ PST フォルダ構造内のアイテムの場所 (PST へのエクスポートの場合のみ)。</li></ul>

これらのコマンドの実行方法については、『PowerShell Cmdlet』ガイドを参照してください。

# 自動的にイベントをフィルタ処理

この章では以下の項目について説明しています。

- イベントのフィルタについて

## イベントのフィルタについて

**Enterprise Vault** イベントフィルタは **Enterprise Vault** により作成されるイベントのログエントリの数を減らす機能です。

イベントフィルタが有効の場合、**Enterprise Vault** は最近ログに記録された他のイベントの繰り返しのイベントを抑止します。イベントフィルタはデフォルトで有効です。

デフォルトでは、イベントフィルタは情報イベントを抑止しません。フィルタ処理を、特定の情報イベントに対して有効にするか、またはすべての情報イベントに対して有効にするか、選択することができます。すべてのイベントに対しフィルタ処理を有効にした場合、**Enterprise Vault** はタスクの進捗状況のトレースに役立つイベントは抑止しません。たとえば、イベントフィルタは **PST** 移行の進捗状況のトレースを可能にする情報イベントを抑止しません。

イベントフィルタは **DTrace** には影響しません。抑止されたためにイベントログに表示されないイベントも含めて、すべてのイベントが **DTrace** に書き込まれます。トレースを使う必要がある場合、イベントフィルタを無効にする必要はありません。

## イベントフィルタによって生成されるイベント

イベントフィルタが有効の場合、**Enterprise Vault** は次に示す追加イベントを自動的に生成します。

- イベント **4257** (イベントフィルタ設定の変更時や管理サービスの起動時)。このイベントはイベントフィルタの設定の概略を示します。

- イベント **4254** (重大なエラー)、**4255** (重大な警告)、**4256** (情報)。このイベントは 15 分ごとに生成され、直前の 15 分間にフィルタ処理されたイベントの概略を示します。このイベントの重大度は、抑止されている最も重大度の高いイベントの重大度と同じです。抑止されているイベントがない場合、イベントはログに記録されません。
- イベント **4258** (重大な情報) または **4259** (重大な情報)。このイベントは、イベントフィルタが無効にされたときと、管理サービスがシャットダウンされたときに生成されます。このイベントは抑止されているイベントの概略を示します。

## イベントフィルタの設定

デフォルトではイベントフィルタは有効です。イベントフィルタを無効にするか、設定する場合、該当する **Enterprise Vault** サーバーの次の場所でレジストリ値を作成する必要があります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Event Filter
```

表 5-1 に、イベントフィルタを制御するために作成できるレジストリ値を示します。

表 5-1 イベントフィルタを制御するレジストリ値

名前	説明	[設定]
AllInfosSuppressible	情報イベントを抑止するかどうかを次のように制御します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 0 に設定した場合、<b>SuppressibleInfoEventIDs</b> で指定した情報イベントを除くすべての情報イベントは抑止されません。</li><li>■ 1 に設定した場合、情報イベントは抑止されます。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>■ タイプ: DWORD</li><li>■ デフォルト: 0</li><li>■ 値: 0 または 1</li></ul>

名前	説明	[設定]
Enabled	<p>イベントフィルタの有効および無効を制御します。イベントフィルタが有効の場合、<b>Enterprise Vault</b> は最近ログに記録された他のイベントの繰り返しのイベントを抑止します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 0 に設定した場合、イベントフィルタは無効になります。</li> <li>■ 1 に設定した場合、イベントフィルタは有効になります。イベントフィルタはデフォルトで有効です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: DWORD</li> <li>■ デフォルト: 1</li> <li>■ 値: 0 または 1</li> </ul>
MaxEventsInSequence	イベントが抑止される前に連続して生成できるイベントの最大数。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: DWORD</li> <li>■ デフォルト: 12</li> <li>■ 値: 2 から 100</li> </ul>
MaxSecsBetweenEventsInSequence	同じシーケンスの一部として扱うイベントの間の最大時間の違い。発生する頻度の高いイベントを抑止することができます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: DWORD</li> <li>■ デフォルト: 180 (秒)</li> <li>■ 値: 1 から 86400 (1 日)</li> </ul>
NeverSuppressEventIDs	何回生成されても <b>Enterprise Vault</b> で抑止しないイベント ID のセミコロン区切りの一覧。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: 文字列</li> <li>■ デフォルト: なし</li> </ul>
ReportConfigPeriodMinutes	<p>次のことを判断する分単位の時間間隔。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 構成変更の確認頻度。</li> <li>■ イベントフィルタ処理の概略を示すイベントの生成頻度。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: DWORD</li> <li>■ デフォルト: 15 (分)</li> <li>■ 値: 1 から 1440 (1 日)</li> </ul>
SuppressibleInfoEventIDs	<b>AllInfosSuppressible</b> が 0 に設定されている場合に <b>Enterprise Vault</b> が抑止する情報イベントの ID のセミコロン区切りの一覧。	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ タイプ: 文字列</li> <li>■ デフォルト: なし</li> </ul>

## イベントフィルタの例

イベントフィルタの例:

- イベントフィルタの概略イベントをデフォルトの 15 分ごとではなく 10 分ごとに生成するには、**ReportConfigPeriodMinutes** を 10 に設定します。
- イベント 1234、5678、4133 を抑止しないように指定するには、**NeverSuppressEventIDs** を次のように設定します。

1234;5678;4133



# インデックスの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [インデックスウィザードについて](#)
- [インデックス処理の除外の管理](#)
- [インデックスボリュームの表示](#)
- [PowerShell cmdlet のインデックス付けについて](#)

## インデックスウィザードについて

Enterprise Vault には、インデックスボリュームの管理に使用可能な次のウィザードがあります。これらのウィザードはすべて[インデックスの管理ウィザード]で使うことができます。

アップグレードウィザード

32 ビットインデックスボリュームを 64 ビットにアップグレードするには、アップグレードウィザードを使用します。

確認ウィザード

インデックスボリュームがアクセス可能で健全であり、最新であることを調べるには、確認ウィザードを使います。

同期ウィザード

インデックスボリュームを同期し、既知の問題を修正するには、同期ウィザードを使用します。

再構築ウィザード

インデックスを完全に再構築するには再構築ウィザードを使います。再構築ウィザードでは、検出された 32 ビットインデックスボリュームのアップグレードも実行されます。

場所の変更ウィザード

新しい場所にインデックスを移動するには場所の変更ウィザードを使います。

p.159 の「[インデックスウィザードの使用](#)」を参照してください。

## インデックスタスクとサブタスクについて

インデックスウィザードを実行すると、1 つ以上のインデックスボリュームに対して同時処理を実行するインデックスタスクが作成されます。各タスクには、関連するサブタスクが 1 つ以上存在します。処理される各インデックスボリュームに対して、インデックスサブタスクが 1 つあります。

タスクとサブタスクは、Enterprise Vault のインデックス管理タスクによって制御します。インデックスタスクとサブタスクは、[インデックスタスクの監視] ページで表示および管理できます。

p.160 の「[インデックスタスクの管理](#)」を参照してください。

インデックスウィザードを使って、関連付けられている未完了のインデックスサブタスクが他にあるアーカイブ、インデックスボリューム、およびインデックスの場所に対して新しいタスクを作成することはできないので注意してください。アーカイブ、インデックスボリューム、およびインデックスの場所は、関連付けられているインデックスタスクを持っていないか、追加のタスクを送信する前に完了済みのインデックスタスクのみを持っている必要があります。

新しいタスクを追加できない状況の例を以下に示します。

- 既存のタスクが関連付けられているアーカイブは新しいタスクに追加できません。アーカイブに複数のインデックスボリュームが関連付けられている場合があることに注意してください。これらのインデックスボリュームの中にタスクに関連付けられたものが 1 つでもあれば、そのアーカイブは新しいタスクに追加できません。
- インデックスボリュームがすべて 1 つのアーカイブに属する場合は、異なるインデックスの場所でホストできます。この場合、1 つのアーカイブのみに関連付けられているタスクによって作成したタスクでは、インデックスウィザードで複数のインデックスの場所を利用できなくなることがあります。
- インデックスウィザードによっては、空のインデックスの場所を選択できません。たとえば、空の移動元インデックスの場所には移動できるインデックスボリュームがないため、場所を変更ウィザードでは選択できません。
- 場所を変更ウィザードの場合は、場所を変更タスクが完了するまで、移動元の場所と移動先の場所を選択できません。

インデックスウィザードでアーカイブとインデックスボリュームを検索すると、デフォルトでは、検索結果にはタスクがすでに関連付けられているアーカイブとインデックスボリュームが含まれます。選択が可能なアーカイブとインデックスボリュームのみを表示する場合は、タスクが関連付けられているものを除外して検索できます。

アーカイブ、インデックスボリューム、およびインデックスの場所に対して新しいタスクを追加する場合は、まずそのタスクの完了を待つ必要があります。[インデックスタスクの監視] ページとそのサブタスクビューを使って、タスクの進捗状況を確認してください。

タスクまたはサブタスクの完了まで待てない場合は、まず既存の関連タスクを停止した後  
に削除する必要があります。[インデックスタスクの監視] ページとそのサブタスクビュー  
を使って、タスクの進捗状況を確認してください。

失敗したタスクも削除しないと、影響を受けるアーカイブ、インデックスボリューム、および  
インデックスの場所に対して新しいタスクをサブミットできないことに注意してください。

## インデックスサブタスクの削除の設定

Enterprise Vault では、エラーなしで完了したインデックスサブタスクや警告ありで完了  
したインデックスサブタスクは自動的に削除されます。デフォルトでは、これらのサブタス  
クは完了後 7 日を経過すると削除されます。失敗したサブタスクは自動的に削除され  
ません。

サブタスクが削除されるまでの日数は Enterprise Vault のサイトプロパティで変更できま  
す。

### インデックスサブタスクが削除されるまでの日数を変更する方法

- 1 管理コンソールで、[サイトプロパティ]を開きます。
- 2 [インデックス] タブをクリックします。
- 3 [インデックスサブタスクの削除のタイミング] の値を変更します。

## アップグレードウィザードについて

アップグレードウィザードを使うと 32 ビットのインデックスボリュームを 64 ビットにアップグ  
レードできます。ウィザードを使って、64 ビットにアップグレードするインデックスボリ  
ュームのアーカイブを選択します。選択できるのは 32 ビットのインデックスボリュームを 1 つ  
以上含むアーカイブだけです。

アップグレード中も 32 ビットのインデックスボリュームは検索可能なので、ユーザーには  
影響しません。

---

**メモ:** Enterprise Vault の新しいインストールなど 32 ビットのインデックスボリュームがな  
い場合、アップグレードウィザードは[インデックスの管理ウィザード]に表示されません。

---

Enterprise Vault 9 以前によって作成されたアーカイブには、1 つ以上の 32 ビットのイン  
デックスボリュームがあります。ジャーナルアーカイブには、通常、複数のインデックス  
ボリュームがあります。メールボックスアーカイブなどの他の種類のアーカイブには、通  
常、インデックスボリュームが 1 つだけあります。

すべてのアーカイブの種類に対して、Enterprise Vault アップグレードによって古い 32  
ビットのインデックスボリュームは閉じられ、各アーカイブに新しい実行中の 64 ビットのイン  
デックスボリュームが作成されます。以降、ユーザーがアーカイブを検索すると、

Enterprise Vault は 32 ビットのインデックスボリュームおよび 64 ビットのインデックスボリュームからの内容を使用します。

アップグレードウィザードを使って 32 ビットのインデックスボリュームを 64 ビットにアップグレードする際、統合によって新しい 64 ビットのボリューム数が少なくなる場合は、32 ビットのインデックスボリュームが統合されます。ジャーナルアーカイブの場合、この統合では Enterprise Vault 10.0 へのアップグレード中に作成された新しい 64 ビットのインデックスボリュームは除外されます。ただし、その他のすべての種類のアーカイブについては、アップグレードの統合に新しい 64 ビットボリュームが含まれます。

## アップグレードしたインデックスボリュームの削除

インデックスボリュームのアップグレードを実行中に、使用中の検索可能な 64 ビットのインデックスボリュームに交換された古い 32 ビットのインデックスボリュームは Enterprise Vault によって削除されます。

1 つのアーカイブに関連付けられている複数のインデックスボリュームのアップグレードでは、アップグレードによって 32 ビットのインデックスボリュームよりも少数の 64 ビットのインデックスボリュームが作成されます。64 ビットのインデックスボリュームが使用中になり検索可能になると、64 ビットのインデックスボリュームに交換された 32 ビットのインデックスボリュームは削除されます。インデックス付けできないアイテムが検出されなければ、32 ビットのインデックスボリュームすべてが 64 ビットのインデックスボリュームに交換されるまで、処理が続行されます。

アップグレードウィザードを実行するたび、アップグレード中にインデックス付けできないアイテムを無視するかどうかを選択できます。無視することを選択した場合は、インデックス付けできないアイテムが検出された場合でも、同様に処理が続行されます。

インデックス付けできないアイテムを無視することを選択しなかった場合は、これらのアイテムが検出された 32 ビットのインデックスボリュームの処理の終わりごとに、アップグレードは一時停止して、[インデックスタスクの監視] ページのユーザー入力を待機します。

## 確認ウィザードについて

確認ウィザードを使うと 32 ビットインデックスボリュームと 64 ビットのインデックスボリュームの健全性を調べることができます。アーカイブを個別に選択して、関連付けられているインデックスボリュームすべてを確認したり、インデックスボリュームを個別に選択して確認できます。また、インデックスの場所全体を指定して、そこに含まれているすべてのインデックスボリュームをすべて確認することもできます。

確認中、サブタスクが失敗とマーク付けされているインデックスにエラーを発見できない場合は、失敗の状態が自動的にクリアされます。

ウィザードを実行するたびに、以下の確認レベルのいずれか 1 つを選択できます。

- [基本]: インデックスがアクセス可能で健全であることを確認します。

- [完全]: インデックスがアクセス可能で健全であることを確認し、アイテムレベルの検証を行います。

32 ビットと 64 ビットのインデックスボリュームに対して、完全検証では、インデックスの消失したアイテムを確認します。アーカイブに存在するもののインデックス付けされていないアイテムがあります。64 ビットのアーカイブに対してのみ、このオプションは、孤立したアイテム (アーカイブにないアイテムのインデックスエントリ) も確認します。

デフォルトの完全検証では、消失した内容である個々のアイテム (暗号化されているためにインデックス付けされていない添付ファイルなど) はログに記録されません。消失した内容であるアイテムの総数のみが、ログファイルに一覧表示されます。消失した内容である各アイテムを個別にログに記録するには、完全検証タスクを開始するときに、[コンテンツがない詳細を含める] オプションを選択します。

完全検証の実行中、ユーザーはアーカイブを検索できますが、新しいエントリはインデックスボリュームに追加されません。

確認ウィザードを実行するたび、消失したアイテムおよび孤立したインデックスエントリを検出したインデックスボリュームに対して同期タスクを自動的に作成するかどうかを選択できます。

## 同期ウィザードについて

同期ウィザードを使うと、インデックスボリュームを同期して既知の問題を修正できます。

---

**メモ:** このウィザードは、Enterprise Vault バージョン 10.0 以前のインデックスボリュームの修復機能に代わるものです。

---

同期タスクは、前に実行した確認タスクによって認識された問題も含め、既知の問題を修復します。32 ビットのインデックスボリュームと 64 ビットのインデックスボリュームに対して、アーカイブにあるもののインデックス付けされていないアイテムをインデックス付けします。64 ビットのインデックスボリュームに対してのみ、アーカイブにないアイテムの孤立したインデックスの削除も行います。

同期タスクは、既知の問題を修正したら、内部同期を開始してインデックスボリュームを最新の状態にします。

同期ウィザードの実行時に作成される同期タスクに加えて、確認タスクは、確認ウィザードで選択した内容に応じて同期タスクも自動的に作成します。

## 再構築ウィザードについて

[再構築]ウィザードでインデックスボリュームを再構築して、検出された 32 ビットのインデックスボリュームをアップグレードします。再構築するインデックスボリュームのアーカイブを選択するためにこのウィザードを使います。また、個々のインデックスボリュームも再構築できます。

再構築中も古いインデックスボリュームは検索可能なので、ユーザーには影響しません。  
次の場合にインデックスボリュームを再構築すると効率的です。

- 同期タスクが修復に失敗した問題を解決する
- 新しいインデックスレベルを設定した後でアイテムにインデックス付けする
- 関連付けられたアーカイブの分類を有効にした場合にアイテムを再度分類する

アーカイブに関連付けられているすべてのインデックスボリュームを再構築ウィザードを使って再構築する際、より少数の再構築インデックスボリュームを作成可能な場合は、インデックスボリュームを統合します。統合では、すべてのアーカイブの種類に対して、アーカイブの使用中のインデックスボリュームが含まれます。

## 再構築したインデックスボリュームの削除

インデックスボリュームの再構築を実行中に、使用中の検索可能なインデックスボリュームに交換された古いインデックスボリュームは **Enterprise Vault** によって削除されます。

1つのアーカイブに関連付けられている複数のインデックスボリュームの再構築では、再構築によって少数の新しいインデックスボリュームが作成されます。新しいインデックスボリュームが使用中になり検索可能になると、交換された古いインデックスボリュームは削除されます。インデックス付けできないアイテムが検出されなければ、古いインデックスボリュームすべてが再構築されたインデックスボリュームに交換されるまで、処理が続行されます。

再構築ウィザードを実行するたび、再構築中にインデックス付けできないアイテムを無視するかどうかを選択できます。無視することを選択した場合は、インデックス付けできないアイテムが検出された場合でも、同様に処理が続行されます。

インデックス付けできないアイテムを無視することを選択しなかった場合は、これらのアイテムが検出された古いインデックスボリュームの処理の終わりごとに、再構築は一時停止して、[インデックスタスクの監視]ページのユーザー入力を待機します。

## 場所の変更ウィザード

場所の変更ウィザードを使って、アーカイブのインデックスボリュームを任意の物理的な場所から別の場所に移動することができます。

場所の変更タスクは、インデックスボリュームを変更元の場所から変更先の場所にコピーしません。コピーは手動で行い、場所の変更ウィザードを使って、必要な変更を **Enterprise Vault** に加えます。

場所の変更ウィザードを実行する場合、アーカイブのインデックスボリュームを移動元の場所から移動先の場所にコピー済みかどうかを示す必要があります。

ウィザードの実行前にインデックスボリュームをコピーする場合は、最初にインデックスボリュームをオフラインにしてからファイルをコピーします。ウィザードの実行時にファイルをすでにコピー済みであること指定すると、場所の変更タスクが作成されます。このタスクは

インデックスボリュームがオフラインであることを確認してから、新しい場所の設定を完了します。

場所の変更ウィザードの実行後にインデックスボリュームをコピーすることを選択した場合は、場所の変更タスクが作成されます。このタスクはインデックスボリュームオフラインに設定し、ファイルをコピー中は停止します。ファイルをコピーしたら、[インデクスタスクの監視]ページを使って、関連する場所変更タスクに対して、ファイルをコピー済みであることを示します。タスクにより、新しい場所の設定が行われます。

## インデックスウィザードの使用

インデックスウィザードを実行するには、ユーザーアカウントにインデックス管理者ロールが割り当てられている必要があります。

p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。

インデックスウィザードはすべて、管理コンソールの[インデックスの概略]ページからアクセスできます。

### [インデックスの概略]ページからインデックスの管理ウィザードを実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで[インデックス]コンテナをクリックします。
- 2 右ペインで[インデックス管理]をクリックします。

インデックスの管理ウィザードには、管理コンソールの次の場所からもアクセスできます。

- [一般的なタスク]
- [インデックス]コンテナ、およびその下のコンテナ
- [アーカイブプロパティ]: [インデックスボリューム]タブ

### [一般的なタスク]からインデックスの管理ウィザードを実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトの名前をクリックします。
- 2 右ペインの[一般的なタスク]で、[インデックス管理]を展開します。
- 3 [インデックスの管理ウィザード]をクリックします。

### [インデックス]コンテナからインデックスの管理ウィザードを実行する方法

- ◆ 管理コンソールの左ペインの[インデックス]を右クリックするか、コンテナの下で[インデックスの管理]をクリックします。

### [アーカイブプロパティ]: [インデックスボリューム]タブから[インデックスの管理ウィザード]を実行する方法

- 1 管理コンソールで、アーカイブを右クリックして[プロパティ]をクリックします。
- 2 [インデックスボリューム]タブをクリックします。
- 3 [インデックス管理]をクリックします。

## インデックスタスクの管理

インデックスウィザードを使って作成したインデックスはすべて、管理コンソールの[インデックスタスクの監視]ページに表示されます。[インデックスタスクの監視]ページには管理コンソールの[インデックスの概略]ページからアクセスできます。

### [インデックスの概略]ページから[インデックスタスクの監視]を実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで[インデックス]コンテナをクリックします。
- 2 右ペインで[インデックスタスクの監視]をクリックします。

[インデックスタスクの監視]ページには、管理コンソールの次の場所からもアクセスできます。

- [一般的なタスク]
- [インデックス]コンテナ、およびその下のコンテナ

### [一般的なタスク]から[インデックスタスクの監視]を実行する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトの名前をクリックします。
- 2 右ペインの[一般的なタスク]で、[インデックス管理]を展開します。
- 3 [インデックスタスクの監視]をクリックします。

### [インデックス]コンテナからインデックスの管理ウィザードを実行する方法

- ◆ 管理コンソールの左ペインの[インデックス]を右クリックするか、コンテナの下で[インデックスタスクの監視]をクリックします。

## [インデックスタスクの監視]ページの使用

[インデックスタスクの監視]ページは現在のすべてのインデックス付けタスクをリストします。タスクを監視し、管理するためにこのページを使います。リストのタスクをフィルタ処理するには[検索]コントロールを使います。

### 名前に 05.05.11 を含んでいる同期タスクのみをリストする場合

- 1 [検索]リストから[タスク]を選択します。
- 2 [検索テキスト]フィールドに 05.05.11 と入力します。
- 3 現在の選択項目をクリアするには、[すべてを選択解除]をチェックします。
- 4 [タスクの種類]の下で[同期]を選択します。
- 5 [検索]をクリックします。

注意が必要なタスクのみを検索結果に含めるには、[注意が必要なタスクのみを表示]で[はい]をクリックします。これにより、状態が[失敗]、[停止]、[待機中]であるタスクのみが含まれます。



新しい検索を開始する前に既存の検索条件をクリアするには、[すべてをクリア]をクリックします。

タスクごとに、検索結果に次の情報が表示されます。

- [タスク]。タスクの名前。
- [種類]。タスクの種類。
- [作成日]。タスクが作成された日時。
- [非アクティブ]。このタスクに関連付けられている非アクティブなサブタスクの数。この数には、状態が[非アクティブ]、[キューに登録されました]、[待機中]、または[停止]のサブタスクの数も含まれます。
- [アクティブ]。このタスクに関連付けられているアクティブなサブタスクの数。状態が[処理中]のサブタスクの数です。
- [成功]。このタスクに関連付けられている成功したサブタスクの数。状態が[エラーなし]のサブタスクの数です。
- [失敗]。このタスクに関連付けられている失敗したサブタスクの数。この数には、状態が[警告]、[再試行する]、または[失敗]のサブタスクの数も含まれます。
- [サブタスク成功]。タスクに関連付けられているサブタスクの進行状況がバーに表示されます。  
サブタスクのすべての状態が[アクティブ]または[成功]カテゴリにある場合、バーは緑色です。いずれかのサブタスクの状態が[非アクティブ]カテゴリにある場合、バーは黄色です。いずれかのサブタスクの状態が[失敗]カテゴリにある場合、バーは赤色です。

タスクを一覧から選択して、ボタンバーのボタンを使うか[処理]メニューの項目を使って次の処理を開始します。

- [開始]。クリックすると停止しているタスクが開始されます。
- [停止]。クリックすると実行しているタスクが停止されます。
- [再起動]。クリックするとタスクが再起動されます。
- [再試行]。クリックすると失敗したタスクが再試行されます。
- [削除]。クリックするとタスクが削除されます。
- [ファイルのコピー完了]または[処理を待機中のサブタスク]。  
場所変更タスクでは、タスクに関連付けられているファイルを新しい場所にコピーした場合に[ファイルのコピー完了]をクリックします。  
他のすべてのタスクでは、待機中のサブタスクを処理するために[処理を待機中のサブタスク]をクリックします。
- [現在のタスクのすべてのサブタスクを表示] (ボタンバーのみ)。選択した親タスクに関連付けられているサブタスクを表示するためにクリックします。

タスクの名前をクリックして関連付けられているサブタスクを表示することもできます。  
p.162 の「[\[インデックスタスクの監視\] ページの使用 \(サブタスクビュー\)](#)」を参照してください。

- [選択アイテムをクリップボードにコピー] ([処理]メニューのみ)。選択したタスクをクリップボードにコピーするためにクリックします。
- [表示の更新]。現在の表示を更新するためにクリックします。

### [インデックスタスクの監視] ページの使用 (サブタスクビュー)

サブタスクビューで、[インデックスタスクの監視] ページに、タスクに関連づけられているすべてのインデックスサブタスクが表示されます。このページを使って、サブタスクを監視および管理します。一覧のサブタスクをフィルタするには、[検索] コントロールを使います。

たとえば、アーカイブ名に「John Doe」を含む失敗したサブタスクのみを表示するとします

- 1 [検索テキスト] ボックスに John Doe と入力します。
- 2 現在の選択項目をクリアするには、[すべてを選択解除] をチェックします。
- 3 [サブタスクの状態] で [警告]、[再試行する]、[失敗] を選択します。
- 4 [検索] をクリックします。

新しい検索を開始する前に既存の検索条件をクリアするには、[すべてをクリア] をクリックします。

サブタスクごとに、このページには次の表に示した情報が列に表示されます。ページに表示されるのは、表示されているサブタスクの種類に関連する列のみです。

アーカイブ名	サブタスクが関連付けられているアーカイブの名前。
インデックスボリュームの範囲	インデックスボリュームでインデックス付けされているアイテムのシーケンス番号の範囲。
追加されたアイテム	アップグレードタスクおよび再構築タスクの場合は、正常に処理されたアイテムの合計数を示します。  同期サブタスクの場合は、サブタスクによってインデックス付けされたアイテムの数を示します。
削除されたアイテム	同期サブタスクの場合は、保留中の削除数、およびサブタスクによってインデックスボリュームから削除された、その他の以前に孤立していたインデックスエントリの数を示します。

エラーがあるアイテム	<p>アップグレード、再構築、および同期の各サブタスクの場合は、通常はストレージの問題により、取り込まれなかったアイテムの数を示します。</p> <p>アップグレードおよび再構築サブタスクについては、タスクの送信時に[インデックス付けできないアイテムを無視する]オプションを選択しなかった場合は、エラーがあるアイテムによってサブタスクが入力を待機します。</p>
消失したアイテム	確認サブタスクの場合は、 <b>Enterprise Vault</b> がインデックス付けできなかった、アーカイブにあるアイテムの数を示します。
追加のアイテム	確認サブタスクの場合は、インデックスボリュームにある、孤立しているインデックスエントリの数を示します。これらは、アーカイブにないアイテムのインデックスエントリです。
元の場所	場所の変更タスクの場合は、インデックスボリュームの元の場所を示します。
宛先の場所	場所の変更タスクの場合は、インデックスボリュームの宛先の場所を示します。
状態	<p>サブタスクの状態。</p> <p>p.164 の「<a href="#">サブタスクの状態</a>」を参照してください。</p>
進捗状況	[進捗状況]。サブタスクの進捗状況を示すバー。バーの色はサブタスクの状態のカテゴリに一致します。[アクティブ]および[成功]はバーが緑色で、[非アクティブ]は黄色、[失敗]は赤色になります。

サブタスクを一覧から選択して、ボタンバーのボタンを使うか[処理]メニューの項目を使って次の処理を開始します。

- [親タスクの概略ビューに切り替える] (ボタンバーのみ)。クリックするとタスクビューが表示されます。
- [開始]。クリックすると停止しているサブタスクが開始されます。
- [停止]。クリックすると実行しているサブタスクが停止されます。
- [再起動]。クリックするとサブタスクが再起動されます。
- [再試行]。クリックすると失敗したサブタスクが再試行されます。
- [削除]。クリックするとサブタスクが削除されます。
- [ファイルのコピー完了]または[処理を待機中のサブタスク]。  
場所変更タスクでは、サブタスクに関連付けられているファイルを新しい場所にコピーした場合に[ファイルのコピー完了]をクリックします。

他のすべてのサブタスクでは、待機中のサブタスクを処理するために[処理を待機中のサブタスク]をクリックします。

- [レポートファイルを開く]。サブタスクに関連付けられているレポートファイルを開くためにクリックします。
- [レポートファイルの保存]。サブタスクに関連付けられているレポートファイルを保存するためにクリックします。
- [詳細]。選択したサブタスクに関する詳細を表示するためにクリックします。
- [選択アイテムをクリップボードにコピー] ([処理]メニューのみ)。選択したサブタスクをクリップボードにコピーするためにクリックします。
- [表示の更新]。現在の表示を更新するためにクリックします。

サブタスクの状態

表 6-1                      サブタスクの状態

カテゴリ	状態	説明
非アクティブ	非アクティブ	サブタスクは非アクティブです。これは次の場合に発生することがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ サブタスクが関連付けられているサーバー上のインデックス管理タスクがスケジュールにない。</li><li>■ サブタスクが関連付けられているサーバー上のインデックス管理タスクが、処理用にサブタスクを適用していない。これは、多数のサブタスクを作成するタスクを送信する場合に発生することがあります。</li><li>■ ボルトストアまたはインデックスの場所がバックアップモードにある。</li></ul>
	キューに登録されました	サブタスクが関連付けられているサーバー上のインデックス管理タスクが、処理用にサブタスクを適用していない。これらのサブタスクの状態は、インデックス管理タスクが処理を開始するまで、[キューに登録されました]になります。

カテゴリ	状態	説明
	待機中	<p>サブタスクがユーザー入力を待機しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [インデックスフォルダが新しい場所にコピー済み]を選択しなかった場所の変更タスクに対しては、関連付けられたサブタスクは、初期の処理を完了した後、インデックスフォルダをコピー済みであることをユーザーが示すまで待機します。ユーザーはインデックスフォルダをコピーしたら、[インデックスタスクの監視]ページで[ファイルのコピー完了]操作を使用します。</li> <li>■ [インデックス付けできないアイテムを無視する]を選択しなかったアップグレードと再構築タスクに対しては、関連付けられたサブタスクは、マイナーエラーが発生するとユーザー入力を待機します。サブタスクが処理を続行するようにするには、[インデックスタスクの監視]ページで[処理を待機中のサブタスク]を使います。</li> <li>■ [メタデータストア]タスクに対しては、サブタスクはすべてのアイテムを処理できませんでした。次のいずれかの操作を行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 問題を解決し、[インデックスタスクの監視]ページの[処理を待機中のサブタスク]アクションを使ってサブタスクの処理を続行します。[失敗したアイテムを再試行して、まだエラーがあるか確認するために再び待機する]オプションを選択します。</li> <li>■ 問題を無視することを決定し、[インデックスタスクの監視]ページの[処理を待機中のサブタスク]アクションを使ってサブタスクの処理を続行します。[失敗したアイテムを再試行して続行する]オプションを選択します。</li> </ul> </li> </ul>
	停止	サブタスクを停止しています。インデックス管理タスクは、ユーザーが[インデックスタスクの監視]ページで[開始]操作を使ってサブタスクを再開するまで、サブタスクの再処理を開始しません。
アクティブ	処理中	サブタスクは処理中です。
成功	エラーなし	サブタスクはエラーなしで完了しました。
失敗	警告	<p>サブタスクは警告ありで完了しました。</p> <p>[サブタスクの詳細]ページとサブタスクレポートファイルで、詳細を調べます。</p>
	再試行する	場所を変更して、エラーが発生したときサブタスクがこの状態になるかを確認します。エラーが一時的な場合、インデックス管理タスクは、エラーの発生時に最大 5 回サブタスクを試行します。5 回試行した後、エラーが継続する場合、ソリューションのサブタスクは[失敗]とマークされます。

カテゴリ	状態	説明
	失敗	サブタスクは失敗しました。  [サブタスクの詳細] ページとサブタスクレポートファイルで、詳細を調べます。  エラーの原因を確認し、修正できる場合は、[インデックスタスクの監視] ページで[再試行]を使用します。

## インデックスのアップグレードタスクとインデックスの再構築タスクの管理

状態が[エラーなし]で正常に完了しないアップグレードタスクと再構築タスクは、次のいずれかの状態になります。

- [待機中]。アップグレードタスクまたは再構築タスクを送信するときに[インデックス付けできないアイテムを無視する]オプションを選択しなかった場合、そのサブタスクはマイナーエラーが発生するとユーザーの入力を待機します。サブタスクが処理を続行するようにするには、[インデックスタスクの監視] ページで[処理を待機中のサブタスク]を使います。
- [失敗]。アップグレードタスクまたは再構築タスクが失敗しました。サブタスクに重大なエラーが発生するか、マイナーエラーが大量に発生するとこの状態になります。[インデックスタスクの監視] ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。エラーの原因を確認し、修正できる場合は、[インデックスタスクの監視] ページで[再試行]を使用します。

## インデックス確認タスクの管理

状態が[エラーなし]で正常に完了しない確認タスクは、次のいずれかの状態になります。

- [再試行する]。サブタスクでエラーが発生しましたが、サブタスクを再試行します。この状態のサブタスクに対して操作を行う必要はありません。
- [警告]。[完了]確認タスクを送信したとき、ソリューションのサブタスクが[警告]で完了します。[インデックスタスクの監視] ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。
- [失敗]。確認サブタスクが失敗しました。[インデックスタスクの監視] ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。エラーの原因を確認し、修正できる場合は、[インデックスタスクの監視] ページで[再試行]を使用します。

いずれかの確認サブタスクが失敗した場合、または消失したアイテムおよび孤立しているインデックスエントリに関する警告で完了した場合は、同じアーカイブ、インデックスボリュームまたはインデックスの場所に対する同期タスクを送信することを検討します。最初に確認タスクを追加したときに[自動同期]オプションを選択した場合は、これを行う必要

はありません。この場合、Enterprise Vault によって自動的に同期タスクが作成されるためです。

## インデックス同期タスクの管理

状態が[エラーなし]で正常に完了しない同期タスクは、次のいずれかの状態になります。

- [警告]。同期サブタスクが[警告]で完了することがあります。[インデックスタスクの監視]ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。
- [失敗]。同期サブタスクが失敗しました。[インデックスタスクの監視]ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。エラーの原因を確認し、修正できる場合は、[インデックスタスクの監視]ページで[再試行]を使用します。

## 場所の変更タスクの管理

状態が[エラーなし]で正常に完了しない場所の変更タスクは、次のいずれかの状態になります。

- [再試行する]。サブタスクでエラーが発生しましたが、サブタスクを再試行します。この状態のサブタスクに対して操作を行う必要はありません。
- [待機中]。タスクを送信するときに[インデックスフォルダが新しい場所にコピー済み]オプションを選択しなかった場合、初期の処理を完了した後、関連付けられているサブタスクはユーザーの入力を待機します。インデックスフォルダを新しい場所にコピーして、[インデックスタスクの監視]ページで[ファイルのコピー完了]操作を使用します。
- [警告]。場所の変更タスクを送信すると、[警告]で完了することがあります。[インデックスタスクの監視]ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。
- [失敗]。場所の変更サブタスクが失敗しました。[インデックスタスクの監視]ページでサブタスクのレポートファイルを開くと、エラーの詳細が表示されます。エラーの原因を確認し、修正できる場合は、[インデックスタスクの監視]ページで[再試行]を使用します。

# インデックス処理の除外の管理

Enterprise Vault のインデックス処理の除外機能では、電子メールに記載されている免責事項や会社の署名など、インデックス処理しない電子メールの内容を指定できます。不要な検索ヒットを生じるテキストを除外することができるので、検索の品質を改善することができます。

## インデックス処理の除外の動作

インデックス処理の除外を作成すると、その後 **Enterprise Vault** が構築するインデックスから、電子メールアイテム内で発生するすべての一致内容を省略します。

---

**メモ:** 新しいインデックス処理の除外を追加する前に作成したインデックスは影響を受けません。新しい除外に一致する内容は、既存のインデックスを再構築するまでそのインデックス内に残ります。

---

それぞれの **Enterprise Vault** サイトについてインデックス処理の除外を必要な数だけ追加できます。**Enterprise Vault** は、プレーンテキストの除外内容を受け入れた後、先頭と末尾の空白を除去したり、連続する空白文字を単一の空白に置換することにより、除外内容を正規化します。

後続のインデックス処理では、**Enterprise Vault** は除外テキストと電子メールの内容について大文字と小文字を区別した比較を行い、発生するすべての一致をインデックスから除外します。

既存のインデックス処理の除外を削除すると、その除外に一致するアーカイブ済みの内容は、インデックスを再構築しない限りそのインデックスに復帰しません。

変更が完全に有効になるまでには、インデックス処理の除外を追加、編集または削除した時点から 2 時間かかる場合があることに注意してください。

## インデックス処理の除外の管理

それぞれの **Enterprise Vault** サイトについて、管理コンソールでインデックス処理の除外を管理できます。

インデックス処理の除外を管理するには

- 1 **Enterprise Vault** 管理コンソールで [サイトプロパティ]を開き、[インデックス]タブをクリックします。
- 2 [除外]をクリックします。

[インデックス処理の除外]ダイアログボックスでは、新しいインデックス処理の除外を追加したり、既存の除外の編集、名前の変更、削除ができます。

## インデックスボリュームの表示

インデックスボリュームのブラウザでは、次の操作を実行できます。

- 指定した条件を満たすインデックスボリュームの検索。さまざまな属性によってインデックスを検索できます。
- 各インデックスボリュームをオンラインまたはオフラインにします。



- 各インデックスボリュームの詳細を表示します。たとえば、インデックスボリュームの詳細には次のものが含まれます。
  - インデックスの場所
  - インデックスボリュームをホストするサーバーまたはインデックスグループ
  - インデックスボリュームが関連付けられているアーカイブの詳細

インデックスボリュームのブラウザを表示するには、管理コンソールで次のいずれかを行います。

- [インデックスの概略] ページで [インデックスボリュームのブラウザ] をクリックします。
- [アーカイブ] コンテナを右クリックし、[インデックスボリュームのブラウザ] をクリックします。
- [インデックス] コンテナを右クリックし、[インデックスボリュームのブラウザ] をクリックします。
- アーカイブのプロパティを表示するには、[インデックスボリューム] タブをクリックし、[詳細] をクリックします。

# PowerShell cmdlet のインデックス付けについて

Enterprise Vault 管理シェルには、次のインデックス付け cmdlet が用意されています。

表 6-2                      インデックス付け PowerShell cmdlet

cmdlet	説明
Get-IndexServerForIndexLocation	指定したインデックスの場所を管理するインデックスサーバーのサーバー名とサーバーエントリ ID を報告します。
Set-IndexMetadataSyncLevel	指定したインデックスサーバーの次の起動時にインデックスメタデータサーバーを同期します。  これは、ディザスタリカバリの間にインデックスの場所を復元した後に便利です。

## PowerShell cmdlet の実行

### インデックス用の PowerShell cmdlet を実行する方法

- 1 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。

PowerShell は Enterprise Vault スナップインを開き、ロードします。cmdlet をシェルで使用できるようになりました。

- 2 PowerShell のコマンドプロンプトで、必要なコマンドを入力します。

すべての cmdlet についてヘルプが利用できます。たとえば、次のコマンドを実行すると Get-IndexServerForIndexLocation の詳細なヘルプが表示されます。

```
Get-Help Get-IndexServerForIndexLocation -detailed
```

## Get-IndexServerForIndexLocation の使用

Get-IndexServerForIndexLocation を実行するには次のコマンドを実行します。

```
Get-IndexServerForIndexLocation -Location <String>  
[<CommonParameters>]
```

次の例に、Get-IndexServerForIndexLocation を使ってインデックスの場所を管理するインデックスサーバーをレポートする方法を示します。

- Get-IndexServerForIndexLocation -Location "F:¥EVIndexes¥index7"  
このコマンドは、パスが F:¥EVIndexes¥index7 であるインデックスの場所を管理するインデックスサーバーを返します。
- Get-IndexServerForIndexLocation -Location  
10AA6CBA47F403244A85E3CF172B00DEC1810000Server.Domain1.local  
このコマンドは、ルートパスエントリ ID が  
10AA6CBA47F403244A85E3CF172B00DEC1810000Server.Domain1.local である  
インデックスの場所を管理するインデックスサーバーを返します。

## Set-IndexMetadataSyncLevel の使用

Set-IndexMetadataSyncLevel を実行するには次のコマンドを実行します。

```
Set-IndexMetadataSyncLevel -EntryId <String> -SyncLevel <String>  
[<CommonParameters>]
```

表 6-3 Set-IndexMetadataSyncLevel に利用可能な同期レベル

レベル	説明
0	インデックスサービスの起動時に同期は行われません。

レベル	説明
1	起動時に、インデックスサービスは、アーカイブにありまだインデックス付けされていないアイテムをインデックス付けします。また、アーカイブにないアイテムの孤立したインデックスエントリを削除します。
2	起動時にインデックスサービスは次の処理を実行します。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ アーカイブにありまだインデックス付けされていないアイテムをインデックス付けします。また、アーカイブにないアイテムの孤立したインデックスエントリを削除します。</li><li>■ ディレクトリデータベースに格納されているすべてのインデックスの場所がインデックスメタデータで正しく参照されていることを確認します。</li></ul>

次の例に、`Set-IndexMetadataSyncLevel` を使ってインデックスメタデータの同期を強制的に実行する方法を示します。

- `Set-IndexMetadataSyncLevel -EntryId 15B63FA16EF2BD4418934B87F2F6651A51710000.Domain1.local -SyncLevel 1`  
このコマンドは、エントリ ID が `15B63FA16EF2BD4418934B87F2F6651A51710000.Domain1.local` であるインデックスサービスの同期レベルを **1** に設定します。

# Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定について](#)
- [Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定の編集](#)
- [Domino メールボックスポリシーの詳細設定](#)
- [Domino デスクトップポリシーの詳細設定](#)

## Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定について

Domino メールボックスポリシーの詳細設定では、失敗したアイテムの処理や電子メールアドレスの解決方法などのアーカイブ動作を詳細に制御します。

Domino デスクトップポリシーの詳細設定では、Domino クライアントデスクトップにおけるユーザーの使用感を細かく調整できます。これらの設定により、ボルトキャッシュの機能を詳細に制御できます。

## Domino メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定の編集

ポリシーの詳細設定は、ポリシーのプロパティの[詳細]タブにあります。

### ポリシーの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー]を展開します。
- 3 [Domino]を展開します。
- 4 必要に応じて、[メールボックス]または[デスクトップ]をクリックします。
- 5 右側のペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 6 [詳細]タブをクリックします。
- 7 [一覧表示する設定の種類]の横で、修正する設定のカテゴリを選択します。
- 8 必要に応じて設定を編集します。  
設定をダブルクリックして編集するか、設定を 1 回クリックして選択してから[修正]をクリックできます。

## Domino メールボックスとデスクトップポリシーの新しい設定を適用する方法

修正したメールボックスとデスクトップポリシーの設定は、次に行われる Domino プロビジョニングタスクの同期の実行中にユーザーのメールボックスに適用されます。次の同期の前に変更を適用する場合は、Domino プロビジョニングタスクのプロパティの[同期]タブにある[個々のメールボックスを同期]を実行します。

## Domino メールボックスポリシーの詳細設定

これらの設定により、Domino メールボックスアーカイブを詳細に制御できます。

Domino メールボックスポリシーの詳細設定には、次の 1 つのカテゴリがあります。

- 「アーカイブ全般: Domino メールボックスポリシー」

### アーカイブ全般: Domino メールボックスポリシー

これらの設定により、アーカイブ動作を詳細に制御できます。

[アーカイブ全般]設定は次のとおりです。

- 「失敗したアイテムの処理 (Domino の[アーカイブ全般]設定)」
- 「下書きアイテムをアーカイブ (Domino の[アーカイブ全般]設定)」
- 「電子メールアドレスをルックアップ (Domino の[アーカイブ全般]設定)」
- 「アーカイブ名をリセット (Domino の [アーカイブの全般]設定)」

- 「ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 (Domino の[アーカイブ全般]設定)」

## 失敗したアイテムの処理 (Domino の[アーカイブ全般]設定)

説明	アーカイブに 3 回失敗したアイテムを以降のアーカイブ実行時に処理するかどうかを制御できます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [再処理を行う]。アーカイブを実行するたびに、繰り返し失敗したアイテムの再処理を行います。</li><li>■ [再処理を行わない](デフォルト)。以降のアーカイブ実行時には、繰り返し失敗したアイテムの再処理を行いません。</li></ul>
以前の名前	SetFailedMsgsDoNotArchive

## 下書きアイテムをアーカイブ (Domino の[アーカイブ全般]設定)

説明	下書きアイテムがアーカイブされるかどうかを制御できます。設定の変更は、Domino プロビジョニングタスクの次回実行時に、ユーザーのメールファイルに適用されます。変更をすぐに適用するには、Domino プロビジョニングタスクプロパティの [同期] タブにある [個々のメールボックスを同期] をクリックします。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効](デフォルト)。下書きアイテムがアーカイブされません。</li><li>■ [有効]。下書きアイテムがアーカイブされます。下書きアイテムがアーカイブされるときに、ショートカットに変更されず、添付ファイルも削除されません。</li></ul>
以前の名前	ArchiveDraftItems

## 電子メールアドレスをルックアップ (Domino の[アーカイブ全般]設定)

説明	Domino ディレクトリを使って電子メールアドレス (存在する場合は SMTP アドレスも含む) を解決するかどうかを制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効](デフォルト)。電子メールアドレスを解決します。</li><li>■ [無効]。電子メールアドレスを解決しません。</li></ul>
以前の名前	LookupNames

## アーカイブ名をリセット(Domino の [アーカイブの全般] 設定)

説明	アーカイブ名と Domino ユーザー名の同期を維持するかどうかを制御します。設定を[有効]にすると、Domino プロビジョニングタスクの実行時(スケジュール設定された実行のときか、管理者がタスクプロパティで[個々のメールボックスを同期]をクリックしたとき)に、Domino ユーザー名に対する変更がアーカイブ名に適用されます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効](デフォルト)。同期中にアーカイブ名が更新されます。</li> <li>■ [無効]。同期中にアーカイブ名は更新されません。</li> </ul>

## ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 (Domino の [アーカイブ全般] 設定)

説明	アーカイブ後に予定とタスクから添付ファイルを削除するかどうかを制御します。これらのアイテムは、アーカイブ時に Enterprise Vault ショートカットに変更されません。Enterprise Vault で添付ファイルを削除すると、添付ファイルへのリンクに置き換えられます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効](デフォルト)。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除します。</li> <li>■ [無効]。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除しません。</li> </ul>
以前の名前	StripAttachmentsToNonShortcutItems

# Domino デスクトップポリシーの詳細設定

これらの設定では、Enterprise Vault Notes クライアントの動作を細かく調整できます。Domino デスクトップポリシーの詳細設定には、次の 1 つのカテゴリがあります。

- 「[ボルトキャッシュ: Domino デスクトップポリシー](#)」

## ボルトキャッシュ: Domino デスクトップポリシー

これらの設定では、ボルトキャッシュに関する Notes の動作を詳細に制御します。ボルトキャッシュの設定は次のとおりです。

- 「[一時停止間隔 \(Domino の \[ボルトキャッシュ\] 設定\)](#)」
- 「[事前のアーカイブしきい値 \(Domino の \[ボルトキャッシュ\] 設定\)](#)」

## 一時停止間隔 (Domino の[ボルトキャッシュ]設定)

説明 Enterprise Vault が、ボルトキャッシュに追加が必要なアイテムの検索を開始するまでに待機する時間 (分) を指定します。

サポートされている値 ■ 時間 (分) を指定する整数値。デフォルトは 3 です。

## 事前のアーカイブしきい値 (Domino の[ボルトキャッシュ]設定)

説明 すぐにアーカイブされると予想されるアイテムを Enterprise Vault がボルトキャッシュに事前にコピーするアーカイブまでの日数を指定します。ユーザーのコンピュータにコピーされるため、ダウンロードは不要です。

サポートされている値 ■ 日数を指定する整数値。デフォルトは 7 です。



# Exchange メールボックスとデスクトップポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Exchange メールボックスおよびデスクトップの拡張設定について](#)
- [Exchange メールボックスとデスクトップの詳細設定の編集](#)
- [Exchange メールボックスポリシーの詳細設定](#)
- [Exchange デスクトップポリシーの詳細設定](#)

## Exchange メールボックスおよびデスクトップの拡張設定について

Exchange メールボックスポリシーの詳細設定では、削除済みアイテムや期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブするかどうかなどのアーカイブ動作を詳細に制御します。

Exchange デスクトップポリシーの詳細設定では、Exchange クライアントデスクトップにおけるユーザーの使用感を細かく調整できます。これらの設定により、Outlook と OWA クライアントのボルトキャッシュと仮想ボルトの機能を詳細に制御できます。

## Exchange メールボックスとデスクトップの詳細設定の編集

ポリシーの詳細設定は、ポリシーのプロパティの[詳細]タブにあります。

### ポリシーの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー] が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー] を展開します。
- 3 [Exchange] を展開します。
- 4 必要に応じて、[メールボックス] または [デスクトップ] をクリックします。
- 5 右ペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 6 [詳細] タブをクリックします。
- 7 [一覧表示する設定の種類] の横で、修正する設定のカテゴリを選択します。
- 8 必要に応じて設定を編集します。  
設定をダブルクリックして編集するか、設定を 1 回クリックして選択してから [修正] をクリックできます。

## Exchange メールボックスとデスクトップの新しい設定を適用する方法

修正したメールボックスとデスクトップポリシーの設定は、次に行われる Exchange メールボックスタスクの同期の実行中にユーザーのメールボックスに適用されます。次の同期の前に変更を適用する場合は、Exchange メールボックスタスクのプロパティの[同期]タブにある[同期]を実行します。

## Exchange メールボックスポリシーの詳細設定

これらの設定により、Exchange メールボックスのアーカイブを詳細に制御できます。

Exchange メールボックスポリシーの詳細設定には、次の 1 つのカテゴリがあります。

- 「[アーカイブ全般 \(Exchange メールボックスポリシーの詳細設定\)](#)」

### アーカイブ全般 (Exchange メールボックスポリシーの詳細設定)

[アーカイブ全般]設定では、アーカイブ動作を詳細に制御できます。

[アーカイブ全般]設定は次のとおりです。

- 「[削除済みアイテムをアーカイブ \(\[Exchange アーカイブ全般\]設定\)](#)」
- 「[下書きアイテムをアーカイブ \(\[Exchange アーカイブ全般\]設定\)](#)」
- 「[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ \(\[Exchange アーカイブ全般\]設定\)](#)」
- 「[アーカイブの命名規則 \(\[Exchange アーカイブ全般\]設定\)](#)」

- 「期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「カスタムショートカットを右から左にフォーマットするコードページ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「事前通知の保留中はアーカイブしない ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「カスタマイズされた本文を適切なコードページでエンコード ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「将来のアイテムの保持カテゴリ (Exchange アーカイブの [全般] 設定)」
- 「デフォルトの権限と匿名の権限を含める ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「アーカイブ名をリセット ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「失敗したメッセージを「アーカイブしない」に設定 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「フォルダ権限を同期 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「カスタムショートカットのテキスト方向インジケータ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「有効な Enterprise Vault サイトのエイリアス ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「デフォルトまたは匿名の権限が存在する場合に警告 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」

## 削除済みアイテムをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	[削除済みアイテム] フォルダからアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効] (デフォルト)。[削除済みアイテム] フォルダ内のアイテムはアーカイブされません。</li><li>■ [有効]。[削除済みアイテム] フォルダ内のアイテムはアーカイブされます。</li></ul>
以前の名前	ArchiveDeletedItems

下書きアイテムをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	<p>下書きアイテムがアーカイブされるかどうかを制御します。下書きフォルダ内の下書きアイテムのみでなく、すべての下書きアイテムに適用されます。</p> <p>ショートカットを作成するようにポリシーが設定されている場合でも、<b>Enterprise Vault</b> はアーカイブ済み下書きアイテムをショートカットに変換しません。アーカイブ済み下書きアイテムはショートカットを削除する場合にショートカットとして処理されます。<b>Enterprise Vault</b> はアーカイブ済み下書きアイテムから添付ファイルを削除しません。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効](デフォルト)。下書きアイテムがアーカイブされません。</li> <li>■ [有効]。下書きアイテムがアーカイブされます。</li> </ul>

Exchange が管理するフォルダのアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	<p><b>Exchange Server 2010</b> が管理するフォルダからアイテムをアーカイブするかどうかと、管理する内容の設定を適用するかどうかを制御します。このポリシー設定は、最新バージョンの <b>Exchange Server</b> の管理対象フォルダを置き換えるメッセージングレコード管理 (MRM) 機能には適用されません。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効]。<b>Enterprise Vault</b> は管理フォルダからアイテムのアーカイブを行いません。さらに、管理フォルダからの手動によるアイテムのアーカイブは許可されません。</li> <li>■ [標準]。<b>Enterprise Vault</b> は管理フォルダを通常のメールボックスフォルダとして処理します。  <p>値[標準]を使用すると、仮想ボルトに含まれる管理フォルダの内容を変更できます。ただし、仮想ボルトのポリシー設定で、この操作が許可されている場合に限りです。たとえば、以下のようにアイテムを移動できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メールボックスから仮想ボルトの管理フォルダへ</li> <li>■ 仮想ボルトの管理フォルダから別の仮想ボルトフォルダへ</li> </ul> </li> <li>■ [管理対象](デフォルト)。<b>Enterprise Vault</b> は管理フォルダのアイテムをアーカイブし、<b>Exchange Server</b> から同期されている保持設定を使います。</li> </ul>
以前の名前	ArchiveManagedFolders2

## アーカイブの命名規則（[Exchange アーカイブ全般] 設定）

### 説明

デフォルトでは、アーカイブには **Exchange** サーバーで関連付けられたメールボックスと同じ名前が付けられます。これは、環境によってはアーカイブ名が重複することを意味します。複数のアーカイブを検索する場合（特に、同じ名前の異なるアーカイブからアイテムが返る場合）に、混乱する可能性があります。

[アーカイブの命名規則] 設定で、アーカイブに使う命名規則を選択できます。この設定で、アーカイブに指定する名前が組織内で重複しないようにすることが可能です。この設定は、**Veritas Discovery Accelerator** を使って複数の **Exchange** メールボックスアーカイブを検索する場合に特に役立ちます。

この設定の値を修正したら、詳細ポリシー設定 [アーカイブ名をリセット] の値が [有効] であることを確認します。この設定は [アーカイブ全般] の設定一覧に含まれています。

新しい命名規則に従うように既存のアーカイブの名前を更新するには、修正したポリシーを使うメールボックスを同期します。

サポートされている値	<p>次の一覧では、設定の有効な値について説明します。以下に挙げる例では、結果として得られるアーカイブの名前をユーザー <b>John Doe</b> と仮定します。このユーザーのアカウントとメールボックスの詳細は次のとおりです。</p> <p><b>Active Directory</b> のアカウントログオン名: "JDoe"</p> <p>ドメイン: "EXAMPLE"</p> <p><b>Exchange</b> サーバーのメールボックス名: "John Doe"</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ メールボックス名 (デフォルト) 関連付けられた <b>Exchange</b> メールボックスの名前。 たとえば、<b>John Doe</b></li><li>■ メールボックス名 (アカウント名) 関連付けられたメールボックスの名前 (<b>Active Directory</b> メールボックスのユーザーアカウントのログオン名に従う)。 たとえば、<b>John Doe (JDoe)</b></li><li>■ メールボックス名 (ドメイン修飾アカウント名) 関連付けられたメールボックスの名前 (メールボックスユーザーのドメインとアカウントのログオン名に従う)。形式は <b>DOMAIN¥name</b>。 たとえば、<b>John Doe (EXAMPLE¥JDoe)</b></li><li>■ アカウント名 (メールボックス名) メールボックスユーザーのアカウントのログオン名 (関連付けられたメールボックスの名前に従う)。 たとえば、<b>John Doe (John Doe)</b></li><li>■ ドメイン修飾アカウント名 (メールボックス名) メールボックスユーザーのドメインとアカウントのログオン名 (関連付けられたメールボックスの名前に従う)。形式は <b>DOMAIN¥name</b>。 たとえば、<b>EXAMPLE¥JDoe (John Doe)</b></li></ul>
以前の名前	ArchiveNameFormat

期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	期限が切れていないカレンダーアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示] (デフォルト)。期限が切れていないカレンダーアイテムはアーカイブしません。</li><li>■ [非表示]。期限が切れていないカレンダーアイテムをアーカイブします。</li></ul>
以前のの名前	ArchiveNonExpiredCalEvents

## カスタムショートカットを右から左にフォーマットするコードページ ([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	セミicolonで区切られたコードページの一覧です。これらのコードページを使うカスタムショートカットは、常に右から左にフォーマットされます。
サポートされている値	■ セミicolonで区切られたコードページの一覧。例: 1255;1256。デフォルトは 1255 です。
以前の名前	CustomShortcutRTLCodePages

## 事前通知の保留中はアーカイブしない([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	Enterprise Vault で、保留中の事前通知があるアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。
サポートされている値	■ [無効]。保留中の事前通知があるアイテムをアーカイブします。 ■ [有効](デフォルト)。今後 5 年以内の保留中の事前通知があるアイテムはアーカイブしません。
以前の名前	DontArchiveItemsPendingReminder

## カスタマイズされた本文を適切なコードページでエンコード ([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	カスタマイズされた Enterprise Vault ショートカットの本文をエンコードするときに、(常に Unicode を使うのではなく) 適切な ANSI コードページを使います。
サポートされている値	■ [無効]。カスタマイズされた Enterprise Vault ショートカットの本文のエンコードに Unicode を使います。 ■ [有効]。カスタマイズされた Enterprise Vault ショートカットの本文のエンコードに ANSI コードページを常に使います。
以前の名前	EncodeCustomBodyUsingAppropriateCodePages

## 将来のアイテムの保持カテゴリ (Exchange アーカイブの[全般]設定)

説明	<p>カレンダー、会議、終了日が将来のタスクのアイテム (期限が切れていないカレンダー、会議、タスクのアイテム) に使用する保持カテゴリの名前。保持カテゴリはすでに設定されている必要があります。</p> <p>サイトに設定された <b>Enterprise Vault</b> ストレージの有効期限をアイテムのアーカイブ日に基づいて設定している場合、アーカイブ済みカレンダー、会議、終了日が将来のタスクのアイテムがアイテムの終了日以前に <b>Enterprise Vault</b> ストレージの有効期限で削除されることがあります。これを防ぐには、このようなアイテムをアーカイブするときに <b>Enterprise Vault</b> が自動的に適用する保持カテゴリを作成して、該当のポリシー設定でこの保持カテゴリを指定します。保持カテゴリのプロパティで、保持期間の開始日を[更新日]、保持期間を[アイテムを無期限で保持]に設定することを推奨します。</p> <p><b>メモ:</b> 保持カテゴリは、すでにアーカイブ済みのアイテムにさかのぼって適用されることはありません。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ これらのアイテムに使用するために設定している既存の保持カテゴリの名前。例: <b>Future Calendar Items</b></li><li>■ プロビジョニンググループのデフォルトの保持カテゴリを使用する場合は空白のままにします。これはデフォルト値です。</li></ul>
以前の名前	<b>FutureItemsRetCat</b>

## デフォルトの権限と匿名の権限を含める ([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	<p><b>Enterprise Vault</b> で、各メールボックスをデフォルトのアーカイブと同期するときに、デフォルトアクセス権限と匿名アクセス権限を含めるかどうかを制御します。</p> <p>同期を選択しない場合は、既存のデフォルトと匿名のユーザー設定は、<b>Enterprise Vault</b> がアーカイブから自動的に削除します。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効](デフォルト)。デフォルトアクセス権限や匿名アクセス権限を同期しません。</li><li>■ [有効]。デフォルトアクセス権限と匿名アクセス権限を同期します。この設定には、ユーザーがお互いのアーカイブを参照できるという影響があります。</li></ul>
以前の名前	<b>IncludeDefOrAnonPerms</b>



## 継承された権限([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	Enterprise Vault で、メールボックスまたはパブリックフォルダとアーカイブの間でアクセス権限を同期するときに、継承されたアクセス権限を含めるかどうかを制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示](デフォルト)。継承されたアクセス権限を同期しません。</li><li>■ [非表示]。継承されたアクセス権限を同期します。</li></ul>
以前のの名前	IncludeInheritedRights

## アーカイブするメッセージの最大サイズ(MB)([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	アーカイブするメッセージの最大サイズを制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 0。メッセージの最大サイズを制限しません。</li><li>■ 0 より大きい整数。メガバイト単位のアーカイブするメッセージの最大サイズ。デフォルトは 250 です。</li></ul>
以前のの名前	MaxMessageSizeToArchiveMB

## ショートカット保留のタイムアウト([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	アイテムをアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちの状態にしておく日数を指定します。この日数を過ぎると、アイテムはリセットされます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示](デフォルト)。アーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットを一切リセットしません。</li><li>■ 0。レポートモードでの実行時、Exchange メールボックスタスクはアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットをすべてリセットします。標準モードで実行されている場合、ショートカットはリセットされません。</li><li>■ 0 より大きい任意の整数。ここで指定された日数より古いアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットをリセットします。この処理は、通常のアーカイブとレポートモードの両方で行われます。</li></ul>
以前のの名前	PendingShortcutTimeout

## アーカイブ名をリセット([Exchange アーカイブ全般]設定)

説明	同期中に、メールボックス名と一致するようにアーカイブ名を自動的に変更するかどうかを制御します。
----	---

- サポートされている値
- [無効]。同期中に、アーカイブ名は一切変更されません。
  - [有効](デフォルト)。同期中に、アーカイブ名はメールボックス名と一致するように、必要に応じて自動的に変更されます。

以前のの名前      `ResetArchiveNames`

## 失敗したメッセージを「アーカイブしない」に設定 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明      あるアイテムをアーカイブできない場合、次のアーカイブの実行時にそのアイテムを再処理することが、Exchange メールボックスタスクのデフォルトの動作です。これは、失敗したアイテムは多くの場合、2 回目の試行でアーカイブに成功するためです。

この設定を有効にすると、アーカイブに失敗したアイテムに「アーカイブしない (Do Not Archive)」とマーク付けすることによって、次のアーカイブが実行されたときに再処理の対象にならないように動作を変更できます。

- サポートされている値
- [表示](デフォルト)。アーカイブに失敗したアイテムは「アーカイブしない」とマーク付けされません。
  - [非表示]。アーカイブに失敗したアイテムは「アーカイブしない」とマーク付けされます。

以前のの名前      `SetFailedMsgsDoNotArchive`

## ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明      アーカイブ後にカレンダーアイテム、ミーティングアイテム (要求、応答、取り消しを含む)、タスクとタスク要求アイテム、連絡先から添付ファイルを削除するかどうかを制御します。これらのアイテムは、アーカイブ時に Enterprise Vault ショートカットに変更されません。Enterprise Vault で添付ファイルを削除すると、添付ファイルへのリンクに置き換えられます。

- サポートされている値
- [有効](デフォルト)。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除します。
  - [無効]。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除しません。

以前のの名前      `StripAttachmentsToNonShortcutItems`

フォルダ権限を同期 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	<p>メールボックスの代理アクセス権と共有フォルダアクセス権限を同期するかどうかを制御します。これらが同期されない場合、対応するアーカイブにアクセスできるのはメールボックスの所有者のみになります。これにより、たとえば、代理人によるメールボックスアーカイブへのアクセスなどの操作ができなくなります。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効]。フォルダのアクセス権限は同期されません。</li> <li>■ [有効](デフォルト)。フォルダのアクセス権限が同期されます。</li> </ul>
以前のの名前	SynchronizeFolderPermissions

カスタムショートカットのテキスト方向インジケータ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	<p>ショートカット本文の形式を左から右や右から左に決めるときにメッセージのどのコードページプロパティを確認するかを指定します。 PR_MESSAGE_CODEPAGE または PR_INTERNET_CPID。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PR_MESSAGE_CODEPAGE (デフォルト)を使います。</li> <li>■ PR_INTERNET_CPID を優先します。</li> </ul>
以前のの名前	UsePRInternetCPIDForRTLDetermination

有効な Enterprise Vault サイトのエイリアス([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明	<p>環境内で現在操作中の Enterprise Vault サイトのエイリアスをセミコロンで区切ったリストです。</p> <p>ショートカット処理の間、Enterprise Vault はこのリストにないサイトには接続を行いません。これによって、環境内にもう存在していない Enterprise Vault サイトに接続を試みるのがなくなります。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ セミコロンで区切られた Enterprise Vault サイトのエイリアスの一覧です。非修飾エイリアスまたは完全修飾エイリアスを入力できますが、Enterprise Vault 設定ウィザードを最初に実行した際に指定したサイトのエイリアスに一致する必要があります。設定ウィザードで非修飾のサイトのエイリアスを作成した場合、ここで非修飾のエイリアスを入力する必要があります。</li> <li>■ この文字列が空の場合、Enterprise Vault はすべてのショートカットを処理しようとします。</li> </ul>
以前のの名前	WhitelistOfGoodEVConnectionPoints

## デフォルトまたは匿名の権限が存在する場合に警告 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

説明

Enterprise Vault で、フォルダにデフォルトアクセス権限または匿名アクセス権限が設定されている場合に、Enterprise Vault イベントログにエントリを記録するかどうかを制御します。

警告は次のようになります。

```
Date: 29/06/2004      Source: Enterprise Vault
Time: 18:00:42        Category: Archive Service
Type: Warning         Event ID: 3284
User: N/A
Computer: DEMO
```

Description:

The folder has Anonymous permissions set that grant all users access to this folder. By default, this has not been synchronized to the users archive.

```
MailboxDn: /o=Admin/ou=First Administrative
Group/cn=Recipients/cn=HardyO
FolderPath: Inbox
```

サポートされている  
値

- [無効]。フォルダにデフォルトアクセス権限または匿名アクセス権限が設定されている場合でも、警告を発生しません。
- [有効](デフォルト)。フォルダにデフォルトアクセス権限または匿名アクセス権限が設定されている場合、警告を発生します。

以前の名前

WarnWhenDefOrAnonPerms

## Exchange デスクトップポリシーの詳細設定

これらの設定により、Exchange デスクトップポリシー設定を詳細に制御できます。

Exchange デスクトップポリシーの詳細設定には次のカテゴリがあります。

- 「Office Mail App (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)」
- 「Outlook (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)」
- 「2013 より前の OWA バージョン (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)」
- 「Vault Cache (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)」
- 「仮想ボルト (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)」

## Office Mail App (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)

Office Mail App の設定によって、Enterprise Vault Office Mail App の Outlook 2013 および OWA 2013 での可用性および動作が制御されます。

Office Mail App の設定は次のとおりです。

- 「可用性 (Exchange Office Mail App の設定)」
- 「Mail App バーの動作 (Exchange Office Mail App の設定)」
- 「モード (Exchange Office Mail App の設定)」

### 可用性 (Exchange Office Mail App の設定)

説明 Enterprise Vault Office Mail App を使用できるアプリケーションを指定します。

- サポートされている値
- OWA のみ (2013 以降)。Outlook では、Enterprise Vault は Office Mail App が利用できないことを示すメッセージを表示します。Outlook ユーザーは 2 つの方法 (Enterprise Vault ツールバーと Office Mail App の両方) を使ってアーカイブにアクセスできるので、混乱しないようにするためにこの設定が役立ちます。
  - Outlook のみ (2013 以降)。OWA では、Enterprise Vault は Office Mail App が利用できないことを示すメッセージを表示します。
  - OWA と Outlook (2013 以降)。これはデフォルトの設定です。

以前の名前 OAAvailability

### Mail App バーの動作 (Exchange Office Mail App の設定)

説明 ユーザーがショートカットの Office Mail App バーをクリックしたときの動作を決定します。使用可能な Enterprise Vault オプションを表示してアイテムを新しいウィンドウですぐに開くか、アイテムを開かずに Enterprise Vault オプションを表示するかのいずれかです。

- サポートされている値
- [すぐに開いてオプションを表示]。
  - [オプションを表示] (デフォルト)。

以前の名前 OAMailBarBehavior

### モード (Exchange Office Mail App の設定)

説明 Outlook 2013 と OWA 2013 のユーザーが、Enterprise Vault のすべての機能にアクセスできるようにするかどうかを決定します。

サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 完全。ユーザーは手動でアーカイブする各アイテムの保持カテゴリを選択できます。</li> <li>■ 簡易 (デフォルト)。ユーザーは手動でアーカイブする各アイテムの保持カテゴリを選択できません。代わりに、Enterprise Vault はアイテムが入っているメールボックスフォルダのデフォルト保持カテゴリのアイテムをアーカイブします。</li> </ul>
以前の名前	OAMode

## Outlook (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)

[Outlook] 設定では、Enterprise Vault Outlook アドインの動作を制御できます。注記されている場合を除き、Mac OS X 用の Enterprise Vault クライアントに影響する設定はありません。

[Outlook] 設定は次のとおりです。

- 「イントラネットゾーンにサーバーを追加 (Exchange Outlook 設定)」
- 「パブリックフォルダ内でスクリプトを許可 (Exchange Outlook の設定)」
- 「共有フォルダ内でスクリプトを許可 (Exchange Outlook の設定)」
- 「ショートカットコピーの許可 (Exchange Outlook の設定)」
- 「代替 Web アプリケーション URL (Exchange Outlook の設定)」
- 「IE ファイルキャッシュを自動的に削除 (Exchange Outlook 設定)」
- 「Outlook アドインを自動的に再有効化 (Exchange Outlook 設定)」
- 「ローカルにフォームを配備 (Exchange Outlook の設定)」
- 「通知の表示 (Exchange Outlook の設定)」
- 「元のアイテムでの Office Apps の表示 (Exchange Outlook の設定)」
- 「フォルダのプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)」
- 「エラー時にフォームの再ロードを強制 (Exchange Outlook 設定)」
- 「元のアイテムを転送 (Exchange Outlook 設定)」
- 「アドインの自動再有効化を制限 (Exchange Outlook 設定)」
- 「メールボックスプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)」
- 「PST ファイルのマーク付け (Exchange Outlook の設定)」
- 「メッセージプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)」
- 「Outlook アドインの動作 (Exchange Outlook 設定)」
- 「ポリシー検索の場所 (Exchange Outlook 設定)」

- 「メッセージクラスの保存 (Exchange Outlook 設定)」
- 「(コンテンツクラスの) メッセージクラスの保存 (Exchange Outlook の設定)」
- 「Outlook アドインの無効化の防止 (Exchange Outlook の設定)」
- 「印刷動作 (Exchange Outlook の設定)」
- 「PST のインポート一時停止間隔 (Exchange Outlook 設定)」
- 「PST インポート作業チェック間隔 (Exchange Outlook 設定)」
- 「PST の検索間隔 (Exchange Outlook 設定)」
- 「パブリックフォルダの操作 (Exchange Outlook の設定)」
- 「PST エントリを削除 (Exchange Outlook 設定)」
- 「イントラネットゾーンからサーバーを削除 (Exchange Outlook 設定)」
- 「返信動作 (Exchange Outlook 設定)」
- 「RPC over HTTP の制限 (Exchange Outlook 設定)」
- 「検索動作 (Exchange Outlook 設定)」
- 「ショートカットのダウンロード進行状況 (Exchange Outlook の設定)」
- 「一時削除 (Exchange Outlook の設定)」
- 「プロキシ設定を使用 (Exchange Outlook 設定)」
- 「Web アプリケーションの URL (Exchange Outlook の設定)」

## イントラネットゾーンにサーバーを追加 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>一覧表示されたサーバーをブラウザのローカルイントラネットゾーンに追加します。</p> <p>この設定を使うと、アーカイブを検索するときやアーカイブ済みアイテムを復元するときに、ユーザーにログオン情報の入力を求めるメッセージが表示されなくなります。</p> <p>この変更は現在のユーザーにのみ適用されるため、同じコンピュータの他のユーザーは影響を受けません。</p> <p>ユーザーがブラウザを修正する権限を持っていない場合、セキュリティ設定は変更されず、エラーも生成されません。</p> <p>組織内の Windows コンピュータに <b>United States Government Configuration Baseline (USGCB) Group Policy Objects (GPO)</b> を適用している場合は、この設定を使うことはできません。USGCB 準拠のデスクトップの場合には、ユーザーはコンピュータのローカルイントラネットゾーンの設定を変更できません。これらのユーザーに対してブラウザを設定する方法については『<b>Veritas Enterprise Vault インストール/設定</b>』で、「<b>USGCB 準拠コンピュータへの Enterprise Vault サーバーの詳細の公開</b>」に関するセクションを参照してください。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ テキスト文字列。ブラウザのローカルイントラネットゾーンに追加するコンピュータを定義します。この文字列には、ワイルドカード文字、ドメイン名、DNS エイリアス、IP アドレスのいずれかを含めることができます。複数のコンピュータを指定するには、セミコロン (;) を使ってコンピュータ名を区切ります。構文は次のとおりです。 <code>computer1[;computer2][;computer3]...</code> テキスト文字列の例をいくつか次に示します。  <code>webserver.mycorp.com</code> <code>*.mycorp.com</code> <code>mywebserver;*.mycorp.com</code></li></ul>
以前の名前	AddServerToIntranetZone

## パブリックフォルダ内でスクリプトを許可 (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>[パブリックフォルダ内でスクリプトを許可]を Outlook アドインが自動的に設定するかどうかを制御します。この設定は、Outlook アドインがパブリックフォルダにあるショートカットを開くために必要です。</p>
----	---



サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [強制的に無効化]。Outlook アドインがパブリックフォルダにあるショートカットを開くことができません。</li><li>■ [強制的に有効化](デフォルト)。Outlook アドインがパブリックフォルダにあるショートカットを開くことができます。</li><li>■ [ユーザーの設定を保持]。[パブリックフォルダ内でスクリプトを許可]について、Outlook のユーザー設定は変更されません。</li></ul>
以前の名前	AllowScriptPublicFolders

## 共有フォルダ内でスクリプトを許可 (Exchange Outlook の設定)

説明	Outlook の[共有フォルダ内でスクリプトを許可]を Outlook アドインが自動的に設定するかどうかを制御します。この設定は、Outlook アドインが共有フォルダにあるショートカットを開くために必要です。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [強制的に無効化]。Outlook アドインが共有フォルダにあるショートカットを開くことができません。</li><li>■ [強制的に有効化](デフォルト)。Outlook アドインが共有フォルダにあるショートカットを開くことができます。</li><li>■ [ユーザーの設定を保持]。[共有フォルダ内でスクリプトを許可]について、Outlook のユーザー設定は変更されません。</li></ul>
以前の名前	AllowScriptSharedFolders

## ショートカットコピーの許可 (Exchange Outlook の設定)

説明	ユーザーがショートカットをコピーしようとしたときの動作を制御します。 Enterprise Vault でショートカットのコピーではなく元のアイテムを復元することはできません。そのため、働かなくなった孤立したショートカットをそのままにして、後でアーカイブ済みアイテムを削除した場合に混乱することがありません。
----	---

サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効]。ユーザーがショートカットをコピーしようとすると、ユーザーがアイテムを復元しないとコピーできないことを説明するメッセージが <b>Enterprise Vault</b> に表示されます。</li> </ul> <p>このオプションを[無効]に設定すると、ユーザーは次の方法でショートカットをコピーできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ショートカットを右クリックして[移動]、[フォルダにコピー]の順にクリックする</li> <li>■ 1 つ以上の <b>Enterprise Vault</b> ショートカットが含まれる <b>Outlook</b> フォルダ全体を別のフォルダにコピーする</li> </ul> <p><b>Outlook</b> の特定の制限事項により、<b>Enterprise Vault</b> はこれらの操作を遮断できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効] (デフォルト)。ユーザーはショートカットをコピーできます。ユーザーが後でショートカットと対応するアーカイブ済みアイテムを削除すると、ショートカットのコピーが働かなくなります。</li> </ul>
------------	---

以前の名前 AllowCopyShortcut

## 代替 Web アプリケーション URL (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>デフォルトの Web アプリケーション URL が解決しない場合のために、<b>Enterprise Vault</b> サーバーに代替 URL を指定します。</p> <p>たとえば、外部ネットワークのクライアントは、<b>Enterprise Vault</b> サーバーに接続するためにプロキシサーバーを使う必要があることがあります。その場合は、[代替 Web アプリケーション URL] の設定を使って次のような URL を指定できます。</p> <p><code>https://proxy_server/EnterpriseVault</code></p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL。</li> </ul>
以前の名前	RPCOverHTTPProxyURL

## IE ファイルキャッシュを自動的に削除 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p><b>Internet Explorer</b> のキャッシュでアーカイブ済みアイテムの表示が禁止されている場合に、<b>Outlook</b> への <b>Enterprise Vault</b> アドインがユーザーのインターネット一時ファイルを自動的に削除するかどうかを制御します。</p>
----	--

- サポートされている値
- [ファイルを削除しない](デフォルト)。インターネット一時ファイルを削除しません。
  - [ファイルを削除してユーザーに通知する]。インターネット一時ファイルを削除して、ファイルが削除されたことをユーザーに通知します。
  - [通知せずにファイルを削除する]。インターネット一時ファイルを削除しますが、ユーザーには通知しません。
  - [ユーザーに確認]。インターネット一時ファイルを削除する必要があるかどうかをユーザーに確認します。

以前の名前      AutoDeleteIECache

## Outlook アドインを自動的に再有効化 (Exchange Outlook 設定)

説明      Enterprise Vault Outlook アドインが無効になったときに、自動的に再有効化するかどうかを制御します。

- サポートされている値
- [再有効化しない]。Outlook アドインが無効になったときに自動的に再有効化しません。
  - [再有効化してユーザーに通知する](デフォルト)。Outlook アドインが無効になったときに自動的に再有効化し、このことをユーザーに通知します。
  - [通知せずに再有効化する]。Outlook アドインが無効になったときに自動的に再有効化し、このことをユーザーに通知しません。
  - [ユーザーに確認]。Outlook アドインを再有効化する必要があるかどうかをユーザーに確認します。

以前の名前      AutoReEnable

## ローカルにフォームを配備 (Exchange Outlook の設定)

説明      Enterprise Vault の Exchange フォームをユーザーの個人用フォームライブラリに配備する方法を制御します。

この設定によって、組織フォームライブラリがない環境への Enterprise Vault の Exchange フォームの配備を制御できます。

フォームをローカルに配備するよう選択した場合、新しいバージョンの Enterprise Vault にアップグレードするときに、フォームが自動的に更新されます。

サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [削除しない]。Enterprise Vault の Exchange フォームは、ユーザーの個人用フォームライブラリには配備しないください。</li> <li>■ [組織フォームがない場合]。組織フォームライブラリがない場合は、ユーザーの個人用フォームライブラリに配備します。</li> <li>■ [常に配備] (デフォルト)。常にフォームをローカルに配備します。</li> <li>■ [削除]。ローカルに配備されたフォームを削除します。このオプションは、組織フォームライブラリを使用できるように Exchange Server 環境を変更したような場合に役立ちます。この設定によって、ローカルに配備されたすべてのフォームをユーザーのコンピュータから削除できます。より新しいバージョンの Enterprise Vault にアップグレードする場合、既存のローカルフォームの削除にこのオプションを使う必要はありません。フォームは自動的にアップグレードされます。</li> </ul>
以前の名前	DeployFormsLocally

## 通知の表示 (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>Enterprise Vault Outlook アドインのユーザーへの通知を有効または無効にします。たとえば、[通知を表示]を有効にすると、Enterprise Vault Outlook アドインがボルトキャッシュの同期エラーをユーザーに通知します。</p> <p><b>メモ:</b> また、個々のコンピュータに NotificationsEnabled のレジストリ値を使って、ユーザーへの通知を有効または無効にすることもできます。レジストリ値が設定されたコンピュータでは、NotificationsEnabled がポリシーの設定を上書きします。詳しくは『レジストリ値』の「NotificationsEnabled」を参照してください。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [表示] (デフォルト)。Enterprise Vault Outlook アドインのユーザーへの通知を無効にします。</li> <li>■ [非表示]。Enterprise Vault Outlook アドインのユーザーへの通知を有効にします。</li> </ul>
以前の名前	NotificationsEnabled

## 元のアイテムでの Office Apps の表示 (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>ユーザーがアーカイブ済みアイテムの元の内容をショートカットから開くとき、その内容に Enterprise Vault Office Mail App を表示するかどうかを指定します。この設定は Outlook 2013 以降にのみ適用されます。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効]。Office Mail App が、開かれたアーカイブ済みアイテムの元の内容に表示されません。</li> <li>■ [有効] (デフォルト)。Office Mail App が、開かれたアーカイブ済みアイテムの元の内容に表示されます。</li> </ul>

以前の名前 DisplayOfficeAppsOnOriginalItems

## フォルダのプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)

説明 フォルダのプロパティに、[Enterprise Vault プロパティ]タブを表示するかどうかを制御します。

Enterprise Vault の設定をすべてロックした場合は、プロパティのタブも非表示にした方がよい場合があります。

プロパティのタブを非表示にすることにより、ユーザーはタブページにアクセスして設定を変更することができないため、事実上すべての設定をロックしていることになります。

サポートされている値

- [タブを非表示]。Enterprise Vault フォルダのプロパティを非表示にします。
- [タブを表示](デフォルト)。Enterprise Vault フォルダのプロパティを表示します。

以前の名前 FolderPropertiesVisible

## エラー時にフォームの再ロードを強制 (Exchange Outlook 設定)

説明 エラーが発生した場合に Outlook がフォームを再ロードするように、Outlook のレジストリエントリ ForceFormReload を書き込むかどうかを制御します。

このレジストリエントリはすべての Outlook フォームに適用されるため、この設定を変更すると他のアプリケーションに影響する可能性があることに注意してください。

サポートされている値

- [エントリの削除]。レジストリエントリを削除します。つまり、エラー時に Outlook はフォームを再ロードしません。
- [エントリの書き込み](デフォルト)。レジストリエントリを書き込みます。この設定により、エラー時に Outlook はフォームを再ロードします。

以前の名前 SetForceFormReload

## 元のアイテムを転送 (Exchange Outlook 設定)

説明 ユーザーがショートカットを転送するときの動作を制御します。デフォルトではアーカイブ済みアイテムを転送しますが、ショートカット自体の内容を転送できません。

サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [ショートカット]。ショートカットを転送します。</li><li>■ [元の内容](デフォルト)。アーカイブ済みアイテムを転送します。種類が <b>IPM.Document</b> または <b>IPM.Appointment</b> のアイテムは転送できません。ユーザーがこれらの種類のアイテムを転送しようすると、説明のメッセージが表示されます。</li></ul>
以前の名前	ForwardOriginalItem

## アドインの自動再有効化を制限 (Exchange Outlook 設定)

説明	任意の 7 日間の期間中に Outlook アドインが Outlook アドインとして自身を再有効化できる最大回数を制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 任意の 7 日間の期間中に Outlook アドインが自身を再有効化できる最大回数を指定する整数値。デフォルトは 3 です。</li></ul>
以前の名前	MaxAutoReEnables

## メールボックスプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>メールボックスのプロパティに、[Enterprise Vault プロパティ]タブを表示するかどうかを制御します。</p> <p><b>Enterprise Vault</b> の設定をすべてロックした場合は、プロパティのタブも非表示にした方がよい場合があります。</p> <p>プロパティのタブを非表示にすることにより、ユーザーはタブページにアクセスして設定を変更することができないため、事実上すべての設定をロックしていることになります。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [タブを非表示]。メールボックスの[Enterprise Vault プロパティ]タブを非表示にします。</li><li>■ [タブを表示](デフォルト)。メールボックスの[Enterprise Vault プロパティ]タブを表示します。</li></ul>
以前の名前	MailboxPropertiesVisible

## PST ファイルのマーク付け(Exchange Outlook の設定)

説明	<p>Enterprise Vault クライアントで、PST ファイルに、所有するアカウントの詳細をマーク付けするかどうかを制御します。この設定は、PST ファイルの内容を Enterprise Vault に移行する場合に便利です。</p> <p>PST ファイルのマーク付けを有効に設定した場合、Enterprise Vault Outlook アドインはユーザーの Outlook プロファイルに列挙されているすべての PST を開こうとします。ユーザーは、パスワードで保護された PST に対するパスワードの入力を求めるメッセージが表示され、アクセスできない PST があるとエラーメッセージが表示されます。</p> <p><b>メモ:</b> パスワードの誤りやパスワードが見つからないために移行エラーが発生するのを避けるには、[個人用ストアの管理]プロパティの[全般]ページを編集し、Enterprise Vault がパスワードを上書きしてファイルを移行できるようにします。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効]。Enterprise Vault クライアントは PST ファイルにマーク付けしません。</li><li>■ [有効](デフォルト)。Enterprise Vault クライアントは、所有するアカウントの詳細を PST ファイルにマーク付けします。</li></ul>
以前の名前	MarkPSTs

## メッセージプロパティを表示 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>個々のメッセージのプロパティで[Enterprise Vault プロパティ]タブを表示するかどうかを制御します。Enterprise Vault の設定をすべてロックした場合は、プロパティのタブも非表示にした方がよい場合があります。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [タブを非表示]。メッセージの[Enterprise Vault プロパティ]タブを非表示にします。</li><li>■ [タブを表示](デフォルト)。メッセージの[Enterprise Vault プロパティ]タブを表示します。</li></ul>
以前の名前	MessagePropertiesVisible

## Outlook アドインの動作 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>Enterprise Vault Outlook アドインが完全モードであるか簡易モードであるかを制御します。</p> <p>完全モードでは、Outlook アドインの動作に機能的な制限はありません。</p> <p>ライトモードでは、次の制限が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ フォルダの Enterprise Vault プロパティにアクセスできません。</li><li>■ 手動アーカイブの実行時に、アーカイブ先と保持カテゴリを指定できません。</li><li>■ アーカイブされたアイテムを復元するときに、宛先フォルダを選択できません。Outlook アドインはショートカットがあるフォルダにのみアイテムを復元します。</li></ul>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 完全。Outlook アドインは完全モードです。</li><li>■ 簡易 (デフォルト)。Outlook アドインは簡易モードです。</li></ul> <p>[Outlook アドインの動作]を[簡易]に設定し、既存のポリシーでユーザーが Enterprise Vault フォルダの設定を変更できるようにしている場合は、Policy Manager を実行して、すべてのフォルダをサイトの設定に戻すようにします。Policy Manager について詳しくは『ユーティリティ』を参照してください。</p> <p>Outlook アドインのバージョンが Enterprise Vault 10.0.1 以前である場合、Outlook アドインの動作の設定は、Outlook アドインを、HTTP-Only Outlook アドインとまったく同様に動作させるかどうかを制御します。この場合、値は次の意味を持ちます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 完全。Outlook アドインの動作は変わりません。</li><li>■ 簡易 (デフォルト)。Outlook アドインは、HTTP-Only Outlook アドインとまったく同様に動作します。</li></ul>
以前の名前	UseSelfInstallFunct



## ポリシー検索の場所 (Exchange Outlook 設定)

### 説明

Enterprise Vault Outlook アドインのレジストリ値をユーザーのコンピュータに設定できます。管理コンソールの **Exchange** デスクトップポリシーに同等のポリシー値があれば、レジストリ値は **Exchange** デスクトップポリシーよりも優先されます。

[ポリシー検索の場所]では、ユーザーのコンピュータ上のレジストリ値を使って **Exchange** デスクトップポリシーの上書きを制御できます。次のいずれかの種類のポリシー検索を指定できます。

- **Exchange** デスクトップポリシー内のみを検索する。
- 最初にレジストリ内を検索する。レジストリ値がない場合は、**Exchange** デスクトップポリシー内のポリシー値を使う。

**Outlook** アドインレジストリ値について詳しくは、『レジストリ値』を参照してください。

- サポートされている値
- [ポリシーのみ]。Outlook アドインは Exchange デスクトップポリシー内のみを検索します。
  - [ポリシー、レジストリ HKLM]。Outlook アドインは次のレジストリキー内を検索します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Client
```

レジストリキーにポリシー値がなければ、Outlook アドインは Exchange デスクトップポリシーのポリシー値を使います。Exchange デスクトップポリシーに同等のポリシー値がなければ、Outlook アドインはレジストリ値のデフォルトを使います。

- [ポリシー、レジストリ HKLM、レジストリ HKCU] (デフォルト)。Outlook アドインは、この順序で次のレジストリキー内を検索します。これらのレジストリキーの 2 番目には、ボルトキャッシュと仮想ボルトレジストリ値のみがあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Client
```

```
HKEY_CURRENT_USER
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Client
¥VaultCacheStoreID
```

```
HKEY_CURRENT_USER
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Client
```

これらのレジストリキーでポリシー値が見つからなければ、Outlook アドインは Exchange デスクトップポリシーのポリシー値を使います。Exchange デスクトップポリシーに同等のポリシー値がなければ、Outlook アドインはレジストリ値のデフォルトを使います。

以前の名前

RestrictPolicyLookup

## メッセージクラスの保存 (Exchange Outlook 設定)

説明	指定されたクラスを持つアーカイブされたアイテムのメッセージクラスを保存します。ユーザーがショートカットを開くと、通常は <b>Enterprise Vault</b> によってメッセージクラスにサフィックス「 <b>EnterpriseVault.Original</b> 」が追加され、ショートカットがアーカイブ済みのアイテムの表示であることが示されます。状況によっては、このサフィックスによって一部の種類のアイテムが <b>Outlook</b> で正常に開くことができなくなります。[メッセージクラスの保存] の設定では、エラーなしで開くことができるように、これらのアイテムの元のメッセージクラスを保存できます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ テキスト文字列。これらのクラスのアイテムを開くときに、<b>Enterprise Vault</b> によって変更されないメッセージクラスを定義します。複数のクラスを指定するには、セミコロン (;) を使用して各クラスを区切ります。正確なクラス名を入力するか、アスタリスク (*) を追加して接頭辞の一致を示すこともできます。この設定のデフォルト値は次のとおりです。 <b>IPM.Note.SMime*;IPM.Report.*;REPORT.IPM*</b> テキスト文字列は大文字と小文字が区別されます。</li></ul>
以前の名前	<b>MessageClassesPreventingMsgClassChangeOnView</b>

## (コンテンツクラスの)メッセージクラスの保存 (Exchange Outlook の設定)

説明	指定されたコンテンツクラスを持つアーカイブされたアイテムのメッセージクラスを保存します。ユーザーがショートカットを開くと、通常は <b>Enterprise Vault</b> によってメッセージクラスにサフィックス「 <b>EnterpriseVault.Original</b> 」が追加され、ショートカットがアーカイブ済みのアイテムの表示であることが示されます。状況によっては、このサフィックスによって一部の種類のアイテムが <b>Outlook</b> で正常に開くことができなくなります。「(コンテンツクラスの)メッセージクラスの保存」の設定は、指定されたコンテンツクラスを持つすべてのアイテムのメッセージクラスを <b>Enterprise Vault</b> に変更させません。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ テキスト文字列。メッセージクラスが不変であるアイテムのコンテンツクラスを指定します。複数のコンテンツクラスを指定するには、セミコロン (;) を使ってコンテンツクラス名を区切ります。正確なクラス名を入力するか、または末尾にアスタリスク (*) を追加して接頭辞の一致を示します。デフォルト値は次のとおりです。 <b>rpmsg.message</b> テキスト文字列は大文字と小文字が区別されます。</li></ul>
以前の名前	<b>ContentClassesPreventingMsgClassChangeOnView</b>

## Outlook アドインの無効化の防止 (Exchange Outlook の設定)

説明	各ユーザーの Outlook が無効にできないアドインリストに Enterprise Vault Outlook アドインを追加するかどうかを指定します。このオプションは Outlook 2013 以降にのみ適用されます。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [リストに追加] (デフォルト)。Enterprise Vault Outlook アドインを各ユーザーの「アドインを無効にしない」リストに追加することで、Outlook がそのアドインを無効にしないようにします。</li> <li>■ [ユーザーの設定を保持]。Enterprise Vault Outlook アドインを各ユーザーの「アドインを無効にしない」リストに追加することも、そのアドインをリストから削除することもしません。</li> <li>■ [リストから削除]。Enterprise Vault Outlook アドインが各ユーザーの「アドインを無効にしない」リストに記載されている場合、そのアドインをリストから削除します。</li> </ul>
以前のの名前	AddToDoNotDisableAddinList

## 印刷動作 (Exchange Outlook の設定)

説明	このレガシー設定は Outlook 2010 以降では無効になり、常にショートカットの内容が印刷されるようになっています。したがって、ユーザーがアーカイブされたアイテムの内容全体を印刷する場合は、まずこのアイテムを復元する必要があります。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [ショートカット]。ショートカットの内容を印刷します。</li> <li>■ [アーカイブ済みアイテム] (デフォルト)。アーカイブ済みアイテムの内容を印刷します。</li> </ul>
以前のの名前	PrintOriginalItem

## PST のインポート一時停止間隔 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>クライアント主導の PST 移行を行う場合、この設定によって、1 つの PST ファイルのインポートを完了してから次の PST ファイルのインポートを開始するまでに Outlook アドインが待機する時間を制御します。</p> <p>これは、Outlook が起動されてから PST ファイルのインポートを続行するまでに Outlook アドインが待機する時間でもあります。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数。PST ファイルのインポート時に、各 PST ファイルの処理の間に待機する時間 (分) と、Outlook 起動後に PST ファイルのインポートを続行するまでに待機する時間 (分) です。</li> </ul> <p>デフォルトは 1 (分) です。</p>
以前のの名前	PSTImportPauseInterval

## PST インポート作業チェック間隔 (Exchange Outlook 設定)

説明	他の処理をチェックする前に、作業を完了するまでクライアント主導の PST 移行が待機する時間 (分) です。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 整数。他の処理をチェックするまでの待機時間 (分) を指定する整数値。デフォルトは 60 です。</li></ul>
以前のの名前	PSTImportNoWorkPauseInterval

## PST の検索間隔 (Exchange Outlook 設定)

説明	クライアント主導の PST 移行を行う場合、この設定によって、ユーザーのコンピュータで PST ファイルを検索してから次の検索を開始するまでに Outlook アドインが待機する時間を制御します。
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 整数。検索と検索の間に待機する日数を指定します。デフォルトは 7 (日) です。</li></ul>
以前のの名前	PSTSearchInterval

## パブリックフォルダの操作 (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>ユーザーが次の操作を実行できるかどうかを制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ 手動によるパブリックフォルダからのアーカイブ</li><li>■ 手動によるパブリックフォルダからの復元</li><li>■ パブリックフォルダ内のショートカットと、対応するアーカイブ済みアイテムの削除</li></ul>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示] (デフォルト)。ユーザーはパブリックフォルダ内のアーカイブ、復元、削除ができます。ユーザーはメールボックスのアーカイブを行える必要があり、修正するフォルダに対する編集者、公開編集者、所有者の権限を持っている必要があります。</li><li>■ [非表示]。ユーザーはパブリックフォルダ内のアーカイブ、復元、削除ができません。</li></ul>
以前のの名前	DisablePublicFolderOps

## PST エントリを削除 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>PST ファイルの移行が完了したときに、それに対応する PST ファイルのエントリをユーザープロファイルから削除するかどうかを制御します。</p> <p>必要に応じて値を組み合わせて行うことができます。たとえば、隠しファイル (4) または読み取り専用 (2) になっている PST ファイルの PST エントリを削除するには、[PST エントリを削除] を 6 に設定します。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 0 (デフォルト)。PST ファイルの移行後にプロファイルのエントリを削除しません。</li><li>■ 1。PST ファイルがユーザーのコンピュータから削除された場合にプロファイルのエントリを削除します。</li><li>■ 2。PST ファイルが読み取り専用になっている場合に PST エントリを削除します。</li><li>■ 4。PST ファイルに隠しファイル属性が設定されている場合に PST エントリを削除します。</li></ul>
以前の名前	RemovePSTEntries

## イントラネットゾーンからサーバーを削除 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>一覧に表示されたサーバーを、Internet Explorer のローカルイントラネットゾーンから削除します。</p> <p>この設定の結果として、適切なアクセスを設定した場合を除き、ユーザーはアーカイブを検索したり、アーカイブ済みアイテムを復元したりするときに、ユーザー名とパスワードの入力を求めるメッセージが表示されます。</p> <p>この変更は現在のユーザーにのみ適用されるため、同じコンピュータの他のユーザーは影響を受けません。</p> <p>ユーザーが Internet Explorer を修正するアクセス権限を持っていない場合、セキュリティ設定は変更されず、エラーは生成されません。</p>
----	--

サポートされている値

- テキスト文字列。Internet Explorer のローカルイントラネットゾーンから削除するコンピュータを定義します。この文字列には、ワイルドカード文字、ドメイン名、DNS エイリアス、IP アドレスのいずれかを含めることができます。複数のコンピュータを指定するには、セミicolon (;) を使ってコンピュータ名を区切ります。構文は次のとおりです。  
`computer1[;computer2][;computer3]...`  
テキスト文字列の例をいくつか次に示します。  
  
`webserver.mycorp.com`  
`*.mycorp.com`  
`mywebserver;*.mycorp.com`

以前の名前 RemoveServerFromIntranetZone

## 返信動作 (Exchange Outlook 設定)

説明 ユーザーがショートカットに返信するときの動作を制御します。デフォルトではアーカイブ済みアイテムの内容を含めますが、ショートカット自体の内容も含めることができます。

サポートされている値

- [ショートカット]。返信にショートカットの内容を含めます。(これは、Enterprise Vault 6.0 より前のバージョンと同じ動作です。)
- [元の内容](デフォルト)。アーカイブ済みアイテムの内容を含めます。

以前の名前 ReplyToOriginalItem

## RPC over HTTP の制限 (Exchange Outlook 設定)

説明

メモ: Outlook 2013 以前にのみ適用されます。

Outlook が RPC over HTTP (Outlook Anywhere) を使うように設定されている場合に、どの機能が利用可能であるかを制御します。デフォルト値 [Outlook アドインの無効化] は、Exchange Server 2010 にホストされているメールボックスにのみ適用されます。デフォルト値を選択した場合、Exchange Server 2013 以降にホストされているメールボックスでは、Enterprise Vault Outlook アドインの全機能を利用可能です。

サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ なし。RPC over HTTP を使うように設定されている場合に、すべての Enterprise Vault Outlook アドイン機能を利用できます。</li> <li>■ Disable Outlook Add-In (デフォルト)。RPC over HTTP を使う Enterprise Vault への接続が Enterprise Vault Outlook アドインで無効になります。</li> <li>■ ボルトキャッシュの無効化。Outlook が RPC over HTTP を使うように設定されている場合に、ボルトキャッシュは無効になります。</li> <li>■ PST インポートの無効化。Outlook が RPC over HTTP を使うように設定されている場合に、クライアント側 PST 移行は無効になります。</li> <li>■ ボルトキャッシュと PST インポートの無効化。Outlook が RPC over HTTP を使うように設定されている場合に、ボルトキャッシュとクライアント側 PST 移行の両方が無効になります。</li> </ul>
以前の名前	RPCOverHTTPRestrictions

**検索動作 (Exchange Outlook 設定)**

説明	<p>[ボルトの検索]メニューオプションと[ボルトの検索]ボタンの動作を制御します。</p> <p>この設定は Enterprise Vault Outlook アドインのユーザーのみに影響します。Mac OS X 用の Enterprise Vault クライアントのユーザーに対しては、検索機能は常に別のブラウザウィンドウで開きます。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [別のブラウザ]。検索機能は常に別のブラウザウィンドウで開きます。</li> <li>■ [Outlook] (デフォルト)。検索機能は、ユーザーに必要なソフトウェアがあれば Outlook のウィンドウに埋め込まれ、そうでない場合は別のブラウザウィンドウで開きます。</li> </ul>
以前の名前	UseNewStyleSearch

**ショートカットのダウンロード進行状況 (Exchange Outlook の設定)**

説明	<p>ユーザーがショートカットを開き、アイテムをユーザーのコンピュータにダウンロードしているときに表示される進行状況ダイアログボックスの表示を制御します。</p>
サポート対象の値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 0。進行状況ダイアログボックスを一切表示しません。</li> <li>■ 0 より大きい整数。指定した秒数後に進行状況ダイアログボックスを表示します。 デフォルトは 1 (秒) です。</li> </ul>
以前の名前	DownloadShortcutHideProgress



一時削除 (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>ユーザーがショートカットとアーカイブ済みアイテムを削除するときの動作を制御します。デフォルトではショートカットの永続的な削除 (Exchange で回復できない削除) を実行します。永続的な削除が失敗すると、回復可能な削除が実行されます。</p> <p>回復可能な削除を受け入れることができない場合は、この値をオフに設定します。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効] (デフォルト)。回復可能な削除を許可します。</li> <li>■ [無効]。回復可能な削除を禁止し、代わりにエラーメッセージを表示します。</li> </ul>
以前のの名前	NoSoftDeletes

プロキシ設定を使用 (Exchange Outlook 設定)

説明	<p>Outlook アドインがクライアントコンピュータのプロキシ設定を使うかどうかを制御します。</p>
サポートされている値	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [プロキシ設定を使用] (デフォルト)。</li> <li>■ [プロキシの設定を無視]。</li> </ul>
以前のの名前	InternetOpenTypeDirect

Web アプリケーションの URL (Exchange Outlook の設定)

説明	<p>1 つ以上の異なる Enterprise Vault サイト内の Enterprise Vault Web Access アプリケーションのアドレスを指定します。Enterprise Vault サイトはさまざまな Enterprise Vault ディレクトリに格納されていることがあります。この設定により、指定した Enterprise Vault サイト空のショートカットが機能するようになります。</p> <p>たとえば、次の場合にこの設定を使う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 他の Enterprise Vault サイト内のメールボックスショートカットからアーカイブ済みアイテムにアクセスできるようにする場合</li> <li>■ 複数の Enterprise Vault サイトからの Exchange パブリックフォルダタスクによって、パブリックフォルダ階層を処理する場合</li> </ul>
----	--

- サポート対象の値
- 他の Enterprise Vault サイト内の Web Access アプリケーションの URL。  
1 つ以上のアドレスを次の形式で入力します。  
`[vault_site_alias1]=URL;[vault_site_alias2]=URL`  
それぞれの内容は次のとおりです。
    - `vault_site_alias1` と `vault_site_alias2` は他の Enterprise Vault サイトのボルトサイトのエイリアスです。ボルトサイトのエイリアスは、Enterprise Vault 管理コンソールのサイトプロパティの[全般]ページに表示されます。
    - `URL` は Enterprise Vault サイトの Web Access アプリケーションのアドレスです。
- 複数の Enterprise Vault サイトのアドレスを指定する場合は、セミicolon (;) で区切ります。文字列の全体長が 255 文字を超えてはなりません。次に例を示します。
- ```
[UKsite]=https://UKsite.example.com/EnterpriseVault;  
[USAsite]=https://USAsite.example.com/EnterpriseVault
```

以前の名前      WebAppURL

## 2013 より前の OWA バージョン(Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)

OWA 2013 より前のバージョンの設定では、2010 クライアントの動作を制御できます。OWA 2013 については、代わりに Office Mail App 設定を使ってください。

2013 より前の OWA バージョンの設定は次のとおりです。

- 「アーカイブの確認(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「サブフォルダのアーカイブ(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「基本的なアーカイブ機能(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「基本的な復元機能(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「復元後のショートカットの削除(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「外部 Web アプリケーション URL(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「転送モード(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「復元したアイテムの場所(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「オープンモード(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「OWA の[アーカイブポリシー]コンテキストメニューオプション(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」

- 「プレミアムアーカイブ機能 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「プレミアム復元機能 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「返信モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「[全員に返信]モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「復元の確認 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「基本 OWA クライアントの[ボルトの検索] (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「プレミアム OWA クライアントの[ボルトの検索] (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「表示モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」
- 「Web アプリケーションのエイリアス (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)」

アーカイブの確認 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ユーザーがアイテムを手動でアーカイブしようとするときに、確認メッセージを表示するかどうかを指定します。                                                  |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効]。確認しません。</li><li>■ [有効] (デフォルト)。確認メッセージを表示します。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003ArchiveConfirmation                                                                           |

サブフォルダのアーカイブ (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                   |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 手動でのアーカイブの場合、ユーザーの選択にサブフォルダが含まれているときに、サブフォルダをアーカイブするかどうかを制御します。                                                   |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示] (デフォルト)。サブフォルダをアーカイブしません。</li><li>■ [非表示]。サブフォルダをアーカイブします。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003ArchiveSubFolders                                                                                          |

## 基本的なアーカイブ機能(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | OWA 基本クライアントのユーザーがアイテムを手動でアーカイブするときに、保持カテゴリや移行先アーカイブなどのアーカイブ設定の選択を許可するかどうかを制御します。                                                                                                                                               |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [基本](デフォルト)。ユーザーはアーカイブの際に設定を変更できません。<b>Outlook</b> フォルダでのアーカイブ設定が使われます。この設定は、<b>Outlook</b> のユーザーまたは管理者によって設定されている可能性があります。</li><li>■ [拡張]。ユーザーは手動アーカイブを実行する際にアーカイブ設定を選択できます。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003BasicArchiveFunction                                                                                                                                                                                                     |

## 基本的な復元機能(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | OWA 基本クライアントで、OWA のコンテキストメニューに[復元]オプションを表示するかどうかを制御します。                                                                               |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [基本](デフォルト)。コンテキストメニューに[復元]オプションを表示しません。</li><li>■ [拡張]。コンテキストメニューに[復元]オプションを表示します。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003BasicRestoreFunction                                                                                                           |

## 復元後のショートカットの削除(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ショートカットが、それに対応するアーカイブ済みアイテムの復元に使われたときに、そのショートカットを削除するかどうかを制御します。                                                                                    |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [保持]。アーカイブ済みアイテムが復元されたときにショートカットを削除しません。</li><li>■ [削除](デフォルト)。アーカイブ済みアイテムが復元されたときにショートカットを削除します。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003RestoreDeleteShortcut                                                                                                                        |

## 外部 Web アプリケーション URL (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>Enterprise Vault の外部 URL、すなわち、社内ネットワークの外で、ファイアウォールを介して Enterprise Vault サーバーにアクセスするために使われる URL を指定します。</p> <p>この設定の使用方法の詳細については、Veritas のサポート Web サイトにある次のテクニカルノートを参照してください。</p> <p><a href="https://www.veritas.com/docs/100019125">https://www.veritas.com/docs/100019125</a></p> <p>このテクニカルノートには、OWA 用に内部および外部 Web アプリケーション URL を設定する際の情報が記載されています。また、設定ファイルの設定によって、外部 Web アプリケーションの URL を使って Enterprise Vault にアクセスするユーザーを絞り込む方法についても説明されています。</p>                                                 |
| サポート対象の値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ テキスト文字列。Enterprise Vault の外部 URL。<br/>URL は、Web Access アプリケーションの仮想ディレクトリへの完全修飾 URL か、相対 URL のいずれかです。<br/>完全修飾 URL の例は、次のとおりです。<br/><code>http://evserver1.external.name/enterprisevault</code><br/>相対 URL の例は、次のとおりです。<br/><code>/enterprisevault</code><br/>この設定のデフォルト値は、次のとおりです。<br/><code>&lt;https&gt;/enterprisevault</code><br/>相対 URL 冒頭のオプションコンポーネント <code>&lt;https&gt;</code> は、HTTPS プロトコルが使われることを示します。オプションコンポーネントがなければ、HTTP プロトコルが使われます。</li> </ul> |
| 以前の名前    | ExternalWebAppURL                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## 転送モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ユーザーが Enterprise Vault のショートカットの転送を選択したときの動作を制御します。ショートカット自体を転送するか、アーカイブ済みアイテムを転送することが可能です。受信者は、アーカイブに対するアクセス権限を持っていなければ、アーカイブ済みアイテムにアクセスすることはできません。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [ショートカット]。ショートカットの内容が転送されます。</li> <li>■ [アーカイブ済みアイテム] (デフォルト)。アーカイブ済みアイテムが転送されます。</li> </ul>                       |
| 以前の名前      | OWA2003ForwardMode                                                                                                                                          |

## 復元したアイテムの場所 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ショートカットを使って復元されるアイテムの復元先を制御します。次のいずれかを復元先にできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 現在の場所 (ショートカットと同じフォルダ)</li> <li>■ Enterprise Vault の [復元済みアイテム] フォルダ</li> </ul> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [現在の場所] (デフォルト)。ショートカットと同じフォルダに復元します。</li> <li>■ [復元済みアイテム]。[復元済みアイテム] フォルダに復元します。</li> </ul>                                          |
| 以前のの名前     | OWA2003RestoreToRestoredItems                                                                                                                                                   |

## オープンモード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ユーザーが Enterprise Vault のショートカットを開いたときの動作を制御します。</p>                                                                             |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [ショートカット]。ショートカット自体が開かれます。</li> <li>■ [アーカイブ済みアイテム] (デフォルト)。アーカイブ済みアイテムが開かれます。</li> </ul> |
| 以前のの名前     | OWA2003OpenMode                                                                                                                    |

## OWA の [アーカイブポリシー] コンテキストメニュー オプション (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>Exchange Server 2010 で OWA のアーカイブポリシーはセカンダリの Exchange Server メールボックスにアイテムをアーカイブすることを可能にします。この設定は OWA 2010 プレミアムクライアントで OWA のアーカイブポリシー オプションを非表示にすることを可能にします。値を [表示] に設定して次のメニューから OWA のアーカイブポリシー オプションを削除します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [フォルダ] コンテキストメニュー</li> <li>■ [アイテム] コンテキストメニュー (非対話ビュー)</li> <li>■ [アイテム] コンテキストメニュー (対話ビュー)</li> <li>■ 対話の [処理] メニュー</li> </ul> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [非表示]。オプションはメニューに表示されません。</li> <li>■ [表示] (デフォルト)。オプションはメニューに表示されます。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 以前のの名前     | OWA2010HideOWAArchivePolicy                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## プレミアムアーカイブ機能 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | OWA プレミアムクライアントのユーザーがアイテムを手動でアーカイブするときに、保持カテゴリや移行先アーカイブなどのアーカイブ設定の選択を許可するかどうかを制御します。                                                                                                                               |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [基本]。ユーザーはアーカイブの際に設定を変更できません。Outlook フォルダでのアーカイブ設定が使われます。この設定は、Outlook のユーザーまたは管理者によって設定されている可能性があります。</li><li>■ [拡張] (デフォルト)。ユーザーは手動アーカイブを実行する際にアーカイブ設定を選択できます。</li></ul> |
| 以前のの名前     | OWA2003PremiumArchiveFunction                                                                                                                                                                                      |

## プレミアム復元機能 (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                    |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | OWA プレミアムクライアントのユーザーがアイテムを手動でアーカイブするときに、保持カテゴリや移行先アーカイブなどのアーカイブ設定の選択を許可するかどうかを制御します。                                                                                                                               |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [基本]。ユーザーはアーカイブの際に設定を変更できません。Outlook フォルダでのアーカイブ設定が使われます。この設定は、Outlook のユーザーまたは管理者によって設定されている可能性があります。</li><li>■ [拡張] (デフォルト)。ユーザーは手動アーカイブを実行する際にアーカイブ設定を選択できます。</li></ul> |
| 以前のの名前     | OWA2003PremiumRestoreFunction                                                                                                                                                                                      |

## 返信モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                     |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ユーザーが Enterprise Vault のショートカットに返信することを選択したときの動作を制御します。                                                                             |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [ショートカット]。ショートカットが返信先になります。</li><li>■ [アーカイブ済みアイテム] (デフォルト)。アーカイブ済みアイテムが返信先になります。</li></ul> |
| 以前のの名前     | OWA2003ReplyMode                                                                                                                    |

## [全員に返信]モード(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                     |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ユーザーがショートカットを選択し、[全員に返信]を選択したときの動作を制御します。                                                                                           |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [ショートカット]。ショートカットが返信先になります。</li><li>■ [アーカイブ済みアイテム] (デフォルト)。アーカイブ済みアイテムが返信先になります。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003ReplyToAllMode                                                                                                               |

## 復元の確認(Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブ済みアイテムの復元を選択した後、ユーザーに確認を求めるかどうかを制御します。                                                                                        |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効]。アイテムは、ユーザーに確認を求めずに復元されます。</li><li>■ [有効] (デフォルト)。アイテムを復元する前に確認メッセージが表示されます。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003RestoreConfirmation                                                                                                         |

## 基本 OWA クライアントの[ボルトの検索](Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブの検索オプションが OWA 基本クライアントで利用可能であるかどうかを制御します。                                                                           |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効]。アーカイブの検索オプションは使えません。</li><li>■ [有効] (デフォルト)。アーカイブの検索オプションは利用可能です。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003SearchFromBasicNavbar                                                                                             |

## プレミアム OWA クライアントの[ボルトの検索](Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブの検索オプションが OWA プレミアムクライアントで利用可能であるかどうかを制御します。                                                                        |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [無効]。アーカイブの検索オプションは使えません。</li><li>■ [有効] (デフォルト)。アーカイブの検索オプションは利用可能です。</li></ul> |
| 以前の名前      | OWA2003SearchFromPremiumNavbar                                                                                           |



## 表示モード (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                                                                                   |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ユーザーがカスタムショートカットのバナーで[元のアイテムを表示します]をクリックしたときに、元のアイテムを OWA で表示する (Outlook のメッセージのように見えます) か、Enterprise Vault で表示する (Web ブラウザのページのように見えます) かを制御します。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault。Enterprise Vault で元のアイテムを表示します。</li> <li>■ [OWA] (デフォルト)。OWA で元のアイテムを表示します。</li> </ul>  |
| 以前のの名前     | OWA2003ViewMode                                                                                                                                   |

## Web アプリケーションのエイリアス (Exchange OWA 2013 より前のバージョンの設定)

|            |                                                                                    |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 匿名接続の仮想ディレクトリの名前である EVAnon を指定します。これは各メールボックスの非表示の設定に同期されます。                       |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ テキスト文字列。匿名接続のために使う仮想ディレクトリの名前。</li> </ul> |
| 以前のの名前     | OWAWebAppAlias                                                                     |

## Vault Cache (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)

Vault Cache の詳細設定を行うと、Vault Cache の動作を制御できます。

Vault Cache の設定は次のとおりです。

- 「ダウンロードするアイテムの経過日数の限度 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「ダウンロードしたアイテムの経過日数の限度をロック (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「手動アーカイブの挿入 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「オフラインストアが必要 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「一時停止間隔 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「アイテムごとのスリープ (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「事前アーカイブ (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「ルートフォルダ (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「ルートフォルダの検索パス (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「セットアップウィザードを表示 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」

- 「同期するアーカイブの種類 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」
- 「WDS 検索の自動有効化 (Exchange のボルトキャッシュの設定)」

## ダウンロードするアイテムの経過日数の限度 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                        |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>アイテムが古すぎると見なされ、ボルトキャッシュへの最初のダウンロードが不可能となる、アイテムの最大経過日数を指定します。</p> <p>たとえば、[ダウンロードするアイテムの経過日数の限度] を 30 に設定すると、経過日数が 30 日以下のアイテムがダウンロードされます。[ダウンロードするアイテムの経過日数の限度] を 0 に設定すると、すべてのアイテムがダウンロードされます。</p> |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 0。経過日数を制限しません。すべてのアイテムがダウンロードされます。</li><li>■ 整数。ダウンロードするアイテムの最大経過日数。この経過日数以下のすべてのアイテムがダウンロードされます。</li></ul>                                                    |
| 以前のの名前   | OVDDownloadItemAgeLimit                                                                                                                                                                                |

## ダウンロードしたアイテムの経過日数の限度をロック (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                        |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ユーザーがダウンロードの経過日数の限度を変更できるかどうかを制御します。</p>                                            |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効]。ロックします。</li><li>■ [無効]。ロックしません。</li></ul> |
| 以前のの名前   | OVLckDownloadItemAgeLimit                                                              |

## 手動アーカイブの挿入 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                                                  |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>手動でアーカイブしたアイテムをボルトキャッシュに自動的に追加するかどうかを制御します。</p>                                                                               |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効](デフォルト)。手動でアーカイブしたアイテムをボルトキャッシュに自動的に追加します。</li><li>■ [無効]。ボルトキャッシュに追加しません。</li></ul> |
| 以前のの名前   | OVNoManualArchiveInserts.                                                                                                        |

## オフラインストアが必要 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>オフラインストアが存在しない場合、ボルトキャッシュを有効にできるかどうかを制御します。</p> <p>Outlook Exchange キャッシュモードが有効になっている場合、ユーザーはオフラインストア (OST) ファイルを利用できます。ユーザーが OST ファイルを利用できない場合は、Enterprise Vault によって事前キャッシングは実行されません。</p> <p>事前キャッシングが実行されないと、新しくアーカイブしたアイテムに対してボルトキャッシュの内容が同期されるときに負荷が増加します。ボルトキャッシュの内容の扱い方が [すべてのアイテムを格納する] の場合は、この負荷の増加について考慮します。</p> |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [はい] (デフォルト)。ボルトキャッシュを有効にするにはオフラインストアが必要です。</li><li>■ [いいえ]。ボルトキャッシュを有効にするのにオフラインストアは必要ありません。</li></ul>                                                                                                                                                                               |
| 以前の名前    | OVRRequireOfflineStore                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |

## 一時停止間隔 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                        |
|----------|------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュへの追加が必要なアイテムの検索を Enterprise Vault が開始するまでの待機時間 (分) です。</p>  |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 整数値。デフォルトは 3 (分) です。</li></ul> |
| 以前の名前    | OVPauseInterval                                                        |

## アイテムごとのスリープ (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                           |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュを更新する場合、アイテム間で使われる遅延時間 (ミリ秒) です。</p>                                                           |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 整数。ボルトキャッシュの更新時にアイテム間で使われる時間 (ミリ秒)。デフォルトは 100 (ミリ秒) です。</li></ul> |
| 以前の名前    | OVPerItemSleep                                                                                            |

事前アーカイブ (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>Outlook アドインは、アイテムがアーカイブ対象になる前に、ユーザーの Outlook .OST ファイルからボルトキャッシュにアイテムをコピーします。この処理は、事前キャッシングと呼ばれます。事前キャッシングは、ユーザーのコンピュータで実行されます。事前キャッシングにより、メールボックスアーカイブとボルトキャッシュを同期するときにメールボックスアーカイブからボルトキャッシュにダウンロードする必要があるアイテムの数が減少します。</p> <p>事前キャッシングは、Exchange メールボックスポリシーのアーカイブルールの設定に従います。</p> <p>Outlook アドインは、事前キャッシングを実行するアイテムの経過日数を決定する場合、[事前アーカイブ] の値を使います。経過日数を特定するため、Exchange メールボックスポリシーのアーカイブルールの [次より古いアイテムをアーカイブ] の値から [事前アーカイブ] の値が引かれます。</p> <p>たとえば、[事前アーカイブ] をデフォルト値から変更していません。メールボックスポリシーの [次より古いアイテムをアーカイブ] を 6 週間に設定しています。Outlook アドインは、6 週間から [事前アーカイブ] のデフォルト値である 7 日を引き、5 週間以上経過しているアイテムを事前にキャッシュします。</p> <p>クォータを含むアーカイブ戦略を使うと、アイテムがアーカイブされる経過日数の予測が難しくなります。通常は、できるだけ早くアイテムの事前キャッシングを実行する方が有益です。したがって、次の両方に該当する場合、Enterprise Vault は事前キャッシングを実行する経過日数として 0 日を使います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ メールボックスポリシーで、クォータベース、または経過日数とクォータベースのアーカイブ戦略を使っています。</li> <li>■ [事前アーカイブ] 設定をデフォルト値から変更していません。</li> </ul> |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日数を指定する整数。デフォルトは 7 です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 以前の名前    | OVPremptAdvance                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

ルートフォルダ (Exchange のボルトキャッシュの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                 |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュを格納する場所。この値はユーザーがボルトキャッシュを有効にする場合に使います。この値を変更しても、既存のボルトキャッシュには適用されません。</p>                                                                                                           |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ パス。Enterprise Vault がユーザーのローカルコンピュータ上に作成可能なフォルダへのパス。[ルートフォルダ]を指定しないと、Enterprise Vault はユーザーのアプリケーションデータフォルダ内の[Enterprise Vault]サブフォルダを使います。</li> </ul> |

以前の名前 OVRootDirectory

## ルートフォルダの検索パス (Exchange のボルトキャッシュの設定)

説明 ボルトキャッシュの格納が可能な場所の一覧を表示できます。一覧に記載されている、ユーザーのコンピュータで有効な最初の場所が、ボルトキャッシュが作成されるときに使われます。これにより、さまざまな構成のコンピュータに適する可能性が高い一覧を指定できます。

たとえば、E:¥vault;C:¥vault と指定した場合、ユーザーのコンピュータで E:¥vault が有効な場合はこのパスにボルトキャッシュが作成され、有効でない場合は C:¥vault に作成されます。

どの場所も有効でない場合、可能であれば[ルートフォルダ]で指定されているパスが使われます。

p.220 の「[ルートフォルダ \(Exchange のボルトキャッシュの設定\)](#)」を参照してください。

サポートされる値

- テキスト文字列。ボルトキャッシュで利用可能な場所の、セミコロンで区切った一覧。

以前のの名前 OVRootDirectorySearchPath

## セットアップウィザードを表示 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

説明 クライアントにボルトキャッシュ設定ウィザードを表示するかどうかを制御します。

セットアップウィザードでは、次の処理を行います。

- ボルトキャッシュの処理内容と、これから実行する処理の概要を表示します。
- 最初のスキャンが終了したらダウンロードを自動的に開始するかどうかを確認します。デフォルトではダウンロードを開始します。

ウィザードが無効にされている場合、ボルトキャッシュは[一時停止間隔]に指定されている時間待機してから、ダウンロードするアイテムの検索を自動的に開始します。

p.219 の「[一時停止間隔 \(Exchange のボルトキャッシュの設定\)](#)」を参照してください。

サポートされる値

- 無効セットアップウィザードを表示しません。
- 有効 (デフォルト)。セットアップウィザードを表示します。

以前の名前 OVSetupWizard

## 同期するアーカイブの種類 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

説明 ボルトキャッシュと同期される内容を制御します。

サポートされる値

- [デフォルトのメールボックス]。プライマリメールボックスのみを同期します。
- [すべてのメールボックスアーカイブ]。プライマリメールボックスアーカイブと、ユーザーがアクセスできるすべての代理メールボックスアーカイブを同期します。
- [すべてのメールボックスと共有アーカイブ]。プライマリメールボックスアーカイブと、ユーザーがアクセスできるすべての代理または共有メールボックスアーカイブを同期します。

以前の名前 OVSynArchiveTypes

## WDS 検索の自動有効化 (Exchange のボルトキャッシュの設定)

説明 Windows デスクトップサーチのボルトキャッシュ検索プラグインを、ユーザーに自動的に有効にするかどうかを制御します。

このプラグインは Outlook アドインとともにインストールされ、これによりユーザーは Windows デスクトップ検索を使ってボルトキャッシュを検索できます。

サポートされる値

- [強制的に無効化]。この機能を無効にします。
- [強制的に有効化]。この機能を有効にします。
- [ユーザーの設定を保持]。この機能のユーザーの設定を保持します。

以前の名前 OVWDSAutoEnable

## 仮想ボルト (Exchange デスクトップポリシーの詳細設定)

仮想ボルトの設定では、仮想ボルトの動作を制御できます。

仮想ボルトの設定は次のとおりです。

- 「1 回の同期におけるアーカイブ要求の最大数 (Exchange 仮想ボルト設定)」
- 「アイテムをアーカイブする最大試行回数 (Exchange の仮想ボルトの設定)」
- 「1 回の同期でアーカイブされるデータの最大量 (Exchange 仮想ボルト設定)」
- 「1 回の同期における削除要求の最大数 (Exchange の仮想ボルトの設定)」

- 「アーカイブするアイテムの最大サイズ (Exchange 仮想ボルト設定)」
- 「1 回の同期におけるアイテム更新の最大数 (Exchange の仮想ボルトの設定)」
- 「内容がない場合の操作の最大合計サイズ (Exchange の仮想ボルトの設定)」
- 「アーカイブするアイテムの最大合計サイズ (Exchange 仮想ボルト設定)」
- 「閲覧ウィンドウに内容を表示 (Exchange 仮想ボルトの設定)」
- 「同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」
- 「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」
- 「ユーザーがアイテムをアーカイブ可能 (Exchange 仮想ボルトの設定)」
- 「ユーザーが別のストアにアイテムをコピー可能 (Exchange の仮想ボルトの設定)」
- 「ユーザーがアーカイブ内のアイテムをコピー可能 (Exchange 仮想ボルトの設定)」
- 「ユーザーがアイテムを削除 (復元不可) 可能 (Exchange の仮想ボルトの設定)」
- 「ユーザーがアイテムを再編成可能 (Exchange 仮想ボルト設定)」

## 1 回の同期におけるアーカイブ要求の最大数 (Exchange 仮想ボルト設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>ボルトキャッシュの同期におけるアーカイブ要求の最大数を制御します。残りの要求は次回の同期で処理されます。</p> <p>ユーザーがアーカイブされていないアイテムを仮想ボルトに格納しても、ボルトキャッシュの次回のヘッダーの同期後までアーカイブ操作は行われません。</p> <p>値を制限しない場合、または高い値を設定した場合は、ボルトキャッシュの同期が完了するのに必要な時間が長くなる可能性があります。負荷の追加によって <b>Enterprise Vault</b> サーバーが影響を受ける場合は、これについて考慮します。</p> <p>また、ユーザーが仮想ボルトに格納したアイテムがオンラインアーカイブにアーカイブされるまで、移動およびコピーしたアイテムはユーザーのコンピュータにのみ存在します。仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの数が合計サイズに基づいて、ボルトキャッシュの自動同期をトリガする 2 つのしきい値を設定できます。</p> <p>p.228 の「同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> <p>p.229 の「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

サポートされている値

- 整数値。デフォルトは 0 です (限度はありません)。

以前の名前 OVMxlItemArchivesPerSync

## アイテムをアーカイブする最大試行回数 (Exchange の仮想ボルトの設定)

説明 Enterprise Vault がアイテムをアーカイブする試行回数を指定します。  
指定した回数までアーカイブ操作が試行された後、アイテムは仮想ボルトの [アーカイブ失敗] という名前の検索フォルダに一覧表示されます。

サポートされる値 ■ 整数値。デフォルトは 3 です。

以前の名前 OVItemArchiveAttempts

## 1 回の同期でアーカイブされるデータの最大量 (Exchange 仮想ボルト設定)

説明 ボルトキャッシュの同期中にアップロードできるデータの最大量を MB 単位で制御します。残りのデータは次回の同期でアップロードされます。

値を制限しない場合、または高い値を設定した場合は、ボルトキャッシュの同期が完了するのに必要な時間が長くなる可能性があります。負荷の追加によって Enterprise Vault サーバーが影響を受ける場合は、これについて考慮します。

また、ユーザーが仮想ボルトに格納したアイテムがオンラインアーカイブにアーカイブされるまで、移動およびコピーしたアイテムはユーザーのコンピュータにのみ存在します。仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの数が合計サイズに基づいて、ボルトキャッシュの自動同期をトリガする 2 つのしきい値を設定できます。

p.228 の「同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。

p.229 の「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。

この設定の値は、[アーカイブするアイテムの最大サイズ] と同じかそれより大きい値である必要があります。そうでない場合は、[アーカイブするアイテムの最大サイズ] の値が使われます。

サポートされている値 ■ 整数値。デフォルトは 512 (MB) です。値 0 を指定すると、制限されません。

以前の名前 OVMaxToArchivePerSyncMB



1 回の同期における削除要求の最大数 (Exchange の仮想ボルトの設定)

|          |                                                                                                                          |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュの同期における削除要求の最大数を制御します。残りの要求は次の同期で処理されます。</p> <p>削除要求によって使われる <b>Enterprise Vault</b> サーバーのリソースは、比較的小規模です。</p> |
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数値。デフォルトは 0 です (限度はありません)。</li> </ul>                                          |
| 以前の名前    | OVMaxItemDeletesPerSync                                                                                                  |

アーカイブするアイテムの最大サイズ (Exchange 仮想ボルト設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>仮想ボルトに移動またはコピーできるアイテムの最大サイズを MB 単位で制御します。</p> <p>この値が[アーカイブするアイテムの最大合計サイズ]の値とほぼ同じである場合は、完全同期が 1 つのアイテムで構成される可能性があります。</p> <p>[1 回の同期でアーカイブされるデータの最大量]または[アーカイブするアイテムの最大合計サイズ]で、[アーカイブするアイテムの最大サイズ]の値が自動的に使われることがあります。これらの設定の値が[アーカイブするアイテムの最大サイズ]の値より小さい場合に、[アーカイブするアイテムの最大サイズ]の値が使われます。</p> <p>仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの数か合計サイズに基づいて、ボルトキャッシュの自動同期をトリガする 2 つのしきい値を設定できます。</p> <p>p.228 の「<a href="#">同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)</a>」を参照してください。</p> <p>p.229 の「<a href="#">同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)</a>」を参照してください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数値。デフォルトは 256 (MB) です。値 0 を指定すると、制限されません。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 以前の名前      | OVMaxMessageSizeToArchiveMB                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |

## 1 回の同期におけるアイテム更新の最大数 (Exchange の仮想ボルトの設定)

|          |                                                                                                                                |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュの同期におけるプロパティ変更要求の最大数を制御します。残りの要求は次回の同期で処理されます。</p> <p>更新要求によって使われる <b>Enterprise Vault</b> サーバーのリソースは、比較的小規模です。</p> |
| サポートされる値 | ■ 整数値。デフォルトは <b>0</b> です (限度はありません)。                                                                                           |
| 以前の名前    | <b>OVMaxItemUpdatesPerSync</b>                                                                                                 |

## 内容がない場合の操作の最大合計サイズ (Exchange の仮想ボルトの設定)

|          |                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ボルトキャッシュ内のアイテムに内容がない場合のコピー操作と移動操作の最大合計サイズを <b>MB</b> 単位で制御します。この設定はメールボックスに直接配置される文書には適用されません。メールアイテム、カレンダーアイテム、仕事、連絡先などの <b>Outlook</b> の標準メールタイプにのみ適用されます。</p> <p>内容のない <b>2</b> つ以上のアイテムが操作に関係する場合にのみこの設定が適用されます。アイテムのサイズにかかわらず、取り込みは実行できます。</p> |
| サポートされる値 | ■ 整数値。デフォルトは <b>64 (MB)</b> です。値 <b>0</b> を指定すると、制限されません。                                                                                                                                                                                              |
| 以前の名前    | <b>VVDenyMultiContentlessOpsAboveMB</b>                                                                                                                                                                                                                |

## アーカイブするアイテムの最大合計サイズ(Exchange 仮想ボルト設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ボルトキャッシュのアーカイブ保留中のデータの最大合計サイズを MB 単位で制御します。</p> <p>アーカイブ保留中のデータは、ユーザーが仮想ボルトに移動またはコピーしたアイテムで構成されています。これらのアイテムは、ボルトキャッシュの同期によって正常にアップロードとアーカイブが行われるまで、アーカイブ保留中になります。</p> <p>この設定の値は、[アーカイブするアイテムの最大サイズ]と同じかそれより大きい値である必要があります。そうでない場合は、[アーカイブするアイテムの最大サイズ]の値が使われます。</p> <p>仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの数か合計サイズに基づいて、ボルトキャッシュの自動同期をトリガする 2 つのしきい値を設定できます。</p> <p>p.228 の「同期をトリガするアイテムの数のしきい値(Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> <p>p.229 の「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値(Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> |
| サポートされている値 | <p>■ 整数値。デフォルトは 512 (MB) です。値 0 を指定すると、制限されません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 以前のの名前     | <p>OVMaxTotalToArchiveMB</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 閲覧ウィンドウに内容を表示 (Exchange 仮想ボルトの設定)

|    |                                                                                                                                          |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>Outlook の閲覧ウィンドウに仮想ボルトで選択されたアイテムの内容を表示するかどうかを制御します。</p> <p>アイテム自体が文書の場合は、閲覧ウィンドウに表示されません。閲覧ウィンドウのメッセージで、アイテムを開いて内容を読み込むように指示されます。</p> |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- サポートされている値
- [内容を表示しない]。閲覧ウィンドウには、選択したアイテムのヘッダーのみが常に表示されます。元のアイテムを開くリンクがバナーによって提供されます。
  - [ボルトキャッシュ内の場合](デフォルト)。閲覧ウィンドウには、選択したアイテムのヘッダーが表示されます。アイテムがボルトキャッシュにある場合は、内容も表示されます。内容が表示されない場合は、元のアイテムを開くリンクがバナーによって提供されます。ボルトキャッシュの内容の扱い方が[ユーザーが開くアイテムのみを格納]の場合は、この値を設定すると、閲覧ウィンドウには以前に開いたアイテムの内容のみが表示されます。
  - [常に内容を表示]。閲覧ウィンドウには、仮想ボルトで選択されたアイテムのヘッダーと内容が常に表示されます。

次の条件が当てはまる場合、[閲覧ウィンドウに内容を表示]の値は[常に内容を表示]のみとなります。

- 以前のリリースからアップグレードしました。
- 以前のリリースでは、[閲覧ウィンドウに内容を表示]の値は[常に内容を表示]でした。

[常に内容を表示]は、[設定の修正]ダイアログボックスでは利用できません。そのため[常に内容を表示]が現在の値の場合、それを変更すると元に戻ることはできません。

以前の名前

VVReadingPaneContent

## 同期をトリガするアイテムの数のしきい値(Exchange 仮想ボルトの設定)

説明

ボルトキャッシュの自動同期をトリガする、仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの総数を指定します。

アーカイブ保留中のデータは、ユーザーが仮想ボルトに移動またはコピーしたアイテムで構成されています。これらのアイテムは、ボルトキャッシュの同期によって正常にアップロードとアーカイブが行われるまで、アーカイブ保留中になります。

この設定を有効にしたら、他の設定とどのように相互に作用するか、次のとおり考慮してください。

- [アーカイブするアイテムの最大サイズ]と[アーカイブするアイテムの最大合計サイズ]はユーザーが仮想ボルトにアイテムを追加することを防ぐことができます。その結果、しきい値に達することがなくなります。
- [1 回の同期におけるアーカイブ要求の最大数]は[同期をトリガするアイテムの数のしきい値]の値より低い値であることがあります。この場合、自動同期は発生しますが、アーカイブ保留中のアイテムの一部はアーカイブされません。

- サポートされている値
- 0 (デフォルト)。しきい値は非アクティブです。
  - ゼロ以外の整数。ボルトキャッシュの自動同期をトリガする、仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの合計数。

以前の名前

VVAutoSyncItemThreshold

## 同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)

説明

ボルトキャッシュの自動同期をトリガする、仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの合計サイズを MB 単位で指定します。

アーカイブ保留中のデータは、ユーザーが仮想ボルトに移動またはコピーしたアイテムで構成されています。これらのアイテムは、ボルトキャッシュの同期によって正常にアップロードとアーカイブが行われるまで、アーカイブ保留中になります。

この設定を有効にしたら、他の設定とどのように相互に作用するか、次のとおり考慮してください。

- [アーカイブするアイテムの最大サイズ]と[アーカイブするアイテムの最大合計サイズ]はユーザーが仮想ボルトにアイテムを追加することを防ぐことができます。その結果、しきい値に達することがなくなります。
- [1回の同期でアーカイブされるデータの最大量]は[同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値]の値より低い値であることがあります。この場合、自動同期は発生しますが、アーカイブ保留中のアイテムの一部はアーカイブされません。

- サポートされている値
- 0 (デフォルト)。しきい値は非アクティブです。
  - ゼロ以外の整数。ボルトキャッシュの自動同期をトリガする、仮想ボルトのアーカイブ保留中のアイテムの合計サイズ (MB)。

以前の名前

VVAutoSyncItemsSizeThresholdMB

ユーザーがアイテムをアーカイブ可能 (Exchange 仮想ボルトの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ユーザーが標準の Outlook 処理を使って仮想ボルトに新しいアイテムを追加することによって、手動でアイテムをアーカイブできるかどうかを制御します。このような標準の Outlook 処理の例には、ドラッグアンドドロップ、移動とコピー、ルールなどがあります。</p> <p>この設定を無効にしても、[ユーザーがアイテムを再編成可能]が有効になっている場合、ユーザーはフォルダを作成できます。</p> <p>この設定を有効にしたら、ボルトキャッシュの自動同期をトリガするしきい値を設定することを考慮してください。</p> <p>p.228 の「同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> <p>p.229 の「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> <p><b>メモ:</b> デフォルトでは、ユーザーが仮想ボルトからアーカイブするアイテムのセーフコピーはありません。セーフコピーが必要な場合は、ユーザーのアーカイブをホストするボルトストアを設定して、Enterprise Vault がセーフコピーをストレージキューに保管するようにできます。この設定を変更すると、これらのボルトストアに対するすべてのアーカイブが影響を受けます。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [はい] (デフォルト)。ユーザーは仮想ボルトでアイテムを手動でアーカイブできます。</li> <li>■ [いいえ]。ユーザーは仮想ボルトでアイテムを手動でアーカイブできません。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 以前の名前      | VVAllowArchive                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

ユーザーが別のストアにアイテムをコピー可能 (Exchange の仮想ボルトの設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>ユーザーが仮想ボルトから別のメッセージストアにアイテムをコピーまたは移動できるかどうかを制御します。</p> <p>ユーザーが仮想ボルトからアイテムをコピーまたは移動できる場合は、内容がボルトキャッシュで利用可能であれば、アイテムはボルトキャッシュから取り込まれます。</p> <p>ボルトキャッシュの内容の扱い方が [キャッシュにアイテムを格納しない] である場合、アイテムはオンラインアーカイブから取り込まれます。この場合は、仮想ボルトの詳細設定 [内容がない場合の操作の最大合計サイズ] を使って、表示操作、コピー操作、移動操作の最大合計サイズを制御します。</p> |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                                                                                                                                                      |
|----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [はい](デフォルト)。ユーザーは別のメッセージストアにアイテムをコピーまたは移動できます。</li><li>■ [いいえ]。ユーザーは別のメッセージストアにアイテムをコピーまたは移動できません。</li></ul> |
| 以前の名前    | VVAllowInterStoreCopyAndMove                                                                                                                         |

## ユーザーがアーカイブ内のアイテムをコピー可能 (Exchange 仮想ボルトの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ユーザーがアーカイブでアイテムをコピーできるかどうかを制御します。</p> <p>アーカイブでアイテムをコピーできる場合は、内容がボルトキャッシュで利用可能であれば、アイテムはボルトキャッシュから取り込まれます。</p> <p>ボルトキャッシュの内容の扱い方が[キャッシュにアイテムを格納しない]である場合、アイテムはオンラインアーカイブから取り込まれます。この場合は、仮想ボルトの詳細設定[内容がない場合の操作の最大合計サイズ]を使って、表示操作、コピー操作、移動操作の最大合計サイズを制御します。</p> <p>この設定を有効にしたら、ボルトキャッシュの自動同期をトリガするしきい値を設定することを考慮してください。</p> <p>p.228 の「同期をトリガするアイテムの数のしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> <p>p.229 の「同期をトリガするアイテムの合計サイズのしきい値 (Exchange 仮想ボルトの設定)」を参照してください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [はい]。ユーザーはアーカイブでアイテムをコピーできます。</li><li>■ [いいえ](デフォルト)。ユーザーはアーカイブでアイテムをコピーできません。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 以前の名前      | VVAllowIntraStoreCopy                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |

## ユーザーがアイテムを削除 (復元不可) 可能 (Exchange の仮想ボルトの設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>ユーザーが仮想ボルトからアイテムを完全削除できるかどうかを制御します。</p> <p>この設定を有効にするには、[サイトプロパティ] ダイアログボックスにある [アーカイブの設定] タブで [ユーザーはアーカイブからアイテムを削除できる] オプションを有効にする必要があります。</p> <p>この設定を無効にしても、[ユーザーがアイテムを再編成可能] が有効になっている場合、ユーザーは[削除済みアイテム]フォルダにアイテムを移動できます。</p> |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|          |                                                                                                                                      |
|----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サポートされる値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [はい](デフォルト)。ユーザーは仮想ボルトからアイテムを完全削除できます。</li><li>■ [いいえ]。ユーザーは仮想ボルトからアイテムを完全削除できません。</li></ul> |
| 以前の名前    | VVAllowHardDelete                                                                                                                    |

## ユーザーがアイテムを再編成可能 (Exchange 仮想ボルト設定)

|          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|----------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明       | <p>ユーザーが仮想ボルトでアイテムを再編成できるかどうかを制御します。</p> <p>この設定によって、ユーザーはフォルダ間でアイテムを移動できるようになるだけでなく、フォルダの作成、移動、名前の変更、削除もできるようになります。</p> <p><b>メモ:</b> ユーザーは、自分のメールボックス内の既存のフォルダにリンクされている仮想ボルトフォルダを移動、削除、または名前変更できません。この制限は、アーカイブに保持計画を適用して保持フォルダとして指定したフォルダにも適用されます。しかし、ユーザーが自分で保持フォルダに追加したサブフォルダには、この制限は適用されません。ユーザーは、それらの個人的なサブフォルダを自由に移動、名前変更、削除できます。</p> <p>[ユーザーがアイテムを削除 (復元不可) 可能]を有効にしないと、ユーザーは空のフォルダしか完全に削除できません。</p> |
| サポート対象の値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ はい(デフォルト)。ユーザーは、仮想ボルト内のアイテムを再編成できます。</li><li>■ いいえ。ユーザーは、仮想ボルト内のアイテムを再編成できません。</li></ul>                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 以前の名前    | VVAllowReOrg                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |



# Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定の編集](#)
- [アーカイブ全般 \(Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定\)](#)

## Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定の編集

設定には、Exchange ジャーナルポリシーのプロパティからアクセスできます。各種の設定について詳しくは、個々のセクションを参照してください。

### ポリシーの設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー] が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー] を展開します。
- 3 [Exchange] を展開します。
- 4 [ジャーナル] をクリックします。
- 5 右ペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 6 [詳細] タブをクリックします。
- 7 [一覧表示する設定の種類] の横で、修正する設定のカテゴリを選択します。
- 8 必要に応じて設定を編集します。

設定をダブルクリックして編集するか、設定を 1 回クリックして選択してから [修正] をクリックできます。

## アーカイブ全般 (Exchange ジャーナルポリシーの詳細設定)

[アーカイブ全般] 設定では、アーカイブ動作を制御できます。

[アーカイブ全般] 設定は次のとおりです。

- 「RMS で保護されているアイテムの平文コピー ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「配布リストを展開 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「DL 展開動作が失敗 (Exchange のアーカイブの一般設定)」
- 「継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「ジャーナルの遅延 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「ジャーナルアイテムをキューに入れる ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「アーカイブ名をリセット ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」
- 「失敗したアイテムを受信トレイに戻す ([Exchange アーカイブ全般] 設定)」

### RMS で保護されているアイテムの平文コピー ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

#### 説明

Exchange でジャーナルレポートの復号を設定すると、2 つのメッセージ (RMS で保護されている元のメッセージと平文バージョン) がジャーナルレポートに添付されます。このポリシー設定は Enterprise Vault がアーカイブの間にプライマリメッセージとして平文メッセージを使うか、RMS で保護されたメッセージを使うかを制御します。

Enterprise Vault は両方のバージョンのメッセージとジャーナルレポートをメッセージ保存セットに格納します。ただし、Enterprise Vault は現在アーカイブからのセカンダリメッセージまたはジャーナルレポートの取り込みをサポートしません。

- サポートされている値
- プライマリとして処理 (デフォルト)
    - Enterprise Vault クライアントと Veritas Discovery Accelerator からの取り込み要求に応じて、平文メッセージが戻されます。  
Exchange Server は個別に保護された添付ファイルを解読しないので、Enterprise Vault はこれらの添付ファイルをプレビューできません。
    - Enterprise Vault は平文メッセージの内容とプロパティ、暗号化されていない添付ファイルをインデックス付けします。  
このオプションでは、Exchange メールボックスとジャーナルアーカイブ間の単一インスタンス共有は可能ではありません。
    - RMS で保護されたメッセージを処理するカスタムフィルタは、ジャーナルレポートメッセージ (P1 メッセージ) の添付ファイルから RMS で保護されたメッセージを明示的に取り込む必要があります。
  - セカンダリとして処理
    - Enterprise Vault クライアントと Veritas Discovery Accelerator からの取り込み要求に応じて、RMS で保護されたメッセージが戻されます。  
Enterprise Vault は、アプリケーションを使ってメッセージが解読されなければ、これらのメッセージをプレビューすることはできません。
    - インデックス付けに利用可能な情報は、件名、受信者その他のメッセージのメタデータに制限されます。  
アイテムは Exchange メールボックスとジャーナルアーカイブの間で共有できます。  
メッセージの内容と添付ファイルは、アプリケーションを使って復号しないとインデックス付けされません。
    - RMS で保護されたメッセージを解読しないカスタムフィルタはメッセージの内容を読み込むことができません。

以前の名前 ClearTextPrimary

## 配布リストを展開 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

- 説明 Exchange ジャーナルタスクで配布リストを展開するかどうかを制御します。
- サポートされている値
- [無効]。配布リストを展開しません。
  - [有効] (デフォルト)。配布リストを展開します。
- 以前の名前 ExpandDistributionLists

## DL 展開動作が失敗 (Exchange のアーカイブの一般設定)

|            |                                                                                                                                                 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Exchange ジャーナルタスクで配布リストを展開できない場合の動作を制御します。                                                                                                      |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [失敗した DL 展開]フォルダに移動してください。アイテムをアーカイブせずに移動します。</li> <li>■ [アイテムをアーカイブ](デフォルト)。アイテムをアーカイブします。</li> </ul> |
| 以前のの名前     | FailedDLExpansion                                                                                                                               |

## 継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般]設定)

|            |                                                                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault で、メールボックスとアーカイブの間でアクセス権限を同期するときに、継承されたアクセス権限を含めるかどうかを制御します。                                           |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効](デフォルト)。継承されたアクセス権限を同期しません。</li> <li>■ [有効]。継承されたアクセス権限を同期します。</li> </ul> |
| 以前のの名前     | IncludInheritedRights                                                                                                  |

## ジャーナルの遅延 ([Exchange アーカイブ全般]設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ジャーナルアーカイブの間、Enterprise Vault は同じメッセージ ID のジャーナルレポートをグループ化します。</p> <p>グループ内のすべてのメッセージを受信できるように、ジャーナルアーカイブは所定の ID を持つ最終メッセージを受信した後に一定時間待機してから、このグループをアーカイブします。ジャーナルの遅延は、遅延の長さを分単位で設定します。</p> <p>通常の状態では、関連するグループの最終メッセージがジャーナルメールボックスに届くには、デフォルトの 5 分の遅延で十分です。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数。ジャーナルの遅延を分単位で指定する整数値です。このポリシーのジャーナルのグループ化を無効にするには、ジャーナルの遅延を 0 に設定します。<br/>デフォルトは 5 です。</li> </ul>                                                                                                                        |
| 以前のの名前     | JournalDelay                                                                                                                                                                                                                                                         |

## アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                        |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブするメッセージの最大サイズを制御します。                                                                              |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数。アーカイブ可能なメッセージの最大サイズを指定する整数値 (MB)。デフォルトは 250 です。</li> </ul> |
| 以前の名前      | MaxMessageSizeToArchiveMB                                                                              |

## ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アイテムをアーカイブ待ちの状態にしておく日数を指定します。この日数を過ぎると、アイテムはリセットされます。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効] (デフォルト)。アーカイブ待ちショートカットを一切リセットしません。</li> <li>■ 0。レポートモードでの実行時、Exchange メールボックスタスクはアーカイブ待ちのショートカットをすべてリセットします。<br/>標準モードで実行されている場合、アーカイブ待ちのショートカットはリセットされません。</li> <li>■ 0 より大きい任意の整数。ここで指定された日数より古いアーカイブ待ちのショートカットをリセットします。この処理は、通常のアーカイブとレポートモードの両方で行われます。</li> </ul> |
| 以前の名前      | PendingShortcutTimeout                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

## ジャーナルアイテムをキューに入れる ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Exchange ジャーナルタスクによる MSMQ の使用を制御して、パフォーマンスを向上させます。                                                                                                          |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [すべて単一スレッド]。すべてのタスクが単一スレッドである場合に使います。</li> <li>■ [複数スレッド] (デフォルト)。複数スレッドを使うジャーナルタスクがある場合にパフォーマンスが向上します。</li> </ul> |
| 以前の名前      | QueueJournalItems                                                                                                                                           |

## アーカイブ名をリセット ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                       |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 同期中に、メールボックス名と一致するようにアーカイブ名を自動的に変更するかどうかを制御します。                                                                                                       |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効]。同期中に、アーカイブ名は一切変更されません。</li> <li>■ [有効](デフォルト)。同期中に、アーカイブ名はメールボックス名と一致するように、必要に応じて自動的に変更されます。</li> </ul> |
| 以前の名前      | ResetArchiveNames                                                                                                                                     |

## 失敗したアイテムを受信トレイに戻す ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                            |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | ジャーナルタスクの開始時に、失敗したフォルダに格納されているメッセージを自動的に受信トレイに戻して再処理するかどうかを制御します。                                                                                          |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効](デフォルト)。タスクの開始時に、失敗したフォルダ内のアイテムを受信トレイに移動しません。</li> <li>■ [有効]。タスクの開始時に、失敗したフォルダ内のアイテムを受信トレイに移動します。</li> </ul> |
| 以前の名前      | MoveFailedItemsToInbox                                                                                                                                     |

# Exchange パブリックフォルダポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [Exchange パブリックフォルダの詳細設定の編集](#)
- [アーカイブ全般 \(Exchange パブリックフォルダポリシーの詳細設定\)](#)

## Exchange パブリックフォルダの詳細設定の編集

設定は Exchange パブリックフォルダポリシーのプロパティで利用可能です。各種の設定について詳しくは、個々のセクションを参照してください。

### ポリシーの設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー] が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー] を展開します。
- 3 [Exchange] を展開します。
- 4 [パブリックフォルダ] をクリックします。
- 5 右ペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 6 [詳細] タブをクリックします。
- 7 [一覧表示する設定の種類] の横で、修正する設定のカテゴリを選択します。
- 8 必要に応じて設定を編集します。

設定をダブルクリックして編集するか、設定を 1 回クリックして選択してから [修正] をクリックできます。

# アーカイブ全般 (Exchange パブリックフォルダポリシーの詳細設定)

[アーカイブ全般]設定では、アーカイブ動作を制御できます。  
[アーカイブ全般]設定は次のとおりです。

- 「期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「カスタムショートカットを右から左にフォーマットするコードページ ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「事前通知の保留中はアーカイブしない ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「失敗したメッセージを「アーカイブしない」に設定 ([Exchange アーカイブ全般]設定)」
- 「ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 ([Exchange アーカイブ全般]設定)」

## 期限が切れていないカレンダーイベントをアーカイブ ([Exchange アーカイブ全般]設定)

|            |                                                                                                                                          |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 期限が切れていないカレンダーアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。                                                                                                    |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示](デフォルト)。期限が切れていないカレンダーアイテムはアーカイブしません。</li><li>■ [非表示]。期限が切れていないカレンダーアイテムをアーカイブします。</li></ul> |
| 以前の名前      | ArchiveNonExpiredCalEvents                                                                                                               |

## カスタムショートカットを右から左にフォーマットするコードページ ([Exchange アーカイブ全般]設定)

|    |                                                                     |
|----|---------------------------------------------------------------------|
| 説明 | セミコロンで区切られたコードページの一覧です。これらのコードページを使うカスタムショートカットは、常に右から左にフォーマットされます。 |
|----|---------------------------------------------------------------------|



|            |                                                     |
|------------|-----------------------------------------------------|
| サポートされている値 | ■ セミコロンで区切られたコードページの一覧。例: 1255;1256。デフォルトは 1255 です。 |
| 以前のの名前     | CustomShortcutRTLCodePages                          |

## 事前通知の保留中はアーカイブしない ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault で、保留中の事前通知があるアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。                                 |
| サポートされている値 | ■ [無効]。保留中の事前通知があるアイテムをアーカイブします。<br>■ [有効](デフォルト)。今後 5 年以内の保留中の事前通知があるアイテムはアーカイブしません。 |
| 以前のの名前     | DontArchiveItemsPendingReminder                                                       |

## 継承された権限 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault で、パブリックフォルダとアーカイブの間でアクセス権限を同期するときに、継承されたアクセス権限を含めるかどうかを制御します。 |
| サポートされている値 | ■ [無効](デフォルト)。継承されたアクセス権限を同期しません。<br>■ [有効]。継承されたアクセス権限を同期します。                 |
| 以前のの名前     | IncludeInheritedRights                                                         |

## アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB) ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブするメッセージの最大サイズを制御します。                                                     |
| サポートされている値 | ■ 0。メッセージの最大サイズを制限しません。<br>■ 0 より大きい整数。アーカイブするメッセージの最大サイズ (MB)。デフォルトは 250 です。 |
| 以前のの名前     | MaxMessageSizeToArchiveMB                                                     |

## ショートカット保留のタイムアウト ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アイテムをアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちの状態にしておく日数を指定します。この日数を過ぎると、アイテムはリセットされます。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効](デフォルト)。アーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットを一切リセットしません。</li> <li>■ 0。レポートモードでの実行時、アーカイブタスクはアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットをすべてリセットします。標準モードで実行されている場合、ショートカットはリセットされません。</li> <li>■ 0 より大きい任意の整数。ここで指定された日数より古いアーカイブ待ち、復元待ち、削除待ちのショートカットをリセットします。この処理は、通常のアーカイブとレポートモードの両方で行われます。</li> </ul> |
| 以前の名前      | PendingShortcutTimeout                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

## 失敗したメッセージを「アーカイブしない」に設定 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                           |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>あるアイテムをアーカイブできない場合、次のアーカイブの実行時にそのアイテムを再処理することが、アーカイブタスクのデフォルトの動作です。これは、失敗したアイテムは多くの場合、2 回目の試行でアーカイブに成功するためです。</p> <p>この設定を有効にすると、アーカイブに失敗したアイテムに「アーカイブしない (Do Not Archive)」とマーク付けすることによって、次のアーカイブが実行されたときに再処理の対象にならないように動作を変更できます。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [無効](デフォルト)。アーカイブに失敗したアイテムは「アーカイブしない」とマーク付けされません。</li> <li>■ [有効]。アーカイブに失敗したアイテムは「アーカイブしない」とマーク付けされます。</li> </ul>                                                                                |
| 以前の名前      | SetFailedMsgsDoNotArchive                                                                                                                                                                                                                 |

## ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除 ([Exchange アーカイブ全般] 設定)

|    |                                                                                                                                                                                                             |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | アーカイブ後にカレンダーアイテム、ミーティングアイテム (要求、応答、取り消しを含む)、タスクとタスク要求アイテム、連絡先から添付ファイルを削除するかどうかを制御します。これらのアイテムは、アーカイブ時に <b>Enterprise Vault</b> ショートカットに変更されません。 <b>Enterprise Vault</b> で添付ファイルを削除すると、添付ファイルへのリンクに置き換えられます。 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|                |                                                                                                                                                                 |
|----------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サポートされている<br>値 | <div><div>■</div><div>[有効](デフォルト)。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除します。</div></div> <div><div>■</div><div>[無効]。アーカイブ後にショートカット以外のアイテムから添付ファイルを削除しません。</div></div> |
| 以前の名前          | StripAttachmentsToNonShortcutItems                                                                                                                              |

# SMTP ポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [SMTP ポリシーの詳細設定の編集](#)
- [ジャーナルレポート設定](#)

## SMTP ポリシーの詳細設定の編集

この設定は、SMTP アーカイブポリシーのプロパティで利用できます。さまざまな設定について詳しくは各セクションを参照してください。

### ポリシーの設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー]を展開します。
- 3 [SMTP]をクリックします。
- 4 右側のペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 5 [詳細]タブをクリックします。
- 6 必要に応じて設定を編集します。

設定をダブルクリックして編集するか、設定を 1 回クリックして選択してから[修正]をクリックできます。

## ジャーナルレポート設定

ジャーナルレポート設定では、ジャーナルレポートの処理動作を制御できます。

ジャーナルレポート設定は次のとおりです。

- 「[RMS で保護されているアイテムの平文コピー \(SMTP ポリシーの詳細設定\)](#)」

- 「ジャーナルレポート処理 (SMTP ポリシーの詳細設定)」

## RMS で保護されているアイテムの平文コピー (SMTP ポリシーの詳細設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>Exchange でジャーナルレポートの復号を設定すると、2 つのメッセージ (RMS で保護されている元のメッセージと平文バージョン) がジャーナルレポートに添付されます。このポリシー設定は Enterprise Vault がアーカイブの間にプライマリメッセージとして平文メッセージを使うか、RMS で保護されたメッセージを使うかを制御します。</p> <p>Enterprise Vault は両方のバージョンのメッセージとジャーナルレポートをメッセージ保存セットに格納します。ただし、Enterprise Vault は、Content Management API を使う場合を除き、現在アーカイブからのセカンダリメッセージまたはジャーナルレポートの取り込みをサポートしません。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プライマリとして処理 (デフォルト) <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault クライアントと Veritas Discovery Accelerator からの取り込み要求に応じて、平文メッセージが戻されます。</li> <li>■ Enterprise Vault は平文メッセージの内容とプロパティ、暗号化されていない添付ファイルをインデックス付けします。</li> </ul> </li> <li>■ セカンダリとして処理 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault クライアントと Veritas Discovery Accelerator からの取り込み要求に応じて、RMS で保護されたメッセージが戻されます。</li> </ul> <p>Enterprise Vault は、アプリケーションを使ってメッセージが解読されなければ、これらのメッセージをプレビューすることはできません。</p> <li>■ インデックス付けに利用可能な情報は、件名、受信者とのメッセージのメタデータに制限されます。</li> </li></ul> <p>メッセージの内容と添付ファイルはインデックス付けされません。</p> |
| 以前の名前      | ClearTextPrimary                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## ジャーナルレポート処理 (SMTP ポリシーの詳細設定)

|    |                                                |
|----|------------------------------------------------|
| 説明 | <p>ジャーナルレポートがメッセージともに処理され、格納されるかどうかを制御します。</p> |
|----|------------------------------------------------|

サポートされている  
値

- ジャーナルアーカイブのジャーナルレポートのみ処理する(デフォルト)。  
**Exchange** メールボックスやインターネットメールアーカイブなどのユーザーアーカイブの種類のジャーナルレポートは破棄されます。元のメッセージだけが処理され、アーカイブされます。  
**SMTP、Exchange** ジャーナル、**Domino** ジャーナル、および共有アーカイブのジャーナルレポートが処理され、元のメッセージとともにアーカイブされます。
- すべてのアーカイブのジャーナルレポートを処理する。すべてのアーカイブタイプのジャーナルレポートが処理され、元のメッセージとともにアーカイブされます。このオプションは **BCC** 受信者の詳細を公開するため、コンプライアンスおよびディスカバリカバリの目的で使用するアーカイブに対してのみ選択します。
- すべてのアーカイブのジャーナルレポートを破棄する。すべてのアーカイブタイプのジャーナルレポートが破棄され、元のメッセージだけが処理およびアーカイブされます。ジャーナルされた **SMTP** メッセージを含むアーカイブにアクセスできる場合に、このオプションを選択します。

# サイトプロパティの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [サイトプロパティの詳細設定について](#)
- [サイトプロパティの詳細設定の編集](#)
- [サイトプロパティの詳細設定](#)

## サイトプロパティの詳細設定について

サイトプロパティの詳細設定は Enterprise Vault サイト全体の Enterprise Vault の動作を細かく制御します。

単一の Enterprise Vault サーバーに適用される詳細設定はコンピュータプロパティで利用可能です。

p.273 の「[コンピュータプロパティの詳細設定について](#)」を参照してください。

## サイトプロパティの詳細設定の編集

Enterprise Vault サイトの詳細設定はサイトプロパティの[詳細]タブにあります。

サイトプロパティの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、サイト名が表示されるまでサイトの階層を展開します。
- 2 サイト名を右クリックします。次に[プロパティ]をクリックします。サイトプロパティが表示されます。
- 3 [詳細]タブをクリックします。
- 4 必要に応じて設定を編集します。

## サイトプロパティに新しい設定を適用する方法

実行した変更を適用するには、変更した設定に応じて IMAP サーバー、インデックスサービス、ストレージサービスのいずれかを再起動する必要があります。

## サイトプロパティの詳細設定

サイトプロパティの詳細設定は Enterprise Vault サイト全体の Enterprise Vault の動作を細かく制御します。

次のカテゴリの拡張設定を変更できます。

- 「コンテンツの変換 (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「IMAP (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「インデックス (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「Skype for Business (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「SQL Server (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「SMTP (サイトプロパティの詳細設定)」
- 「ストレージ (サイトプロパティの詳細設定)」

## コンテンツの変換 (サイトプロパティの詳細設定)

Enterprise Vault でアイテムのコンテンツのインデックスを作成する前に、コンテンツを HTML またはテキストに変換する必要があります。[コンテンツの変換] 設定では、ファイルの種類に応じた変換方法、Enterprise Vault Converters イベントログに報告される変換イベントを制御できます。

[コンテンツの変換] 設定は、ファイル、添付、アーカイブ内のファイル、コンテナファイル (zip、tar、pst ファイルなど)、メッセージ本文 (特に、RTF 形式のメッセージ本文) に適用されます。

[コンテンツの変換] 設定に変更を適用するために Enterprise Vault ストレージサービスを再起動する必要はありません。

[コンテンツの変換] 設定は次のとおりです。

- 「変換から除外されるファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換] 設定)」
- 「テキストに変換されたファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換] 設定)」
- 「Postscript 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換] 設定)」
- 「IFilter 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換] 設定)」
- 「変換タイムアウト (サイトプロパティの[コンテンツの変換] 設定)」



- 「アーカイブファイルの種類の変換タイムアウト (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「非表示のテキストを含める (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「非表示のスプレッドシートデータを含める (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「スプレッドシートの枠線の表示 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「メタデータプロパティ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「最大変換サイズ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「メタデータプロパティを含める (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「OCR 言語 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「OCR 最適化 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「OCR 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「埋め込み画像の OCR 変換 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「埋め込み画像の OCR 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「スキャン済みページの OCR 変換 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「変換失敗イベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「テキストへのフォールバックイベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「変換タイムアウトイベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「ファイルの種類が認識されないイベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」
- 「最大変換サイズの超過イベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)」

## 変換から除外されるファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

説明

HTML またはテキストに変換されないファイルの種類のリスト。

Enterprise Vault では、リストされたファイルの種類のアイテムのプレビューを表示する、またはそのようなアイテムのコンテンツのインデックスを作成できません。

サポートされている  
値

変換から除外するファイルの種類のリストを変更できます。次の形式でファイルの種類を追加します。

**.filetype[.filetype]**

ワイルドカード値「\*」を指定する、またはリストに含めると、すべてのコンテンツの変換を効果的に無効化できます。この場合、アーカイブされたアイテムについて、コンテンツのインデックスが作成されず、その他すべての変換設定が冗長になります。

デフォルトでは、次のファイルの種類は変換されません。

.ABS.AIF.AIFC.AIFF.ASC.ASF.ASX.AU.AVI.BIN  
.BMP.BP.C2D.CBT.CCD.CD.CDI.CHM.CIF.CUR  
.DAO.DVS.DWI.ENC.ENT.EVT.FCD.FDM.FP.GCD  
.GI.GTS.HLP.ICO.IMG.ISO.JFI.JFIF.JIF.JPE  
.JTF.JP2.JPX.JPF.MJ2.M1V.M2V.M3U.MDF.MDS  
.MID.MKV.MMM.MOD.MODV.MOO.MOOV.MOV.MP2  
.MP3.MP4.MPA.MPE.MPEG.MPEGA.MPEGV.MPG.MPM  
.MPP.MPV.MSO.NRG.OLE.PAB.PDI.PF.PGP.PJPEG  
.PLS.POI.PUB.PXI.QT.QTM.QTW.RA.RAM.RAW.RM  
.RMI.RMJ.RMX.RP.RV.SND.SNP.SWA.SWF.TAO  
.VDO.VIV.VSF.WAV.WMA.WMV.Z01.Z02.Z03.Z04  
.Z05.Z06.Z07.Z08.Z09.Z10

以前のレジストリ設  
定

- Enterprise Vault¥ExcludedFileTypesFromConversion
- Enterprise Vault¥BypassConversions

## テキストに変換されたファイルの種類 (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

HTML の代わりにテキストに変換するファイルの種類のリスト。

この設定は [変換から除外されるファイルの種類] 設定をオーバーライドしません。たとえば、ファイルの種類 **.xyz** が両方の設定値に含まれている場合は、ファイルの種類 **xyz** のインスタンスは変換されません。

サポートされている  
値

次の形式でファイルの種類をリストできます。

**.filetype[.filetype]**

すべてのファイルの種類をテキストに変換するには、ワイルドカード値「\*」を指定します。

以前のレジストリ設  
定

- Enterprise Vault¥TextConversionFileTypes
- Enterprise Vault¥ConvertWordToText
- Enterprise Vault¥ConvertExcelToText
- Enterprise Vault¥ConvertRTFCoverToText

## Postscript 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

|            |                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault Postscript 変換を使って変換するファイルの種類の一覧。<br><br>この設定は [変換から除外されるファイルの種類] 設定をオーバーライドしません。たとえば、ファイルの種類 <b>.xyz</b> が両方の設定値に含まれている場合は、ファイルの種類 <b>xyz</b> のインスタンスは変換されません。 |
| サポートされている値 | 次の形式でファイルの種類をリストできます。<br><br><b>.filetype[filetype]</b><br><br>デフォルトでは、次のファイルの種類が Enterprise Vault Postscript 変換を使って設定されます。<br><br><b>.PS.EPS</b>                               |

## OCR 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

|            |                                                                                                                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 光学式文字認識 (OCR) 変換を使って変換するファイルの種類の一覧。<br><br>この設定は [変換から除外されるファイルの種類] 設定をオーバーライドしません。たとえば、ファイルの種類 <b>.xyz</b> が両方の設定値に含まれている場合は、ファイルの種類 <b>xyz</b> のインスタンスは変換されません。                       |
| サポートされている値 | 次の形式でファイルの種類をリストできます。<br><br><b>.filetype[filetype]</b><br><br>値を空の文字列に設定すると、画像の OCR 変換を事実上無効にします。<br><br>デフォルトでは、次のファイルの種類が OCR 変換のために設定されます。<br><br><b>.GIF.JPG.JPEG.PNG.TIF.TIFF</b> |

## IFilter 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | Windows IFilter 変換を使って変換するファイルの種類の一覧。<br><br>設定済みのファイルの各種類に対して関連する 64 ビットの IFilter を、ストレージサービスをホストするサイトにあるすべての Enterprise Vault サーバーにインストールする必要があります。<br><br>この設定は [変換から除外されるファイルの種類] 設定をオーバーライドしません。たとえば、ファイルの種類 <b>.xyz</b> が両方の設定値に含まれている場合は、ファイルの種類 <b>xyz</b> のインスタンスは変換されません。 |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

サポートされている  
値

次の形式でファイルの種類をリストできます。  
  
.filetype[.filetype]

変換タイムアウト (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

分単位の変換タイムアウト。

サポートされている  
値

値は整数で指定されます。  
  
デフォルト値は 10 です。

以前のレジストリ設  
定

■ Enterprise Vault¥ConversionTimeout

アーカイブファイルの種類の変換タイムアウト (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

ZIP ファイルなどのアーカイブファイルの種類について、分単位で表される変換タイムアウト。

サポートされている  
値

値は整数で指定されます。  
  
デフォルト値は 10 です。

以前のレジストリ設  
定

■ Enterprise Vault¥ConversionTimeoutArchiveFiles

非表示のテキストを含める (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

ドキュメントのアイテムを HTML に変換するときに非表示のテキストを含めるかどうかを制御します。  
  
PDF や Microsoft Word などが非表示のテキストを含めることができるファイルの種類です。

サポートされている  
値

■ [有効] (デフォルト)。非表示のテキストが変換に含まれます。  
■ [無効]。非表示のテキストが変換に含まれていません。

以前のレジストリ設  
定

■ Enterprise Vault¥ConversionIncludeHiddenText

## 非表示のスプレッドシートデータを含める (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | スプレッドシートアイテムを HTML に変換するときに非表示のセル、列、シートの内容が含まれるかどうかを制御します。                                                             |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効](デフォルト)。非表示のデータが変換に含まれます。</li> <li>■ [無効]。非表示のデータは変換に含まれません。</li> </ul>   |
| 以前のレジストリ設定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault<del>¥</del>ConversionIncludeHiddenSpreadsheetData</li> </ul> |

## スプレッドシートの枠線の表示 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>スプレッドシートのアイテムを HTML に変換するときのセルの枠線の表示を制御します。</p> <p>[非表示]に値を設定すると、変換された内容の表示が改善されますが、変換の出力サイズとスプレッドシートの変換にかかる時間が大幅に増加します。</p>                                |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [非表示]。セルの枠線は変換されたスプレッドシートのアイテムをプレビューするときに表示されます。</li> <li>■ [表示](デフォルト)。セルの枠線は変換されたスプレッドシートのアイテムには表示されません。</li> </ul> |
| 以前のレジストリ設定 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault<del>¥</del>ConversionSpreadsheetBorder</li> </ul>                                                    |

## メタデータプロパティ(サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>HTML にアイテムを変換するときに、埋め込まれたメタデータを含んでいるファイルの種類のメタデータプロパティの表示を制御します。</p> <p>メタデータプロパティのセットはファイルの種類のコンテンツに組み込みプロパティが含まれるかどうかや、ファイルの種類に設定したコンテンツコンバータによって異なります。たとえば、写真ファイルのメタデータプロパティにはカメラの詳細が含まれる場合があります。PDF 文書や Microsoft Office 文書では、メタデータプロパティに作成者、件名、作成日、最終更新日が含まれる場合があります。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効]。メタデータプロパティは変換出力 HTML の最後に表示されます。</li> <li>■ [表示](デフォルト)。変換出力 HTML の最後に出力されたメタデータプロパティは非表示になります。メタデータプロパティは HTML に存在するのでアイテムのコンテンツの一部として検索できます。</li> </ul>                                                                           |

## 最大変換サイズ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                      |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アイテムについてインデックス付けすることができる内容の変換の出力の最大サイズ (MB)。アイテムの変換の出力がこの値を超過する場合は、その属性はインデックス付けされますが、内容はインデックス付けされません。              |
| サポートされている値 | 値は整数で指定されます。<br><br>デフォルト値は 30 です。<br><br>値を増やして変換出力がデフォルトのサイズを超えてもセットのサイズ未満であると、属性も含めてアイテムがまったくインデックス付けされないことがあります。 |
| 以前のレジストリ設定 | ■ Enterprise Vault¥MemLimitForTextConversionFallback                                                                 |

## メタデータプロパティを含める (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | HTML にアイテムを変換するときに、埋め込まれたメタデータを含んでいるファイルの種類のメタデータプロパティを含めるかどうかを指定します。<br><br>メタデータプロパティのセットはファイルの種類のコンテンツに組み込みプロパティが含まれるかどうかや、ファイルの種類に設定したコンテンツコンバータによって異なります。たとえば、写真ファイルのメタデータプロパティにはカメラの詳細が含まれる場合があります。PDF 文書や Microsoft Office 文書では、メタデータプロパティに作成者、件名、作成日、最終更新日が含まれる場合があります。 |
| サポートされている値 | ■ [有効] (デフォルト)。埋め込まれたメタデータを含んでいるファイルの種類のメタデータプロパティを含めます。<br>■ [無効]。これらのファイルの種類のメタデータプロパティを含めません。                                                                                                                                                                                |

## OCR 言語 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                            |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | イメージの光学式文字認識 (OCR) の変換時に使われる言語。<br><br>OCR の精度を最大限に高めるには、選択した言語がサイトのアーカイブイメージの最も一般的な予測される言語に一致する必要があります。<br><br>サポートされる言語のセットは、Windows TIFF IFilter テクノロジーによって定義されます。言語セットはサーバーでのすべての変換に適用されます。特定の変換操作に異なる言語を選択することはできません。 |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

サポートされている  
 値

デフォルト言語は **Enterprise Vault** インストールで選択した管理言語 (英語、日本語、中国語 (簡体字)) に基づきます。

現在サポートされている言語は次のとおりです。アラビア語、ボスニア語 (ラテン)、中国語 (簡体字)、中国語 (繁体字)、クロアチア語、チェコ語、デンマーク語、オランダ語、英語、フィンランド語、フランス語、ドイツ語、ギリシャ語、ハンガリー語、イタリア語、日本語、韓国語、ノルウェー語、ポーランド語、ポルトガル語、ロシア語、セルビア語 (キリル)、セルビア語 (ラテン)、スロバキア語、スロベニア語、スペイン語、スウェーデン語、トルコ語。

アラビア語、ボスニア語 (ラテン)、クロアチア語、ルビア語 (キリル)、セルビア語 (ラテン)、スロバキア語およびスロベニア語は、**Windows Server 2016** 以降でサポートされます。それ以前のバージョンの **Windows Server** で実行中の **Enterprise Vault** ストレージサービスがある場合は、それらのサーバーの **Enterprise Vault\%OCRUseLocalServerSettings** のレジストリ設定を使用して、適切なフォールバック言語を設定できます。

**Windows Server 2016** で OCR の言語設定を有効にするには、必要な言語を **Windows** に追加する必要があります。言語を追加するには、[スタート] > [設定] > [時刻と言語] > [地域と言語] > [言語を追加する]をクリックします。目的の言語を追加すると、関連する OCR 文字マッピングテーブルがインストールされます。

以前のレジストリ設定

- **Enterprise Vault\%OCRUseLocalServerSettings**

## OCR 最適化 (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

最適化が光学式文字認識 (OCR) の変換のために有効になるかどうかを制御します。**Windows TIFF IFilter** のパフォーマンスの最適化の機能は、テキストを含んでいない画像に対する OCR 処理をスキップするように設計されています。OCR 最適化により変換のパフォーマンスが向上しますが、OCR 変換中の精度が低下する可能性があります。精度が低下したことで、OCR が認識せず、**Enterprise Vault** によりインデックスが作成されないテキストが生じる可能性があります。

サポートされている  
 値

- [非表示]。OCR 最適化が有効になります。
- [表示] (デフォルト)。OCR 最適化が無効になります。この値は **Windows IFilter** に TIFF ドキュメントのすべてのページの OCR を実行させます。

以前のレジストリ設定

- **Enterprise Vault\%OCRUseLocalServerSettings**

## 変換失敗イベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                          |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 変換の失敗が <b>Enterprise Vault</b> コンバーターイベントログに書き込まれるかどうかを制御します。                                                                                            |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効](デフォルト)。変換の失敗がイベントログに記録されます。</li><li>■ [無効]。変換の失敗がイベントログに記録されません。これは事実上その他の変換イベントのログの設定をすべて無効にします。</li></ul> |
| 以前のレジストリ設定 | ■ <b>Storage¥FailedConversionEvents</b>                                                                                                                  |

## テキストへのフォールバックイベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                 |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>HTML への変換が失敗した後に正常に完了した変換をイベントログに記録するかどうかを制御します。これらのエントリは <b>Enterprise Vault</b> コンバーターイベントログに記録されます。</p> <p>この設定の値が[変換失敗イベントのログ]の設定を上書きしないことに注意してください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効](デフォルト)。テキストへの正常なフォールバックの変換はイベントログに記録されます。</li><li>■ [無効]。テキストへの正常なフォールバックの変換はイベントログに記録されません。</li></ul>             |
| 以前のレジストリ設定 | ■ <b>Storage¥FallbackConversionEvents</b>                                                                                                                       |

## 変換タイムアウトイベントのログ (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                                              |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>変換タイムアウトイベントを <b>Enterprise Vault</b> コンバーターイベントログに記録するかどうかを制御します。変換タイムアウトイベントには変換の失敗やテキスト変換へのフォールバックが含まれます。</p> <p>この設定は[変換失敗イベントのログ]、または[テキストへのフォールバックイベントのログ]が[有効]に設定される場合のみに有効です。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効](デフォルト)。変換タイムアウトイベントがイベントログに記録されます。</li><li>■ [無効]。変換タイムアウトイベントがイベントログに記録されません。</li></ul>                                                        |



以前のレジストリ設定

■ Storage¥ConversionTimeoutEvents

## ファイルの種類が認識されないイベントのログ (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

ファイルの種類が認識されないことから生じる変換の失敗を Enterprise Vault コンバーターイベントログに記録するかどうかを制御します。

この設定は [変換失敗イベントのログ]、または [テキストへのフォールバック イベントのログ] が [有効] に設定される場合のみに有効です。

サポートされている値

■ [有効] (デフォルト)。ファイルの種類が認識されない変換の失敗はイベントログに記録されます。

■ [無効]。ファイルの種類が認識されない変換の失敗はイベントログに記録されません。

以前のレジストリ設定

■ Storage¥UnrecognisedFileTypeEvents

## 最大変換サイズの超過イベントのログ (サイトプロパティの [コンテンツの変換] 設定)

説明

最大変換出力サイズが超過している変換の失敗をイベントログに記録するかどうかを制御します。これらのエントリは Enterprise Vault コンバーターイベントログに記録されます。

この設定は [変換失敗イベントのログ]、または [テキストへのフォールバック イベントのログ] が [有効] に設定される場合のみに有効です。

サポートされている値

■ [有効] (デフォルト)。最大変換サイズの超過イベントはイベントログに書き込まれます。

■ [無効]。最大変換サイズの超過イベントはイベントログに書き込まれません。

以前のレジストリ設定

■ Storage¥RequestedAllocationSizeTooLargeEvents

## 埋め込み画像の OCR 変換 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>ドキュメントアイテムを HTML に変換するときに、埋め込み画像の OCR (光学式文字認識) 変換を制御します。ドキュメントアイテムには PDF および Microsoft Office ドキュメントが含まれます。PDF ドキュメントの埋め込み画像には、印刷ドキュメントからスキャンされたページが含まれます。Office ドキュメントでは、埋め込み画像にはグラフ、図などが含まれます。</p> <p>この設定は、OCR または Windows IFilter 変換用に JPG または PNG ファイルタイプが設定されている場合にのみ有効です。</p> <p><b>メモ:</b> 埋め込み画像の OCR 変換を有効にするとアーカイブパフォーマンスに影響を与える可能性があります。</p> |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|            |                                                                                                                         |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効]。埋め込み画像の OCR 変換が有効です。</li><li>■ [無効] (デフォルト)。埋め込み画像の OCR 変換が無効です。</li></ul> |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

## 埋め込み画像の OCR 変換のファイルの種類 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                                        |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ドキュメントアイテムを HTML に変換するときに、埋め込み画像の OCR (光学式文字認識) 変換に適用されるファイルの種類のリストです。</p>                                                                                          |
| サポートされている値 | <p>次の形式でファイルの種類をリストできます。</p> <p><code>.filetype[filetype]</code></p> <p>値を空文字列に設定すると、埋め込み画像の OCR 変換が事実上無効になります。</p> <p>ワイルドカード値「*」を指定するとすべてのファイルの種類が含まれます。(デフォルト値)</p> |

## スキャン済みページの OCR 変換 (サイトプロパティの[コンテンツの変換]設定)

|            |                                                                                                                                                            |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>PDF アイテムを HTML に変換するときに、スキャン済みページに OCR (光学式文字認識) 変換を適用するかどうかを制御します。</p> <p>この設定は、OCR または Windows IFilter 変換用に JPG または PNG ファイルタイプが設定されている場合にのみ有効です。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効]。スキャン済みページの OCR 変換が有効になります。</li><li>■ [無効] (デフォルト)。スキャン済みページの OCR 変換が無効になります。</li></ul>                        |

## ファイルシステムアーカイブ (サイトプロパティの詳細設定)

これらの設定を使うと、ファイルシステムアーカイブの状態を制御できます。

ファイルシステムアーカイブの詳細設定は次のとおりです。

- 「[レポートの経過日数に基づく保持](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)」
- 「[レポートを保持する日数](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)」
- 「[レポートの場所](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)」
- 「[ロールオーバーするレポートの最大サイズ](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)」
- 「フォルダショートカットファイルの名前 (サイトプロパティのファイルシステムアーカイブの設定)」

### [レポートの経過日数に基づく保持](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)

説明 [ファイルシステムアーカイブ]レポートに対して経過日数に基づく保持が有効かどうかを制御します。この設定は、ファイルシステムアーカイブタスクのプロパティの[レポート]タブの[保持するレポートの数]を上書きします。

- サポートされている値
- いいえ。レポートは、タスクのプロパティの[レポート]タブの設定に基づいて保持されます。
  - はい。ファイルは、[レポートを保持する日数]設定で指定された日数だけ保持されます。

### [レポートを保持する日数](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)

説明 [ファイルシステムアーカイブ]レポートをサーバーに保持する日数を指定します。ファイルシステムアーカイブタスクは、指定された日数よりも古いレポートを削除します。この設定を使用するには、[レポートの経過日数に基づく保持]設定を[はい]に設定する必要があります。

削除対象レポートファイルのページは、ファイルシステムアーカイブタスクに定義するスケジュールに従って実行されます。

- サポートされている値
- 1 から 999 の範囲の整数。デフォルトは 30 です。

## [レポートの場所](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)

|            |                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | レポートが格納されている場所のパスを指定します。このパスは、[ファイルシステムアーカイブ]タスクを提供するサイト内の各サーバーに対してローカルなパスである必要があります。 |
| サポートされている値 | パスを指定するテキスト値。デフォルトパスは、Enterprise Vault インストールフォルダの <b>Reports\FSA</b> サブフォルダです。       |

## [ロールオーバーするレポートの最大サイズ](サイトプロパティの[ファイルシステムアーカイブ]設定)

|            |                                                                      |
|------------|----------------------------------------------------------------------|
| 説明         | レポートのロールオーバーサイズ (MB) を指定します。レポートのサイズが指定した制限を超えると、新しいレポートファイルが作成されます。 |
| サポートされている値 | 0 から 1024 の範囲の整数。デフォルト値は 100 です。ロールオーバーを無効にするには、値を 0 に設定します。         |

## フォルダショートカットファイルの名前 (サイトプロパティのファイルシステムアーカイブの設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | アーカイブ済みフォルダへのハイパーテキストリンクを含むフォルダショートカットファイル (.url) の名前を変更できます。ファイル名は <b>[NewFileName].url</b> になります。デフォルト名は [View Archived Files].url です。フォルダのショートカット名をカスタマイズした場合は、複数のフォルダのショートカットファイルが表示されることがあります。ファイルシステムアーカイブタスクは古い .url ファイルを削除しません。 |
| サポートされている値 | ファイルシステムがサポートする文字を含む任意の文字列値。フォルダショートカットファイルの名前に次のいずれかの文字を含めることはできません。<br><br>< (より小さい)、> (より大きい)、: (コロン)、" (ダブルコロン)、/ (フォワードスラッシュ)、¥ (バックスラッシュ)、  (バーティカルバーまたはパイプ)、? (クエションマーク)、* (アスタリスク)、整数表示が 1 から 31 の範囲である文字。                       |

## IMAP (サイトプロパティの詳細設定)

IMAP 設定により、詳細な IMAP 動作を制御できます。

IMAP 設定は次のとおりです。

- 「[フォルダ制限 \(サイトプロパティの IMAP の設定\)](#)」
- 「[キャッシュ期間 \(サイトプロパティの IMAP の設定\)](#)」

- 「キャッシュディスク領域が少ない場合のキャッシュ期間 (サイトプロパティの IMAP の設定)」
- 「電子メール送信タイムアウト (サイトプロパティの IMAP 設定)」

## フォルダ制限 (サイトプロパティの IMAP の設定)

説明 Enterprise Vault が IMAP クライアントに各アーカイブフォルダから返すアーカイブ済みアイテムの数を制限します。Enterprise Vault は、最大でも設定した限度までの数の、最近アーカイブされたアイテムを返します。

サポートされている値 ■ フォルダ制限を設定する整数。デフォルト値は 10000 です。

## キャッシュ期間 (サイトプロパティの IMAP の設定)

説明 取り込んだアイテムがキャッシュされる時間を分単位の数で定義します。  
 メモ: テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 期間を設定する整数。デフォルト値は 30 です。

## キャッシュディスク領域が少ない場合のキャッシュ期間 (サイトプロパティの IMAP の設定)

説明 キャッシュで領域不足になったときに取り込んだアイテムがキャッシュされる秒数を定義します。  
 メモ: テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 期間を設定する整数。デフォルト値は 900 です。

## 電子メール送信タイムアウト (サイトプロパティの IMAP 設定)

説明 クライアントアクセスプロビジョニングタスクで、新しくプロビジョニングされたユーザーが IMAP 通知電子メールを受信したことの確認を待つ秒数を定義します。

電子メールはタスクが実行するとすぐに送信されます。指定した期間が経過しても、受信の確認が到着しない場合は、クライアントアクセスプロビジョニングタスクのレポートにエラーメッセージ「Error sending notification: The operation has timed out」が表示されます。この処理はタスクの次回実行時に繰り返します。

サポートされている値 ■ 期間を設定する 1 から 300 までの範囲の整数です。デフォルト値は 30 です。

## インデックス (サイトプロパティの詳細設定)

[インデックス付け]設定では詳細なインデックス付けの動作を制御できます。

---

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、[インデックス]設定は変更しないでください。

---

次のインデックス設定を利用できます。

- 「インデックスの場所の許容文字 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「メールボックスのインデックスグループサーバーの優先設定 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「同時インデックスタスクの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「連続した失敗アイテムの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「更新エラーの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「キャッシュの検索権限 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「エンジンがビジー状態である場合の検索の最大試行回数 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「特定のフォルダを最適化する場合の検索の最大フォルダ数 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「特定のフォルダ検索の最適化 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「VSA による検索ですべてのアーカイブの検索を許可 (サイトプロパティのインデックス設定)」
- 「カスタムプロパティのテキスト制限 (サイトプロパティのインデックス設定)」

## インデックスの場所の許容文字 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明

インデックスの場所のフォルダのパスで使うことができる文字。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

この設定はどの文字がインデックスの場所のフォルダのパスで有効であるか記述する正規表現を指定します。デフォルト値では **ASCII** 文字のみ許可します。

インデックスサービスは開始するときにインデックスの場所を検証します。インデックスの場所のフォルダのパスが無効な文字を含んでいる場合、場所は **Enterprise Vault** のイベントログメッセージに一覧表示されます。メッセージは以前に閉じられた場所と、現在の検証中に閉じられた場所を一覧表示します。

場所が現在の検証中に閉じられた場合、インデックスサービスは停止されます。**Enterprise Vault** のイベントログにエラーが書き込まれます。エラーには開いたインデックスの場所が無効な文字を含んでおり、インデックスサービスが停止されることが示されます。

サポートされている  
値

- 正規表現。デフォルトは次のとおりです。  
`[¥x00-¥x7f]+`

## メールボックスのインデックスグループサーバーの優先設定 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明

メールボックスに使う優先インデックスグループサーバーを指定します。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

**Enterprise Vault** は最初にインデックスサーバーグループ内でインデックスサーバーを選択するプロセスによってインデックスボリュームの場所を割り当てます。プロセスは次にそのインデックスサーバーのインデックスの場所を選択します。

この割り当て方法はすべての利用可能なインデックスサーバー間でインデックスボリュームを分散し、ジャーナルアーカイブのような大量のアーカイブに適しています。デフォルトでは、**Enterprise Vault** はメールボックスアーカイブのインデックスボリュームにこの割り当て方法を使いません。代わりに、同じインデックスサーバーでこれらのインデックスボリュームを一緒に保存します。

この設定ではメールボックスアーカイブのインデックスボリュームがすべての利用可能なインデックスサーバー間で分散されるようにデフォルトを上書きできます。

- サポートされている値
- [ローカルサーバー] (デフォルト)。メールボックスアーカイブのインデックスボリュームは関連付けられたストレージサーバーのローカルインデックスサーバーと一緒に保存されます。
  - なし。メールボックスアーカイブのインデックスボリュームはすべての利用可能なインデックスサーバー間で分散されます。

## 同時インデックスタスクの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明 同時インデックスタスクの最大数を指定します。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

- サポートされている値
- 1 から 25 の範囲の整数。デフォルトは 20 です。

## 連続した失敗アイテムの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明 インデックスボリュームが失敗とマーク付けされるまでにストレージサービスからフェッチできなかった連続するアイテムの最大数。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

- サポートされている値
- 連続するアイテム数を指定する整数。デフォルトは 25 です。

## 更新エラーの最大数 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明 インデックスの変更を行うときに、インデックスボリュームが失敗とマーク付けされるまでに許可されるエラーの最大数。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

- サポートされている値
- エラー数を指定する整数。デフォルトは 3 です。



## キャッシュの検索権限 (サイトプロパティのインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                  |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>ユーザー権限がインデックスクエリーサーバーにキャッシュされるかどうかを指定します。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。</p>                                     |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [有効] (デフォルト)。ユーザー権限はインデックスクエリーサーバーにキャッシュされます。</li><li>■ [無効]。ユーザー権限はインデックスクエリーサーバーにキャッシュされません。</li></ul> |

## エンジンがビジー状態である場合の検索の最大試行回数 (サイトプロパティのインデックス設定)

|            |                                                                                                               |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>検索エンジンが一時的にビジー状態で検索を処理できないために失敗した検索試行の最大数。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 検索試行数を指定する整数。デフォルトは <b>3</b> です。</li></ul>                            |

## 特定のフォルダを最適化する場合の検索の最大フォルダ数 (サイトプロパティのインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>検索クエリーが特定のフォルダのパフォーマンスの最適化を適用することから利点を得るために、検索対象にできるフォルダの最大数。</p> <p>p.266 の「<a href="#">特定のフォルダ検索の最適化 (サイトプロパティのインデックス設定)</a>」を参照してください。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。この値の変更は、検索パフォーマンスまたはシステムパフォーマンス、あるいはその両方に悪影響を及ぼす可能性があります。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ フォルダ数を指定する整数。デフォルトは <b>10</b> です。</li></ul>                                                                                                                                                                                   |

## 特定のフォルダ検索の最適化 (サイトプロパティのインデックス設定)

**説明** 少数のフォルダが対象となる検索にパフォーマンスの最適化を適用するかどうかを指定します。[特定のフォルダを最適化する場合の検索の最大フォルダ数]は、少数と判定される制限値を設定します。

p.265 の「特定のフォルダを最適化する場合の検索の最大フォルダ数 (サイトプロパティのインデックス設定)」を参照してください。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がないかぎり、この設定は変更しないでください。

**サポートされている値**

- [有効](デフォルト)。パフォーマンスの最適化を適用します。
- [無効]。パフォーマンスの最適化を適用しません。

## VSA による検索ですべてのアーカイブの検索を許可 (サイトプロパティのインデックス設定)

**説明** ボルトサービスアカウントがすべてのアーカイブを検索することをインデックスエリーサーバーが許可するかどうかを指定します。

次の点に注意してください:

- この設定を有効化すると、**Enterprise Vault** による検索などのエンドユーザーアプリケーションでボルトサービスアカウントに一部のアーカイブしか表示されません。この設定は、**Compliance Accelerator**、**Discovery Accelerator**、**EVSVR** ユーティリティなどのすべてのアーカイブで検索する必要があるアプリケーションで使うために用意されています。
- テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。**Compliance Accelerator**、**Discovery Accelerator**、およびその他のインデックスツールは特にこのオプションをオンにする必要があります。オンにしないと失敗します。

**サポートされている値**

- [有効](デフォルト)。ボルトサービスアカウントがすべてのアーカイブを検索することをインデックスエリーサーバーが許可します。
- [無効]。ボルトサービスアカウントがすべてのアーカイブを検索することをインデックスエリーサーバーが許可しません。

## カスタムプロパティのテキスト制限 (サイトプロパティのインデックス設定)

説明 保存、インデックス付け、取得、および検索が可能なカスタムプロパティの最大文字数。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 文字数を指定する整数。デフォルトは 1000、最大は 65535 です。

## Skype for Business (サイトプロパティの詳細設定)

Skype for Business の設定では、Skype for Business のアーカイブ動作を詳細に制御できます。

Skype for Business の設定は、次のとおりです。

- 「[信頼できるアプリケーションデータを含める](#)」

### 信頼できるアプリケーションデータを含める

説明 [はい]に設定されている場合は、Skype for Business がアーカイブされるアイテムをエクスポートするときに、信頼できるアプリケーションによってログに記録されたあらゆるデータを含めることができます。

サポートされている値 ■ [いいえ](デフォルト)。アプリケーションデータを含めることを許可しません。  
■ [はい]。アプリケーションデータを含めることを許可します。

## SQL Server (サイトプロパティの詳細設定)

SQL Server の設定で、Enterprise Vault の SQL Server との対話操作を詳細に制御できます。

SQL Server の設定は次のとおりです。

- 「[SQL AlwaysOn チェック \(サイトプロパティの SQL Server 設定\)](#)」
- 「[SQL Server 接続タイムアウト \(サイトプロパティの SQL Server 設定\)](#)」

## SQL AlwaysOn チェック (サイトプロパティの SQL Server 設定)

|            |                                                                                                                                               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault データベースを作成するときに SQL Server 上の可用性グループとフェールオーバークラスティンスタンスのチェックの有効と無効を切り替えるのに使用します。[有効化]に設定すると情報メッセージが示され、[無効化]にするとそれらが非表示になります。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 有効化 (デフォルト)。</li><li>■ 無効化。</li></ul>                                                                 |

## SQL Server 接続タイムアウト (サイトプロパティの SQL Server 設定)

|            |                                                                                         |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | SQL Server 接続タイムアウトを秒単位で設定します。アプリケーションが SQL Server により多くの時間接続できるようにするには、接続タイムアウトを増やします。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ 5 から 300 の範囲の整数。デフォルトは 120 です。</li></ul>        |

## SMTP (サイトプロパティの詳細設定)

SMTP 設定を利用すれば、SMTP アーカイブの動作を制御できます。

SMTP 設定は次のようになります。

- 「受信者や一致する送信先がないメッセージの削除 (サイトプロパティ SMTP 設定)」
- 「内部 SMTP ドメインのリスト (サイトプロパティ SMTP 設定)」
- 「アーカイブが有効な対象がメッセージに含まれないとき処理をログに記録 (サイトプロパティ SMTP 設定)」
- 「選択ジャーナルアーカイブ (サイトプロパティ SMTP 設定)」

### 受信者や一致する送信先がないメッセージの削除 (サイトプロパティ SMTP 設定)

|    |                                                                                                               |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | 保存フォルダ内のメッセージファイルに受信者または一致するターゲットがないときの処理を制御します。<br><br>この設定は、SMTP アーカイブと Skype for Business アーカイブの両方に適用されます。 |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- サポートされている値
- ヒット削除しないでください。アーカイブが有効になっている一致するターゲットアドレスを含まないメッセージは、保存フォルダ内にある NoMatchingTarget フォルダに移動します。NoMatchingTarget フォルダには、必要に応じて **day**、**hour**、**minute** のサブフォルダが作成されます。メッセージファイルは適切な **minute** フォルダに収められます。
  - [はい](デフォルト)。受信者または一致するターゲットのないメッセージを削除します

## 内部 SMTP ドメインのリスト (サイトプロパティ SMTP 設定)

- 説明
- 会社内部と判断される SMTP ドメインのリストを指定します。たとえば、「ourcompany.com;ourcompany.co.ie; ourcompany.co.uk」のように指定します。これらのドメインは、ボルトサービスアカウントの電子メールアドレスから検出されるドメインを補足します。または、アスタリスク (\*) を使ってすべての SMTP ドメインが内部であることを指定することができます。
- この設定は、SMTP アーカイブと Skype for Business アーカイブの両方に適用されます。

- サポートされている値
- セミコロンで分割されたドメインのリスト。

## アーカイブが有効な対象がメッセージに含まれないとき処理をログに記録 (サイトプロパティ SMTP 設定)

- 説明
- この設定は、一致する対象を含まないメッセージを SMTP アーカイブタスクが処理するとき、SMTP アーカイブタスクがイベントを SMTP アーカイブタスクエラーログに記録するかどうかを制御します。このイベントはメッセージが削除または移動されたかどうかを示します。
- SMTP アーカイブタスクのエラーログは、Enterprise Vault インストールフォルダの Reports¥SMTP サブフォルダにあります。
- この設定は、SMTP アーカイブと Skype for Business アーカイブの両方に適用されます。

- サポートされている値
- [いいえ](デフォルト)。処理をログに記録しないでください。
  - [はい]。SMTP アーカイブタスクのエラーログに処理を記録してください。

## 選択ジャーナルアーカイブ (サイトプロパティ SMTP 設定)

説明                      ジャーナルの選択のアーカイブでは、各メッセージのすべての送信者および受信者フィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) を検索するための SMTP アーカイブタスクが設定されます。

SMTP ジャーナルのパフォーマンスを最適化するには、このサイトの詳細設定が[非選択]に設定されていることを確認してください。

この設定は、SMTP アーカイブにのみ適用されます。

SMTP プロビジョニングを使用する場合は、このサイトの詳細設定が[包含]または[除外]に設定されていることを確認してください。最初の SMTP プロビジョニンググループを作成するときに、Enterprise Vault は自動的に[包含]を選択します。ただし、その後設定を変更した場合、Enterprise Vault ではその設定は更新されません。

- サポートされている値
- 非選択 (デフォルト)。X-RCPT-TO フィールドの受信者のみと照合します。
  - 包含。すべての送信者フィールドと受信者フィールド (X-RCPT-TO、To、CC、BCC、From、Sender) の SMTP ターゲットアドレスと照合します。メッセージの複製は、複数のアーカイブに格納される場合があります。
  - 除外。X-RCPT-TO 以外の送信者フィールドと受信者フィールドすべての SMTP ターゲットアドレスと照合し、一致した選択ターゲットアドレスに関連付けられているアーカイブにメッセージを格納します。メッセージ受信者フィールド (To、CC、BCC、From、Sender) と一致する選択ターゲットアドレスがない場合、電子メールは、X-RCPT-TO フィールドのターゲット SMTP アドレスに関連付けられたアーカイブに格納されます。

## ストレージ (サイトプロパティの詳細設定)

[ストレージ] 設定では詳細なストレージの動作を制御できます。

次のストレージ設定を利用できます。

- 「追加の [StorageOnlineOps](#) インスタンス (サイトプロパティのストレージ設定)」
- 「最大分類コンテンツサイズ (サイトプロパティのストレージ設定)」
- 「アーカイブごとの有効期限エラーの最大数 (サイトプロパティのストレージ設定)」
- 「トランザクション履歴 (サイトプロパティのストレージ設定)」
- 「情報分類子設定ファイルの更新頻度 (サイトプロパティのストレージ設定)」

### 追加の [StorageOnlineOps](#) インスタンス (サイトプロパティのストレージ設定)

Enterprise Vault ストレージサーバーでは、StorageOnlineOps プロセスがなくなることはありません。この設定により、実行する追加プロセス StorageOnlineOps の数が制御

されます。デフォルトの追加プロセスは 4 つです。合計で StorageOnlineOpsn プロセスが 5 つになります。

---

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

---

## 最大分類コンテンツサイズ (サイトプロパティのストレージ設定)

**説明** Enterprise Vault が分類のために Veritas Information Classifier に送信するファイルの最大サイズをメガバイト単位で指定します。ファイルがこの上限を超えると Enterprise Vault は指定したサイズにファイルを自動的に分割して、分割したファイルセット全体で分類を続行します。

分類ポリシーが複雑で、ポリシーのさまざまな部分がポリシーセット内のさまざまなファイルに一致する場合はこの上限を増やすと効率的です。たとえば、「fraud」と「corruption」という 2 つの単語を検索するポリシーで、1 つのファイルで 1 つ目の単語、別のファイルで 2 つ目の単語を検索する場合などです。

**メモ:** この設定は、Enterprise Vault 12.2 以降の Veritas Information Classifier で使用します。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類には当てはまりません。FCI 分類にコンテンツの最大サイズを設定する方法については、『Microsoft ファイル分類インフラストラクチャを使用した分類』ガイドを参照してください。

**サポート対象の値** メガバイト単位の最大数を指定する整数。デフォルトは 32 で、最小値は 1 です。

## アーカイブごとの有効期限エラーの最大数 (サイトプロパティのストレージ設定)

**説明** 自動的に有効期限切れになるアイテムを処理しているときに、発生する可能性があるアーカイブごとのエラーの最大数を指定します。この限度に達すると、Enterprise Vault はそのアーカイブの有効期限を破棄します。ただし、自動的に有効期限切れを次に実行するときに再試行します。

**サポートされている値** ■ 0 から 100000 の範囲の整数。デフォルトは 20 です。

## トランザクション履歴 (サイトプロパティのストレージ設定)

説明 [トランザクション履歴]では、アーカイブへの更新の詳細を保持する期間を制御できます。更新には、新しいアイテムの追加、アイテムの削除、アイテムの移動が含まれます。トランザクション履歴によって、最後のVault Cacheの同期以降のアーカイブへの変更の記録が提供されるため、Vault Cacheの同期のパフォーマンスが大幅に向上します。ユーザーがトランザクション履歴期間内にVault Cacheを同期しなかった場合、Enterprise Vault はアーカイブを処理して更新を決定します。

トランザクション履歴の記録は、SQL Serverに保持されるため、データベースにこのデータを格納できるようにする必要があります。

サポートされている値 ■ 各アーカイブのトランザクション履歴を保持する日数を指定する整数。デフォルト値は 32 です。

## 情報分類子設定ファイルの更新頻度 (サイトプロパティのストレージ設定)

説明 **メモ:** この設定は、Enterprise Vault 12.2 以降の Veritas 情報分類子で使います。Microsoft ファイル分類インフラストラクチャ (FCI) を使用した分類には当てはまりません。

サイト内の Veritas 情報分類子エンジンのすべてのインスタンス向けの設定ファイルを、Enterprise Vault が更新する頻度をミリ秒単位で指定します。この設定には、分類ポリシー情報を格納するネットワークフォルダへのパスと、Veritas 情報分類子へのアクセスに必要なポートとプロトコルが含まれます。

Enterprise Vault は、エンジンごとの設定を設定 (YAML) ファイルに格納します。Veritas 情報分類子エンジンに対して要求が行われるかエンジンを起動または再起動するたびに、Enterprise Vault は自動的に設定ファイルを更新します。その後、Enterprise Vault はここで指定した頻度でファイルを更新します。

この設定の値を増やすとサーバーでのネットワークトラフィックが減少し、分類パフォーマンスがわずかに改善を確認できます。ただし、そうでない場合、この設定を変更することは推奨されません。

サポートされている値 100 から 100000 の範囲の整数。デフォルトは 5000 (5 秒) です。



# コンピュータプロパティの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [コンピュータプロパティの詳細設定について](#)
- [コンピュータプロパティの詳細設定の編集](#)
- [コンピュータプロパティの詳細設定](#)

## コンピュータプロパティの詳細設定について

コンピュータプロパティの詳細設定は、単一の Enterprise Vault サーバーの Exchange アーカイブ、IMAP アクセス、インデックス付け、ストレージの動作を制御します。

Enterprise Vault サイトに適用する詳細設定はサイトプロパティで利用可能です。

p.247 の「[サイトプロパティの詳細設定について](#)」を参照してください。

## コンピュータプロパティの詳細設定の編集

Enterprise Vault サーバーの詳細設定はコンピュータプロパティの[詳細]タブにあります。

コンピュータプロパティの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ Enterprise Vault サーバー]が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ Enterprise Vault サーバー]をクリックします。
- 3 右側のペインで、プロパティを編集するサーバーの名前を右クリックします。次に[プロパティ]をクリックします。コンピュータプロパティが表示されます。

- 4 [詳細]タブをクリックします。
- 5 必要に応じて設定を編集します。

## コンピュータプロパティに新しい設定を適用する方法

実行した変更を適用するには、変更した設定に応じて **Exchange** アーカイブタスク、IMAP サーバー、インデックスサービス、ストレージサービスのいずれかを再起動する必要があります。

## コンピュータプロパティの詳細設定

コンピュータプロパティの詳細設定では、**Enterprise Vault** サーバーの機能を詳細に設定できます。

実行する変更は、変更を加える **Enterprise Vault** サーバーにだけ適用されます。**Enterprise Vault** サイト全体に適用される変更を加えるには、サイトのプロパティの詳細設定を使用してください。

次のカテゴリの拡張設定を変更できます。

- 「エージェント(コンピュータプロパティの詳細設定)」
- 「IMAP (コンピュータプロパティの詳細設定)」
- 「サーバーインデックス (コンピュータプロパティの詳細設定)」
- 「ストレージ(コンピュータプロパティの詳細設定)」

## エージェント(コンピュータプロパティの詳細設定)

[エージェント]設定により **Enterprise Vault** サーバーの詳細なエージェントの動作を制御できます。

[エージェント]設定は次のとおりです。

- 「圧縮バイトを送信する(コンピュータプロパティのエージェント設定)」

### 圧縮バイトを送信する(コンピュータプロパティのエージェント設定)

説明

Exchange Server からアーカイブを生成する **Enterprise Vault** エージェントがストレージキューに送信する前にデータの圧縮を行うかどうかを制御します。圧縮により WAN のネットワークトラフィックを減らすことができます。高速なネットワークにおいては、ネットワークトラフィックの増加よりも圧縮によるパフォーマンスのオーバーヘッドのほうが重要です。

高速なネットワークではこのオプションの使用を推奨しません。

- サポートされている 値
- [はい]。
  - [いいえ](デフォルト)。

## IMAP (コンピュータプロパティの詳細設定)

[サーバーインデックス]設定は次のとおりです。

- 「チャット内容を生成 (コンピュータプロパティの IMAP の設定)」
- 「同時接続の最大数 (コンピュータプロパティの IMAP の設定)」
- 「スレッドプールアルゴリズム (コンピュータプロパティの IMAP の設定)」
- 「最大スレッドプールサイズ (コンピュータプロパティの IMAP の設定)」

### チャット内容を生成 (コンピュータプロパティの IMAP の設定)

説明

DTrace を IMAP に対して実行しているときにこの Enterprise Vault サーバーで IMAP セッションのチャット内容を生成するには、このプロパティを使います。これは、ユーザーの接続問題を解決するのに役立ちます。

Enterprise Vault は、ボルトサービスアカウントの TEMP ディレクトリにある、.ix という拡張子の付いたファイルにチャット内容を書き込みます。

Enterprise Vault は、IMAP サーバーが停止されたときに、チャット内容のファイルを削除します。

**メモ:** IMAP のチャット内容には、ユーザーの電子メールからの機密情報が含まれます。

- サポートされている 値
- [いいえ](デフォルト)。
  - [はい]。

### 同時接続の最大数 (コンピュータプロパティの IMAP の設定)

説明

この Enterprise Vault サーバーへの同時 IMAP 接続の最大数を設定するには、このプロパティを使います。

- サポートされている 値
- 5000 から 100000 までの範囲の整数。デフォルトは 15000 です。

## スレッドプールアルゴリズム (コンピュータプロパティの IMAP の設定)

説明 CPU スレッドの最大数を決定するため、この Enterprise Vault サーバーが使う方法を設定するには、このプロパティを使います。

p.276 の「[最大スレッドプールサイズ \(コンピュータプロパティの IMAP の設定\)](#)」を参照してください。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値

- [ハードウェア](デフォルト)。コンピュータの物理プロパティを使って、スレッドの最大数を決定します。ただし、この最大値は、[最大スレッドプールサイズ]の値によってさらに制限されます(この値が、本来コンピュータで許可される値より低い場合)。
- [設定]。コンピュータの物理プロパティに関係なく、[最大スレッドプールサイズ]の値を使います。

## 最大スレッドプールサイズ (コンピュータプロパティの IMAP の設定)

説明 IMAP リクエストを扱うために利用できる CPU スレッドの最大数を設定するには、このプロパティを使います。

[スレッドプールアルゴリズム]が[ハードウェア]に設定されており、コンピュータの物理スレッドプールサイズが、設定した制限値より低い場合は、スレッドの実際の数をさらに制限できます。

p.276 の「[スレッドプールアルゴリズム \(コンピュータプロパティの IMAP の設定\)](#)」を参照してください。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値

- 20 から 400 までの範囲の整数。デフォルトは 100 です。

## サーバーインデックス (コンピュータプロパティの詳細設定)

[サーバーインデックス]設定では Enterprise Vault サーバーの詳細なインデックス付けの動作を制御できます。

---

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、[インデックス]設定は変更しないでください。

---

[サーバーインデックス]設定は次のとおりです。

- 「複数のインデックスの場所の作成 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「空のインデックスボリュームの削除限度 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスエンジンのシャットダウンを強制 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「失敗したボリュームをチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスボリュームの処理をチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「処理するインデックスボリューム全体をチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスエンジンクエリーサービスポート (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックス実行タイムアウト (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックス要求の最大長 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスのメモリ調整のしきい値 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「子プロセスの最大シャットダウン時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「子プロセスの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「同時最大インデックス処理量 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスアプリケーションプールの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスエンジンの最大シャットダウン時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスエンジンの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「最大アイテム待機時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「ファイルシステムインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「ジャーナルインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」

- 「メールボックスインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「パブリックフォルダインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「共有インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「SharePoint インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「インターネットメールインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索 HTTP サービスのパス (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索 HTTP サービスのポート (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索 HTTP サービスでの SSL の使用 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索ログのクエリー (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索ログの結果 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索ログフォルダ (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索の最大スレッド数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索の最小スレッド数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」
- 「検索のパフォーマンスカウンタの有効化 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)」

## 複数のインデックスの場所の作成 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                                                |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | Enterprise Vault が複数のインデックスの場所を作成するか 1 つのインデックスの場所を作成するかを指定します。                                                                                                                |
|            | <b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。                                                                                                                           |
|            | インデックスサービスプロパティの[インデックスの場所]タブで、インデックスの保存に使われるフォルダを追加できます。デフォルトでは、Enterprise Vault は追加するフォルダの下に 8 つのインデックスの場所のサブフォルダを自動的に作成します。                                                 |
|            | この設定では Enterprise Vault が 1 つのインデックスの場所のサブフォルダのみ作成するように指定できます。                                                                                                                 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [はい](デフォルト)。Enterprise Vault は 8 つのインデックスの場所のサブフォルダを作成します。</li> <li>■ [いいえ]。Enterprise Vault は 1 つのインデックスの場所のサブフォルダを作成します。</li> </ul> |

## 空のインデックスボリュームの削除限度 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                             |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | インデックスサービスは、定期的な間隔で空のインデックスボリュームをチェックし、それらのボリュームを削除します。この設定では、インデックスサービスが 1 回の処理で削除できる空のインデックスボリュームの最大数を指定します。                                              |
|            | デフォルトでは、インデックスサービスは 10 時間ごとに空のインデックスボリュームをチェックします。この確認の頻度は、[処理するインデックスボリューム全体をチェックする間隔]を設定することにより定義します。                                                     |
|            | p.280 の「 <a href="#">処理するインデックスボリューム全体をチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)</a> 」を参照してください。                                                                  |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 空のインデックスボリュームの最大数を設定する整数。デフォルトは 20 です。<br/>この値は増やすことができますが、テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないことを推奨します。</li> </ul> |

## インデックスエンジンのシャットダウンを強制 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                       |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | インデックスエンジンのシャットダウンを強制します。<br><br><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [有効](デフォルト)。</li> <li>■ [無効]。</li> </ul>     |

## 失敗したボリュームをチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                            |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | インデックスサービスが失敗したインデックスボリュームの処理を試行する時間間隔 (時間単位)。<br><br><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時間を指定する整数。デフォルトは <b>6</b> です。</li> </ul>                          |

## インデックスボリュームの処理をチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                         |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | インデックスサービスが処理するインデックスボリュームを検査する時間間隔 (時間単位)。<br><br><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。 |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時間を指定する整数。デフォルトは <b>1</b> です。</li> </ul>                       |

## 処理するインデックスボリューム全体をチェックする間隔 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|    |                                                                                                           |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | インデックスサービスが処理するインデックスボリュームを完全検査する時間間隔 (時間単位)。<br><br><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。 |
|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|



サポートされている 値 ■ 時間を指定する整数。デフォルトは 10 です。

## インデックスエンジンクエリーサービスポート (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 インデックスエンジンのクエリーサービスの内部通信ポート。  
**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ ポート番号を指定する整数。デフォルトは 7215 です。

## インデックス実行タイムアウト (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 インデックス付け HTTP ランタイムの実行タイムアウト (時間単位)。  
**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ 時間を指定する整数。デフォルトは 6 です。

## インデックス要求の最大長 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 インデックス付け HTTP ランタイムの要求の最大長 (KB 単位)。  
**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ KB 数を指定する整数。デフォルトは 76800 です。

## インデックスのメモリ調整のしきい値 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** インデックスエンジンの最大メモリ使用量の比率。使用中の総仮想メモリがこの比率に RAM を掛けた値を超えると、インデックス付けのメモリ消費量が減少します。正常範囲は 1.5 から 2.0 です。比率が高くなるとディスクのページングが増加することがあります。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 最大メモリ使用量の比率を指定するテキスト値。デフォルトは 1.5 です。

## 子プロセスの最大シャットダウン時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** 各子プロセスがシャットダウンするまでインデックスサービスが待機する最大時間 (分単位)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 時間 (分) を指定する整数。デフォルトは 15 です。

## 子プロセスの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** 各子プロセスが起動するまでインデックスサービスが待機する最大時間 (分単位)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 時間 (分) を指定する整数。デフォルトは 1 です。

## 同時最大インデックス処理量 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 同時に処理できるインデックスボリュームとサブタスクの最大の合計。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ インデックスボリュームとサブタスクの数を指定する整数。デフォルトは 30 です。

## インデックスアプリケーションプールの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 インデックス付けアプリケーションプールが開始するまで待機する最大時間 (ミリ秒単位)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ ミリ秒数を指定する整数。デフォルトは 800 です。

## インデックスエンジンの最大シャットダウン時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 コレクションブローカーと Search Service がシャットダウンするまでインデックスサービスが待機する最大時間 (分単位)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ 時間 (分) を指定する整数。デフォルトは 5 です。

## インデックスエンジンの最大起動時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 コレクションブローカーと Search Service が起動するまでインデックスサービスが待機する最大時間 (分)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ 時間 (分) を指定する整数。デフォルトは 2 です。

## 最大アイテム待機時間 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 ストレージサービスからアイテムがフェッチされるまでインデックスサービスが待機する最大時間 (分)。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ 時間 (分) を指定する整数。デフォルトは 15 です。

## ファイルシステムインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 ファイルシステムインデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## ジャーナルインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 ジャーナルインデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている 値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## メールボックスインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** メールボックスインデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## パブリックフォルダインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** パブリックフォルダインデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## 共有インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** 共有インデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## SharePoint インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** SharePoint インデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## インデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** インデックスボリュームのアイテムの最大数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## インターネットメールインデックスボリュームの最大アイテム数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

**説明** インターネットメールインデックスボリュームの最大アイテム数。インデックスボリュームはおよそこの数のアイテムを含んでいるときに新しいボリュームにロールオーバーします。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ アイテム数を指定する整数。デフォルトは 5000000 です。

## 検索 HTTP サービスのパス (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 IndexClient で使われる、インデックスクエリーサーバーの HTTP サービスの URL のパスの部分。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ パスを指定するテキスト値。デフォルトは次のとおりです。  
 /enterprisevault/search/indexserversearchservice/

## 検索 HTTP サービスのポート (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 IndexClient で使われる、インデックスクエリーサーバーの HTTP サービスの URL のポートの部分。

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ ポート番号を指定する整数。デフォルトは 80 です。

## 検索 HTTP サービスでの SSL の使用 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

説明 インデックスクエリーサーバーの HTTP サービスが SSL (HTTPS) 接続を必要とするかどうかを指定します。この設定がオンの場合、証明書はインデックスクエリーサーバーの HTTP サービスホストの適切なポートにバインドする必要があります

**メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

サポートされている値 ■ [表示](デフォルト)。  
 ■ [非表示]。

## 検索ログのクエリー (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                     |
|------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>インデックスクエリーサーバーがディスクにクエリーを記録するかどうかを指定します。検索ログフォルダの設定はファイルの場所を指定します。</p> <p>p.288 の「<a href="#">検索ログフォルダ (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)</a>」を参照してください。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示](デフォルト)。</li><li>■ [非表示]。</li></ul>                                                                                                                                     |

## 検索ログの結果 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|            |                                                                                                                                                                                                                   |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>インデックスクエリーサーバーがディスクに結果を記録するかどうかを指定します。検索ログフォルダの設定はファイルの場所を指定します。</p> <p>p.288 の「<a href="#">検索ログフォルダ (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)</a>」を参照してください。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"><li>■ [表示](デフォルト)。</li><li>■ [非表示]。</li></ul>                                                                                                                                   |

## 検索ログフォルダ (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

|    |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | <p>インデックスクエリーサーバーによって生成されるログファイルを格納するローカルフォルダ。</p> <p><b>メモ:</b> テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。</p> <p>これらのログは、[検索ログのクエリー]設定または[検索ログの結果]設定が有効な場合にのみ書き込まれます。</p> <p>p.288 の「<a href="#">検索ログのクエリー (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)</a>」を参照してください。</p> <p>p.288 の「<a href="#">検索ログの結果 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)</a>」を参照してください。</p> |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|



- サポートされている値
- ローカルフォルダを指定するテキスト値。デフォルトでは、フォルダを指定しないで、ボルトサービスアカウントの TEMP のフォルダを使います。

## 検索の最大スレッド数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

- 説明
- サーバーが実行できる同時検索の最大数を制御します。
- メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。この値の変更は、検索パフォーマンスまたはシステムパフォーマンス、あるいはその両方に悪影響を及ぼす可能性があります。

- サポートされている値
- スレッドを指定する整数値。デフォルトは 200 です。値は[検索の最小スレッド数]値よりも大きくする必要があります。
- p.289 の「[検索の最小スレッド数 \(コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定\)](#)」を参照してください。

## 検索の最小スレッド数 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

- 説明
- インデックスクエリーサーバー内で検索を実行するために使われるスレッドの最小値。
- メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

- サポートされている値
- スレッドを指定する整数値。デフォルトは 4 です。値は[検索の最大スレッド数] 値よりも小さくする必要があります。
- p.289 の「[検索の最大スレッド数 \(コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定\)](#)」を参照してください。

## 検索のパフォーマンスカウンタの有効化 (コンピュータプロパティのサーバーインデックス設定)

- 説明
- インデックスクエリーサーバーのパフォーマンスカウンタを有効にするかどうかを指定します。
- メモ:** テクニカルサポートプロバイダの指示がない限り、この詳細設定は変更しないでください。

- サポートされている値
- [有効](デフォルト)。
  - [無効]。

## ストレージ(コンピュータプロパティの詳細設定)

[ストレージ]設定では Enterprise Vault サーバーのストレージの働きを詳細に制御できます。

[ストレージ]設定は次のとおりです。

- 「保存セットを圧縮する(コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「分類ファイルの維持(コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「同時にアクティブな接続の最大数(コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「[並行ストレージ有効期限処理の最大ボルトストア](コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「[ストレージ有効期限処理のボルトストアあたりのスレッド数](コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「キューに登録済みのアイテム数に対するしきい値(コンピュータプロパティのストレージ設定)」
- 「空きディスク容量に対するしきい値(コンピュータプロパティのストレージ設定)」

### 保存セットを圧縮する(コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 Enterprise Vault のストレージサービスが保存セットをストレージキューに配置する前に、保存セットを圧縮するかどうかを制御します。

セーフコピーの格納にストレージキューを使用している場合、このオプションでかなりのディスク容量を節約できます。圧縮のオーバーヘッドによりパフォーマンスの低下を引き起こすことがあります。

サポートされている値

- [表示](デフォルト)。
- [非表示]。

### 分類ファイルの維持(コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 アイテムを分類するときに Enterprise Vault 分類コンポーネントが作成する一時ファイルを維持するかどうかを制御します。これらのファイルは機密なデータを含んでいる場合があるため、通常は削除することを推奨します。一方で、Enterprise Vault がアイテムを期待どおりに分類しない場合は、ファイルを検査することによってその原因が分かる可能性があります。

サポートされている値

- [表示](デフォルト)。
- [非表示]。

## 同時にアクティブな接続の最大数(コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 ストレージサーバーへ同時に接続できる最大数を制御します。

サポートされている値 ■ 使用する接続の最大数を指定する整数。デフォルトは 50 です。

## [並行ストレージ有効期限処理の最大ボルトストア](コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 ストレージの有効期限内にサーバー上のストレージサービスで同時に処理できる、ボルトストアの最大数。

サポートされている値 ■ 1 から 50 の範囲の整数。デフォルトは 8 です。

## [ストレージ有効期限処理のボルトストアあたりのスレッド数](コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 ストレージの有効期限処理中にアイテムを削除するために使用する、ボルトストアごとのスレッド数。

サポートされている値 ■ 1 から 10 の範囲の整数。デフォルトは 5 です。

## キューに登録済みのアイテム数に対するしきい値(コンピュータプロパティのストレージ設定)

説明 ストレージキューに登録できる未処理の保存セットの最大数を制御します。この制限に達すると、他のアイテムをキューに配置できるようになるまで、Enterprise Vault は自動的に待機します。

サポートされている値 ■ キューで許可される保留項目の最大数を指定する整数。デフォルトは 50000 です。



# タスクプロパティの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [タスクプロパティの詳細設定の編集](#)
- [SMTP アーカイブタスクの詳細プロパティ](#)

## タスクプロパティの詳細設定の編集

Enterprise Vault タスクの詳細設定は、タスクプロパティの[詳細]タブにあります。

タスクプロパティの詳細設定を編集するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ Enterprise Vault サーバー]が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開します。
- 3 タスクプロパティを編集するサーバーを展開します。
- 4 [タスク]をクリックします。
- 5 右側のペインで、プロパティを修正するタスクをダブルクリックします。
- 6 [詳細]タブをクリックします。
- 7 必要に応じて設定を編集します。

## SMTP アーカイブタスクの詳細プロパティ

SMTP アーカイブタスクの詳細プロパティは、SMTP アーカイブタスクを細かく制御します。

SMTP アーカイブタスクの詳細プロパティは次のようになります。

- 「[SMTP アーカイブタスクのチェックポイント間隔](#)」
- 「[SMTP アーカイブタスク概要レポートを更新する頻度](#)」

- 「変更のないチェックポイントの最大発生回数」

## SMTP アーカイブタスクのチェックポイント間隔

|            |                                                                                                                                                                                   |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>SMTP アーカイブタスクのチェックポイントの間隔(分)です。</p> <p>SMTP アーカイブタスクは、一定の間隔でチェックポイントを実行します。何らかの理由でタスクが停止しても、チェックポイント情報によって最新のチェックポイント位置から再開できます。</p> <p>この設定で、タスクがチェックポイント情報を保存する頻度を制御します。</p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 分の整数。デフォルトは 720 (分) です。</li> </ul>                                                                                                       |

## SMTP アーカイブタスク概要レポートを更新する頻度

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>タスクレポートファイルの SMTP アーカイブタスク概要情報の更新間隔(分)</p> <p>アーカイブタスクでは、次のフォルダに SMTP アーカイブの概略レポートとタスクのエラーログファイルが生成されます。</p> <p><code>Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name</code></p> <p>また、次のサブフォルダに Skype for Business アーカイブの概略レポートが作成されます。</p> <p><code>Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name\Skype for Business</code></p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数値。デフォルトは 60 (分) です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

## 変更のないチェックポイントの最大発生回数

|            |                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | <p>SMTP アーカイブタスクは、一定の間隔でチェックポイントを実行します。チェックポイント情報が変更されないままの場合、タスクに問題がある可能性があります。この設定で、SMTP アーカイブタスクが警告イベントをログに記録するまでにチェックポイントの無変更を許可する最大回数を指定します。</p> <p>また、SMTP アーカイブタスクでは、次のフォルダにエラーログファイルが生成されます。</p> <p><code>Enterprise_Vault_installation_folder\Reports\SMTP\SMTP_task_name</code></p> |
| サポートされている値 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 整数。デフォルトは 6 です。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                           |

# 個人用ストアの管理詳細プロパティ

この章では以下の項目について説明しています。

- [\[個人用ストアの管理\]プロパティの詳細設定について](#)
- [\[個人用ストアの管理\]プロパティの詳細設定の編集](#)
- [PST メッセージのサンプリング \(\[個人用ストアの管理\]プロパティの詳細設定\)](#)

## [個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定について

[個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定は PST ファイル所有権の識別の詳細を制御します。

## [個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定の編集

PST ファイルの所有者候補を識別するメッセージサンプリングの詳細設定は、[個人用ストアの管理]プロパティの[詳細]タブで設定できます。

[個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[個人用ストアの管理]ノードが表示されるまで階層を展開します。
- 2 [個人用ストアの管理]を右クリックして、[プロパティ]をクリックします。[個人用ストアの管理]プロパティが表示されます。
- 3 [詳細]タブをクリックします。
- 4 必要に応じて設定を編集します。

## PST メッセージのサンプリング ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定)

PST メッセージのサンプリングの設定では、PST メッセージのサンプリング動作を制御できます。

PST メッセージのサンプリングの設定は次のとおりです。

- 「移行の状態の変更割合 ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定)」
- 「メッセージの種類の除外リスト ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定)」

### 移行の状態の変更割合 ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定)

|    |                                                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | 関連付けられたメールの割合により、PST ファイルを「コピー準備完了」状態に移行するかどうかを判断します。割合の基準を満たさない場合にはファイルは現在の状態のままです。 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------|

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| サポートされている値 | ■ 80% から 100% までの範囲の 値。 |
|------------|-------------------------|

### メッセージの種類の除外リスト ([個人用ストアの管理]プロパティの詳細設定)

|    |                                                                                                                                                                                      |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明 | 所有権の識別スキャン時に除外する各メッセージの MAPI メッセージクラスを示す一覧。デフォルトの設定は、 <code>IPM.Note.Microsoft.Conversation</code> です。このメッセージクラスの MAPI プロパティを設定しているすべてのメッセージを所有権の識別処理時に PST から除外します。これは、カンマ区切りリストです。 |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

|            |                                                                               |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| サポートされている値 | ■ MAPI メッセージクラスを含んでいる文字列値。たとえば、 <code>IPM.Note.SMIME.MultipartSigned</code> 。 |
|------------|-------------------------------------------------------------------------------|



# 分類ポリシーの詳細設定

この章では以下の項目について説明しています。

- [分類ポリシーの詳細設定の編集](#)
- [分類設定 \(分類ポリシーの詳細設定\)](#)

## 分類ポリシーの詳細設定の編集

分類ポリシーの詳細設定を編集する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[ポリシー]が表示されるまで階層を展開します。
- 2 [ポリシー]>[保存と分類]>[分類]を展開します。
- 3 右側のペインで、編集するポリシーの名前をダブルクリックします。  
ポリシーのプロパティが表示されます。
- 4 [詳細]タブをクリックします。
- 5 必要に応じて設定を編集します。  
設定をダブルクリックして編集するか、設定を1回クリックして選択してから[修正]をクリックできます。

## 分類設定 (分類ポリシーの詳細設定)

分類設定により、分類ポリシーの動作を詳細に制御できます。  
分類設定は次のとおりです。

- [「保持カテゴリの選択 \(分類ポリシーの設定\)」](#)

## 保持カテゴリの選択 (分類ポリシーの設定)

|            |                                                                                                |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 説明         | 分類タグが複数の保持カテゴリに一致するときに使う保持カテゴリを指定します。設定値に応じて、Enterprise Vault は最長または最短の期間アイテムを保持する保持カテゴリを使います。 |
| サポートされている値 | <div><div>■ 最長 (デフォルト)</div><div>■ 最短</div></div>                                              |
| 以前の名前      | RetentionCategorySelection                                                                     |

# ストレージキューの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [ストレージキューについて](#)
- [ストレージキューでセーフコピーが保持されるしくみ](#)
- [ストレージキューにあるセーフコピーの数の確認](#)
- [ストレージの詳細設定の表示または変更](#)
- [ストレージキューの場所の変更](#)
- [ストレージキューの場所を開くまたは閉じる](#)

## ストレージキューについて

ストレージキューは、Enterprise Vault がアーカイブ処理中のアイテムを保持します。

Enterprise Vault は、アイテムをアーカイブするときに、アーカイブ処理の一部としてセーフコピーを保持します。このセーフコピーを Enterprise Vault がストレージキューで保持するように選択できます。そのメリットは、元の場所の容量をすぐに空けることができることです。たとえば、ユーザーがアイテムをアーカイブすると、次のバックアップを待たずにクォータの使用率がすぐに低下します。

ストレージキューの場所は、耐障害性に優れたデバイス (RAID 1 以上) にする必要があります。デバイスには、キュー内のすべてのアイテムを収容するための十分な容量が必要です。ストレージキューをセーフコピーのために使う場合は、次のバックアップが終わるまで、それらのコピーを保持できるだけの十分な容量を確保する必要があります。

ストレージキューのパフォーマンス情報について詳しくは、次の場所にある『Enterprise Vault Performance Guide』を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100000918>

アプリケーションは、管理コンソールのボルトストアのプロパティ設定とは関係なく、ストレージキューをセーフコピーのために使う場合があります。そのため、ストレージキューがセーフコピーに使われる可能性があることを念頭に置いてください。

ビルディングブロック環境を使う場合は、ストレージキューの場所に関連するサーバーと共有する必要があります。

ストレージキューは、Enterprise Vault ストレージサービスを実行する各サーバーに 1 つです。

## ストレージキューでセーフコピーが保持されるしくみ

セーフコピーがストレージキューにある場合、メールボックスのアーカイブプロセスは次のようになります。

- 1 アイテムがアーカイブ保留中としてマーク付けされます。
- 2 アイテムが、ストレージキューの場所にある .EVSQ ファイルに追加されます。
- 3 ストレージが、アイテムを .EVSQ ファイルから取り出し、適切なアーカイブに追加します。
- 4 Enterprise Vault が、メールボックス内のアーカイブ保留中のアイテムをショートカットに変更します。
- 5 Enterprise Vault がスキャンを実行し、各 SIS パーツと DVS ファイルがセキュリティで保護されていることを確認します。
- 6 .EVSQ ファイル内の全アイテムのアーカイブバージョンすべてがセキュリティで保護されると、Enterprise Vault は .EVSQ ファイルを削除します。

Enterprise Vault は空の .EVSQ ファイルを作成し、必要に応じてこのファイルにポピュレートします。ストレージキューの場所に、サイズがゼロのファイルが含まれる場合があります。このようなファイルは通常の動作の一環として作成されます。このファイルは、必要でなくなると削除されます。

## ストレージキューにあるセーフコピーの数の確認

Enterprise Vault がストレージキューにセーフコピーを保持している場合、これらのコピーは、対応するアーカイブがセキュリティで保護された後、自動的に削除されます。

ストレージキューにあるセーフコピーの数はいつでも確認できます。

ストレージキューのアイテム数を確認するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開します。
- 3 確認するストレージキューがあるサーバーを展開します。

- 4 [サービス]をクリックします。
- 5 ストレージサービスをダブルクリックします。
- 6 [ストレージキュー]タブをクリックします。
- 7 詳細で[キューのセーフコピー数]の値を確認します。

## ストレージの詳細設定の表示または変更

ストレージの詳細設定は、コンピュータのプロパティにあります。

ストレージの詳細設定は次のとおりです。

- [保存セットを圧縮する]。Enterprise Vault ストレージサービスで、ストレージキューに配置する前の保存セットを圧縮するかどうかを制御します。  
p.290 の「[保存セットを圧縮する\(コンピュータプロパティのストレージ設定\)](#)」を参照してください。  
個別のオプションで、Enterprise Vault が圧縮されたデータをストレージキューに送るかどうかを制御できます。このオプションはデフォルトでは無効になっています。高速ネットワークでは、ネットワークトラフィックの増加よりも圧縮によるパフォーマンスのオーバーヘッドの方が影響が大きいからです。  
p.274 の「[圧縮バイトを送信する\(コンピュータプロパティのエージェント設定\)](#)」を参照してください。
- [同時にアクティブな接続の最大数]。ストレージサーバーへの同時接続の最大数を制御します。  
p.291 の「[同時にアクティブな接続の最大数\(コンピュータプロパティのストレージ設定\)](#)」を参照してください。
- [キューに登録済みのアイテム数に対するしきい値]。ストレージキューに登録できる未処理の保存セットの最大数を制御します。この制限に達すると、他のアイテムをキューに配置できるようになるまで、Enterprise Vault は自動的に待機します。  
p.291 の「[キューに登録済みのアイテム数に対するしきい値\(コンピュータプロパティのストレージ設定\)](#)」を参照してください。
- [空きディスク容量に対するしきい値]。ストレージキューの場所に最低限必要なディスク容量の割合。この制限に達すると、容量がさらに利用できるようになるまで、Enterprise Vault は新しいアイテムをキューに配置しません。  
p.292 の「[空きディスク容量に対するしきい値\(コンピュータプロパティのストレージ設定\)](#)」を参照してください。

ストレージの詳細設定を表示または修正する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開します。

- 3 設定を表示または修正するサーバーを右クリックし、ショートカットメニューの[プロパティ]をクリックします。
- 4 [コンピュータプロパティ]ダイアログボックスで、[詳細設定]タブをクリックします。
- 5 [一覧表示する設定の種類]の横にある[ストレージ]を選択します。
- 6 修正する設定がある場合はダブルクリックします。

## ストレージキューの場所の変更

ストレージキューの場所は、ストレージサービスのプロパティで変更できます。既存の場所には、まだセキュリティで保護されていないアーカイブ済みアイテムのセーフコピーが含まれている場合があります。

---

**メモ:** ストレージキューの場所は、耐障害性に優れたデバイス (RAID 1 以上) にする必要があります。デバイスには、キュー内のすべてのアイテムを収容するための十分な容量が必要です。ストレージキューをセーフコピーのために使う場合は、次のバックアップが終わるまで、それらのコピーを保持できるだけの十分な容量を確保する必要があります。

---

ストレージキューの場所を変更する前に、ストレージキューを閉じる必要がある場合があります。ストレージキューが閉じていると、Enterprise Vault は新しいアイテムを追加できません。ただし、すでにキューにあるアイテムを処理することはできます。

p.303 の「[ストレージキューの場所を開くまたは閉じる](#)」を参照してください。

ストレージキューの場所を変更するには

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開します。
- 3 ストレージキューを修正するサーバーを展開します。
- 4 [サービス]をクリックします。
- 5 右ペインで Enterprise Vault ストレージサービスが停止していることを確認します。サービスが停止していない場合は、サービスを右クリックし、ショートカットメニューから[停止]をクリックします。
- 6 ストレージサービスが停止されたことを確認したら、ストレージサービスをダブルクリックします。
- 7 [ストレージキュー]タブをクリックします。
- 8 [ストレージキューの場所]セクションで[参照]ボタンをクリックします。

現在のストレージキューの場所にセーフコピーがある場合は、既存のファイルを新しい場所にコピーするように求めるメッセージが表示されます。

- 9 [ファイルを今すぐコピーします]をクリックして、現在のストレージキューの場所を開きます。
- 10 既存のファイルを新しい場所にコピーします。
- 11 [新しいストレージ場所を選択する準備ができました]をクリックし、使うフォルダを選択して[OK]をクリックします。[OK]をクリックしてストレージサービスのプロパティダイアログボックスを閉じます。
- 12 サービスを右クリックして、ショートカットメニューで[開始]をクリックします。

## ストレージキューの場所を開くまたは閉じる

Enterprise Vault に、新しいアイテムのキューへの追加を許可するかどうかを制御するために、次のようにストレージキューの場所を閉じたり開いたりすることができます。

ストレージキューが開いていると、Enterprise Vault はストレージキューに新しいアイテムを追加できます。

ストレージキューが閉じていると、Enterprise Vault は新しいアイテムを追加できません。ただし、すでにキューにあるアイテムを処理することはできます。

キューを別の場所に移動する際は、ストレージキューを閉じたほうが便利な場合があります。その場合は、キューを閉じてからキュー内のアイテムが減るまで待ち、キューを移動します。

**ストレージキューの場所を閉じるまたは開くには**

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]を展開します。
- 3 ストレージキューを修正するサーバーを展開します。
- 4 [サービス]をクリックします。
- 5 ストレージサービスをダブルクリックします。
- 6 [ストレージキュー]タブをクリックします。
- 7 [キュー状態]セクションで、必要なオプションを次のように選択します。
  - 場所を閉じるには、[クローズ]を選択します。
  - 場所を開くには、[オープン]を選択します。
- 8 [OK]をクリックします。

# 自動監視機能

この章では以下の項目について説明しています。

- [自動監視機能について](#)
- [\[サイトプロパティ\]の監視機能](#)
- [Enterprise Vault Operations Manager による監視について](#)
- [MOM を使った監視について](#)
- [SCOM を使った監視機能について](#)

## 自動監視機能について

Enterprise Vault には、自動監視に適用できる次の機構があります。

- [サイトプロパティ]の[監視]タブで、Enterprise Vault の重要な機能のパフォーマンス監視を有効にできます。監視対象のアイテムがしきい値に達すると、メッセージがアプリケーションイベントログおよび管理コンソールの[状態]セクションに記録されます。他のツールを使ってイベントログを監視している場合でも、監視メッセージが記録されるときにそれらのツールを使ってアラートを表示できます。
- Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーションをインストールしていれば、Internet Explorer がインストールされるどのコンピュータからでも、リモートで Enterprise Vault を監視することができます。
- Microsoft Operations Manager (MOM) がある場合、付属の Enterprise Vault Management Pack を使って、Enterprise Vault の動作とパフォーマンスを監視できます。
- Microsoft System Center Operations Manager (SCOM) がある場合、付属の Enterprise Vault Management Pack を使って、Enterprise Vault の動作とパフォーマンスを監視できます。



## [サイトプロパティ]の監視機能

[サイトプロパティ]で監視機能を有効にすると、利用可能なアラートを任意の数だけ選択できます。選択したアラートがしきい値レベルに達すると、Enterprise Vault は、アプリケーションイベントログに適切なエントリを書き込みます。Enterprise Vault は管理コンソールの [状態] セクションにもアラートを表示します。

さらに、どのアラートを有効にしても、Enterprise Vault は、そのアラートのパフォーマンスカウンタを有効にします。したがって、Windows のパフォーマンスモニターを使ってカウンタを監視することも、パフォーマンスカウンタを監視する他のプログラムを使うこともできます。

### 監視機能を有効にする方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、ボルトサイトを右クリックし、ショートカットメニューの [プロパティ] をクリックします。
- 2 [サイトプロパティ] の [監視] タブをクリックします。
- 3 受け取る通知の対象となるアイテムを選択します。  
アイテムごとに、次のボタンをクリックして、設定を修正します。

|      |                                                                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| しきい値 | Enterprise Vault が通知を発行するレベル。たとえば、[ディレクトリのバックアップ] でしきい値が 2 日になっている場合、Enterprise Vault が 2 日後にバックアップされていなければ、警告が発行されます。 |
| 頻度   | Enterprise Vault がこのアイテムをチェックする頻度。パフォーマンス監視対象のアイテムの場合は、Enterprise Vault が関連付けされたパフォーマンスカウンタを書き込む頻度です。                  |
| 開始時刻 | 測定を開始する時刻。時刻を選択しない場合、監視処理の開始時と [頻度] 列で定義された間隔で、統計が収集されます。                                                              |

- 4 [OK] をクリックします。

## Enterprise Vault Operations Manager による監視について

Enterprise Vault Operations Manager は、Internet Explorer がインストールされているどのコンピュータからでも Enterprise Vault をリモート監視できるようにする Web アプリケーションです。

Enterprise Vault Operations Manager を使って、次の情報を監視できます。

- Enterprise Vault サービスとタスクの状態。
- ボルトストア、ディスク領域、メモリ、CPU のパフォーマンスカウンタ。

- 受信トレイのアイテム数、アーカイブ保留、失敗した操作 (DL 拡張の失敗など) を含む、Exchange Server ジャーナルメールボックスのアーカイブ対象の状態。
- 受信トレイのアイテム数、アーカイブ保留、失敗した操作を含む、Domino サーバー ジャーナルの場所のアーカイブ対象の状態。
- アーカイブディスカバリ検索サービスのコンポーネントと、それらを使って行った検索の状態。

Enterprise Vault には、Enterprise Vault サーバーごとに監視エージェントが含まれています。監視エージェントは、指定された間隔 (通常は数分ごと) で監視データを収集して、Enterprise Vault 監視データベースに格納します。

Operations Manager は監視エージェントによって収集された最新のデータを表示します。各状態を一目で評価するためのサマリー表と、問題や障害を識別するための詳細データが表示されます。値が設定したしきい値に達すると、状態インジケータによって警告されます。

[設定] ページでは、監視を有効または無効にしたり、監視エージェントが監視を行う頻度を調整したり、状態インジケータのしきい値を設定したりできます。

## Operations Manager へのアクセス

Enterprise Vault Operations Manager は個別にインストール可能な機能です。Enterprise Vault サイトにある Enterprise Vault サーバーを監視するには、Operations Manager Web アプリケーションコンポーネントをサイト内の少なくとも 1 つの Enterprise Vault サーバーにインストールする必要があります。

Enterprise Vault Operations Manager をまだインストールしていない場合は、『インストール/設定』ガイドに従ってインストールすることができます。

## Enterprise Vault Operations Manager にアクセスする方法

- 1 Internet Explorer で、次のように URL を入力します。

`https://host_ipaddress/MonitoringWebApp/default.aspx`

この `host_ipaddress` は、Enterprise Vault Operations Manager Web アプリケーション機能がインストールされている Enterprise Vault サーバーのホストコンピュータの IP アドレスです。

代わりに、Operations Manager がインストールされているコンピュータからアクセスする場合は、`localhost` を指定できます。この場合、手順 2 は必要ありません。

`https://localhost/MonitoringWebApp/default.aspx`

- 2 [IP アドレスに接続]ダイアログボックスで、ホストコンピュータのドメイン内のアカウントのユーザー名とパスワードを入力します。次に[OK]をクリックします。

---

**メモ:** Operations Manager にアクセスするために、ボルトサービスアカウント以外のユーザーに適切な役割を割り当てる必要があります。ユーザーは、Operations Manager のタブとテーブルのうち、割り当てられた役割で利用可能なもののみ表示できます。

p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。

---

ユーザー信用証明が有効であれば、Operations Manager にサイトの[概略]ページが表示されます。

アーカイブディスカバリ検索サービスがインストールされている場合、管理コンソールから Operations Manager のアーカイブディスカバリ検索サービスページに直接移動できます。

管理コンソールから Operations Manager のアーカイブディスカバリ検索サービスページにアクセスする方法

- ◆ 管理コンソールの左ペインで、[アーカイブディスカバリ検索サービス]ノードを右クリックし、[監視]をクリックします。

## MOM を使った監視について

Enterprise Vault Management Pack には、アプリケーションイベントログの重要な Enterprise Vault イベントを MOM (Microsoft Operations Manager) で監視するためのルールが含まれます。

MOM を使って、[サイトプロパティ]の[監視]ページで設定したすべてのアラートを監視することもできます。このように設定するには、まず最初に[サイトプロパティ]で監視機能を有効にします。アラートは、重要イベントとしてアプリケーションイベントログに書き込ま

れます。イベントログのこれらの同じイベントを監視するように定義された MOM ルールがあり、デフォルトで有効になっています。

このセクションでは、MOM 管理に関する知識がある程度あることを想定しています。MOM の使い方についてのヘルプが必要な場合は、MOM のマニュアルを参照してください。

---

**注意:** Enterprise Vault Management Pack をインストールするには、Microsoft MOM をインストールして使っている必要があります。監視に問題が起きた場合は、Microsoft 社のサポートに問い合わせてください。

---

## MOM のインストール

Enterprise Vault のインストール時に、MOM Management Pack が Enterprise Vault プログラムフォルダの MOM サブフォルダ (たとえば C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\MOM) にコピーされます。

Management Pack は EnterpriseVault.akm です。

## MOM の設定

次の操作を行う必要があります。

- Enterprise Vault Management Pack をインポートする
- 「Enterprise Vault Administrators」という Enterprise Vault 通知先グループにオペレータを追加する
- Enterprise Vault 管理コンソールで監視機能を有効にする

### Enterprise Vault Management Pack をインポートする方法

- 1 MOM 管理コンソールを起動します。
- 2 左ペインで、[処理ルール グループ]を右クリックし、ショートカットメニューの[管理パックのインポート]をクリックします。
- 3 Enterprise Vault Management Pack (EnterpriseVault.akm) を選択し、[インポート オプション]ウィザードの残りの作業を進めます。

### オペレータを Enterprise Vault 通知先グループに追加する方法

- 1 MOM 管理コンソールの左ペインで、[ルール グループ]を展開します。
- 2 [通知先グループ]をクリックします。
- 3 右ペインで、[Enterprise Vault Administrators]をダブルクリックします。
- 4 アラートを受け取るオペレータを追加します。
- 5 [OK]をクリックします。

## オプションの MOM 設定

Enterprise Vault MOM Management Pack では、Enterprise Vault 監視機能に関する多くのルールを定義します。の中には、デフォルトで有効になっているものも、無効になっているものもあります。これらのルールをレビューし、必要に応じて有効と無効を切り替えてください。

Enterprise Vault SCOM Management Pack を設定した場合は、使う前にいくつかのルールの設定が必要な場合があります。

たとえば、次のルールを使う場合は、監視対象の SQL サーバーを指定するように設定する必要があります。

```
Sample value of the performance counter SQL Server - Checkpoint pages / sec is greater than the defined threshold
```

一部の SCOM ルールは、Enterprise Vault 管理コンソールで有効にするイベントに関係することに注意してください。このようなイベントの場合、管理コンソールで有効にする必要があります。

表 18-1 には、管理コンソールから有効にでき、対応する MOM ルールを持ったイベントが一覧表示されています。

デフォルトでは、この表のすべてのイベントが有効になっています。

表 18-1 MOM ルールと対応するイベント

| Event ID | 管理コンソール名                 | MOM ルール名                                       |
|----------|--------------------------|------------------------------------------------|
| 41008    | バックアップ待ちの新しいアイテム         | バックアップ警告: バックアップまたはレプリケートされていない保存セットファイル       |
| 41011    | ボルトストアデータベースのバックアップ      | ボルトストア SQL データベースの期限の過ぎたバックアップ                 |
| 41012    | ボルトストアのトランザクションログのバックアップ | ボルトストア SQL データベーストランザクションログに対する期限の過ぎたバックアップ    |
| 41013    | ボルトストアのトランザクションログのサイズ    | ボルトストア SQL データベースに対する領域割り当て警告                  |
| 41014    | ディレクトリデータベースのバックアップ      | Enterprise Vault ディレクトリデータベースに対する期限の過ぎたバックアップ。 |
| 41015    | ディレクトリのトランザクションログのバックアップ | Enterprise Vault ディレクトリデータベースに対する期限の過ぎたバックアップ。 |

| Event ID | 管理コンソール名                        | MOM ルール名                                        |
|----------|---------------------------------|-------------------------------------------------|
| 41016    | ディレクトリのトランザクションログのサイズ           | Enterprise Vault ディレクトリ SQL データベースのスペース割り当て警告。  |
| 41021    | インデックス付けを待機しているアーカイブ済みアイテム      | 完了していないバックアップ、インデックス付け、レプリケーション操作               |
| 41022    | インデックスからの削除を待機している削除済みアイテム      | 完了していない削除操作                                     |
| 41023    | 復元を待機しているアイテム                   | 復元キュー長の警告                                       |
| 41203    | ボルトストアのフィンガープリントデータベースバックアップ    | ボルトストアグループ SQL データベースの期限の過ぎたバックアップ              |
| 41204    | ボルトストアのフィンガープリントデータベースログのバックアップ | ボルトストアグループ SQL データベーストランザクションログに対する期限の過ぎたバックアップ |
| 41205    | ボルトストアのフィンガープリントデータベースログのサイズ    | ボルトストアグループのログのサイズに対する領域割り当て警告                   |
| 41256    | バックアップモードのボルトストア                | バックアップモードのボルトストア (すべて)                          |
| 41258    | ボルトストアのパーティションバックアップのスキャン       | スキャンされていないパーティション (すべて)                         |
| 41260    | 保護されたパーティションアイテム                | ある期間にわたって保護されていないパーティションのアイテム (すべて)             |
| 41262    | バックアップモードのインデックスの場所             | バックアップモードのインデックスの位置 (すべて)                       |
| 41264    | レポートモードのタスク                     | レポートモードのタスク (すべて)                               |
| 41265    | スケジュールされていないタスク                 | タスクスケジュールが[実行しない]に設定されている                       |

## SCOM を使った監視機能について

Enterprise Vault には、SCOM (System Center Operations Manager) 2012 SP1 以降用の管理パックが含まれています。このパックは、Enterprise Vault サーバーのアプリ

ケーションイベントログに含まれる Enterprise Vault コンポーネントと重要な Enterprise Vault イベントを SCOM で監視するためのルールを定義します。

SCOM を使って、[サイトプロパティ]の[監視]タブで設定されたすべてのアラートを監視することもできます。このように設定するには、まず最初に[サイトプロパティ]で監視機能を有効にします。アラートは、重要イベントとしてアプリケーションイベントログに書き込まれます。SCOM はそれらのイベントの有無を確認するためにイベントログを監視します。SCOM 監視ルールはデフォルトで有効です。

クラスタでは、Enterprise Vault のクラスタリソースグループは監視できますが、個々のサーバーは監視できません。

---

**注意:** Enterprise Vault Management Pack をインストールする前に、Microsoft SCOM をインストールして使っている必要があります。監視に問題が起きた場合は、Microsoft 社のサポートに問い合わせてください。

---

## Enterprise Vault サーバー用の SCOM 監視機能の設定

次の手順は、Enterprise Vault に対して SCOM 監視機能をセットアップするための手順の概略を示しています。詳しくは、リンクに従ってください。

### Enterprise Vault 用の SCOM 監視機能の設定方法

- 1 SCOM 監視機能の 実行アカウントとして使用するドメインアカウントを作成または選択します。  
p.312 の「[実行アカウントの作成](#)」を参照してください。
- 2 SCOM 監視機能の 実行アカウントとして使うアカウントに、Enterprise Vault アプリケーション監視ロールを割り当てます。  
p.312 の「[アカウントへのアプリケーション監視ロールの割り当て](#)」を参照してください。
- 3 実行アカウントの詳細を、SCOM で管理する Enterprise Vault サーバーに配布します。  
p.313 の「[実行アカウントのログイン資格情報の配布](#)」を参照してください。
- 4 Enterprise Vault の SCOM パックをインポートします。  
p.313 の「[Enterprise Vault SCOM Management Pack のインポート](#)」を参照してください。

- 5 実行アカウントを、Enterprise Vault SCOM パックに含まれている 実行プロファイルと関連付けます。  
p.314 の「[実行アカウントと実行プロファイルの関連付け](#)」を参照してください。
- 6 インストール済みエージェントに対してエージェントプロキシを有効化します。  
p.314 の「[インストール済みエージェントに対するエージェントプロキシの有効化](#)」を参照してください。

## 実行アカウントの作成

SCOM 監視機能の実行アカウントとして使用するドメインアカウントを作成または選択する必要があります。

### 実行アカウントの作成

- 1 System Center Operations Manager の起動
- 2 [管理] タブをクリックします。
- 3 左ペインで[実行アカウントの設定]の下にある[アカウント]を右クリックし、[実行アカウントの作成]をクリックします。
- 4 次のように[実行アカウントの作成ウィザード]の手順に従います。  
[一般のプロパティ] ページで次の操作を行います。
  - [実行アカウントの種類]として[Windows]を選択します。
  - [表示名]と[説明]の選択を入力します。
 [ログイン資格情報] ページで次の操作を行います。
  - Enterprise Vault 管理コンソールでアプリケーションの監視ロールを割り当てたアカウントの詳細を入力します。
 [配布セキュリティ] ページで次の操作を行います。
  - 必要に応じて[保全度低]または[保全度高]を選択します。  
アカウントの詳細をすべての SCOM エージェントサーバーに配布する場合は、[保全度低]を選択します。  
アカウントの詳細を特定のサーバーに配布する場合は、[保全度高]を選択します。

## アカウントへのアプリケーション監視ロールの割り当て

SCOM 監視の実行アカウントとして使うアカウントに監視アプリケーションロールを割り当てる必要があります。

- p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。



## 実行アカウントのログイン資格情報の配布

このセクションでは、実行アカウントの詳細を SCOM で管理する Enterprise Vault サーバーに配布する方法を説明します。

### 実行アカウントのログイン資格情報を配布する方法

- 1 System Center Operations Manager の起動
- 2 [管理] タブをクリックします。
- 3 左ペインで [実行アカウントの設定] の下にある [アカウント] をクリックします。
- 4 [アカウント] リストで Enterprise Vault の監視に使用する実行アカウントを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [配布] タブをクリックします。
- 6 [保全度高] をクリックします。
- 7 [追加] をクリックした後、監視する各 Enterprise Vault サーバーを選択します。
- 8 [適用] をクリックします。

## Enterprise Vault SCOM Management Pack のインポート

SCOM Management Pack は自己解凍型の実行可能ファイル Veritas Enterprise Vault Management Pack.exe として提供されます。このファイルは Enterprise Vault メディアにあります。

### Enterprise Vault Management Pack をインポートする方法

- 1 Enterprise Vault メディアをロードします。
- 2 Windows の自動再生がサーバーで有効になっている場合、Windows によって自動再生のダイアログボックスが表示されます。[Setup.exe の実行] をクリックします。  
自動再生が有効になっていない場合、Windows エクスプローラでインストールメディアのルートフォルダを開き、Setup.exe ファイルをダブルクリックします。
- 3 [Veritas Enterprise Vault Install Launcher] ウィンドウの左ペインにあるリストで、[Enterprise Vault] をクリックします。
- 4 [Client Installation] をクリックします。
- 5 右ペインで、[SCOM Management Pack] をクリックします。
- 6 [Open Folder] をクリックします。Management Pack を含んでいるフォルダで Windows エクスプローラを起動します。
- 7 次のファイルをダブルクリックします。  
Veritas Enterprise Vault Management Pack.exe
- 8 表示されたライセンスを読み、[はい] をクリックして条項に同意します。

- 9 管理パックを格納するフォルダを指定して、[OK]をクリックします。
- 10 System Center Operations Manager で[管理]を選択します。
- 11 左ペインで[管理]を右クリックし、[Management Pack のインポート]をクリックします。
- 12 Management Pack のインポートウィザードで[追加]をクリックし、次に[ディスクから追加]をクリックします。
- 13 オンラインカタログで依存関係を検索するかどうかを確認するプロンプトが表示されたら[いいえ]をクリックします。
- 14 抽出した Management Pack があるフォルダにナビゲートします。
- 15 Veritas.EnterpriseVault.Library.mp と Veritas.EnterpriseVault.12.mp をクリックし、[開く]をクリックします。ウィザードにより[一覧のインポート]に Management Pack が追加されます。
- 16 [インストール]をクリックします。ウィザードにより Management Pack がインポートされます。
- 17 [閉じる]をクリックします。

## 実行アカウントと実行プロファイルの関連付け

このセクションでは、実行アカウントを Enterprise Vault SCOM パックに含まれる実行プロファイルに関連付ける方法について説明します。

### 実行アカウントを実行プロファイルに関連付ける方法

- 1 System Center Operations Manager で[管理]をクリックします。
- 2 左ペインで[プロファイル]をクリックします。
- 3 右ペインで[Veritas Enterprise Vault 監視プロファイル]をダブルクリックします。
- 4 次のように[実行プロファイルウィザード]の手順に従います。  
[実行アカウント]画面で次の操作を行います。
  - [追加]をクリックし、作成した実行アカウントを選択します。
  - [次のオブジェクトの管理にこの実行アカウントを使用]の下にある[すべての対象オブジェクト]を選択します。

## インストール済みエージェントに対するエージェントプロキシの有効化

このセクションでは、インストール済みエージェントに対するエージェントプロキシを有効化する方法を説明します。

### エージェントプロキシを有効にする方法

- 1 SCOM 管理コンソールで、[管理]タブをクリックします。
- 2 [デバイスの管理]で、[エージェントで管理]をクリックします。
- 3 [エージェントで管理]リストの各 Enterprise Vault サーバーに対して次の操作を実行します。
  - サーバーを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
  - [セキュリティ]タブをクリックします。
  - [このエージェントをプロキシとして動作させ、他のコンピュータ上の管理オブジェクトを検出する]を選択します
  - [OK]をクリックします。

## 以前の SCOM Management Pack の使用または削除

Enterprise Vault SCOM Management Pack をインポートするときに、11.0.1 以前のバージョンの Enterprise Vault の SCOM Management Pack は削除されません。

Enterprise Vault 12 Management Pack をインポートした後に、Enterprise Vault 12 サーバーと古いバージョンの Enterprise Vault が両方ともインストールされているかどうかに応じて、2 つのノードが表示されることがあります。

- Symantec Enterprise Vault - Enterprise Vault 11.0.1 以前のサーバー。
- Veritas Enterprise Vault - Enterprise Vault 12 サーバー。

既存の Enterprise Vault 11.0.x サーバーを監視するには、Enterprise Vault 11.0.x Management Pack を使う必要があります。

古いバージョンの Enterprise Vault サーバーを監視する必要がなくなった場合は、以前の Enterprise Vault Management Pack を削除することができます。

### 以前の Enterprise Vault Management Pack を削除する方法

- 1 オペレーションコンソールで、[管理]ボタンをクリックします。
- 2 [管理]のリストで、クリック[Management Pack]をクリックします。
- 3 [Management Pack]ペインで Enterprise Vault Management Pack を右クリックしてから[削除]をクリックします。

他の管理パックが Enterprise Vault パックに依存している場合は、「依存 Management Pack」エラーメッセージが表示されます。先へ進める前に、まず依存パックのバックアップコピーを取り、次にそれらを削除するか編集して Enterprise Vault パックの依存性を削除する必要があります。

## オプションの SCOM 設定

Enterprise Vault SCOM Management Pack では、Enterprise Vault 監視機能に関する多くのルールを定義します。この中には、デフォルトで有効になっているものも、無効になっているものもあります。これらのルールをレビューし、必要に応じて有効と無効を切り替えてください。

Enterprise Vault SCOM Management Pack を設定した場合は、使う前にいくつかのルールの設定が必要な場合があります。

一部の SCOM ルールは、Enterprise Vault 管理コンソールで有効にするイベントに関係することに注意してください。このようなイベントの場合、管理コンソールで有効にする必要があります。

## SCOM 監視に関する注意事項

デフォルトで SCOM は Enterprise Vault サービスを 24 時間ごとに検出します。このデフォルトを上書きする場合、オブジェクト検出の設定を変更する必要があります。たとえば、インデックスサービスのデフォルトを上書きするには、次の 2 つのオブジェクト両方の設定を変更する必要があります。

- サーバー依存関係の検出 (検出された種類: インデックス)。
- サーバーインデックス依存関係の検出 (検出された種類: インデックスサービス)。

SCOM 監視には次の既知の制限事項があります。

- 監視対象の Enterprise Vault サーバーに到達できないと、SCOM オペレーションコンソールに誤ったサーバーの状態が表示されることがあります。[サイトの状態]ビューでは、到達不能なサーバーは、有効(グリーン)としてではなく、無効(グレー)として表示される必要があります。[サーバーの状態]ビューでは、到達不能なサーバーは無効(グレー)として正しく表示されます。
- Microsoft Cluster に Enterprise Vault がインストールされている場合は、Enterprise Vault サイトの健全性の状態で個々のサーバーの健全性の状態が更新されるまでに時間がかかることがあります。更新には 30 分以上かかることがあります。個々のサーバーの健全性の状態は常に更新されています。
- ディレクトリデータベースへの接続が失われると、ボルトストアデータベースとフィンガープリントデータベースの健全性の状態が更新されず、間違って表示される場合があります。健全性の状態は、ディレクトリデータベースへの接続が回復したときに正しく報告されます。
- ストレージサービスが利用できない場合や、またはストレージサービスがデータベース接続が失われた場合、ボルトストアのパーティションのパフォーマンスカウンタ値は更新されません。つまり、ボルトストアのパーティションに間違った健全性が表示される可能性があります。カウンタはストレージサービス接続が復元されると自動的に更新されます。

# 拡張コンテンツプロバイダの管理

この章では以下の項目について説明しています。

- [拡張コンテンツプロバイダについて](#)
- [拡張コンテンツプロバイダのプロパティ](#)
- [拡張コンテンツプロバイダの管理者ロールの割り当て](#)
- [拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションロールの割り当て](#)
- [拡張コンテンツプロバイダの有効化](#)
- [コンテンツプロバイダレポートの表示](#)

## 拡張コンテンツプロバイダについて

Enterprise Vault Extensions 機能により、パートナーは Enterprise Vault の標準機能を拡張するソリューションを開発できます。

管理コンソールのナビゲーションペインでは、インストール済みの拡張機能が[Extensions] コンテナの下に一覧表示されます。

管理コンソールでの拡張機能へのアクセスは、Enterprise Vault ロールベースの管理により制御されます。この制御により、特定の個人またはグループを拡張機能管理者として指名できます。

それぞれの拡張コンテンツプロバイダには独自にスケジュールが設定されます。このスケジュールは拡張コンテンツプロバイダのプロパティを編集することで変更できます。

## 拡張コンテンツプロバイダのプロパティ

拡張コンテンツプロバイダのプロパティでは、次を実行できます。

- 拡張機能の有効化または無効化。拡張機能が有効な場合、[スケジュール]タブの設定に従ってアーカイブが実行されます。
- デフォルトのボルトストアの設定。デフォルトのボルトストアを選択する必要があります。拡張機能はこのボルトストアを使いますが、必須ではありません。
- 拡張機能を作成したパートナーが提供する追加のオプションの管理。
- アーカイブスケジュールの定義。
- 拡張機能の動作を微調整する設定の修正。

拡張機能の管理に関する追加の情報については、拡張機能を作成したパートナーが提供するマニュアルを参照してください。

## 拡張コンテンツプロバイダの管理者ロールの割り当て

ボルトサービスアカウント以外のアカウントを使ってコンテンツプロバイダの拡張機能を管理するには、そのアカウントを拡張コンテンツプロバイダの管理者ロールに割り当てる必要があります。

p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。

拡張コンテンツプロバイダの管理者ロールは、割り当てられたアカウントで拡張機能の表示と管理を行えるようにします。

## 拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションロールの割り当て

拡張機能が実行されるアカウントでは、拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションロールが割り当てられている必要があります。

p.20 の「[役割ベースの管理](#)」を参照してください。

拡張コンテンツプロバイダのアプリケーションロールにより、アプリケーションを Enterprise Vault 拡張機能として実行することと、ディレクトリの拡張エントリの作成、読み取り、更新と、アイテムのアーカイブが可能になります。

このロールは、すべての拡張機能のプロパティに対する完全な更新権限を許可しません。たとえば、拡張機能が自身の有効と無効を切り替えたり、自身のスケジュールを変更、上書きすることはできません。

## 拡張コンテンツプロバイダの有効化

拡張コンテンツプロバイダを有効にするには

- 1 管理コンソールの左ペインで、[Extensions] コンテナが表示されるまで Enterprise Vault サイトを展開します。
- 2 [Extensions] コンテナを展開し、[コンテンツプロバイダ] をクリックします。右ペインに、インストール済みの拡張機能が表示されます。
- 3 拡張機能を右クリックし、ショートカットメニューで [プロパティ] をクリックします。
- 4 プロパティの [全般] タブで [有効化] を選択します。
- 5 [デフォルトのボルトストア] で [参照] をクリックし、拡張機能が使うボルトストアを選択します。
- 6 [スケジュール] タブをクリックします。
- 7 [常に配備] を選択するか、必要に応じてスケジュールを設定します。
- 8 [OK] をクリックしてプロパティを閉じます。

## コンテンツプロバイダレポートの表示

管理コンソールから次の拡張コンテンツプロバイダレポートを表示できます。

- コンテンツプロバイダライセンスおよび使用状況の概略。このレポートは次の情報を提供します。
  - Veritas Enterprise Vault 容量のライセンスの使用状況。
  - すべてのコンテンツプロバイダによって Enterprise Vault に取り込まれたデータの合計量。容量のライセンスとユーザー単位のライセンスの両方。
- コンテンツプロバイダ取り込み履歴。このレポートは、単一のコンテンツプロバイダまたはコンテンツプロバイダインスタンスがアーカイブの目的で指定した期間に Enterprise Vault に提示した項目の数および合計サイズを表示します。

コンテンツプロバイダライセンスと使用状況の概略レポートを表示するには

- 1 管理コンソールの左ペインで [ディレクトリ] を展開します。
- 2 [Extensions] を展開します。
- 3 [コンテンツプロバイダ] を右クリックし、ショートカットメニューで [コンテンツプロバイダのライセンスと使用状況の概略レポート] をクリックします。

コンテンツプロバイダ取り込み履歴レポートを表示するには

- 1 管理コンソールの左ペインで [ディレクトリ] を展開します。
- 2 [Extensions] を展開します。

- 3 [コンテンツプロバイダ]をクリックします。
- 4 右側のペインで、レポートの対象とする拡張子を右クリックし、ショートカットメニューで[コンテンツプロバイダの取り込み履歴レポート]をクリックします。

管理コンソールの[一般的なタスク]セクションからレポートを実行することもできます。

**一般的なタスクからレポートを表示するには**

- 1 管理コンソールの左ペインで、Enterprise Vault サイトの名前をクリックします。
- 2 右ペインの[一般的なタスク]で[Enterprise Vault サーバー管理]を展開します。
- 3 [処理レポートを実行]をクリックします。

レポートとその使用方法について詳しくは、『レポート』を参照してください。



# アーカイブのエクスポート

この章では以下の項目について説明しています。

- [アーカイブのエクスポートウィザードについて](#)
- [エクスポートしたファイルのインポート \(移行\)](#)
- [アーカイブのエクスポートウィザードでのエクスポートの開始](#)

## アーカイブのエクスポートウィザードについて

アーカイブのエクスポートを利用して、次の種類のアーカイブからアーカイブされたアイテムをエクスポートすることができます。

- **Exchange** メールボックスのアーカイブ
- **Exchange** ジャーナルアーカイブ
- ファイルシステムアーカイブ
- 共有アーカイブ

アーカイブのエクスポートは、**Exchange Server** メールボックスアーカイブのみに使用できます。**Domino** アーカイブからアイテムをエクスポートする場合は、『ユーティリティ』ガイドの **Domino Archive Exporter** に関する説明を参照してください。

アーカイブのエクスポートウィザードでは、アーカイブ済みアイテムを次のようにエクスポートできます。

- **PST** ファイルへのアーカイブのエクスポート。これは次の場合に役立ちます。
  - オフィスからの外出時に使うためなど、アーカイブ済みアイテムの個人用コピーをユーザーに与える場合。
  - 保管のために個々のメールボックスアーカイブを別の場所に送付する場合。
- 元のメールボックスへのアーカイブのエクスポート。これは次の場合に役立ちます。

- メールボックスを転送するときに、ユーザーのアーカイブ済みアイテムも送信したい場合。
- **Enterprise Vault** の試験運用中に、アーカイブをすべて元のメールボックスにコピーする場合。
- 選択したメールボックスへの 1 つのアーカイブのエクスポート。これは次の場合に役立つ可能性があります。
  - 企業内で、あるユーザーが既存のロールを引き継ぐ場合。たとえば、古いメールボックスからアーカイブされたアイテムのうち、特定の保持カテゴリのものをすべて新しいメールボックスにエクスポートできます。
  - 法的な調査がある場合。特定のメールボックスからアーカイブされたすべてのアイテムを新しいメールボックスにコピーし、以後の調査に備えることができます。

エクスポートするときには、最終更新日と保持カテゴリによって出力にフィルタをかけることができます。たとえば、特定の保持カテゴリでアーカイブされたもので、経過期間が 1 年未満のアイテムをエクスポートするように設定できます。

PST ファイルにエクスポートする場合、ウィザードでは出力ファイルの最大サイズを制御できます。デフォルトの最大サイズである 600 MB は、CD に書き込む場合に最適です。ファイルが最大サイズに達すると、一連の番号を付加されたファイル名のファイルが、最大サイズ以下のサイズで、ウィザードにより自動生成されます。

PST ファイル内のフォルダは、最大で 16,383 個のアイテムを含むことができます。これは PST ファイルの限度です。フォルダがこの限度に達した場合、同じ名前でも末尾に番号を付け足したフォルダ名の新しいフォルダが、アーカイブのエクスポートウィザードによって自動的に作成されます。たとえば、「Inbox」フォルダが限度に達した場合、以後のアイテムを保持する「Inbox 1」フォルダが自動的に作成されます。

ウィザードでは、PST ファイルごとに設定ファイルが作成されます。PST ファイルの内容を **Enterprise Vault** にインポートして戻す予定であれば、このファイルが必要な場合があります。エクスポートしたファイルはインポートできるため、任意のユーザーのアーカイブ済みアイテムを別の **Enterprise Vault** システムに移動することが可能です。

## エクスポートしたファイルのインポート (移行)

エクスポートした PST ファイルをアーカイブに移行する場合は、元のアーカイブとは別のボルトストア上に移行先アーカイブを配置することをお勧めします。これらのアーカイブが同じボルトストア上にある場合は、PST ファイルを移行する前に、元のアーカイブを削除する必要があります。**Vault store database** に重複するエントリで、これを行う際に障害が発生します。

次の手順は、移行先アーカイブが元のアーカイブと同じボルトストア上にある場合に PST ファイルを移行する方法をまとめたものです。

元のアーカイブと同じボルトストアに **PST** ファイルをアーカイブに移行するには

- 1 アーカイブをエクスポートアーカイブウィザードを使用して **PST** ファイルにエクスポートした後、エクスポートが成功したことを確認します。
- 2 アーカイブ先が同じメールボックスと関連付けられる場合は、**Enterprise Vault** 管理コンソールを使用してメールボックスを無効にします。
- 3 **Enterprise Vault Administration Console** で、元のアーカイブを削除します。
- 4 移行先アーカイブを作成するには、関連付けられるメールボックスを有効にします。
- 5 新しいアーカイブに **PST** ファイルをインポートするには、**PST** 移行を使用します。メールボックス内の任意の破損したショートカットを修正するには、以下のように **PST** 移行を構成します。
  - 新しく移行されたアイテムへのショートカットは作成しません。
  - アイテムをルートフォルダにインポートします。
  - フォルダ構造をマージします。

## PST 設定ファイルとエクスポートされたアーカイブ

アーカイブを **PST** ファイルにエクスポートすると、**PST** ファイルごとに 1 つの設定ファイルが自動的に作成されます。この設定ファイルには、次のような情報が含まれており、これらの情報は、**PST** ファイルの内容を **Enterprise Vault** にインポートしようとする場合に必要になります。

- **PST** ファイル内のすべてのアイテムに適用された保持カテゴリ。
- ボルト ID。移動によって破損したショートカットを修正するために必要です。

設定ファイルの下部には、対応する **PST** ファイル内のすべてのアイテムに適用される保持カテゴリの詳細を示した、**[RETENTION\_CATEGORY]** というセクションがあります。**[RETENTION\_CATEGORY]** セクションがあるのは、アーカイブのエクスポートウィザードで **[PST ファイルを保持カテゴリごとに分割]** を選択してエクスポートを行った場合のみです。インポート時に、ウィザードは既存の保持カテゴリを、**PST** 設定ファイル内の保持カテゴリに一致させようとします。このセクションが存在しない場合は、アイテムの元の保持カテゴリを判断する方法がありません。

## エクスポートされたアーカイブが含まれている **PST** 設定ファイルの例

この設定ファイルの例は、**JohnSmith\_Export\_0001.pst** 内のすべてのアイテムがアーカイブされたときに、保持カテゴリとして **Personal** が使われたことを示しています。

```
[PST]
FILENAME = JohnSmith_Export_0001.pst
DESCRIPTION = John Smith
```

```
CREATED = 22Aug2002 10:01 AM
ORIGIN = EXPORT_ARCHIVE
[MAILBOX]
NAME = John Smith
MAILBOXDN = /O=ACME/OU=LEGAL/CN=RECIPIENTS/CN=JOHNS
EXCHANGESERVER = EXCH01
[USER]
FIRSTNAME = John
LASTNAME = Smith
DEPT = Legal
TITLE = Audit Manager
[VAULT]
NAME = John Smith
DESCRIPTION = Created by Enable Mailbox Wizard
VAULTID =
19A33926632EA274B9822FDBCA82CA09B1110000laguna3.win.kvsinc.com
VAULTSTORENAME = CCV4VS
[RETENTION_CATEGORY]
NAME = Personal
DESCRIPTION = Personal items
PERIOD = 60
PERIODUNITS = MONTHS
```

設定ファイルの保持カテゴリが、**Enterprise Vault** サイトのどの保持カテゴリとも一致しない可能性もあります。この場合は、次のように、適切な操作を決定する必要があります。

- 設定ファイル内の保持カテゴリに最大限に一致している既存の保持カテゴリを使えます。
- 設定ファイル内の保持カテゴリに一致するように新しい保持カテゴリを作成できます。ただし、この新しい保持カテゴリはその後、すべてのユーザーが利用可能になるため、その名前が既存のユーザーを混乱させる可能性があります。

## アーカイブのエクスポートウィザードでのエクスポートの開始

アーカイブ済みアイテムを **PST** ファイルまたはメールボックスにエクスポートする準備ができている場合は、次の手順に従ってアーカイブのエクスポートウィザードを起動します。

### エクスポートを開始する方法

- 1 管理コンソールの左ペインで、[アーカイブ] アイコンを右クリックします。
- 2 ショートカットメニューの [エクスポート] をクリックします。
- 3 アーカイブのエクスポートウィザードの手順に従ってエクスポートを完了します。

# Enterprise Vault のメッセージキュー

この章では以下の項目について説明しています。

- [Enterprise Vault メッセージキューへのアクセス](#)
- [MSMQ キューの概要](#)
- [Exchange メールボックスタスクのキュー](#)
- [Exchange ジャーナルタスクのキュー](#)
- [Exchange パブリックフォルダタスクキュー](#)
- [取り込みのキュー](#)
- [ストレージサービスのキュー](#)

## Enterprise Vault メッセージキューへのアクセス

Enterprise Vault では、Microsoft Message Queue (MSMQ) Server を使って、Enterprise Vault コンポーネント間で情報を転送します。

Microsoft Exchange の保守を行う前に、すべての Enterprise Vault キューを消去する必要があります。Exchange メールボックスタスクに未処理の作業が残っている状態で Microsoft Exchange データベースをチェックまたは修復すると、その作業が実行されません。

通常は、Enterprise Vault のタスクとサービスによるメッセージキューの消去を許可してください。あるキューに大量のメッセージが残っている場合は、その原因を調査することが重要です。場合によっては、シマンテック社のサポートがメッセージキューの手動消去をお願いすることがあります。

## メッセージキューにアクセスする方法

- 1 まだメッセージキューをインストールしていない場合は、[コントロールパネル]の[プログラムの追加と削除]アプレットを使ってメッセージキューをインストールする方法について **Windows** のマニュアルを参照してください。
- 2 [コントロールパネル]で、[管理ツール]、[コンピュータの管理]の順にクリックします。
- 3 コンピュータの管理コンソールの左ペインで、[サービスとアプリケーション]、[メッセージキュー][専用キュー]の順に展開します。

## MSMQ キューの概要

表 21-1 に、それぞれの Enterprise Vault キューに入れられるデータについて簡単に説明します。**exchangeserver** は、Exchange メールボックススタックが処理するサーバーの名前です。**number** は、キューを重複なく識別する番号です。

表 21-1 MSMQ キューの概要

| キュー名                                                                                     | 含まれる情報                                                                                                                           |
|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>exchangeserver</b> に対する <b>enterprise vault exchange</b> メールボックススタック <b>number A1</b> | 更新する保留中のアイテム。または失敗した動作。                                                                                                          |
| <b>exchangeserver</b> に対する <b>enterprise vault exchange</b> メールボックススタック <b>number A2</b> | 処理対象の個々のアイテム。手動アーカイブ要求に対して、また、Enterprise Vault Storage Service の Storage Archive キューと直接に通信できない場合に使われます。                          |
| <b>exchangeserver</b> に対する <b>enterprise vault exchange</b> メールボックススタック <b>number A3</b> | 処理対象のメールボックス。管理コンソールの[今すぐ実行]オプションを使ってアーカイブを開始する場合に使われます。                                                                         |
| <b>exchangeserver</b> に対する <b>enterprise vault exchange</b> メールボックススタック <b>number A4</b> | 処理対象の個々のアイテム。Enterprise Vault Storage Service の Storage Archive キューと直接やり取りできない場合の再試行でのみ使います。                                     |
| <b>exchangeserver</b> に対する <b>enterprise vault exchange</b> メールボックススタック <b>number A5</b> | 処理対象のメールボックス。スケジュール設定されたアーカイブの実行中に使われます。<br><br>このキューは、スケジュール設定されたアーカイブ時間以外には処理されません。したがって、[今すぐ実行]を使って、このキューでバックログを消去することはできません。 |

| キュー名                                                                               | 含まれる情報                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
|------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A6   | <p>メールボックスに移動されたアイテムでフォルダを更新する要求。</p> <p>Enterprise Vault では、キュー A6 の要求に入れられる移動済みアイテムやコピー済みアイテムのデータを圧縮します。また、このキューに入れられるメッセージ容量を 100 MB に制限します。1,000 個のアイテムを更新するための圧縮要求によって約 50 KB の領域が占有されます。したがって、約 2,000 の要求をキューに入れることができます。</p> <p>キューがいっぱいになると、それ以降の要求は拒否されます。そのような移動済みアイテムやコピー済みアイテムは、別のショートカット処理が実行されるまで待機する必要があります。</p> |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A7   | 同期要求。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> ジャーナルタスク number J1     | 更新する保留中のアイテム。または失敗した動作。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> ジャーナルタスク number J2     | 処理するアイテム。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> ジャーナルタスク number J3     | ジャーナルメールボックスを調べて新しいメッセージを探すように、Exchange ジャーナルタスクに指示します。最大 500 の新しいメッセージがアーカイブ待ちとしてマーク付けされ、メッセージごとにキュー J2 に入れられます。                                                                                                                                                                                                               |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> ジャーナルタスク number J4     | 同期要求。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> パブリックフォルダタスク number P1 | 更新する保留中のアイテム。または失敗した動作。                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> パブリックフォルダタスク number P3 | 処理対象のフォルダ。管理コンソールの[今すぐ実行]オプションを使ってアーカイブを開始する場合に使われます。                                                                                                                                                                                                                                                                           |

| キュー名                                                                                      | 含まれる情報                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> パブリックフォルダタスク <i>number P5</i> | 処理対象のフォルダ。スケジュール設定されたアーカイブの実行中に使われます。<br><br>このキューは、スケジュール設定されたアーカイブ時間以外には処理されません。したがって、[今すぐ実行]を使って、このキューでバックログを消去することはできません。 |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク <i>number R1</i>   | アイテム取り込み要求の通知。                                                                                                                |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク <i>number R2</i>   | 取り込み要求。                                                                                                                       |
| Enterprise Vault restore spool admin キュー                                                  | ストレージサービスによって取り込まれたアイテム、または Exchange メールボックスタスクによる (取り込みの) 処理を行う準備ができたアイテム。                                                   |
| <i>exchangeserver</i> の Enterprise Vault Storage Archive                                  | ボルトストアに格納されるアイテム。                                                                                                             |
| <i>exchangeserver</i> の Enterprise Vault Storage Restore                                  | ボルトストアから取り込まれるアイテム。                                                                                                           |

## Exchange メールボックスタスクのキュー

表 21-2 に、Exchange メールボックスタスクで使うキューを示します。*exchangeserver* は、Exchange メールボックスタスクが管理するサーバーの名前です。*number* は、キューを重複なく識別する番号です。

表 21-2 Exchange メールボックスタスクのキュー

| キュー名                                                                                    | キューに入れられるメッセージ                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク <i>number A1</i> | Update Shortcut、Operation Failed。                                    |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク <i>number A2</i> | Process Item (明示的アーカイブ)。                                             |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク <i>number A3</i> | Process Mailbox、Process System ([今すぐ実行])、Check System、Check Mailbox。 |



| キュー名                                                                             | キューに入れられるメッセージ                                                |
|----------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A4 | Enterprise Vault が Storage Archive キューと直接通信できない場合の再試行でのみ使います。 |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A5 | Process Mailbox、Process System (スケジュールのみ)。                    |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A6 | Process Moved Items in Folder。                                |
| <i>exchangeserver</i> に対する <i>enterprise vault exchange</i> メールボックスタスク number A7 | 同期要求。                                                         |

表 21-3 に、Exchange メールボックスタスクによって A1 から A7 までのキューに入れられる可能性のあるメッセージの詳細を示します。

表 21-3 Exchange メールボックスタスクキューにあるメッセージ

| メッセージ            | メモ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Operation Failed | エラーが発生したこと、メッセージをアーカイブ待ちからメッセージに戻す必要があることを、Exchange メールボックスタスクに伝えます。このメッセージは、後から再度処理されます。このメッセージは、アーカイブ中と格納中にエラーが発生した場合に送信されます。                                                                                                                                                                                                     |
| Process Item     | <p>Exchange Server からストレージサービスへ特定のメッセージをアーカイブするように、Exchange メールボックスタスクに要求します。ストレージから Update Shortcut メッセージが返されると、Exchange のアイテムはショートカットに変えられます。</p> <p>Process Item メッセージは、ユーザーが (A2 に入れている) アイテムを明示的にアーカイブする場合か、または通常の処理中に失敗したアイテムの再試行要求によって発行されます。[今すぐ実行]からの再試行要求は A2 キューに入れられるのに対して、スケジュール設定されたアーカイブからの再試行要求は A4 キューに入れられます。</p> |

| メッセージ                         | メモ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|-------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Process Mailbox               | メールボックスを調べ、アーカイブ基準に一致するメッセージを探すように、Exchange メールボックスタスクに要求します。アイテムは、ストレージ処理のために Storage Archive キューに置かれます。                                                                                                                                                                                                                                        |
| Process Moved Items in Folder | 特定のフォルダに移動またはコピーされたアイテムを更新するように、Exchange メールボックスタスクに要求します。<br><br>Process Moved Items in Folder メッセージは、キュー A6 にのみ入れられます。                                                                                                                                                                                                                         |
| Process System                | Exchange Server のどのメールボックスをアーカイブの対象とするのかを決定するように、Exchange メールボックスタスクに要求します。Exchange メールボックスタスクは、準備されているすべてのメールボックスの一覧を読み込み、メールボックスごとに Process Mailbox メッセージを (同じキューに) 送信します。<br><br>Process System メッセージは、管理者がタスクプロパティから[今すぐ実行]を選択したときに、ただちにキュー A3 に入れられます。または、スケジュール設定されたアーカイブ期間が始まったときに (実行を待っている他の Process System メッセージがない場合)、キュー A5 に入れられます。 |
| Synchronize System            | Exchange メールボックスタスクの同期要求は A7 キューに入れられます。同期を実行すると、Synchronize System 要求がこのキューに入れられます。これにより、同期が必要なメールボックスごとに Synchronize Mailbox 要求が生成されます。複数の Synchronize Mailbox 要求があれば、複数のスレッドでこれらの要求を処理できることを意味します。<br><br>A7 キューは、いつでも処理されますが、常に、最も優先度の低いタスクになります。したがって、スケジュール設定されたバックグラウンドアーカイブが、常に、同期要求よりも優先されます。                                           |
| Update Shortcut               | アーカイブ待ちアイテムをショートカットに変更できることを、Exchange メールボックスタスクに伝えます。これは、ストレージサービスによってメッセージが格納され、バックアップされた後に行われます。                                                                                                                                                                                                                                              |

## Exchange メールボックスタスクキューについての注意点

- 各キューには、**A** 優先度番号の接尾辞が付けられています。**A1** が最も高い優先度になります。メッセージキューは、**FIFO** (先入れ先出し) で処理され、新しいメッセージは常にキューの最後に追加されます。
- **Exchange** メールボックスタスクは、優先度の順番でキューを処理します。タスクは最も高い優先度から始め、各キューをスキャンしていきます。キューにメッセージが見つかったら、そのメッセージを処理した後、再び最も優先度の高いキューからスキャンを開始します。したがって、キュー **A2** から **A7** は、キュー **A1** が空になるまで処理されません。**A1** が空になると、**A2** にある要求が処理されてから **A3** の要求が処理されます。  
ただし、キュー **A4** とキュー **A5** は、アーカイブのスケジュールでのみ使われる特別なキューです。**Exchange** メールボックスタスクは、スケジュール設定されたアーカイブ期間中のみ、**A5** キューのメッセージを処理します。スケジュール設定された期間以外では、これらのキューのメッセージは次のスケジュール期間まで無視されます。
- パフォーマンスモニターを使うと、キュー内の変更を監視して、タスクの進捗状況を判断できます。  
たとえば、スケジュール期間の開始時に、キュー **A5** のメッセージ数が (**Exchange Server** の有効なメールボックスの数まで) 増加します。これらは、**Process Mailbox** メッセージです。**Exchange** メールボックスタスクは、キュー **A5** から最初のメッセージを取り出し、メールボックス内の対象となるすべてのメッセージを探して、アーカイブ待ちに変更します。続いて、**Process Item** メッセージがストレージサービスの **Storage Archive** キューに入れられ、各メッセージがアーカイブされます。
- ボルトストアがバックアップされた後、**Update Shortcut** メッセージがキュー **A1** に入れます。このキューは最も高い優先度を持つため、メッセージは即座に処理されます。
- キュー **A3** は、キュー **A5** と同じ機能を実行しますが、即座に処理される **Process System** 用です。また、このキューはショートカットを期限切れにしたり削除したりします。**Outlook** クライアント拡張機能からのユーザーの明示的なアーカイブは、キュー **A2** に入れます。
- キュー **A5** は、スケジュール期間中のみ処理されますが、キュー **A1** から **A3**、**A6**、**A7** はいつでも処理されます。**10** 分以上キューが処理されておらず、優先度が上位のキューにメッセージがない場合、タスクに問題が生じている可能性があります。  
**Exchange** メールボックスタスクコンピュータの **Enterprise Vault** イベントログで、追加情報をチェックします。
- キュー **A1** を監視することによって、バックアップが正しくショートカットを更新したことがわかります。ただし、**A1** が通常使用 (バックアップ前) で使われている場合は、タスクに問題が生じている可能性があります。**Enterprise Vault** イベントログで、エラーをチェックします。

## Exchange ジャーナルタスクのキュー

表 21-4 に、Exchange ジャーナルタスクで使うキューを示します。*exchangeserver* は、Exchange ジャーナルタスクが管理するサーバーの名前です。*number* は、キューを重複なく識別する番号です。

表 21-4 Exchange ジャーナルタスクのキュー

| キュー名                                                                    | キューに入れられるメッセージ                               |
|-------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange ジャーナルタスク number J1 | Post Process Archived Item、Operation Failed。 |
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange ジャーナルタスク number J2 | Process Item。                                |
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange ジャーナルタスク number J3 | Process Mailbox。                             |
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange ジャーナルタスク number J4 | Synchronize System。                          |

表 21-5 に、Exchange ジャーナルタスクによって J1 から J4 までのキューに入れられる可能性のあるメッセージの詳細を示します。

表 21-5 Exchange ジャーナルタスクキューにあるメッセージ

| メッセージ                      | メモ                                                                                                                                                                                                                                         |
|----------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Operation Failed           | エラーが発生したこと、また次の操作を行う必要があることを Exchange ジャーナルタスクに伝えます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ メッセージをアーカイブ待ちからメッセージに戻します。このメッセージは、後から再度処理されます。</li><li>■ メッセージを[Failed to store]フォルダに移動します。</li></ul> このメッセージは、アーカイブ中と格納中にエラーが発生した場合に送信されます。 |
| Post Process Archived Item | アーカイブ待ちアイテムをジャーナルメールボックスから削除するように、Exchange ジャーナルタスクに伝えます。これは、ストレージサービスによってメッセージが格納され、バックアップされた後に行われます。                                                                                                                                     |

| メッセージ              | メモ                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Process Mailbox    | <p>ジャーナルメールボックスを調べて、アーカイブされたメッセージを探すように、Exchange ジャーナルタスクに要求します。最大 500 の新しいメッセージがアーカイブ待ちに変えられ、ストレージサービスの <b>Storage Archive</b> キューに入れられて、メッセージごとにアーカイブされます。</p> <p>Process Mailbox メッセージは、1 分ごとにキュー J3 に発行されます。これにより、ジャーナルタスクの実行時にジャーナルメールボックスを継続的にスキャンできます。</p>                                       |
| Synchronize System | <p>Exchange ジャーナルタスクの同期要求は J4 キューに入れます。同期を実行すると、Synchronize System 要求がこのキューに入れます。これにより、同期が必要なメールボックスごとに Synchronize Mailbox 要求が生成されます。複数の Synchronize Mailbox 要求があれば、複数のスレッドでこれらの要求を処理できることを意味します。</p> <p>J4 キューは、いつでも処理されますが、常に、最も優先度の低いタスクになります。したがって、スケジュール設定されたバックグラウンドアーカイブが、常に、同期要求よりも優先されます。</p> |

## Exchange ジャーナルタスクキューについての注意点

- 各キューには、J 優先度番号の接尾辞が付けられています。J1 が最も高い優先度になります。メッセージキューは、FIFO (先入れ先出し) で処理され、新しいメッセージは常にキューの最後に追加されます。
- Exchange ジャーナルタスクは、優先度の順番でキューを処理します。タスクは最も高い優先度から始め、各キューをスキャンしていきます。キューにメッセージが見つかったら、そのメッセージを処理した後、再び最も優先度の高いキューからスキャンを開始します。したがって、キュー J1 にメッセージがある場合、キュー J2 と J3 は、キュー J1 が空になるまで処理されません。
- キュー J1 を監視することによって、ボルトストアのバックアップで正しくメッセージが削除されたことがわかります。ただし、J1 が通常使用 (バックアップ前) で使われている場合は、タスクに問題が生じている可能性があります。Enterprise Vault イベントログで、エラーをチェックします。
- キュー J3 を監視することによって、少なくとも毎分、Process Mailbox メッセージがキューに入っていることがわかります (キューが空の場合、新しいメッセージのみが追加されます)。このキューには、複数のメッセージを入れられません。このメッセージはキューに現れた後、キュー J1 が消去されるとすぐに消失します。ジャーナルメールボックス内の新しいメッセージがすべて処理されます。

- 10 分以上キューが処理されておらず、優先度が上位のキューにメッセージがない場合、タスクに問題が生じている可能性があります。Exchange ジャーナルタスクコンピュータで、Enterprise Vault のイベントログをチェックし、追加情報を探してください。

## Exchange パブリックフォルダタスクキュー

表 21-6 に、各 Exchange パブリックフォルダタスクで使うキューを示します。  
*exchangeserver* は、パブリックフォルダタスクが管理するサーバーの名前です。*number* は、キューを重複なく識別する番号です。

表 21-6 Exchange パブリックフォルダタスクキュー

| キュー名                                                                        | キューに入れられるメッセージ                                                       |
|-----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange パブリックフォルダタスク number P1 | Update Shortcut、Operation Failed。                                    |
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange パブリックフォルダタスク number P3 | Process Folder、Process Folders ([今すぐ実行])、Check Folders、Check Folder。 |
| <i>exchangeserver</i> に対する enterprise vault exchange パブリックフォルダタスク number P5 | Process Folder、Process Folders (スケジュールのみ)。                           |

バージョン 3.6 以降は、Enterprise Vault でキュー P2 と P4 が使われていないことに注意してください。

表 21-7 に、Exchange パブリックフォルダタスクによって P1、P3、P5 のキューに入れられる可能性のあるメッセージの詳細を示します。

表 21-7 Exchange パブリックフォルダタスクキューにあるメッセージ

| メッセージ            | メモ                                                                                                                                  |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Operation Failed | エラーが発生したこと、またメッセージをアーカイブ待ちからメッセージに戻す必要があることを、Exchange パブリックフォルダタスクに伝えます。このメッセージは、後から再度処理されます。このメッセージは、アーカイブ中と格納中にエラーが発生した場合に送信されます。 |
| Process Folder   | 特定のフォルダを調べ、アーカイブ基準に一致するメッセージを探すように、Exchange パブリックフォルダタスクに要求します。この後、これらのメッセージはアーカイブ待ちに変えられ、Process Item キューに入れられて、メッセージごとにアーカイブされます。 |

| メッセージ           | メモ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Process Folders | <p>Exchange Server のどのフォルダをアーカイブの対象とするのかを決定するように、Exchange パブリックフォルダタスクに要求します。Exchange パブリックフォルダタスクは、Exchange Server 上で管理されているすべてのパブリックフォルダの一覧を読み込み、対象の最上位フォルダごとに Process Folder メッセージを (同じキューに) 送信します。</p> <p>Process Folders メッセージは、管理者がタスクプロパティから[今すぐ実行]を選択したときに、すぐにキュー P3 に入れます。または、(すでに実行を待機している他の Process Folders メッセージがないという条件で) スケジュール設定されたアーカイブ期間が始まったときに、キュー P5 に入れます。</p> |
| Update Shortcut | <p>アーカイブ待ちアイテムをショートカットに変えるように、Exchange パブリックフォルダタスクに指示します。これは、ストレージサービスによってメッセージが格納され、バックアップされた後に行われます。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |

## Exchange パブリックフォルダタスクキューについての注意点

- 各キューには、P 優先度番号の接尾辞が付けられています。P1 が最も高い優先度になります。メッセージキューは、FIFO (先入れ先出し) で処理され、新しいメッセージは常にキューの最後に追加されます。
- Exchange パブリックフォルダタスクは、優先度の順番でキューを処理します。タスクは最も高い優先度から始め、各キューをスキャンしていきます。キューにメッセージが見つかると、そのメッセージを処理した後、再び最も優先度の高いキューからスキャンを開始します。したがって、キュー P1 にメッセージがある場合、キュー P1 が空になるまで他のキューは処理されません。  
ただし、キュー P5 は、パブリックフォルダアーカイブのスケジュール中にのみ使われる特別なキューです。Exchange パブリックフォルダタスクは、スケジュール設定されたアーカイブ期間中、キュー P5 のメッセージのみを処理します。スケジュール期間以外では、これらのキューのメッセージは無視されます。
- キュー P3 の機能はキュー P5 と同じですが、管理者が[今すぐ実行]を実行する場合に使います。また、このキューはショートカットを期限切れにしたり削除したりします。
- キュー P5 は、スケジュール期間中にのみ処理されますが、キュー P1 と P3 はいつでも処理されます。10 分以上キューが処理されておらず、優先度が上位のキューにメッセージがない場合、タスクに問題が生じている可能性があります。Exchange パブリックフォルダタスクコンピュータで Enterprise Vault のイベントログをチェックし、追加情報を探してください。

- キュー P1 を監視することによって、バックアップが正しくショートカットを更新したことがわかります。ただし、P1 が通常使用 (バックアップ前) で使われている場合は、タスクに問題が生じている可能性があります。Enterprise Vault イベントログで、エラーをチェックします。

## 取り込みのキュー

表 21-8 に、Exchange メールボックスタスクで取り込みの実行に使うキューを示します。*exchangeserver* は、Exchange メールボックスタスクが処理するサーバーの名前です。*number* は、キューを重複なく識別する番号です。

表 21-8                      取り込みのキュー

| キュー名                                                                    | キューに入れられるメッセージ                                                                                                |
|-------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <i>server queue R1</i> に対する<br>Enterprise Vault Exchange メール<br>ボックスタスク | Item Ready、Operation Failed。                                                                                  |
| <i>server queue R2</i> に対する<br>Enterprise Vault Exchange メール<br>ボックスタスク | Restore Item、Update Basket。                                                                                   |
| Enterprise Vault Storage Spool                                          | メッセージの内容。このキューのメッセージは、ストレージ<br>サービスから復元されるアイテムになります。Exchange<br>メールボックスタスクは、キュー R1 を処理するときに、メッ<br>セージを読み込みます。 |

表 21-9 に、取り込み処理を実行するときに Exchange メールボックスタスクによってキュー R1 と R2 に入れられる可能性のあるメッセージの詳細を示します。

表 21-9                      取り込みのキューにあるメッセージ

| メッセージ            | メモ                                                                                                                                                                                                         |
|------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Item Ready       | このメッセージは、以前に要求されたメッセージが、現在、<br>Storage Spool キューで利用できることを、Exchange メール<br>ボックスタスクに伝えます。Exchange メールボックスタ<br>スクは、Storage Spool キューからメッセージを収集し、<br>メールボックスにそのメッセージを入れます。ストレージサー<br>ビスは必要に応じてこれらのメッセージを生成します。 |
| Operation Failed | このメッセージは、メッセージの復元に問題があったことを、<br>Exchange メールボックスタスクに伝えます。Web アプリ<br>ケーションから取り込みを開始した場合は、Exchange メール<br>ボックスタスクは、アイテムが復元されなかったことを示<br>すようにバスケットを更新します。                                                     |



| メッセージ         | メモ                                                                                                                                                                                          |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Restore Item  | このメッセージは、ストレージサービスのアイテムを <b>Exchange Server</b> へ復元するための要求です。Exchange メールボックスタスクはストレージサービスからメッセージを要求し、そのメッセージをメールボックスに入れます。メッセージは、ユーザー拡張機能と Web ページ復元機能の両方から、このキューに入れます。                    |
| Update Basket | <p>取り込みタスクは、復元の成功時と失敗時にショッピングバスケットを直接更新しようとします。これに失敗すると、取り込みタスクは更新が再試行されるように <b>Update Basket</b> 要求を送信します。</p> <p>このメッセージは、アイテムの復元に成功した場合に Web バスケットを更新するよう、Exchange メールボックスタスクに指示します。</p> |

## 取り込みのキューに関する注意点

- 各キューには、R 優先度番号の接尾辞が付けられています。R1 のほうが高い優先度になります。メッセージキューは、FIFO (先入れ先出し) で処理され、新しいメッセージは常にキューの最後に追加されます。
- Exchange メールボックスタスクは、優先度の順番でキューを処理します。タスクは最も高い優先度から始め、各キューをスキャンしていきます。キューにメッセージが見つかると、そのメッセージを処理した後、再び最も優先度の高いキューからスキャンを開始します。したがって、キュー R1 にメッセージがある場合、キュー R2 は、キュー R1 が空になるまで処理されません。
- 10 分以上キューが処理されておらず、優先度が上位のキューにメッセージがない場合、タスクに問題が生じている可能性があります。Exchange メールボックスタスクコンピュータの Enterprise Vault イベントログで、追加情報をチェックします。

## ストレージサービスのキュー

表 21-10 に、ストレージサービスで使うキューを示します。

表 21-10 ストレージサービスのキュー

| キュー名                             | キューに入れられるメッセージ   |
|----------------------------------|------------------|
| Enterprise Vault Storage Archive | Store Item。      |
| Enterprise Vault Storage Restore | Restore an Item。 |

表 21-11 に、ストレージサービスによってキューに入れられる可能性のあるメッセージの詳細を示します。

表 21-11                      ストレージサービスのキューにあるメッセージ

| メッセージ           | メモ                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|-----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Restore an Item | <b>Exchange</b> メールボックスタスクは、メッセージを <b>Storage Restore</b> キューに入れ、アイテムがアーカイブから復元されるように要求します。ストレージサービスがアイテムを探し出すと、このアイテムを <b>Storage Spool</b> キューに入れ、キュー <b>R1</b> の <b>Exchange</b> メールボックスタスクに伝えます。                                                                                                                                                                                     |
| Store Item      | <b>Exchange</b> メールボックスタスクは、圧縮した電子メールを <b>Storage Archive</b> キューに入れ、アーカイブに保存します。圧縮したメッセージが <b>4 MB</b> を超える場合、 <b>4 MB</b> のチャンクに分割します (それぞれには、要素 <b>1/5</b> のように要素番号が付けられます)。メッセージは、保存前に、ストレージサービスにより再構築されます。<br><br><b>Exchange</b> メールボックスタスクは、保存するすべての電子メールを、適切なストレージサービスアーカイブキューに入れます。複数のストレージサービスを設定できるため、 <b>Exchange</b> メールボックスタスクは、アーカイブが存在するボルトストアの正しいストレージサービスを選択する必要があります。 |

## ストレージサービスのキューに関する注意点

- **Storage Archive** キューを監視すると、ストレージサービスがアイテムを処理していることがわかります。このキューのアイテムの数が、最低 **30 分間** 変化しない場合、問題が生じている可能性があります。エラーがないかどうか、このストレージコンピュータの **Enterprise Vault** イベントログをチェックして、必要に応じてストレージサービスを再起動します。
- **Enterprise Vault** サーバー上のすべてのボルトストアがバックアップモードに設定されているときは、**Storage Archive** キューは処理されません。
- **Restore** キューを監視することにより、ユーザーが要求する復元の数がわかります。このキューのアイテムの数が変化しない場合は、問題が生じている可能性があります。

# カスタマイズとベストプラクティス

この章では以下の項目について説明しています。

- [メールボックスのアーカイブ戦略](#)
- [パブリックフォルダをアーカイブする場合のベストプラクティス](#)
- [パフォーマンスの調整について](#)

## メールボックスのアーカイブ戦略

このセクションには、次のトピックが含まれます。

- [「メールボックスのアーカイブ戦略について」](#)
- [「経過日数ベースのアーカイブの注意点」](#)
- [「クォータベースのアーカイブ、または経過日数とクォータベースのアーカイブに関する注意点」](#)
- [「Exchange Server 2010 管理フォルダのアイテムのアーカイブに関する注意点」](#)
- [「添付ファイルがあるアイテムのみのアーカイブ」](#)
- [「ジャーナルメールボックスの Enterprise Vault の設定をカスタマイズする方法」](#)
- [「メールボックスのアーカイブの無効化」](#)

## メールボックスのアーカイブ戦略について

[アーカイブルール] タブで、メールボックスポリシーのアーカイブ戦略を定義します。次のいずれかに基づいて、Exchange メールボックスポリシーのアーカイブ戦略を決めることができます。

- 経過日数: 指定した期間修正されていないアイテムをアーカイブします。  
メールメッセージの経過日数は、受信または送信された日付から取得されます。文書の経過日数は、最後に変更された日付からカウントされます。
- クォータ: アーカイブで、各ユーザーの **Exchange** メールボックスの空き容量を一定の割合確保します。
- 経過日数とクォータ: **Enterprise Vault** で、最初に経過日数ベースのアーカイブを行います。経過日数ベースのアーカイブで、メールボックスの空き容量のうち要求された割合が確保されていない場合、要求された割合に達するまでクォータベースのアーカイブが続けられます。

経過日数ベースのアーカイブとクォータベースのアーカイブ、または経過日数とクォータベースのアーカイブは、アーカイブするアイテムの選択に対する主な戦略です。**Enterprise Vault** が大きいアイテムを最初にアーカイブするように、ポリシーを設定することもできます。大きいアイテムを最初にアーカイブすることは、主要なアーカイブ戦略に追加する形で機能します。大きいアイテムを最初にアーカイブすると、次のようなメリットがあります。

- 最初のアーカイブのパフォーマンスが向上します。
- 比較的少ない数のアイテムをアーカイブすることにより、メールボックス領域が回復します。

次のオプションも選択できます。

- 指定した経過日数が経過していないアイテムは一切アーカイブしません。
- 添付ファイル付きのメッセージのみをアーカイブします。

## 経過日数ベースのアーカイブの注意点

経過日数ベースのアーカイブは、デフォルトのアーカイブ戦略です。

経過日数ベースのアーカイブを設定するときは、次の推奨事項を適用します。

- 早い段階でアーカイブを実行した方が有益な場合は、ポリシーで[次より大きいアイテムから開始]を設定することを検討します。
- 処理量が多く回数が少ないほど、バックアップが容易になります。たとえば、毎日アーカイブしてバックアップするよりも、金曜日に 1 回で大量のアーカイブ処理を実行してから **Enterprise Vault** システムの完全バックアップを行う方が容易です。

## クォータベースのアーカイブ、または経過日数とクォータベースのアーカイブに関する注意点

クォータベースのアーカイブは、クォータベースのアーカイブ自体として、または経過日数とクォータオプションによるアーカイブの一部として選択できます。いずれの場合にも、同様の設定とベストプラクティスの考慮事項が適用されます。

最初に、クォータベースでアーカイブを行う必要があるかどうかを決める必要があります。デフォルトの戦略である経過日数ベースのアーカイブの方がより効率的で、多すぎるアイテムをアーカイブする可能性が回避されます。

経過日数のみまたはクォータのみでアーカイブしても期待する結果が得られないときは、経過日数とクォータベースのアーカイブを検討します。経過日数だけに基づいてアーカイブを行うと、アイテムが十分にアーカイブされず、一部のメールボックスをクォータ内に維持できない場合があります。アーカイブがクォータのみを基準としている場合、一部の **Exchange** メールボックスの空き容量が限度に達していないことがあります。この場合、**Enterprise Vault** ではあまり古くないアイテムもアーカイブされます。

**Enterprise Vault** はアーカイブに必要なデータ量を計算して、目標のクォータの割合を達成します。この計算は、ショートカットのサイズの推定に基づいています。この推定では、すでにアーカイブ保留中の状態になっているアイテムが考慮されます。推定の計算方法について詳しくは、**Veritas サポート Web サイト**の次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100019414>

次のレジストリ値を使うと、**Enterprise Vault** がショートカットサイズの推定に使う値を上書きできます。

- `ShortcutCalcAverageBodySize`
- `ShortcutCalcBannerSize`
- `ShortcutCalcBaseltemSize`
- `ShortcutCalcBodySizeMultiplier`
- `ShortcutCalcOverride`
- `ShortcutCalcRecipientSize`

『**Enterprise Vault** レジストリ値』を参照してください。

p.341 の「[クォータベースのアーカイブの推奨事項](#)」を参照してください。

## クォータベースのアーカイブの推奨事項

クォータベースのアーカイブ、または経過日数とクォータベースのアーカイブを設定する場合は、ここに記載された推奨事項を考慮してください。これらの推奨事項に従うと、**Enterprise Vault** 設定のクォータの割合が極端に大きな値に設定されることがなくなります。クォータの割合が大きすぎる場合、**Enterprise Vault** はクォータターゲットを実現しようとするため、アーカイブされるアイテム数が極端に多くなることがあります。

推奨事項は次のとおりです。

- ショートカットの設定を確認して、小さなショートカットを使うことを検討します。小さいショートカットを使うと、**Enterprise Vault** でアーカイブされるアイテムごとに節約されるメールボックス内の容量が増えます。その結果、**Enterprise Vault** はユーザーが要

求める空き容量の割合を達成するためにアーカイブしなければならないアイテム数が少なくてすみます。

平均的なアイテムが小さい場合に、大きなショートカットを使うと、Enterprise Vault でアーカイブされるアイテムごとに節約される容量が小さくなります。

平均的なショートカットサイズを判別するには、レポート実行モードで Exchange メールボックスタスクを実行します。

メールボックスポリシーの[ショートカットの内容]タブで、ショートカット内に残す情報を決定する設定を指定します。

- ショートカットの有効期限を早めることを検討してください。ショートカットの有効期限が早い場合は、メールボックスの容量が節約され、アーカイブするアイテム数が極端に多くなることを回避できます。メールボックスポリシーの[ショートカットの内容]タブで、Enterprise Vault がショートカットを削除する期限を設定します。
- Enterprise Vault が大きいアイテムをまずアーカイブするように指定します。Enterprise Vault はその次に、メールボックスの使用容量が最も大きいアイテムをアーカイブします。
- 低いクォータ割合から開始して、徐々に割合を大きくしていき、必要な結果を取得します。
- ユーザーが翌日に十分な容量を使えるように、毎晩十分なアーカイブがあることを確認してください。
- メールボックスポリシーの[詳細]設定で[削除済みアイテムをアーカイブ]と[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ]を選択します。  
[削除済みアイテム]フォルダ内のアイテムは、Exchange Server のメールボックスストレージの制限の計算に含まれます。デフォルトでは、Enterprise Vault は[削除済みアイテム]フォルダ内のアイテムをアーカイブしません。したがって、[削除済みアイテム]フォルダ内にアイテムがあると、Enterprise Vault が目標のクォータ割合に到達できないことがあります。  
管理するフォルダも、Exchange Server のメールボックスストレージの制限の計算に含まれます。デフォルトでは、Enterprise Vault は管理するフォルダからアーカイブしますが、管理するフォルダからアーカイブしないように設定することができます。このように設定した場合、Enterprise Vault は目標のクォータ割合を達成できなくなることがあります。
- メールボックスポリシーの[詳細]設定の[ショートカット以外のアイテムの添付ファイルを削除]を選択します。デフォルトでは、Enterprise Vault はカレンダー、ミーティング、タスク、連絡先のアイテムをアーカイブした後に、これらから添付ファイルを削除します。これらのアイテムから添付ファイルが削除されていない場合は、これらをアーカイブしても、メールボックス内の容量は節約されません。

その他の注意事項は次のとおりです。

- メールボックスに **Microsoft Exchange** のストレージ制限が適用されていない場合、**Enterprise Vault** はクォータベースのアーカイブを使ってメールボックスを処理することはできません。
- **Exchange** では、ユーザーがメッセージを送受信できなくなるまでにメールボックスが占有できる最大容量を指定できます。クォータによるアーカイブを行っているときに、このストレージを超えた場合、**Enterprise Vault** はクォータベースのアーカイブを使ってメールボックスを処理できません。  
この問題を解決するには、制限を解除するか、制限引き上げて適切なストレージレベルに達するまでアーカイブしてから、必要に応じて制限を適用し直します。**Enterprise Vault** では通常、ユーザーがクォータ内に維持されるため、制限を解除することができます。

## スクリプトを使った経過日数とクォータベースのアーカイブの設定の注意点

**Enterprise Vault Policy Manager** スクリプトを使って、メールボックスのアーカイブ戦略を設定できます。

**Policy Manager** について詳しくは『ユーティリティ』を参照してください。

ここでは、スクリプトの例を示します。このスクリプトは、経過日数とクォータベースのアーカイブの設定をメールボックスに適用します。また、メールボックスレベルの設定を上書きする特別なフォルダも設定します。

スクリプトの最初の部分では、次のようにメールボックスを設定します。

- 3 カ月以上経過しているアイテムをアーカイブします。
- 4 MB より大きいアイテムをすぐにアーカイブします。
- 必要に応じて、メールボックスの空き容量の限度の **30%** が解放されるまでクォータベースのアーカイブを続けます。クォータベースのアーカイブでは、**1 MB** より大きく、**1 日** 以上経過しているアイテムを最初にアーカイブします。
- ショートカットを作成して、元のアイテムを削除します。

スクリプトの 2 番目の部分では、¥Inbox¥Special Project という名前のメールボックスフォルダを次のように設定します。

- 0 日以上経過しているアイテムをアーカイブします。
- ショートカットは作成せず、元のアイテムを削除します。

手動アーカイブの代わりとして、ここに示すような特別なフォルダを設定する必要があることがあります。アイテムをフォルダに移動すると、その後すぐに **Enterprise Vault** によってアイテムが自動的にアーカイブされます。

スクリプトの例を次に示します。

```
[directory]
directorycomputername=evserver
sitename=evsite

[mailbox]
distinguishedname=/o=First Organization/ou=First Administrative Group/
cn=Recipients/cn=recipient_1

; Using Age & Quota based archiving
;
[filter]
name=AGEANDQUOTA

; Quota settings
; Archive to 30% of quota is available
; Start with large items >1MB that are more than 1 day old
UsePercentageQuota=true
PercentageQuota=30
UseInactivityPeriod=true
QMinimumAgeThresholdPeriod=1
QMinimumAgeThresholdUnits=Days
QPrioritizeItemsOver=1024
QPrioritizeLargeItems=true

; Age settings
; Archive all items older than 3 months
; Archive all items >4MB immediately.
UseInactivityPeriod=true
InactivityPeriod=3
InactivityUnits=Months
ALargeItemThresholdPeriod=0
ALargeItemThresholdUnits=Days
APrioritizeItemsOver=4096
APrioritizeLargeItems=true

; Create shortcuts and delete the original item
;
CreateShortcut=true
DeleteOriginal=true

; Do not archive unread items
Unreadmail=false
```



```
; Special case zero day folder to override Age & Quota settings
;
[filter]
name=ZeroDaysNoShortcut

; Archive Items after 0 days, delete the original and
; do not leave a shortcut
;
UseInactivityPeriod=true
UsePercentageQuota=false
InactivityPeriod=0
InactivityUnits=Days
CreateShortcut=false
DeleteOriginal=true
Unreadmail=true

; Set the mailbox to use Age & Quota based archiving as
; defined in the policy above
;
[folder]
name=MailboxRoot
filtername=AGEANDQUOTA
Overridearchivelocks=true

; Apply the ZeroDaysNoShortcut policy to a special project folder
;
[folder]
name=¥Inbox¥Special Project
filtername=ZeroDaysNoShortcut
Overridearchivelocks=true
```

## Exchange Server 2010 管理フォルダのアイテムのアーカイブに関する 注意点

---

**注意:** 以下の情報は Exchange Server 2010 管理フォルダにのみ適用されます。最新バージョンの Exchange Server の管理対象フォルダを置き換えるメッセージングレコード管理 (MRM) 機能には適用されません。Exchange Server 2010 は、新しい MRM 機能と管理フォルダの両方をサポートしますが、以下の情報は管理フォルダのみに該当します。管理フォルダをサポートしない Exchange Server 2013 からアーカイブする場合は、以下の情報は適用されません。

---

Exchange Server 2010 では、Exchange 管理フォルダを設定して、管理内容の設定をこのフォルダに適用できます。管理内容の設定では、指定したメッセージクラスのアイテムの保持を制御できます。

Enterprise Vault は、管理フォルダからアーカイブするアイテムに特別な保持カテゴリを適用できます。これらの管理フォルダの保持カテゴリは、Exchange 管理内容の設定から同期される設定に基づいています。管理フォルダの保持カテゴリは、自動的に作成されて更新されます。保持カテゴリのアイコンとプロパティは、通常の保持カテゴリのアイコンとプロパティとは異なります。管理フォルダの保持カテゴリの名前と説明は変更できますが、その保持期間は変更できません。Exchange 管理内容の設定との同期によって、Enterprise Vault の管理フォルダの保持カテゴリ設定と、管理内容の設定との競合が防止されます。

たとえば、管理内容の設定では、管理フォルダのアイテムを 180 日後に削除するように指定することができます。管理内容の設定との同期がアクティブの場合、Enterprise Vault は管理フォルダの保持カテゴリを自動的に作成します。Enterprise Vault では、管理フォルダの保持カテゴリの名前は、管理内容の設定の名前と同じになります。Enterprise Vault は、Exchange での期限が切れる予定と同時にアーカイブ済みアイテムの期限が切れるように保持期間を設定します。

Enterprise Vault Exchange メールボックスポリシーの詳細設定[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ]では、Enterprise Vault が管理フォルダからアイテムをアーカイブするかどうかを制御します。

[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ]で指定できる値は、次のとおりです。

|      |                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 無効   | Enterprise Vault は管理フォルダからアイテムのアーカイブを行いません。ユーザーは、管理フォルダから手動でアイテムをアーカイブすることはできません。                                                                                                                                                                                           |
| 標準   | <p>Enterprise Vault は、管理フォルダを他のフォルダと同様に処理します。</p> <p>値[標準]を使用すると、仮想ボルトに含まれる管理フォルダの内容を変更できます。ただし、仮想ボルトのポリシー設定で、この操作が許可されている場合に限りです。たとえば、以下のようにアイテムを移動できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>■ メールボックスから仮想ボルトの管理フォルダへ</li><li>■ 仮想ボルトの管理フォルダから別の仮想ボルトフォルダへ</li></ul> |
| 管理対象 | デフォルト値。Enterprise Vault は、管理フォルダからアイテムをアーカイブし、Exchange から同期されている管理フォルダの保持カテゴリ設定を使用します。                                                                                                                                                                                      |

Enterprise Vault Exchange プロビジョニングタスクは、Exchange 管理内容の設定との同期を実行します。Exchange 2010 または 2013 サーバーがドメインにある場合、同期は自動的に行われます。したがって、[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ]を

[管理対象]に設定していない場合でも、Exchange プロビジョニングタスクは、同期を実行し、管理フォルダの保持カテゴリを作成します。

同期が失敗すると、プロビジョニングタスク全体が失敗します。同期を防止するには、Enterprise Vault サーバーのインストール先フォルダに設定ファイルを配置します。

p.349 の「Exchange 管理フォルダとの同期の防止」を参照してください。

管理フォルダのアーカイブがアクティブの場合は、Enterprise Vault Outlook アドインの完全モードでは次のようになります。

- 管理フォルダからアイテムを手動でアーカイブするとき、保持カテゴリもアーカイブも指定できません。
- フォルダプロパティの[Enterprise Vault]タブに、[変更]オプションが表示されません。
- Enterprise Vault は常にショートカットを作成し、元のアイテムを削除します。

Enterprise Vault 監査は、Exchange 管理内容の設定の作成、修正、削除の詳細を記録します。

## Exchange 管理フォルダからの同期アーカイブの要件

Exchange 管理フォルダからアイテムをアーカイブし、管理内容の設定と管理フォルダの保持カテゴリを同期するには、次のすべての条件に該当している必要があります。

- Enterprise Vault Exchange メールボックスポリシーで、詳細設定[Exchange が管理するフォルダのアーカイブ]が[管理対象]に設定されている必要があります。
- アイテムのメッセージクラスが、管理フォルダに対して定義されている 1 セットの管理内容の設定の[メッセージの種類]設定に一致している必要があります。(Exchange では、単一の管理フォルダに対して複数セットの管理内容の設定を定義できます。管理内容の設定の各セットでは、さまざまなメッセージの種類を指定することができます。)
- 管理内容の設定では、保持期間の終了時に実行する処理として[削除して回復を許可する]または[削除して回復を許可する]を定義する必要があります。
- 管理フォルダに適用される Enterprise Vault フィルタは、システムのデフォルトにする必要があります。

p.348 の「Exchange 管理フォルダへのシステムのデフォルトフィルタの設定」を参照してください。

- ボルトサービスアカウントに、Exchange 表示専用の管理者役割が割り当てられている必要があります。この役割の割り当て方法について詳しくは、『インストール/設定』ガイドを参照してください。

## Exchange 管理フォルダへのシステムのデフォルトフィルタの設定

管理内容の設定を同期させる 1 つの要件として、管理フォルダに適用される Enterprise Vault フィルタを[システムのデフォルトを使用]に設定する必要があります。管理フォルダ上のフィルタを[カスタム設定を使用]に設定すると、Enterprise Vault は、管理内容の設定を適用しません。

管理フォルダ上のカスタム設定は、継承したり、Enterprise Vault Policy Manager で設定できます。

必要に応じて、PowerShell cmdlet の Remove-EVExchangeFolderPolicy を使って、管理フォルダから既存のすべてのカスタム設定を削除できます。その後、Policy Manager を使って、システムのデフォルトフィルタを使うように管理フォルダを設定できます。

Policy Manager について詳しくは、『ユーティリティ』を参照してください。

### 管理フォルダから Policy Manager ポリシーを削除する方法

1 Enterprise Vault 管理シェルを起動します。

2 [Enterprise Vault Management Shell]ウィンドウで、Remove-EVExchangeFolderPolicy の詳細なヘルプを表示する場合は、次のコマンドを入力します。

```
Get-Help Remove-EVExchangeFolderPolicy -detailed
```

3 Remove-EVExchangeFolderPolicy コマンドを必要なパラメータを指定して入力します。

次に例を示します。

- メールボックスの管理フォルダから Enterprise Vault フィルタ設定を削除するには、次のコマンドを入力します。

```
Remove-EVExchangeFolderPolicy -PrimarySMTPAddress  
user_name@domain -ManagedFolders  
user_name@domain は、メールボックスの名前です。
```

- 次のスクリプトを実行して、指定した Exchange 2013 サーバーまたは Exchange 2010 サーバーにあるすべてのメールボックス内の管理対象フォルダからすべての Enterprise Vault のフィルタ設定を削除することができます。

[Enterprise Vault Management Shell]ウィンドウでスクリプトを実行します。

```
$Session = New-PSSession -ConfigurationName Microsoft.Exchange  
  
-ConnectionUri http://Exchange_server/PowerShell/  
-Authentication Kerberos -Credential Exchange_administrator  
  
Import-PSSession $Session -CommandName Get-Mailbox
```

```
$UserList = Get-Mailbox |  
where-object{$_ .ServerName -like "Exchange_server"}  
foreach($Entry in $UserList)  
{  
$Address = $Entry.PrimarySMTPAddress;  
Remove-EVExchangeFolderPolicy -PrimarySMTPAddress $Address}
```

*Exchange\_server* は Exchange Server の名前、*Exchange\_administrator* は Exchange 管理者アカウントの名前です。

### システムのデフォルトフィルタを使うように管理フォルダを設定する方法

- 1 次の[Folder]セクションを含む Policy Manager 初期設定ファイルを作成します。

```
[Folder]  
NAME=%Managed Folders%managed_folder  
filtername = systemdefault  
overridearchivelocks=true
```

*managed\_folder* は、システムのデフォルトのフィルタを使う管理フォルダの名前です。

- 2 初期設定ファイルを使って Policy Manager を実行します。

## Exchange 管理フォルダとの同期の防止

Enterprise Vault Exchange プロビジョニングタスクで、管理フォルダとの同期を実行します。このタスクでは、ドメインの Exchange 2010 と 2013 サーバーを確認します。また、このタスクでは、新しい管理フォルダや、既存の管理フォルダの新しいまたは変更後の管理内容の設定の確認も行われます。

Enterprise Vault サーバーのインストール先フォルダにある設定ファイルを使用すると、Exchange プロビジョニングタスクが管理フォルダと同期しないようにできます。

このセクションで説明する設定ファイルでは、管理フォルダとその管理内容の設定との同期の防止のみが設定されます。Enterprise Vault は、管理フォルダの保持カテゴリの新規作成も、既存の管理フォルダの保持カテゴリの更新も行いません。必要条件に該当する場合、管理フォルダからのアーカイブは続行されます。

次の状況では、同期を防止したり、一時的に停止できます。

- Exchange サーバーで権限が正しく設定されていないために同期に問題がある場合。
- 管理内容の設定と管理フォルダの保持カテゴリとの同期を Enterprise Vault で行う必要がない場合。

### 管理フォルダとの同期を防止する方法

- 1 Enterprise Vault のインストール先フォルダで、  
EvExchangePolicySyncTask.exe.config ファイルのバックアップコピーをとりま  
す。通常、インストール先フォルダは C:\Program Files (x86)\Enterprise  
Vault です。
- 2 テキストエディタでファイルを開きます。
- 3 ファイルの<configuration> セクションに次の行を追加します。  

```
<appSettings>  
    <add key="SkipManagedFolderSynch" value="true" />  
</appSettings>
```
- 4 ファイルを保存して閉じます。
- 5 変更は、次回 Exchange プロビジョニングタスクが実行されたときに有効になります。

## 添付ファイルがあるアイテムのみのアーカイブ

Enterprise Vault は、他のアーカイブ基準がすべて満たされた場合、メールボックスやパブリックフォルダのアイテムに添付ファイルがあるときに限り、それらのアイテムをアーカイブするように設定できます。これは、添付ファイルのみをアーカイブすることと同じではありません。

添付ファイルがあるアイテムのみをアーカイブすることのメリットは次のとおりです。

- アーカイブされるアイテムの数が格段に減少することによるパフォーマンスの大幅な向上。
- アーカイブするアイテムの数が少ないことによる一般的な発生する問題の減少。たとえば、アーカイブ済みアイテムをユーザーが開く数が少なくなれば、アイテムをアーカイブする際の問題の数が少なくなります。
- 通常、「カバーノートテキストを残す」オプションを使うことは、添付ファイルがないメッセージのために Exchange ストアが増加することを意味します。ただし、このオプションを設定し、添付ファイルがある場合のみアイテムをアーカイブするように Enterprise Vault を設定した場合、Enterprise Vault では添付ファイルがあるアイテムについてのみ、カバーノートテキストが残されます。これは、ディスクの空き領域について常に意味があります。

添付ファイルがあるアイテムのみをアーカイブすることの欠点は次のとおりです。

- 法律上の理由でアーカイブを行っている場合は、何がアーカイブされるか特定できないため、この方法を使えません。
- ユーザーは、古いアイテムがどこにあるか、わからなくなります。メールボックス内または Enterprise Vault 内を検索する必要があります。

- このようなポリシーは、ユーザーにとって、経過日数ベースの単純なポリシーよりも理解しにくい傾向にあります。

---

**メモ:** 添付ファイルがあるアイテムのみをアーカイブする場合は、ときどきそのオプションを無効にして、経過日数ベースのポリシー (たとえば 2 年くらい) を使ってアーカイブ処理を実施することを検討してください。これによって、本当に古いアイテムがすべて、添付ファイルがない場合でも最終的にはアーカイブされることが保証されます。こうすることで、**Exchange** データベースの領域が解放されます。この処理は、たとえば、毎月 1 回実行されるようにスケジュールした簡単な **SQL** スクリプトを使って実現できます。

---

### 添付ファイルのあるアイテムのみのアーカイブを有効にする方法

- 1 管理コンソールを起動します。
- 2 左ペインで、ボルトサイトを展開します。
- 3 [ポリシー]、[Exchange] の順に展開します。
- 4 [メールボックス] コンテナをクリックします。
- 5 右ペインで、修正する **Exchange** メールボックスポリシーをダブルクリックします。
- 6 [アーカイブルール] タブをクリックします。
- 7 [添付ファイル付きのメッセージのみをアーカイブ] を選択します。
- 8 [OK] をクリックします。

## ジャーナルメールボックスの Enterprise Vault の設定をカスタマイズする方法

ジャーナルメールボックスをカスタマイズして、アイテムを別のアーカイブや別の保持カテゴリでアーカイブできます。

デフォルトでは、**Enterprise Vault** は、ジャーナルメールボックスからアーカイブするすべてのアイテムに同じアーカイブと保持カテゴリを使います。このデフォルト設定を使わない場合は、ジャーナルメールボックスをカスタマイズし、別の保持カテゴリを使ってアイテムを別のアーカイブに送信できます。

フォルダの **Enterprise Vault** プロパティを変更すると、親フォルダの設定を上書きできます。デフォルトでは、フォルダに他のフォルダが含まれる場合、他のフォルダは親フォルダのプロパティを継承します。ただし、個々のフォルダの設定を変更することができます。

デフォルトでは、ジャーナルメールボックス内のすべてのフォルダに、**Enterprise Vault** プロパティの[親フォルダの設定を使用]オプションが選択されています。これは、すべてのフォルダが、ジャーナルメールボックスの設定、ジャーナルメールボックスに設定されている保持カテゴリ、アーカイブを継承することを意味します。**Enterprise Vault** は、特定のフォルダの値を変更するまで、すべてのアイテムを同じ保持カテゴリでアーカイブし、同じアーカイブに格納します。

設定を修正するには、Microsoft Outlook を使用して以下を実行します。

- ジャーナルメールボックス内の適切なフォルダにメールをリダイレクトするルールを定義します。Exchange ジャーナルタスクは、それらのフォルダからアイテムをアーカイブします。
- ジャーナルメールボックスのメールボックスとフォルダのプロパティを設定します。

以下の設定で、ジャーナルメールボックスを有効にします。

- ボルト: ジャーナルメールボックスターゲットのプロパティ
- 保持カテゴリ: ジャーナルメールボックスのターゲットのプロパティ

以下のテーブルに、Exchange ジャーナルタスクの動作を修正するために変更できる Enterprise Vault の設定と Exchange ジャーナルタスクが無視する Enterprise Vault の設定を示します。

表 22-1 ジャーナルメールボックスの設定

設定	コメント
ボルト	デフォルトから変更可能
保持カテゴリ	デフォルトから変更可能
このフォルダのアーカイブを禁止	無視
アーカイブするアイテムの経過日数	無視 (常に 0 日)

表 22-2 ジャーナルメールボックスフォルダの設定

設定	コメント
ボルト	親フォルダを上書き
保持カテゴリ	親フォルダを上書き
その他のすべての設定	無視 (メールボックスの設定を使用)

表 22-3 ジャーナルメールボックスのメッセージの設定

設定	コメント
このアイテムのアーカイブを禁止	無視
保持カテゴリ	無視 (フォルダの設定を使用)



## メールボックスのアーカイブの無効化

メールボックスのアーカイブを無効にする必要がある場合があります。メールボックスのアーカイブを無効にしても、後でいつでも有効にできます。

### 1 つ以上のメールボックスのアーカイブを無効にする方法

- 1 管理コンソールの左ペインの [Enterprise Vault サーバー] を展開します。
- 2 Exchange メールボックスタスクを実行するコンピュータの名前を展開します。
- 3 [タスク] をクリックします。
- 4 右ペインで、メールボックスアーカイブタスクをクリックします。
- 5 [ツール] メニューで、[メールボックスの無効化] をクリックします。
- 6 メールボックスの無効化ウィザードが起動したら、画面の指示に従って、無効にするメールボックスを選択します。

## パブリックフォルダをアーカイブする場合のベストプラクティス

パブリックフォルダのアーカイブを設定するときには、以下のことを考慮してください。

- パブリックフォルダのルートパスを指定すると、デフォルトでは、そのパスの下にあるすべてのフォルダがアーカイブされます。
- 1 つの設定をパブリックフォルダツリーの特定の部分全体に適用する場合は、Enterprise Vault Policy Manager を使います。
- Exchange パブリックフォルダタスクの設定は、その Exchange パブリックフォルダタスクが存在するサイトから取得され、ルートパスの下にあるすべてのフォルダに適用されます。  
Outlook を使ってアーカイブポリシーを変更した場合、変更内容はそのフォルダにのみ適用されます。これは、フォルダがルートパスであっても同様です。  
たとえば、あるサイトの下にある 3 つのルートパスをアーカイブして、それらのパスの 1 つについてポリシーを変更したい場合がありますとします。Outlook で Enterprise Vault フォルダのプロパティを使えます。ただし、新しいアーカイブポリシーが適用されるのはそのフォルダのみで、サブフォルダには適用されません。フォルダポリシーの継承を有効にする場合は、Policy Manager を使ってポリシーを設定する必要があります。Policy Manager では、すべてのサブフォルダに対して新しいポリシーが設定されます。
- すべての新しいパブリックフォルダは、そのフォルダの設定を変更するまで、サイトの設定を使ってアーカイブされます。新しいフォルダは親から設定を継承しません。

たとえば、パブリックフォルダツリーの特定の部分を[アーカイブしない]に設定した場合、そこに作成した新しいフォルダはすべて、設定が変更されるまでアーカイブされます。フォルダの移動についても同じ規則が当てはまります。

この動作を修正するには、**Policy Manager** を毎日実行し、正しいフォルダポリシーが適用されるようにします。

- **Policy Manager** を使ってフォルダとサブフォルダに設定を適用する場合、指定したフォルダの下にあるすべてのフォルダにそれらの設定が適用されます。そのため、たとえば下位レベルに異なるポリシーを持つフォルダがある場合、**Policy Manager** を実行し、下位レベルのフォルダに正しいポリシーを再適用する必要があります。複雑なフォルダ階層の場合、フォルダごとに **Policy Manager** のエントリを用意できます。間違いがないようにするには、非常に古いアイテム (たとえば 10 年経過したアイテム) のみをアーカイブするポリシー設定を準備します。このようにすることで、**Policy Manager** のポリシーがまだ適用されていない新しいフォルダのアーカイブを無効にします。
- 「デフォルト」のアクセス権限はボルトストアに適用されません。このため、「デフォルト」のアクセス権限を使ってパブリックフォルダ内のショートカットにアクセスするユーザーはすべて、アーカイブ済みアイテムにアクセスできません。
- レプリケーションの複雑さが軽減され、消費する帯域幅が減少するため、**Enterprise Vault** アーカイブをパブリックフォルダのホームサーバーにすることを推奨します。ただし、これは、追加の **Enterprise Vault** サーバーが必要であることを意味する場合もあります。
- パブリックフォルダのレプリケーションが存在する場合、ユーザーがショートカットを開くと、オンライン表示はアイテムが置かれている **Enterprise Vault** サーバーに移動します。
- アイテムを表示するには、ユーザーのメールボックスが **Enterprise Vault** アーカイブに対して有効である必要があります。パブリックフォルダ内のこれらのアーカイブ済みアイテムを表示する際に、ユーザーがどこにいる可能性があるかを考慮してください。それらのユーザーが **Enterprise Vault** を利用する予定か、ユーザーのメールボックスが有効にされる予定かが問題になります。

## パフォーマンスの調整について

**Enterprise Vault** のパフォーマンスの状態を知ることで、コンポーネントを追加または移動したり、既存のコンポーネントを修正したりして、構成の変更が必要かどうかを判断できます。

階層型ストレージ管理 (HSM) ソフトウェアが利用可能な場合は、次の情報を取得することで、**Enterprise Vault** のパフォーマンスを向上させることができます。

- 新しくアーカイブされたアイテムがバックアップされるまで待機する時間。この時間が長すぎると、アーカイブエージェントとストレージサービスに大量の未完了のアーカイブ要求が存在することになります。
- 新しくアーカイブされたアイテムがオフラインストレージに移動されるまで待機する時間。この時間が短すぎると、アイテムがすぐにオフラインに移動され、オフラインストレージからより多くの呼び戻しが生成される可能性があります。
- アーカイブ済みアイテムがオンラインストレージから復元される回数。大量のアイテムが何度も復元される場合、それらのアイテムが頻繁にアーカイブされる可能性があります。同じアイテムが **Microsoft Exchange Server** ストアと **Enterprise Vault** 間で絶え間なく転送される場合、**Enterprise Vault** オンラインストアのサイズに対して、**Microsoft Exchange Server** メッセージストアのサイズを増やす必要がある可能性があります。
- アーカイブ済みアイテムがオフラインストレージから呼び戻しされる回数。大量のアイテムが何回も呼び戻しされる場合、オンラインストレージ領域が小さすぎる可能性があります。
- オフラインストレージからアイテムの呼び戻しにかかる時間。この時間は **HSM** によって異なるが、この時間を使って **Enterprise Vault** ユーザーは呼び戻し時間を予想できます。

## Windows 一時フォルダの移動

**Enterprise Vault** サービスは一時ファイルを **Windows** 一時フォルダに書き込みます。一時フォルダがシステムディスク上にある場合、これによって次の問題が発生する可能性があります。

- システムディスクは領域が少ない場合があります。これは、一時ストレージ領域が不足して **Enterprise Vault** サービスが停止する可能性があることを意味します。
- システムファイルと一時ファイルの両方へのアクセスが必要なため、パフォーマンスが影響を受ける可能性があります。

**Enterprise Vault** サービスを実行しているすべてのコンピュータで、**Windows** 一時フォルダをシステムディスク以外のディスクに移動することを推奨します。

Temp フォルダをシステムディスク以外に移動する場合は、移動後も正しい権限が付与されていること確認する必要があります。詳しくは、『インストール/設定』ガイドの「TEMP フォルダのセキュリティ要件」を参照してください。

## ストレージサービスコンピュータのパフォーマンスの向上

このセクションには、次のトピックが含まれます。

- 「内容の変換を制御する方法」
- 「アーカイブキューに長時間留まるアイテムを処理する方法」

- 「コンテンツ変換からアイテムを除外する方法」

## 内容の変換を制御する方法

Enterprise Vault では Microsoft Excel 文書と Microsoft Word 文書を HTML に変換します。Enterprise Vault でこれらの変換を大量に実行した場合や文書が複雑な場合に、パフォーマンスの問題が発生する可能性があります。そのような場合は、Enterprise Vault で文書を HTML ではなくテキストに変換することによって、パフォーマンスが大幅に向上する可能性があります。

Enterprise Vault には、Enterprise Vault で文書を HTML ではなくテキストに変換するかどうかを制御するために使える次のレジストリ値があります。

- Excel 文書を HTML ではなくテキストに変換するには、次のレジストリキーを 1 に設定する

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥ConvertExcelToText
```

- Word 文書を HTML ではなくテキストに変換するには、次のレジストリキーを 1 に設定する

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥ConvertWordToText
```

- テキストへの変換が必要な多数のファイルの種類を一覧表示するには、次のレジストリキーを編集する

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥TextConversionFileTypes
```

このレジストリキーには、テキストに変換されるファイルの種類をピリオドで区切った一覧を設定します。一覧はピリオドで終わる必要があります。

たとえば、一覧が現在 `.PPT.POT.PPS.ZIP.` で、ファイルの種類 `XYZ` を追加する場合、一覧を次のように変更します。

```
.PPT.POT.PPS.ZIP.XYZ.
```

## アーカイブキューに長時間留まるアイテムを処理する方法

Microsoft メッセージキューの Enterprise Vault ストレージアーカイブキューに長時間アイテムが留まる理由の 1 つは、アイテムの変換に時間がかかっているためです。変換の最大時間に達するとアイテムはアーカイブされますが、HTML バージョンは作成されません。アイテムがアーカイブされ、メッセージが Windows アプリケーションイベントログに書き込まれます。

多くのアイテムが、許容されるデフォルトの 10 分より長くかかっている場合、タイムアウト値を変更できます。タイムアウトを変更するには、次のレジストリキーを編集します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥ConversionTimeout
```

このキーの単位は分です。

## コンテンツ変換からアイテムを除外する方法

アイテムの一部の種類で変換時に問題が発生することが判断された場合、それらを変換対象から除外できます。アイテムの属性には通常どおりインデックスが付けられ、アイテムはそのネイティブ形式でアーカイブされますが、HTML には変換されません。ユーザーは、コンテンツが HTML に変換されていないアイテムをプレビューすることはできません。

アイテムを変換から除外するには、アイテムのファイル拡張子を次のレジストリキーに追加します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥ExcludedFileTypesFromConversion
```

キーの形式は、次のようになります。

```
.filetype[.filetype].
```

たとえば、\*.JPG ファイルと \*.CAD ファイルを変換から除外するには、キーを次のように設定します。

.JPG.CAD.

このレジストリキーには、現在変換されないすべてのファイルの種類が一覧表示されます。

# ビルディングブロック構成でのフェールオーバー

この章では以下の項目について説明しています。

- [ビルディングブロック構成での Enterprise Vault サービスについて](#)
- [ビルディングブロックの追加必要条件](#)
- [フェールオーバー後のサービスの場所の更新](#)
- [FSA アーカイブのフェールオーバー後の追加処理](#)
- [SMTP アーカイブのフェールオーバー後の追加処理](#)
- [Skype for Business アーカイブのフェールオーバー後の追加処理](#)

## ビルディングブロック構成での Enterprise Vault サービスについて

ビルディングブロック構成では、各 Enterprise Vault サーバーは不連続ユニットとして動作し、特定のユーザーのセットに対して次の Enterprise Vault の機能を提供します。

- **データのアーカイブ取り込み。**各ビルディングブロックサーバーには、ディレクトリサービスや必須のアーカイブタスクおよびサービスが含まれます。
- **Web アクセス。**各ビルディングブロックサーバーには **Web Access** アプリケーションが含まれ、アーカイブしたアイテムを検索したり取り込むためのインターフェースをユーザーに提供します。サイトのプロパティに固有ではない URL (たとえば、/EnterpriseVault) がある場合にのみ正しくアクセスできます。

ビルディングブロックのフェールオーバー ([サービスの場所を更新]) では、障害が発生しているサーバーの機能が別のビルディングブロックサーバーに渡されます。必須のサービスまたはタスクが新しいアクティブサーバー上に存在しない場合は作成されます。

ビルディングブロックシステムには、多数の共有システムコンポーネントも含まれます。次のようなコンポーネントがあります。

- ディレクトリおよびアーカイブデータ用の **SQL** データベース。これらは通常、専用の **SQL Server** に配備され、**SQL** が持つ拡張性と高可用性のための機能の完全な活用を可能にします。
- 集中型ストレージ。ボルトストアのパーティションデータおよびインデックスの場所は、各ビルディングブロックサーバーによって共有されます。

ビルディングブロックサーバーには、使用するインデックス構成によって、インデックスサービスを含めたり除外できます。ビルディングブロック構成では次のビルディングブロックがサポートされます。

- 同じインデックスサーバーグループに属するアクティブサーバーとフェールオーバーサーバー両方がインデックスサーバー。
- アクティブサーバーとフェールオーバーサーバー両方がグループ化されていないインデックスサーバー。
- アクティブサーバーとフェールオーバーサーバーがどちらもインデックスサービスをホストしない。
- アクティブサーバーはグループ化されていないインデックスサーバーで、フェールオーバーサーバーはインデックスサービスをホストしない。フェールオーバーでは、グループ化されていないインデックスサービスがフェールオーバーコンピュータ上に作成されます。

インデックスサーバー、インデックスサーバーグループ、および **Enterprise Vault** のビルディングブロックの概要について詳しくは『導入/計画』を参照してください。

ビルディングブロックを使った設定の計画については、このガイドでは扱いません。高可用性を備えた **Enterprise Vault** システムを構築する必要がある場合には、ベリタスのソリューションプロバイダに問い合わせてください。

## ビルディングブロックの追加必要条件

ビルディングブロックの設定に次の追加必要条件を適用します。

- アクティブサーバーがインデックスサーバーをホストする場合、フェールオーバーサーバーでは、**Enterprise Vault** サーバーキャッシュを設定しておく必要があります。
- **Enterprise Vault** ストレージキューは、関連付けられたビルディングブロックサーバーと共有されているファイルシステム上に配置する必要があります。
- **Enterprise Vault** キャッシュは各 **Enterprise Vault** サーバーの同じパス上に配置する必要があります。キャッシュの場所は各サーバーに対してローカルですが、フェールオーバー後のエラーを防止するために名前は同じにする必要があります。たとえば、すべてのサーバーのキャッシュ場所を **D:\MyCache** に設定できます。



- 各ビルディングブロックサーバーには、ローカルストレージサービスを含めることができます。ストレージファイルとインデックスファイルは、関連付けられたビルディングブロックサーバーで共有されているファイルシステムに格納する必要があります。  
p.299 の「[ストレージキューについて](#)」を参照してください。
- SMTP アーカイブをサポートするビルディングブロックサーバーに Enterprise Vault SMTP アーカイブコンポーネントをインストールして設定する必要があります。
- SMTP アーカイブと Skype for Business アーカイブでは、SMTP アーカイブタスクを使用します。アクティブサーバーとフェールオーバーサーバーの両方で SMTP アーカイブタスクを実行している場合は、[サービス場所の更新]を実行すると 2 つの SMTP アーカイブタスクがフェールオーバーサーバーで実行されます。このため、アクティブサーバーとフェールオーバーサーバー上の SMTP 保存フォルダは別のパスにする必要があります。
- ボルトサービスアカウントまたはメイン管理者の役割が割り当てられたアカウントを使用して、アクティブな Enterprise Vault サーバーにログオンする必要があります。  
Enterprise Vault がフェールオーバーサーバーでサービスを作成する必要がある場合は、メイン管理者の役割に割り当てられているアカウントを使用している場合、ボルトサービスアカウントを使用してログオンするように求められます。
- ユーザーアカウントに、Enterprise Vault サイトのすべての Enterprise Vault サーバーでサービス制御マネージャ (SCM) の SC\_MANAGER\_ALL\_ACCESS アクセス権を割り当てる必要があります。詳しくは、Microsoft Web サイトの次のアドレスにある「Service Security and Access Rights」を参照してください。  
[https://msdn.microsoft.com/en-gb/library/windows/desktop/ms685981\(v=vs.85\).aspx](https://msdn.microsoft.com/en-gb/library/windows/desktop/ms685981(v=vs.85).aspx)
- Enterprise Vault サーバーを保護するには、信頼できる認証局から取得した証明書を各サーバーにインストールします。証明書には、ビルディングブロック設定の他の Enterprise Vault サーバーの完全修飾 DNS エイリアスを含める必要があります。これらのサーバー名は、サブジェクト代替名として証明書に追加する必要があります。  
Enterprise Vault 12.3 以降の新規インストールでは、Enterprise Vault はデフォルトでポート 443 に HTTPS を設定し、IIS の各 Enterprise Vault 仮想ディレクトリで SSL を有効にします。有効な証明書が存在しない場合、設定ウィザードは、HTTPS バインドの自己署名証明書を作成して使用します。この証明書は、信頼できる認証局から証明書をインストールするまでの一時的な措置と見なします。  
Enterprise Vault 設定で作成される自己署名証明書には、ビルディングブロック設定の他の Enterprise Vault サーバーの名前が含まれません。OpenSSL などの証明書ツールを使用して、置き換え用の自己署名証明書を作成できます。サブジェクト代替名を OpenSSL 証明書に含めるには、OpenSSL コマンドで設定ファイル openssl.cnf を使用する必要があります。次の例に示すように、設定ファイルの [ v3\_req ] セクションで、subjectAltName セクションの他の Enterprise Vault サーバーの完全修飾 DNS エイリアスを一覧表示します。

```
[ v3_req ]
# Extensions to add to a certificate request
```

```
basicConstraints = CA:FALSE
keyUsage = nonRepudiation, digitalSignature, keyEncipherment

subjectAltName = @alt_names

[alt_names]
DNS.1 = evserver1.example.local
DNS.2 = evserver2.example.local
DNS.3 = evserver3.example.local
DNS.4 = evserver4.example.local
```

IIS のデフォルトの Web サイトで、自動的に生成された自己署名証明書を作成した SAN バージョンに置き換えます。

## フェールオーバー後のサービスの場所の更新

このセクションでは、ビルディングブロックソリューションの一部になっている Enterprise Vault サーバーに障害が発生した場合や、そのようなサーバー交換された場合に従う手順について説明します。

この手順を使う前に、機能するビルディングブロックソリューションを設定してあることが大切です。フェールオーバーは、正しく設定された Enterprise Vault サイトで[サービスの場所の更新]を実行していないと機能しません。

### フェールオーバー後にサービスの場所を更新する方法

- 1 動作しているサーバーにマッピングされるように、障害が発生した Enterprise Vault サーバーの DNS エイリアスを変更します。Enterprise Vault サイトの残りのすべてのサーバーでこの変更を行う必要があります。

この変更を行うために使う方法は、所属する組織の手順によって次のように異なります。

- ホストファイルの使用。Enterprise Vault サイトの残りのすべてのサーバーコンピュータでホストファイルを更新します。
- DNS ゾーンの使用。DNS ゾーンを更新して新しいエイリアスを反映させ、コマンドライン `ipconfig /flushdns` を使って DNS キャッシュをクリアします。

- 2 ボルトサービスのアカウントまたはメイン管理者の役割が割り当てられたアカウントを使って、機能している Enterprise Vault サーバーにログオンします。
- 3 管理コンソールを起動します。
- 4 左ペインで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまでツリーを展開します。

- 5 [Enterprise Vault サーバー] コンテナを右クリックし、ショートカットメニューの[サービスの場所の更新]をクリックします。

Enterprise Vault でサービスを作成する必要がある場合は、ボルトサービスアカウントのパスワードを求めるメッセージが表示されます。

- 6 要求に応じて、ボルトサービスアカウントのパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

Enterprise Vault によってサービスの場所が更新され、必要に応じて新しいサービスが作成されます。

更新処理の最後に、そのサイトに属する各コンピュータ上のサービスを示す概略画面が表示されます。

- 7 [サービスの場所の更新]によってサービスが作成された場合は、それらのサービスを起動します。

### サーバーがオンライン状態に戻る際に行う操作

サーバーが失敗すると、[サービスの場所の更新]がサーバーで実行されていたサービスをサイト内の機能しているサーバーにインストールします。失敗したサーバーが復旧したら、[サービスの場所の更新]を再び実行します。次に、復旧したサーバーがホストするようになったサービスを一時的に実行していたサーバーを再起動します。

---

**メモ:** 上記の説明どおりにサーバーを再起動することが重要です。[サービスの場所の更新]は一時サーバー上で必要なくなったサービスを削除します。これを実行すると、再起動で削除プロセスが確実に正常に完了します。

---

## FSA アーカイブのフェールオーバー後の追加処理

[サービスの場所を更新]を実行した後、プレースホルダまたはインターネットショートカットを使用したファイル呼び戻しに問題が発生した場合は、次のいずれかの操作を行います。

- Enterprise Vault サイトで、影響を受けたファイルサーバー上のホストファイルを更新します。
- DNS ゾーンを更新して新しいエイリアスを反映させてから、コマンドライン `ipconfig /flushdns` を使ってファイルサーバーの DNS キャッシュをクリアするか、ファイルサーバー上で DNS Client サービスを再開します。

## SMTP アーカイブのフェールオーバー後の追加処理

それぞれの Enterprise Vault SMTP サーバーでは、そのコンピュータ上の SMTP アーカイブタスク用にローカル SMTP 保存フォルダが設定されます。[サービスの場所の更

新]を実行した後に、次の処理を実行して、フェールオーバーサーバー上の **SMTP** アーカイブタスクが正しい **SMTP** 保存フォルダの場所に確実にアクセスできるようにする必要があります。

- 保存フォルダが移動可能なディスク上にある場合は、ディスクをフェールオーバーサーバーに移動します。  
保存フォルダが移動可能なディスク上にない場合は、元のサーバーからフェールオーバーサーバーに **SMTP** 保存フォルダツリーをコピーします。
- フェールオーバーサーバー上で、**SMTP** アーカイブタスクのプロパティを開いて、保存フォルダの場所を新しい場所に変更します。
- **SMTP** アーカイブタスクを再起動します。  
アーカイブタスクを停止する場合は、**SMTP** サービスの停止要求に対して[はい]をクリックします。**SMTP** サービスは、**SMTP** アーカイブタスクの開始時に自動的に再起動されます。

**SMTP** アーカイブタスクがビルディングブロック環境の元のサーバーとフェールオーバーサーバーの両方で実行中の場合は、[サービスの場所の更新]を実行すると、この両方の **SMTP** アーカイブタスクはフェールオーバーサーバー上でホストされます。この構成では次の点に注意してください。

- フェールオーバーサーバー上には **SMTP** サービス 1 つのみ存在します。この **SMTP** サービスは、それが受信するすべてのメッセージを、元々フェールサーバー上で実行していた **SMTP** アーカイブタスクの保存フォルダに配置します。
- 元のサーバーからフェールオーバーした **SMTP** アーカイブタスクは、設定された保存フォルダにあるメッセージを処理します。**SMTP** サービスは、このフォルダに新規メッセージを配置しません。アーカイブタスクがフォルダ内のメッセージの処理を完了すると、**Enterprise Vault** 監視によってアーカイブタスクについて低使用量アラートが生成されます。
- 各 **SMTP** アーカイブタスクのプロパティの保存フォルダ情報には、**SMTP** サービスが指定した保存フォルダを使っているかが示されます。

## Skype for Business アーカイブのフェールオーバー後の追加処理

Skype for Business アーカイブ用に設定しているそれぞれの **Enterprise Vault** サーバーで、**SMTP** アーカイブタスク用にローカルの **SMTP** 保存フォルダを設定します。

---

メモ: Skype for Business アーカイブには、**SMTP** アーカイブタスクを使用しますが、**Enterprise Vault SMTP** サーバーは必要ありません。

---

[サービスの場所の更新]を実行した後に、フェールオーバーサーバー上の **SMTP** アーカイブタスクが正しい **SMTP** 保存フォルダの場所に確実にアクセスできるようにする必要があります。次の操作を実行します。

- 保存フォルダが移動可能なディスク上にある場合は、ディスクをフェールオーバーサーバーに移動します。
- 保存フォルダが移動可能なディスク上にない場合は、元のサーバーからフェールオーバーサーバーに **SMTP** 保存フォルダツリーをコピーします。
- フェールオーバーサーバー上で、**SMTP** アーカイブタスクのプロパティを開いて、保存フォルダの場所を新しい場所に変更します。
- **SMTP** アーカイブタスクを再起動します。

**Enterprise Vault** は、管理コンソールの **Skype for Business** ターゲットのプロパティで指定したユーザーアカウントを使用して **Skype for Business** サーバーを実行しているコンピュータにアクセスします。フェールオーバーが発生した場合 **Enterprise Vault** は別のサーバーで同じユーザーアカウントを使用して **Skype for Business** にアクセスします。そのため、このユーザーアカウントには、以下に示す適切な権限が必要です。

- ローカルの **Administrators** グループのメンバーシップ
- サービスとしてログオン権限
- **SMTP** 保存フォルダへのフルアクセス
- `domain\RTCCComponentUniversalServices` と `domain\RTCUniversalReadOnlyAdmins` の **Skype for Business Active Directory** グループのメンバーシップ

これらの権限を手動で割り当てる必要があります。適切な権限を割り当てないと、**Skype for Business** アーカイブが停止します。

---

**メモ:** ユーザーアカウントに権限を付与したら、該当のサーバーでタスクコントローラサービスを再起動します。

---

**SMTP** アーカイブタスクがビルディングブロック環境の元のサーバーとフェールオーバーサーバーの両方で実行中の場合は、[サービスの場所の更新]を実行すると、この両方の **SMTP** アーカイブタスクはフェールオーバーサーバー上でホストされます。**Enterprise Vault** は引き続き **Skype for Business** ターゲットの対話を処理し、元のサーバーからフェールオーバーした **SMTP** タスクは設定済みの保存フォルダから対話ファイルをアーカイブし続けます。

# Enterprise Vault で使うポート

この付録では以下の項目について説明しています。

- Enterprise Vault で使われるポートについて
- Enterprise Vault プログラムのファイアウォールの設定

## Enterprise Vault で使われるポートについて

すべての Enterprise Vault サーバーで、Windows ドメイン内の認証に必要な標準のポートを開く必要があります。たとえば、Kerberos (ポート 88)、DNS (ポート 53 UDP)、Active Directory (ポート 445) を開きます。

Enterprise Vault サーバーとそれらのサーバーが通信するサーバーでは、必要な機能に応じて、他のポートを開く必要がある場合があります。

対象のファイルサーバーでファイルシステムアーカイブが開く必要があるポートについて詳しくは、<https://www.veritas.com/docs/100022335> を参照してください。

Enterprise Vault サーバーでは、ソフトウェアコンポーネント間の通信に DCOM が使われます。DCOM は Remote Procedure Call (RPC) プロトコルに基づきます。RPC では、接続のセットアップに RPC エンドポイントマッパーポート (ポート 135) が使われます。このとき、ポートは動的 RPC ポートの範囲から動的に割り振られます。

制限付きの DCOM アクセスに関する Enterprise Vault の設定について詳しくは、<https://www.veritas.com/docs/100020731> を参照してください。

p.366 の「Enterprise Vault プログラムのファイアウォールの設定」を参照してください。

## Enterprise Vault プログラムのファイアウォールの設定

表 A-1 に、特定の Enterprise Vault プログラムに必要なポートを示します。

表 A-1 Enterprise Vault プログラムのファイアウォールの設定

サーバー	インバウンドポート	対象プログラム	コメント
Enterprise Vault サーバー	TCP 135	svchost.exe コンポーネント RPCSS サービス	RPC Endpoint Mapper。RPC (DCOM) 接続を取得します。
Enterprise Vault サーバー	RPC 動的ポート	svchost.exe コンポーネント Winmgmt サービス	WMI 用の RPC (DCOM) 接続ポート。
Enterprise Vault サーバー	RPC 動的ポート	Directoryservice.exe	リモート管理コンソールアクセス。
Enterprise Vault サーバー	RPC 動的ポート	AdminService.exe	管理コンソールからのアクセス サーバープロパティ。
Enterprise Vault サーバー	RPC 動的ポート	TaskController.exe	タスク管理。
Enterprise Vault サーバー	RPC 動的ポート	AuthServer.exe	ユーザー認証。
Enterprise Vault サーバー	TCP 445	システム	リモートサーバーから共有を参照します。たとえば、リモート管理コンソールから共有を参照します。
Enterprise Vault サーバー	TCP 5114	システム	Enterprise Vault サービス間の通信。
Enterprise Vault サーバー	管理者によって定義された TCP ポート	IMAPServer.exe	デフォルトの IMAP ポートは 143 (IMAP) と 993 (IMAPS) ですが、管理者は他のポート を使うことも選択できます。
Enterprise Vault サーバー	管理者によって定義された TCP ポート	isode.pp.smtp.exe	デフォルトの SMTP ポートは 25 番と 465 番 (SSL) ですが、 管理者は他のポートを使うこと もできます。
Enterprise Vault ストレージ サーバー	RPC 動的ポート	StorageManagement.exe	ボルトストアを (ストレージサー バー上に) 作成します。
Enterprise Vault ストレージ サーバー	RPC 動的ポート	StorageOnlineOpns.exe	アーカイブを (ストレージサー バー上に) 作成します。
Enterprise Vault ストレージ サーバー	RPC 動的ポート	StorageCrawler.exe	リモートインデックスサーバー がデータを (ストレージサー バーから) 取得できるようにし ます。

サーバー	インバウンドポート	対象プログラム	コメント
Enterprise Vault ストレージサーバー	RPC 動的ポート	StorageDelete.exe	(ストレージサーバー上の) ボルトストア/アーカイブを削除します。
Enterprise Vault ストレージサーバー	TCP 2103、2105	mqsvc.exe	ストレージメッセージキューのタスク監視。  メッセージキューを初期化するときに最初の選択肢が使用中だった場合、ポート 2103、2105 は 11 ずつ増分します。
Enterprise Vault ストレージサーバー	RPC 動的ポート	EVIndexAdminService.exe	インデックスサーバーに接続します。
Enterprise Vault サーバーと Exchange Server タスク	TCP 1801	mqsvc.exe (Windows¥System32¥)	Message Queue メッセージ転送。
Enterprise Vault サーバーと Exchange Server タスク	UDP 1801	mqsvc.exe (Windows¥System32¥)	Message Queue サーバーの検出。
Enterprise Vault Domino Gateway	RPC 動的ポート	nserver.exe (Lotus¥Domino¥ または IBM¥Domino)	アーカイブされた Domino メッセージを取得します。
Enterprise Vault Domino Gateway	TCP 1352	nsesrver.exe (Lotus¥Domino¥ または IBM¥Domino)	Notes クライアントから。アーカイブされた Domino メッセージを取得します。
Enterprise Vault Shopping サーバー	RPC 動的ポート	ShoppingService.exe	Exchange Server の Web 復元。
Enterprise Vault と Exchange アーカイブタスク	RPC 動的ポート	AgentClientBroker.exe	Exchange Server へのクライアント復元。
Web サーバー	TCP 80	システム	Web 検索。
Web サーバー	TCP 443	システム	セキュリティ保護された Web 検索 (HTTPS)。
Centera	3218 UDP と TCP	適用なし	Centera ストレージデバイスへの接続。
Exchange Server	TCP 135	svchost.exe コンポーネント RPCSS サービス	RPC Endpoint Mapper。RPC (DCOM) 接続を取得します。



サーバー	インバウンドポート	対象プログラム	コメント
Exchange Server	TCP 445	システム	管理コンソールを使って Exchange Server を対象として追加するときの期間に必要です。
Exchange Server (OWA)	TCP 80	システム	HTTP。
Exchange Server (OWA)	TCP 443	システム	HTTPS。
Exchange Server 2010 (CAS)	RPC 動的ポート	Microsoft. Exchange.AddressBook. Service.exe	Exchange アーカイブタスクの場合。
Exchange Server 2010 (CAS)	RPC 動的ポート	Microsoft.Exchange. RpcClientAccess. Service.exe	Exchange ストアへのアクセス。
Exchange Server 2016 と 2013 (CAS)	TCP 80	システム	HTTP。
Exchange Server 2016 と 2013 (CAS)	TCP 443	システム	HTTPS。
FSA ターゲットサーバー	TCP 135	svchost.exe コンポーネント RPCSS サービス	RPC Endpoint Mapper。RPC (DCOM) 接続を取得します。
FSA ターゲットサーバー	RPC 動的ポート	svchost.exe コンポーネント Winmgmt サービス	WMI 用の RPC (DCOM) 接続ポート。
FSA ターゲットサーバー	TCP 445	システム	SMB ファイル共有
Enterprise Vault Domino Gateway	TCP 1352	nserver.exe (Lotus¥Domino¥ または IBM¥Domino)	Notes クライアントから。
Enterprise Vault Domino Gateway	Domino サーバーでの設定どおり。たとえば、TCP 8080。	nhhttp.exe	Domino サーバーへの HTTP の場合。
Enterprise Vault Domino Gateway	Domino サーバーでの設定どおり。	nhhttp.exe	Domino サーバーへの HTTPS の場合。
Enterprise Vault Domino Gateway	TCP 80	システム	IIS への HTTP の場合。
Enterprise Vault Domino Gateway	TCP 443	システム	IIS への HTTPS の場合。

サーバー	インバウンドポート	対象プログラム	コメント
Domino サーバー	TCP 1352	nserver.exe (Lotus¥Domino¥ または IBM¥Domino)	Notes クライアントから。
Domino サーバー	TCP 80	nhttp.exe	iNotes の HTTP。
Domino サーバー	TCP 443	nhttp.exe	iNotes の HTTPS。
SharePoint Server	TCP 80	システム	SharePoint アーカイブタスク による HTTP アクセスの場合。

# 便利な SQL クエリー

この付録では以下の項目について説明しています。

- [SQL クエリーについて](#)

## SQL クエリーについて

SQL Query Analyzer で、ボルトストアデータベースを選択し、次の操作を行います。

- 次の SQL クエリーを使って、特定の期間内にアーカイブされたアイテム数と、その期間内の最初と最後のアイテムが格納された時間を表示します。この例の日付と時刻を、実際に使う日付と時刻に置き換えます。

```
Select count(*),min(archiveddate),max(archiveddate) from saveset  
where archiveddate >'2002-04-26 18:00' and archiveddate <  
'2002-04-27 5:00'
```

- 次の SQL クエリーを使って、指定した期間に処理された、異なるボルトの数を取得します。

```
Select distinct(vaultidentity) from saveset where  
archiveddate >'2002-04-26 18:00' and  
archiveddate < '2002-04-27 5:00'
```

- 次の SQL クエリーを使って、アイテムが格納されているボルトの数を取得します。

```
Select count(*) from vault
```

# トラブルシューティング

この付録では以下の項目について説明しています。

- [インストールの問題](#)
- [Microsoft SQL Server の問題](#)
- [サーバーの問題](#)
- [クライアントの問題](#)
- [メールボックスの有効化または処理の問題](#)
- [ボルトキャッシュの同期の問題](#)
- [Enterprise Vault コンポーネントに関する問題](#)
- [トラブルシューティングを支援する技法](#)
- [インデックスサービスの移動について](#)

## インストールの問題

このカテゴリの問題には、次のことが含まれている可能性があります。

- [「Enterprise Vault サーバー: インストールの問題」](#)
- [「デスクトップクライアント: インストールの問題」](#)

## Enterprise Vault サーバー: インストールの問題

このセクションには、次のトピックが含まれます。

- [「インストール手順の実行時の問題」](#)

## インストール手順の実行時の問題

ファイルの登録を試行しているときに **Enterprise Vault** のインストールが失敗した場合は、システムを再起動してインストールを再実行します。

## デスクトップクライアント: インストールの問題

**Enterprise Vault Outlook** アドインをインストールし、後でそれを削除して別の場所に再インストールする場合に、次のような問題が発生します。

- **Outlook** の起動時に、次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
The add-in ¥元の場所¥valkyrie.dll  
could not be installed or loaded.
```

- ショートカットをダブルクリックすると、カスタムフォームをロードできないというエラーメッセージが生成されます。

この問題は、**Outlook** が `extend.dat` という設定値のキャッシュファイルを維持しており、その中に **Outlook** アドインの元の場所へのポインタが含まれているために発生します。

次の手順を実行することにより、この問題を回避できます。

- **Outlook** アドインの場所を変更しないでください。
- **Outlook** アドインの場所を変更する必要がある場合は、**Outlook** アドインを削除した後に **Outlook** を実行します。これにより、**Outlook** は **Outlook** アドインの元の場所を使わずに `extend.dat` ファイルを再構築します。その後 **Outlook** を終了し、**Outlook** アドインを再インストールできます。

この問題がすでに存在する場合は、`extend.dat` ファイルを削除して、**Outlook** が次に起動されるときに自動的にこのファイルが再構築されるようにすることで解決できます。このファイルはさまざまな場所にあるため、検索する必要があります。ファイルのコピーの 1 つはそのコンピュータで **Outlook** を使うユーザーごとに存在するため、削除対象ファイルのコピーが複数存在する可能性があります。

**ResetEVClient** コマンドラインツールを使って、Microsoft Outlook への Enterprise Vault アドインに関する問題を修正することもできます。**ResetEVClient** の使用方法について詳しくは、『ユーティリティ』ガイドを参照してください。

---

**メモ:** **ResetEVClient** は、それを実行しているユーザーの `extend.dat` のみを削除します。

---

## Microsoft SQL Server の問題

このカテゴリの問題には、次のことが含まれている可能性があります。

- 「エラー: ODBC SQL Server Driver Connection is Busy」
- 「SQL Server のライセンス数の超過」
- 「Enterprise Vault データベースを移動した後のパスワードのリセット方法」

## エラー: ODBC SQL Server Driver Connection is Busy

Windows のログに次のような MS SQL Server エラーと Enterprise Vault データベースエラーが見つかった場合は、このセクションを読んでください。

```
Event ID: 17060 Source: MSSQLServer Type: Error Category:  
ODS Error: 17832, Severity: 18, State: 0 Unable to read login  
packet(s) . . .
```

```
Event ID: 13344 Source: Enterprise Vault Type: Error  
Category: Database An error was detected whilst accessing  
the Vault database _EnterpriseVaultDirectory_:  
[Microsoft][ODBC SQL Server Driver][DBNMPWTW]Connection is  
busy_
```

これらのエラーは、SQL Server の既知の問題のために発生します。問題の修正方法は、SQL へのアクセスの設定方法によって異なります。最も一般的な 2 つのアクセス方法は、TCP/IP と名前付きパイプです。詳しくは Microsoft 社のサポート Web サイトにある最新の記事を参照してください。特に、次の記事が役立つ可能性があります。

<http://support.microsoft.com/?kbid=109787>

## SQL Server のライセンス数の超過

次のメッセージは、登録した SQL Server のライセンス数を超えた場合に表示されます。

```
An error was detected whilst accessing the Vault Database  
'name!': [Microsoft][ODBC SQL Server Driver][SQL Server]Login  
failed- The maximum simultaneous user count of n licenses  
for this server has been exceeded. Additional licenses  
should be obtained and registered using the Licensing  
application in the NT Control Panel.
```

SQL Enterprise Manager をリモートで実行している場合は、SQL Server の追加のライセンスが必要です。

Enterprise Vault は、ボルトディレクトリデータベースとボルトストアデータベースを作成してアクセスします。ライセンス数はライセンスの種類によって異なります。たとえば、サーバーごとのライセンスを使っている場合で、両方のデータベースが同じコンピュータ上に配置されている場合は、1 つのクライアントアクセスライセンスが必要です。2 つのデータ

ベースが異なるコンピュータ上にある場合は、2 つのクライアントアクセスライセンスが必要です。

## Enterprise Vault データベースを移動した後のパスワードのリセット方法

Enterprise Vault 専用で SQL Server を使っている場合は、ボルトディレクトリデータベースとボルトストアデータベースのどちらも移動しないことを推奨します。

このセクションの手順は、データベースの移動が Enterprise Vault に与える影響を知る必要がある SQL Server の経験豊富な管理者用です。

SQL データベース転送方法を使ってデータベースを移動するときに、暗号化されたパスワードは移動されません。そのため Enterprise Vault のパスワードを再びデータベースに設定し、新しいサーバーの DSN を指すようにする必要があります。

管理コンソールを使って、次のデータベースの SQL ログインパスワードを設定します。

- ボルトディレクトリデータベース。データベースと同じコンピュータで実行されている管理コンソールを使う必要があります。
- 各ボルトストアのデータベース。各ボルトストアを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] をクリックします。[全般] タブで、新しいパスワードを入力します。

## サーバーの問題

次のセクションに、Enterprise Vault を実行中に発生する可能性のあるエラーを一覧表示します。

このカテゴリの問題には、次のことが含まれている可能性があります。

- 「[MSMQ 配信不能メッセージキューを開いたときのエラーの修正](#)」

よく起きる問題を回避できるようにするためのヒントを次に示します。

- ボルトサービスアカウントを正しく設定し、このアカウントを使って Enterprise Vault サービスが実行されていることを確認することが重要です。
- ボルトサービスアカウントが、サイトレベルと設定レベルで Microsoft Exchange Server のサービスアカウントの管理者権限を持っている必要があります。ボルトサービスアカウントの設定について詳しくは、『インストール/設定』ガイドを参照してください。
- Windows を使ってボルトサービスアカウントのパスワードを変更する場合は、管理コンソールを使ってボルトディレクトリデータベースのパスワードを更新する必要があります。ボルトディレクトリデータベースのパスワードは暗号化されています。詳しくは管理コンソールのヘルプを参照してください。

## MSMQ 配信不能メッセージキューを開いたときのエラーの修正

次のようなエラーメッセージを受信する場合があります。

Error opening MSMQ Dead Letter Queue - Access is Denied for queue MACHINE=98b76660-4198-11d2-bb6f-0000f8789ea8;DEADXACT

この場合、次のものを実行しているすべてのコンピュータで、**Local Administrators** グループにメッセージキューのフルコントロールを付与する必要があります。

- **Exchange** メールボックスタスク
- **Exchange** パブリックフォルダタスク
- **Exchange** ジャーナルタスク
- ストレージサービス

#### **Local Administrators** グループにフルコントロールを付与する方法

- 1 **Microsoft Message Queue Explorer** を実行します。
- 2 必要なサイトを展開します。
- 3 適切なコンピュータを選択します。
- 4 コンピュータを右クリックし、コンテキストメニューで [プロパティ] を選択します。
- 5 [セキュリティ] タブで、[権限] をクリックします。
- 6 [コンピュータのアクセス許可] ダイアログボックスで、[追加] を選択します。
- 7 [ユーザーとグループの追加] ダイアログボックスで、[次の場所の名前を一覧表示] というフィールドにある **Administrators** グループを選択します。
- 8 [追加] をクリックし、**Message Queue Explorer** ダイアログボックスのメインに戻るまで [OK] をクリックします。

## クライアントの問題

このカテゴリの問題には、次のことが含まれている可能性があります。

- 「[MAPIVC.INF の問題 \(クライアント\)](#)」
- 「[Enterprise Vault ユーザーから見える問題](#)」

### MAPIVC.INF の問題 (クライアント)

%windir%\System32 フォルダに MAPIVC.INF の無効なバージョンがある場合に、次のいずれかの問題が発生する可能性があります。

- **Enterprise Vault Outlook** クライアントは、ショートカットの内容を表示できません。
- **Outlook** に、最近インストールされたプログラムと **Microsoft Office** またはその他の電子メールプログラムとの競合を解決できないことを通知するエラーメッセージが表示されます。



## MAPIVC 問題を解決する方法

- 1 プログラム `fixmapi.exe` を実行します。このプログラムは、通常、`%windir%\System32` フォルダに格納されています。このプログラムを実行しても、何も変化がないように見えます。
- 2 コンピュータを再起動します。
- 3 問題が解決したかどうかをテストします。

### 問題が解決しない場合

- 1 `%windir%\System32` フォルダにある既存の `MAPIVC.INF` の名前を変更します。
- 2 Outlook に付属の `MAPIVC.INF` のバージョンを `System32` フォルダにコピーします。このファイルは、通常、次のとおりです。

```
c:\program files\common
files\system\mapi\1033\nt\MAPIVC.INF
```

- 3 コンピュータを再起動します。
- 4 失敗した操作を再実行します。

## Enterprise Vault ユーザーから見える問題

Enterprise Vault のユーザーが直面する可能性のある問題には、次のことが含まれています。

- 「ショートカットからアイテムにアクセスできない: ユーザーの問題」
- 「RPC サーバーが利用不可または取り込みタスクの呼び出しの失敗: ユーザーの問題」
- 「ボルトの古いインデックスデータ: ユーザーの問題」
- 「大きいバスケットを復元する場合のタイムアウト: ユーザーの問題」
- 「PowerPoint の変換」

### ショートカットからアイテムにアクセスできない: ユーザーの問題

プロトコルを変更した場合、または Web Access アプリケーションで使うポートを変更した場合、既存のアーカイブ済みアイテムへのショートカットが動作しなくなります。

Outlook や Notes のような電子メールクライアントのショートカットは、Enterprise Vault 管理コンソールの [メールボックスを同期] を使って新しいプロトコルまたはポート情報に更新できますが、カスタマイズしたショートカット、FSA ショートカット、SharePoint ショートカットは更新できません。

詳しくは『Veritas Enterprise Vault™ インストール/設定』の「Enterprise Vault Web Access コンポーネントのポートまたはプロトコルのカスタマイズ」を参照してください。

## RPC サーバーが利用不可または取り込みタスクの呼び出しの失敗: ユーザーの問題

ユーザーがアイテムのアーカイブまたは復元を試行しているときにメッセージを受信した場合は、[TCP/IP のプロパティ] ダイアログボックスの DNS サーバーの TCP/IP アドレスが正しいことを確認してください。

## ボルトの古いインデックスデータ: ユーザーの問題

たとえば電源の故障やシステムの古いバックアップが復元された場合など、ユーザーのアーカイブに格納されているアイテムのインデックスが古くなっている場合があります。

インデックスに問題がある場合、Enterprise Vault は次にそのアーカイブにアイテムがアーカイブされるときに、自動的にインデックスを再構築します。つまり、短期間、インデックスにアーカイブ内のアイテムに関する古い情報が含まれる場合があります。アーカイブを検索するユーザーは、インデックスが更新されるまでアイテムを見つけられない場合があります。

これが問題になる場合は、Enterprise Vault に強制的にインデックスを再構築させると、ユーザーがアイテムをアーカイブできます。

## 大きいバスケットを復元する場合のタイムアウト: ユーザーの問題

ユーザーがバスケットから復元できるアイテム数に対して、制限はありません。ただし、復元するバスケットのアイテム数が非常に多い場合に、すべてのアイテムが復元される前に IIS がタイムアウトする場合があります。ほとんどのアイテムが復元されている場合は、ユーザーが復元を再度実行すると、Enterprise Vault はまだ復元されていないアイテムのみを復元できます。多くのアイテムが復元されなかった場合は、追加のバスケットを作成し、復元を再試行する前に各バスケットのアイテムを減らすことを推奨します。

## PowerPoint の変換

Microsoft PowerPoint のテキスト変換は、スライド内に含まれるテキストのみに適用されます。発表者のノートのテキストは変換されません。

# メールボックスの有効化または処理の問題

このセクションでは、メールボックスのアーカイブを有効にすることで発生する問題を診断して修正する方法について説明します。

次のチェックをすべて実行し、問題を修正します。

- Exchange Server の Exchange メールボックスタスクが実行していますか。

**Exchange** メールボックスタスクがメールボックスを有効にする作業を行うため、このタスクが実行されている必要があります。

- **Enterprise Vault** メールボックスがまだ存在していますか。または、誤って作成されていませんか。この問題は、通常、メールボックスを有効にしようとすると、「メールボックスの有効化に失敗しました」というメッセージが表示されることを意味します。  
p.379 の「**Enterprise Vault システムメールボックスのチェック**」を参照してください。
- **Enterprise Vault** メールボックスがアドレス帳で非表示にされていませんか。  
**Microsoft Exchange** システムマネージャを使って、**Enterprise Vault** メールボックスのプロパティを確認します。[詳細]タブで、メールボックスをアドレス帳で非表示にするオプションを選択していないことを確認します。
- **Microsoft Exchange** インフォメーションストアサービスが **Exchange** システムで実行されていますか。

#### ボルトサービスアカウントの権限をチェックして修正する方法

- 1 [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開きます。
- 2 ドメインを右クリックして、[プロパティ]をクリックします。
- 3 [セキュリティ]タブをクリックします。
- 4 [詳細]をクリックし、[追加]をクリックします。
- 5 権限を追加するアカウントをダブルクリックします。
- 6 [アクセス許可エントリ]ダイアログボックスで、[プロパティ]タブをクリックします。
- 7 [適用先]の横にある[ユーザーオブジェクト]を選択します。
- 8 [権限]一覧で、[extensionData の読み取り]と[extensionData の書き込み]の両方の横にある[許可]を選択します。
- 9 [OK]を繰り返しクリックして、ダイアログボックスを閉じます。

## Enterprise Vault システムメールボックスのチェック

**Enterprise Vault** システムメールボックスに問題があると疑われる場合は、このセクションを順番に進めてください。

#### Enterprise Vault メールボックスを調べる方法

- 1 [Active Directory ユーザーとコンピュータ]を開きます。
- 2 ユーザーをダブルクリックして、プロパティを表示します。
- 3 [電子メールアドレス]タブをクリックして、電子メールアドレスが表示されていることをチェックします。
- 4 電子メールアドレスがない場合は、次のように受信者更新サービスを実行します。
  - [受信者]にある[受信者更新サービス]コンテナを選択します。

- ドメインを右クリックして、[今すぐ更新]をクリックします。

#### メールボックスが存在しない場合に作成する方法

- 1 [ユーザー]を右クリックし、[新規]>[ユーザー]の順にクリックします。
- 2 [氏名]ボックスに、「EV System mailbox for server」などの名前を入力します。  
**server**は **Exchange Server** の名前です。
- 3 ユーザーのログイン名を入力し、[次へ]をクリックします。
- 4 パスワードを入力して確定します。
- 5 [アカウントを無効にする]のチェックマークをはずします。その他の設定は関係ありません。
- 6 [次へ]をクリックします。
- 7 正しいサーバーが選択されていることを確認します。
- 8 [Exchange メールボックスを作成する]を選択して、[次へ]をクリックします。
- 9 [完了]をクリックすると、ユーザーとメールボックスが作成されます。

メールボックスが利用可能になるまで時間がかかる場合があることに注意してください。

## ボルトキャッシュの同期の問題

Outlook アドインは、ボルトキャッシュの同期試行の結果を Enterprise Vault サーバーに伝えます。

管理者はこれらの結果をボルトキャッシュの診断 Web ページで参照できます。ボルトキャッシュの診断ページは、Enterprise Vault サーバーでホストされます。サーバーのバージョンは、Enterprise Vault 10.0.2 以降である必要があります。

## ボルトキャッシュの診断ページの表示

ボルトキャッシュの診断ページを表示するための必要条件是次のとおりです。

- Enterprise Vault サーバーで DWORD レジストリ値 **ClientDiagnosticsEnabled** を有効にする必要があります。Enterprise Vault 11.0 以降では、デフォルトで有効になっています。**ClientDiagnosticsEnabled** について詳しくは、『Enterprise Vault レジストリ値』を参照してください。  
レジストリ値を変更したら、変更を有効にするために管理サービスを再起動する必要があります。
- [ボルトキャッシュの診断]ページを表示するには、管理者が Enterprise Vault サーバーで Enterprise Vault ロールを割り当てられている必要があります。このための標準のロールは、メイン管理者、メッセージ管理者および Exchange 管理者です。

- Enterprise Vault サーバーで[ボルトキャッシュの診断]ページを開くには、ブラウザを管理者として実行する Windows オプションを選択する必要があります。

ボルトキャッシュの診断ページを表示するには

- ◆ ブラウザで次の URL を入力します。

`https://your_ev_server/EnterpriseVault/ClientDiagnostics.aspx`

`your_ev_server` は Enterprise Vault サーバーの名前です。

## ボルトキャッシュの診断について

[Vault Cache Diagnostics] ページは、各ユーザーからの最後のボルトキャッシュの同期試行、および同期されたそれらの各アーカイブを表示します。ページに表示されたレポート情報は、同期を試みた直後にその結果に関係なく、クライアントコンピュータによって投稿されます。デフォルトのビューでは失敗した試行だけが表示されます。

すべての同期試行を表示するには、ページの先頭にある[失敗した同期のみ表示]のチェックマークをはずします。

表 C-1 は、それぞれの同期試行で記録された情報を表示します。

表 C-1 同期試行の情報

情報	説明
最後の同期からの経過時間	最後に行った同期試行からの経過時間 (このレコード)。
クライアントホスト	同期試行を開始したホストコンピュータの名前。
ユーザーのドメイン	ユーザーのログオンドメイン。
ユーザー名	ユーザーのログオン名。
Status	最新の同期状態。有効な値は、保留、健全、失敗、不明です。
ヘッダーの同期状態	ボルトキャッシュヘッダーの同期状態。
コンテンツキャッシュの同期状態	ユーザーのコンテンツキャッシュの状態。
ダウンロードするアイテム	ユーザーのコンテンツキャッシュへのダウンロードが保留になっているアイテムの数。
アーカイブ失敗のアイテム	ボルトキャッシュ同期の一部としてのアーカイブが失敗したアイテムの数。

さらに、ページ内の個別のレコードをクリックすると、それらに関する詳細情報をページの一番下に表示することができます。表 C-2 は利用可能な情報を示します。

表 C-2 各レコードの詳細情報

情報	説明
ヘッダーの同期状態	ボルトキャッシュヘッダー(アイテムスタブ)の同期状態の詳細な説明。
コンテンツキャッシュの同期状態	ユーザーのコンテンツキャッシュの同期状態の詳細な説明。
最終同期の日時	最後に試行された同期の日時(UTC)。
コンテンツキャッシュのアイテム	ユーザーのコンテンツキャッシュのアイテムの総数。ポリシー設定によって、この数は 0 である場合があります。
アーカイブ名	同期されたアーカイブの名前。
アーカイブ ID	同期されたアーカイブのアーカイブ ID。
Enterprise Vault サーバー	同期試行を処理した Enterprise Vault サーバーの名前。
アドインのバージョン	Enterprise Vault Outlook アドインのバージョンおよびビルド番号。
Outlook のバージョン	Outlook のバージョンおよびビルド番号。

## ボルトキャッシュの診断の使用を進めました

ボルトキャッシュの診断のページは個々のクライアントの問題を識別し、見つけるのを助ける追加の処理を実行することを可能にします。ページの先頭で、特定のユーザーまたは Windows ドメインのための結果を表示するフィルタを加えることができます。また降順か昇順にテーブル列をソートできます。

次の例に 1 週以上同期しなかった特定のドメインからのユーザーを調べる方法を示されています。

### 1 週以上同期しなかったドメインからのユーザーを示すには

#### 1 次の場所にナビゲートします:

[https://your\\_ev\\_server/EnterpriseVault/ClientDiagnostics.aspx](https://your_ev_server/EnterpriseVault/ClientDiagnostics.aspx)

`your_ev_server` は Enterprise Vault サーバーの名前です。

#### 2 [失敗した同期のみ表示]のチェックマークをはずします。

#### 3 [フィルタを適用]ボックスに、ドメイン名を入力します。

#### 4 [フィルタを適用] の右の [ユーザー名/ユーザードメイン] メニューで、[ユーザードメイン] を選択します。

- 5 [検索]をクリックします。
- 6 検索結果では、1 週以上同期しなかったユーザーを識別するために [最後に同期してから時間] の列を調べてください。

## 結果のエクスポート

さらに分析およびレポートを行うために、ボルトキャッシュの診断のページの結果を CSV ファイルにエクスポートすることができます。エクスポートされた結果では、フィルタ、検索、順序付けなどが可能です。

現在の結果をエクスポートするには

- 1 ページの右上で [エクスポート] をクリックします。
- 2 結果ファイルを保存します。

## クライアントの同期の状態テキスト

クライアントは Enterprise Vault サーバーにコンテンツキャッシュの同期およびヘッダーの同期の多数の可能な状態を報告できます。

表 C-3 ではクライアントコンピュータの問題を修正するためにできる手順およびコンテンツキャッシュの同期状態を説明します。

表 C-3 コンテンツキャッシュの同期状態

状態	意味および修正の手順
初期化しています	コンテンツキャッシュを初期化しています。これは最初に同期する前に新しくクライアントを有効化する通常の段階であり、気にする必要はありません。
まだダウンロードしていません	コンテンツキャッシュは初期化し終わりましたが、まだファイルのダウンロードを開始していません。この場合も、コンテンツキャッシュのダウンロードの処理の通常部分であり、気にする必要はありません。
完了	コンテンツキャッシュの同期は正常に完了しました。デスクトップのポリシーの設定によって、ユーザーのコンテンツキャッシュへのアイテム内容のダウンロードに関係する場合も関係しない場合もあります。
サーバーのファイルを待機しています	コンテンツキャッシュが Enterprise Vault サーバーへのファイルの構築を待機中です。コンテンツキャッシュは PST ファイルの Enterprise Vault サーバーへの構築を待機し、同じファイルをユーザーのローカルコンテンツキャッシュへダウンロードします。
ダウンロード	コンテンツキャッシュは現在 Enterprise Vault サーバーからファイルをダウンロードしています。
再試行中	Enterprise Vault サーバーとの通信エラーのあとに、コンテンツキャッシュがダウンロードの再試行をしています。クライアントは接続性を一時的に失う可能性があります。

状態	意味および修正の手順
BITS を利用できません	Microsoft Windows の BITS サービスがインストールされていないか利用できません。対象のクライアントコンピュータで、BITS (Background Intelligent Transfer Service) がサービスとしてリストに登録済みで、開始されているかを確認します。
構築に失敗しました	<p>ファイルの構築中またはローカルコンテンツキャッシュで構築されたファイルを統合中に Enterprise Vault サーバーでエラーが発生しました。Enterprise Vault Outlook アドインは次回の同期スケジュールの一部としてコンテンツキャッシュのダウンロードを再試行します。この状態が多くのユーザーに定期的に発生する場合、Enterprise Vault サーバーまたはクライアントで考えられる問題を調べる必要があります。</p> <p>p.386 の「Enterprise Vault サーバーのボルトキャッシュの問題の識別と解決」を参照してください。</p> <p>p.388 の「エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決」を参照してください。</p>
BITS のダウンロードエラー	Enterprise Vault サーバーからファイルをダウンロードしているときに Microsoft Windows BITS 機能がエラーを報告しました。ダウンロードは次回の同期スケジュールの間に再試行されます。この状態が個々のユーザーで定期的に起きる場合は、そのクライアントコンピュータで BITS コンポーネントを調査してください。
アーカイブの追加に失敗しました	<p>コンテンツキャッシュのコンポーネントで利用可能なアーカイブの追加処理の試行中にエラーが発生しました。次のスケジュールされた同期中に再試行されます。この状態が個々のユーザーに定期的に発生する場合、対象のコンピュータのクライアントログファイルを調べて元の問題を診断する必要があります。</p> <p>p.391 の「Enterprise Vault クライアントログファイルの表示」を参照してください。</p>
接続できませんでした	コンテンツキャッシュは選択したアーカイブで対象の Enterprise Vault サーバーに接続できませんでした。この状態が続くことはありません。Enterprise Vault サーバーへの接続は Outlook アドインが同期の状態を報告する必要条件だからです。
ファイルがロックされました	コンテンツキャッシュが依存しているクライアントサイドのファイル (DatabaseList.ini) がロックされているかまたは使用中です。Outlook を再起動することでこの問題が修復される可能性があります。そうでない場合、対象のクライアントコンピュータを再起動することでファイルが再度ロック解除され、使用可能になるはずです。
Unspecified error	<p>コンテンツキャッシュで不特定のエラーが発生しました。</p> <p>p.388 の「エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決」を参照してください。</p>
不明なエラー	<p>コンテンツキャッシュで不明なエラーが発生しました。</p> <p>p.388 の「エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決」を参照してください。</p>

表 C-4 ではクライアントコンピュータの問題を修正するためにできる手順およびヘッダーの同期状態を説明します。



表 C-4 ヘッダーの同期状態

状態	意味および修正の手順
アーカイブが変更されました	ヘッダーの同期が進行中に、ユーザーが変更されたためのアーカイブ情報です。これは次の同期スケジュールによって解消します。
失敗 (サーバー同期)	ヘッダーの同期はサーバーが <b>Enterprise Vault</b> サーバーのアーカイブ階層を同期していたために失敗しました。これは <b>Enterprise Vault</b> サーバーのアーカイブの一時的な状態であり、次の同期スケジュールは通常どおり完了するはずです。
同期が防止されました	ヘッダーの同期は仮想ボルトのユーザーアクティビティによって行われませんでした。ユーザーが仮想ボルトで特定の処理 (たとえば、フォルダの移動) を実行している間は同期ができません。同期は次の同期スケジュールで再試行されます。
ディスク領域が不足しています	ヘッダーの同期のためのクライアントコンピュータのディスク領域が不足しています。同期が完了できるように、利用可能なディスク領域の容量を増やす必要があります。 <b>Enterprise Vault Outlook</b> アドインの同期には、デフォルトで <b>100MB</b> が必要です。
スロットを取得できませんでした	ヘッダーの同期が <b>Enterprise Vault</b> サーバーからの同期スロットを取得できませんでした。この同期スロットは <b>Enterprise Vault</b> サーバーで起きる並行ヘッダー同期の数を限定するために残っています。この状態が多くのユーザーに定期的に起きる場合、サーバーの構成で多数の並行同期を許可してください。 <a href="#">p.391 の「ボルトキャッシュと仮想ボルトのパフォーマンスチューニング」</a> を参照してください。
接続できませんでした	<b>Enterprise Vault Outlook</b> アドインが <b>Enterprise Vault</b> サーバーに接続できなかったため、ヘッダーは同期しませんでした。この状態が続くことはありません。 <b>Enterprise Vault</b> サーバーへの接続は <b>Outlook</b> アドインが同期の状態を報告する必要条件だからです。
オフライン	<b>Enterprise Vault Outlook</b> アドインに現在 <b>Enterprise Vault</b> サーバーへの接続がありません。この状態が続くことはありません。 <b>Enterprise Vault</b> サーバーへの接続は <b>Outlook</b> アドインが同期の状態を報告する必要条件だからです。
破損した MDC	ヘッダーの同期は破損した <b>MDC</b> ファイルが原因で続行できませんでした。対象ユーザーのコンピュータから <b>MDC</b> ファイルを削除する必要があります。 <a href="#">p.389 の「破損した MDC ファイルにより引き起こされる問題の解決」</a> を参照してください。
不明なエラー	ヘッダーの同期で不明のエラーが発生しました。 <a href="#">p.388 の「エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決」</a> を参照してください。
完了	ヘッダーの同期は正常に完了しました。
まだ同期していません	ヘッダーの同期はまだ開始していません。これはユーザーが <b>Enterprise Vault</b> との同期をまだ選択していないという、追加で利用可能なアーカイブである可能性があります。

状態	意味および修正の手順
保留	ヘッダーの同期は保留中であり、まだ開始していません。この状態が[Vault Cache Diagnostics]ページに表示されることはありませんが、同期が開始する前にクライアントコンピュータで表示される可能性があります。
進行中	ヘッダーの同期は進行中です。この状態が[ボルトキャッシュの診断]ページに表示されることはありませんが、同期中にクライアントコンピュータで表示される可能性があります。
スロットの取得中	Enterprise Vault Outlook アドインは同期を続行するために Enterprise Vault サーバーから同期スロットの取得を試行しています。この状態は[ボルトキャッシュの診断]ページにもクライアントコンピュータにも表示されないはずです。これは同期スロットが取得されたか取得されなかったときにほかの状態と置換された、内部の一時停止状態です。
スロットを待機中	Enterprise Vault Outlook アドインは同期を続行するために Enterprise Vault サーバーから同期スロットの取得を試行しています。この状態は[ボルトキャッシュの診断]ページにもクライアントコンピュータにも表示されないはずです。これは同期スロットが取得されたか取得されなかったときにほかの状態と置換された、内部の一時停止状態です。
リセット	ヘッダーの同期はユーザーにより手動でリセットされました。この状態は[ボルトキャッシュの診断]ページにもクライアントコンピュータにも表示されないはずです。これは同期が再開したときにほかの状態と置換された、内部の一時停止状態です。
Suspended	ヘッダーの同期はユーザーにより中断されました。この状態は[ボルトキャッシュの診断]ページにもクライアントコンピュータにも表示されないはずです。これは同期が再開したときにほかの状態と置換された、内部の一時停止状態です。
クライアントのシャットダウン	ヘッダーの同期はユーザーによるシャットダウンのため停止しました。この状態は[ボルトキャッシュの診断]ページにもクライアントコンピュータにも表示されないはずです。これは Outlook が再起動したときにほかの状態と置換された、内部の一時停止状態です。
Unknown	ヘッダーの同期で不明のエラーが発生しました。  p.388 の「エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決」を参照してください。

## Enterprise Vault サーバーのボルトキャッシュの問題の識別と解決

Enterprise Vault サーバーのいくつかのコンポーネントがボルトキャッシュの同期の一部として使われます。

表 C-5 は、これらのコンポーネントをリストし、それらの用途と問題を識別する方法説明します。

表 C-5 Enterprise Vault サーバーのコンポーネント

コンポーネント	用途	問題の識別
IIS	同期の処理中に使用されるいくつかの Enterprise Vault の Web ページをホストします。構築されたコンテンツキャッシュファイルをクライアントの BITS サービスに提供し、仮想ボルトを通してアーカイブされたファイルを受信します。	影響を受けるサーバーでプロセス w3wp.exe を使用して DTrace を行います。IIS のログファイルを検査してあらゆる問題を検出します。  p.391 の「 <a href="#">IIS ログファイルの検査</a> 」を参照してください。
EVMonitoring.exe (キャッシュマネージャ)	コンテンツキャッシュのビルダーコンポーネントが、クライアントコンピュータによってダウンロードされる PST ファイルのアセンブルと構築を行うためのディスクの場所。キャッシュマネージャのコンポーネントは、個々のサーバーのプロパティの[キャッシュ]タブで指定されたディスク容量を管理します。	Veritas Enterprise Vault イベントログは、ディスク容量の不足に関する深刻な問題を記述します。他のすべての問題には、EVMonitoring.exe による DTrace 処理が必要です。  p.388 の「 <a href="#">ボルトキャッシュサーバーコンポーネントのトレース</a> 」を参照してください。
EVMonitoring.exe (コンテンツキャッシュの要求マネージャ)	コンテンツキャッシュ用のファイルをビルドするためのクライアント要求を処理します。いくつかの並行ビルドのスロットルを実行します。	Veritas Enterprise Vault イベントログは深刻な問題を記述します。他のすべての問題には、EVMonitoring.exe による DTrace 処理が必要です。  p.388 の「 <a href="#">ボルトキャッシュサーバーコンポーネントのトレース</a> 」を参照してください。
MigratorServer.exe (コンテンツキャッシュのビルダー)	コンテンツキャッシュ要求マネージャのコンポーネントを介して、クライアントコンピュータからの要求の結果としてファイルをビルドします。これらのファイルは、のちにキャッシュの場所から BITS を経由してダウンロードされます。	Veritas Enterprise Vault のイベントログにはすべての重大な問題が記入されます。他のすべての問題または調査には、MigratorServer.exe による DTrace 処理が必要です。  p.388 の「 <a href="#">ボルトキャッシュサーバーコンポーネントのトレース</a> 」を参照してください。
EVMonitoring.exe (コンテンツキャッシュのファイルサーバー)	BITS を経由してダウンロードを実行しているクライアントコンピュータに完了したファイルを提供します。	Veritas Enterprise Vault のイベントログにはすべての重大な問題が記入されます。他のすべての問題または調査には、EVMonitoring.exe による DTrace 処理が必要です。  p.388 の「 <a href="#">ボルトキャッシュサーバーコンポーネントのトレース</a> 」を参照してください。

## ボルトキャッシュサーバーコンポーネントのトレース

Enterprise Vault で提供される DTrace ツールを使用して、次の Enterprise Vault サーバーのコンポーネントをトレースできます。DTrace について詳しくは Enterprise Vault の『ユーティリティ』ガイドを参照してください。

- IIS (w3wp.exe)
- コンテンツキャッシュの要求マネージャ(EVMonitoring.exe)
- キャッシュマネージャ(EVMonitoring.exe)
- コンテンツキャッシュビルダー(MigratorServer.exe)
- コンテンツキャッシュファイルサーバー(EVMonitoring.exe)

たとえば、DTrace の EVMonitoring.exe を対象にし、**cache** という単語を含む行のみをリストするフィルタを設定すると、下記に示すような行が見つかるかもしれません。この行はキャッシュサイズに関する問題を診断するのに役立ちます。

```
232 11:20:49.508 [3,044] (EVMonitoring) <5944> EV-H {CacheManager}  
Updating cache Size: New:271360
```

## エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決

クライアントコンピュータの同期の問題を識別した後、必要に応じてどのような手動の介入が必要となるかを判断します。状態によっては介入を必要としません。これらは次のスケジュール設定済み同期の一部として解決されます。

p.383 の「[クライアントの同期の状態テキスト](#)」を参照してください。

次に、仮想ボルトが有効になっているにもかかわらず、それがユーザーの Outlook のナビゲーションペインに表示されない場合は、ユーザープロファイルのメッセージストアを記述する MAPISVC.INF ファイルが正しく設定されているかを確認してください。ファイルが正しく設定されているかを確認する最も簡単な方法は、Outlook アドインとして提供される Enterprise Vault の情報機能を使用することです。この方法は後述します。

MAPISVC.INF ファイルが正しく設定されていない場合は、Enterprise Vault 『ユーティリティ』ガイドで説明するように、ResetEVClient ユーティリティを実行してください。

深刻な問題がある場合は、クライアントログファイルを検査します。同期の問題が継続する場合は、同期試行中のトレースがログファイルに正しくキャプチャされているかを確認してください。スケジュール設定済み同期で発生する問題は、手動同期の後でもログファイルで確認できるはずですが。

p.391 の「[Enterprise Vault クライアントログファイルの表示](#)」を参照してください。

## MAPISVC.INF が正しく設定されているかを確認する方法

- 1 Outlook を起動します。Ctrl と Shift キーを同時に押し、Enterprise Vault Outlook アドインボタンの 1 つをクリックします。
- 2 [Enterprise Vault 診断] ダイアログボックスで、[ボルト情報] をクリックします。
- 3 [Enterprise Vault 情報] ウィンドウで、VIRTUAL VAULT CONFIGURATION セクションが表示されるまで下方にスクロールし、MAPISVC.INF の EVMSP 設定の結果として[OK]が示されているかを確認してください。

## 破損した MDC ファイルにより引き起こされる問題の解決

メタデータキャッシュ(MDC)ファイルには、Enterprise Vault がボルトキャッシュの同期で使用するアイテムヘッダー情報とフォルダ構造が含まれています。MDC ファイルが破損している場合、Enterprise Vault Outlook アドインは表示されたアーカイブを同期できません。ただし場合によってはボルトキャッシュが使用可能であっても、クライアントレポートでヘッダーの同期状態に MDC の破損と示されることがあります。

MDC ファイルが破損している場合は、次のいずれかを実行してください。

- (推奨する方法) ボルトキャッシュの部分リセットを実行します。  
p.390 の「[クライアントコンピュータのボルトキャッシュのリセット](#)」を参照してください。
- 部分リセットが不可能な場合、あるいはリセットしても破損した MDC ファイルによる問題が修復されなかった場合は、MDC ファイルを削除します。  
MDC ファイルは、Enterprise Vault Outlook アドインが次の同期を試行するときに再生成されます。

## MDC ファイルを削除する方法

- 1 [Enterprise Vault 情報] ウィンドウを開きます。  
p.388 の「[エンドユーザーのコンピュータのボルトキャッシュの問題の識別と解決](#)」を参照してください。
- 2 VIRTUAL VAULT STORES IN PROFILE セクションが表示されるまで下方にスクロールし、影響を受けたアーカイブを確認するために File name の行を見つけます。この行に MDC ファイルのパスが示されています。
- 3 Outlook を閉じた後もパスとファイル名を参照できるように、[クリップボードに送信]をクリックし、テキストエディタに情報を貼り付けます。
- 4 [OK]をクリックします。
- 5 Outlook を終了します。
- 6 MDC ファイルを削除します。

## 壊れた DatabaseList.ini ファイルにより引き起こされる問題の解決

ボルトキャッシュは、キャッシュに保存されたメッセージデータを含むファイルを追跡するのに DatabaseList.ini ファイルを使います。Enterprise Vault Outlook アドインの古いバージョンを使っている場合、このファイルが壊れることがあります。この問題が発生すると、ボルトキャッシュはアイテムをダウンロードできなくなり、ボルトキャッシュの診断ページのコンテンツキャッシュの同期状態に「不特定のエラー」または「不明なエラー」と表示されます。

DatabaseList.ini ファイルが壊れているかを調べる前に Outlook を終了させる必要があります。DatabaseList.ini は、%HOMEPATH%\¥AppData¥Local¥KVS¥Enterprise Vault フォルダにあります。

DatabaseList.ini ファイルが壊れている場合には、次のいずれかを実行します。

- Outlook アドインの最新バージョンにアップグレードします。これは推奨される方法です。
- アップグレードを行えない場合、あるいはアップグレードは完了しているがこの問題がアップグレード前から解決されていない場合は、ボルトキャッシュをリセットします。  
p.390 の「[クライアントコンピュータのボルトキャッシュのリセット](#)」を参照してください。

## クライアントコンピュータのボルトキャッシュのリセット

解決の手段がすべて失敗してしまうようなクライアントのボルトキャッシュの重大な問題に対しては、ボルトキャッシュをリセットします。

ボルトキャッシュのリセットには次の種類があります。

- 部分リセット - 次回のヘッダー同期で完全な同期が行えるようにします。
- 完全リセット - ヘッダー情報とコンテンツキャッシュの両方に対して強制的に初期同期を行います。ボルトキャッシュを初めて有効にした場合と同じ状態にする効果があります。

---

**メモ:** ユーザーのコンテンツキャッシュを構築し直すために Enterprise Vault サーバーに過大なオーバーヘッドがかかるので、完全リセットは可能な限り避けることをお勧めします。

---

## ボルトキャッシュをリセットする方法

- 1 Outlook を起動します。Ctrl と Shift キーを同時に押し、Outlook アドインボタンの 1 つをクリックします。
- 2 上記の完全リセットに関する注意書きをよくお読みください。  
[Enterprise Vault 診断] ダイアログボックスで、[部分リセット] をクリックするか、完全リセットを行うには [リセット] をクリックします。
- 3 表示されるプロンプトに対して、[はい] をクリックしてリセットを実行します。

## Enterprise Vault クライアントログファイルの表示

Enterprise Vault クライアントログファイルはボルトキャッシュの同期についての情報を提供します。

### Enterprise Vault クライアントログファイルを表示するには

- 1 Outlook を起動します。Ctrl と Shift キーを同時に押し、Enterprise Vault Outlook アドインボタンの 1 つをクリックします。
- 2 [Enterprise Vault 診断] ダイアログボックスで、[ログを開く] をクリックします。

## ボルトキャッシュと仮想ボルトのパフォーマンスチューニング

Enterprise Vault サーバーのいくつかのポリシー設定は、ボルトキャッシュの同期のパフォーマンスに影響を与えます。詳しくは、『Virtual Vault Best Practice Guide』を参照してください。このドキュメントは、Veritas サポート Web サイトの次のアドレスから利用可能です。

<https://www.veritas.com/docs/100022180>

## IIS ログファイルの検査

クライアント同期の問題を診断する場合の最終手順として、Enterprise Vault サーバーの IIS ログファイルの検査を行います。このファイルは、同期の間に使われるさまざまな Web ページと個々のクライアントコンピュータ間の対話を示します。

通常、IIS ログファイルは C:\inetpub\logs\LogFiles\W3SVC1 にあります。

次の例はログファイルの典型的な内容を示したものです。

```
2012-08-19 09:29:59 10.12.128.42 GET /EnterpriseVault/Slot.aspx
ArchiveID=10F4ECDC3CF80D240B591162DC0F122321110000ECT01-EVSVR-VM.mail2.lab&Timeout=0
80 MAIL2¥mike_smith 10.12.128.36 EnterpriseVaultOutlookExt-V10.0.2.658 200 0 0 6474
```

上記の例は次のように理解できます。

- 要求は、2012年8月19日 09:29 AM に、Slot.aspx に対して行われました。

- 要求にはアーカイブ ID が含まれており、このケースでは同期を試みているクライアントのアーカイブ ID でした。
- 要求ユーザーは MAIL2¥mike\_smith でした。
- 応答コードは 200 (成功) でした。

表 C-6 は、同期中に使われる Web ページと、それらの用途および同期における可能な効果を示します。応答コードの 200 は成功を示します。

表 C-6 同期中に使われる Web ページ

Web ページ	用途	メモ
DeleteArchivedItems.aspx	クライアントがこの Web ページを呼び出した場合、削除すべきアイテムのリストが渡され、結果として仮想ボルトからアイテムが削除されます。	応答コードの 500 は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。
DeleteJob.aspx	クライアントによって呼び出され、1 つ以上のファイルが正常にダウンロードされたことが示されます。これにより Enterprise Vault サーバーがキャッシュの場所からファイルを削除できるようになります。	応答コードの 500 または 501 は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。
DownloadContent.aspx	完了したファイルをキャッシュの場所からクライアントにダウンロードするために、クライアントの BITS コンポーネントによって使われます。	ダウンロードで発生した問題は、次の HTTP 応答コードで示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>■ 403: アクセスが拒否されました</li><li>■ 404: ファイルが見つかりません(キャッシュから削除された可能性あり)</li><li>■ 408: Transient/Timeout</li><li>■ 505/501: 致命的エラー</li></ul> 応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。
FullSync.aspx	インデックスクエリーを実行し、初回の完全なヘッダー同期を容易にするためにクライアントにデータを返します。	応答コードの 500 は問題を示します(実行される基本インデックスクエリーとともに表示される場合があります)。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。
GetArchiveFolderHierarchy.aspx	アーカイブ階層(アーカイブフォルダのリスト)を取得します。ヘッダーの同期のために使われます。	応答コードの 500 は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。



Web ページ	用途	メモ
GetIncrSlotWithServer.aspx	コンテンツキャッシュ用のインクリメンタルビルドを実行するために、サーバーを持つスロットを取得するのに使われます。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> または <code>EVMonitoring.exe</code> を使用します。
GetSlotWithServer.aspx	コンテンツキャッシュ用の初回(完全)ビルドを実行するために、サーバーを持つスロットを取得するのに使われます。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> または <code>EVMonitoring.exe</code> を使用します。
GetVaultInformation.aspx	コンテンツキャッシュ同期中に、アーカイブの日付範囲のような情報を手に入れるのに使われます。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> を使用します。
HasJobBuiltYet.aspx	サーバー上で構築されるファイルがダウンロードできるようになるのはいつなのかを判断するために、クライアントはこの <b>Web</b> ページを通してサーバーをポーリングします。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> または <code>EVMonitoring.exe</code> を使用します。
IncrSync.aspx	段階的なヘッダー同期のデータを取得します。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> を使用します。
ListArchives.aspx	同期の前に、アクセス可能なアーカイブのリストをクライアントに返します。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> を使用します。
Slot.aspx	スロットを取得するためにクライアントによって呼び出され、ヘッダー同期に進みます。	応答コード <b>500</b> が繰り返される場合は、同期を試みているユーザー数の潜在的なボトルネックを示します。  <a href="#">p.391 の「ボルトキャッシュと仮想ボルトのパフォーマンスチューニング」</a> を参照してください。
SyncPoint.aspx	同期の種類(完全または段階的)を決定するためにクライアントによって使われます。	応答コードの <b>500</b> は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、 <b>DTrace</b> の <code>w3wp.exe</code> を使用します。

Web ページ	用途	メモ
UpdateArchivedItemMetadata.aspx UpdateArchivedFolderHierarchy.aspx	仮想ボルトで実行されたユーザー更新のすべてを Enterprise Vault サーバーに知らせるのに使われます。	応答コードの 500 は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe を使用します。
UploadItem.aspx	仮想ボルトにドラッグされたアイテムをアップロード(すなわちアーカイブ)するのに使われます。	応答コードの 500 または 520 は問題があることを示します。応答の原因に対する詳しい情報を得るには、DTrace の w3wp.exe または EVMonitoring.exe を使用します。

## Enterprise Vault コンポーネントに関する問題

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- 「トラブルシューティング: すべてのタスクとサービス」
- 「トラブルシューティング: ファイルシステムアーカイブ」
- 「トラブルシューティング: ディレクトリサービス」
- 「トラブルシューティング: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク」
- 「トラブルシューティング: アイテムの復元」
- 「トラブルシューティング: インデックス」
- 「トラブルシューティング: ストレージサービス」
- 「トラブルシューティング: ショッピングサービス」
- 「トラブルシューティング: Web Access アプリケーション」
- 「トラブルシューティング: Enterprise Vault Operations Manager と監視データベース」
- 「トラブルシューティング: Enterprise Vault Reporting と FSA レポート」
- 「特定の問題」
- 「ユーザーのアイテムの復元」

## トラブルシューティング: すべてのタスクとサービス

このセクションでは Enterprise Vault のタスクとサービスの問題について説明し、次のトピックが含まれます。

- 「タスクまたはサービスの起動の失敗: すべてのタスクとサービス」

- 「MAPI セッションの作成の失敗: すべてのタスクとサービス」
- 「MSMQ メッセージの作成またはオープンのエラー: すべてのタスクとサービス」
- 「ユーザーにアーカイブへのアクセス権がない: すべてのタスクとサービス」
- 「システムリソース不足によるタスクまたはサービスの停止: すべてのタスクとサービス」

## タスクまたはサービスの起動の失敗: すべてのタスクとサービス

Enterprise Vault タスクまたはサービスが起動に失敗する場合は、次のものが実行されていることをチェックします。

- Enterprise Vault Directory Service
- MSMQ プライマリエンタープライズコントローラまたはメッセージキューサービスのいずれか
- SQL Server への接続が失われ、Enterprise Vault サービスをシャットダウンする必要があるときは、個別のサービスを手動で停止し、最後にディレクトリサービスと管理サービスを停止します。管理サービスを停止し、それによって他のサービスが停止されるようにするのではなく、この方法でサービスを停止する必要があります。

Exchange タスクを開始できない場合は、Enterprise Vault サーバーに Microsoft Outlook をインストールしていることも確認します。

## MAPI セッションの作成の失敗: すべてのタスクとサービス

ディレクトリサービスと管理サービス以外の Enterprise Vault のサービスとタスクは、ボルトサービスアカウントで実行します。サービスまたはタスクを別のアカウントで実行するように設定している場合や、ボルトサービスアカウントに Microsoft Exchange Server の必要な権限を付与していない場合は、Exchange ジャーナルタスクが停止されるまで、ログにエラーが記録され続けます。

Exchange ジャーナルタスクは 1 分おきに Microsoft Exchange Server のジャーナルメールボックスの処理を試行し続けます。この問題により、Windows イベントビューアには次のように表示されます。

\* retry count:

```
Could not get a MAPI session from the session pool
whilst processing mailbox /o=ACME/ou=Site2000/
cn=Recipients/cn=lvservice
```

また、次のメッセージも表示されます。

```
Could not scan user mailbox
/o=ACME/ou=Site2000/cn=Recipients/cn=lvservice,
unable to get the state of the users mailbox
```

次のことをチェックします。

- **Exchange Server** コンピュータが (プライベートメッセージストア) 実行していますか。
- **Enterprise Vault** のメールボックスが削除されていますか。
- ボルトサービスアカウントの権限が **Exchange** のツリーに設定されていますか。

## MSMQ メッセージの作成またはオープンエラー: すべてのタスクとサービス

- タスクまたはサービスが **MSMQ** のキューにアクセスする権限を持っているかを確認します。
- **MSMQ** プライマリエンタープライズコントローラまたはバックアップエンタープライズコントローラが実行されていますか。

## ユーザーにアーカイブへのアクセス権がない: すべてのタスクとサービス

ユーザーがアーカイブを実行するにはアーカイブへの書き込みアクセス権、取り込みを行うには読み取りアクセス権が必要です。これはバックグラウンドでアーカイブする場合にも適用されます。またユーザーはメールボックスの所有者であり、**Exchange** メールボックスタスクを実行しているシステムの **Local Administrators** グループのメンバーである必要があります。

## システムリソース不足によるタスクまたはサービスの停止: すべてのタスクとサービス

管理サービスによってシステムのリソースが不足していることが検出されると、そのシステムに存在する **Enterprise Vault** タスクとサービスが停止されます。これによって追加のイベントがログに記録される場合もあります。ログのコメントには、タスクまたはサービスをただちに停止できなかったことが示されます。タスクまたはサービスを再起動する前に、停止するタスクまたはサービスに関連付けられたすべての処理が終了されていることを確認してください。

処理の状態をチェックするには、**Windows** のタスクバーを右クリックし、コンテキストメニューで [タスク マネージャ] を選択します。

## トラブルシューティング: ファイルシステムアーカイブ

ファイルシステムアーカイブは、**Web Access** アプリケーションのコンピュータが **Internet Explorer** の信頼できるサイトの一覧に含まれるように、**Internet Explorer** を自動的に設定します。ファイルシステムアーカイブでは、アーカイブの実行時にファイルサーバーが処理されるたびにこの設定をチェックします。

プレースホルダサービスを実行するコンピュータで **Internet Explorer** のセキュリティ設定が正しくない場合、ユーザーはプレースホルダのショートカットを開くことができません。この操作を試行するたびに、プレースホルダコンピュータの **Windows** アプリケーションログに、ファイルのダウンロードでエラーが発生したというエントリが生成されます。

### Internet Explorer のセキュリティ設定を行う方法

- 1 プレースホルダサービスを実行しているコンピュータに、ボルトサービスアカウントとしてログオンします。
- 2 の[コントロールパネル]の[インターネットオプション]をダブルクリックします。
- 3 [セキュリティ]タブをクリックします。
- 4 ゾーンの一覧で、[イントラネット]をクリックします。
- 5 [サイト]をクリックします。
- 6 [詳細設定]をクリックします。
- 7 **Web Access** アプリケーションのコンピュータ名を入力し (DNS ドメインは入力しない)、[追加]をクリックします。
- 8 [OK]をクリックします。
- 9 [OK]をクリックして、ローカルイントラネットの設定を閉じます。
- 10 [インターネットオプション]ダイアログボックスの[セキュリティ]タブで、[レベルのカスタマイズ]をクリックします。
- 11 [セキュリティの設定]ダイアログボックスの[ユーザー認証]で、[イントラネットゾーンでのみ自動的にログオンする]または[現在のユーザー名とパスワードで自動的にログオンする]のいずれかを選択します。
- 12 [OK]をクリックして、[セキュリティの設定]ダイアログボックスを閉じます。
- 13 [OK]をクリックして、[インターネットオプション]ダイアログボックスを閉じます。

## トラブルシューティング: ディレクトリサービス

ディレクトリサービスには、**Enterprise Vault** ソフトウェアを実行する各システムで実行されるクライアントがあります。ディレクトリサービスとクライアントの両方が **Enterprise Vault** イベントログにイベントを記録します。ディレクトリサービスに問題が発生した場合の最初の手順は、問題が存在する場所を特定するイベントを検索することです。

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- [「クライアントの問題: ディレクトリサービス」](#)
- [「サービスの問題: ディレクトリサービス」](#)
- [「SQL の問題: ディレクトリサービス」](#)
- [「セキュリティの問題: ディレクトリサービス」](#)

- 「トレースレベルの設定: ディレクトリサービス」

## クライアントの問題: ディレクトリサービス

- ログのイベントは、クライアントにレポートされたサービス関連の問題を表している場合があります。その場合は、サービスを実行しているコンピュータをチェックします。
- クライアントとサービス間のネットワークが停止している場合があります。コマンドプロンプトウィンドウから **ping** を実行し、ディレクトリサービスのコンピュータが利用可能であることをチェックします。両方のディレクトリでテストを実行します。
- ディレクトリサービスが実行されていることをチェックします。実行されていない場合、クライアントから接続できません。

## サービスの問題: ディレクトリサービス

- 前提条件ソフトウェアが利用可能であることをチェックします。ディレクトリサービスにはすべての必要なソフトウェアが必要です。ADO (MDAC の一部としてインストールされる) と SQL がインストールされ、操作可能である必要があります。
- EnterpriseVaultDirectory ODBC DSN が正しく設定されていることをチェックします。ディレクトリサービスは、EnterpriseVaultDirectory という ODBC システムの DSN に依存しています。これは設定ウィザードによって自動的に追加されますが、コントロールパネルの ODBC を使って誰でも修正できます。これが正しく設定されていることをチェックします。
- SQL パスワードが一致していることをチェックします。SQL ログインが失敗したことを知らせるイベントが表示される場合があります。これは、ディレクトリサービスが EnterpriseVault という SQL ログイン ID と関連付けられたパスワードに依存しているためです。パスワードが一致していることを確認してください。管理コンソールを使って Enterprise Manager とディレクトリサービスの SQL パスワードを設定できます。

## SQL の問題: ディレクトリサービス

- SQL のイベントデータは Enterprise Vault イベントに含まれます。SQL は、ディスク領域が不足しているデータベースなど、いくつかの理由を表すイベントをレポートできます。
- そのため、SQL Enterprise Manager を熟知しておく必要があります。このツールを使って SQL Server と Enterprise Vault ディレクトリデータベースを管理できます。
- SQL データベースエンジンに送信されたコマンドを確認するには、SQL Server Profiler を使います。
- 送信された SQL コマンドを SQL が認識しない場合があります。SQL Server Profiler を使うと、そのコマンドをチェックできます。ディレクトリサービスがログに記録したイベントによってそのコマンドがわかりますが、これは SQL がディレクトリサービスに制御

を返した場合のみです。SQL Server Profiler は SQL Enterprise Manager から起動します。

## セキュリティの問題: ディレクトリサービス

- 作成、更新、削除を行うには、ディレクトリサービスのコンピュータの **Local Administrators** グループに所属するアカウントを使う必要があります。
- すべてのコンポーネントにはディレクトリサービスの読み取り権限がありますが、データを書き込むには書き込み権限が必要です。ディレクトリサービスによって保守されているデータを修正するユーザーは、ディレクトリコンピュータで **Administrators** というローカルグループのメンバーである必要があります。
- SQL データベースの権限が正しい必要があります。
- SQL データベースの作成時に、適切なすべての権限がテーブルに適用されます。つまり、**EnterpriseVault** という SQL ログイン ID はすべてのテーブルにアクセスできます。誰かがうっかりこれらの権限を修正すると、アクセスが拒否される場合があります。アプリケーションイベントログには、このような問題が表示されます。
- ディレクトリによって格納されたパスワードは、SQL に設定されたパスワードと一致する必要があります。パスワードを変更するには、常に管理コンソールを使います。

## トレースレベルの設定: ディレクトリサービス

- タスクとサービスに問題がある場合は、**Enterprise Vault** 管理コンソールを使ってトレースのレベルを変更します。問題を診断する場合は、トレースのレベルを高く設定します。
- クライアントに問題がある場合は、次のレジストリキーの下に「**Trace Level**」という DWORD 値を作成します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥SOFTWARE
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥Directory
```

**Trace Level** に設定可能な値は次のとおりです。

0	なし
1	低
2	標準
3	高

## トラブルシューティング: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク

このセクションは、Exchange メールボックスタスク、パブリックフォルダタスク、ジャーナルタスクの問題に対応します。

アーカイブタスクは、Microsoft Exchange Server のメールボックスまたはパブリックフォルダ全体をスキャンし、指定した選択基準を使ってアーカイブするアイテムを選択します。指定した選択基準の上書きをユーザーに許可した場合は、個々のユーザーに異なる基準が設定される場合があります。

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- 「アーカイブが完全に失敗する: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク」
- 「アーカイブが部分的に失敗する: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク」
- 「ドメイン間のアーカイブの設定: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク」

### アーカイブが完全に失敗する: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク

次のいずれかの理由で、アーカイブが失敗する可能性があります。

- 設定に問題があります。アプリケーションイベントログで、問題を解決するためのメッセージがあるかどうかをチェックします。
- 通信またはアクセスに問題があります。アプリケーションイベントログで、問題を解決するためのメッセージがあるかどうかをチェックします。
- アーカイブスケジュールが設定されていない場合があります。スケジュールを設定していない場合、Exchange メールボックスタスクとパブリックフォルダタスクは[今すぐ実行]を使わないと実行されません。アプリケーションイベントログで、Exchange メールボックスタスクによって作成されたエントリをチェックします。[今すぐ実行]を使うとアーカイブは実行されますか。
- アーカイブが有効にされているメールボックスがありません。これは Exchange ジャーナルタスクには適用されません。
- Exchange メールボックスタスクまたはジャーナルタスクによる決定に従うことができるようにトレースを使います。

Enterprise Vault を使い始めたばかりの場合は、システムが通常の状態になるまでに複数のアーカイブが実行される場合があります。これは、新しいインストールでは、Exchange メールボックスタスクが 1 回の実行で処理できるアイテムよりも多くのアーカイブ対象のアイテムが存在する場合があるためです。Enterprise Vault は各メールボックスから少数のアイテムを取得し、その後でスケジュールにまだ時間が残っている場合は、もう一度実行してさらにアイテムを取得します。そのため、一部のアイテムは、次に Exchange メールボックスタスクが実行されるまで待機が必要な場合があります。



このバランス処理によって、アーカイブがすべてのメールボックスで均一に実行されることが保証されます。ただし、実際には無視していても、Enterprise Vault が一部のアイテムを無視しているように見える場合があります。

Microsoft Exchange Server で処理を監視できます。詳しくは Microsoft Exchange Server のマニュアルを参照してください。

## アーカイブが部分的に失敗する: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク

一部の Microsoft Exchange Server のメールボックスでアーカイブが完全に失敗しても他のサーバーでは動作したり、アーカイブされると予想したすべてのアイテムがアーカイブされなかったりするのには、いくつかの理由があります。

一部の Microsoft Exchange Server のメールボックスで Enterprise Vault がアーカイブに失敗する場合は、次のような理由が考えられます。

- 最も可能性の高い原因は、メールボックスのアーカイブが有効にされていないことです。
- Exchange メールボックスタスクを実行しているコンピュータの時計の時間が、数週間または数日など大きくずれている可能性があります。Exchange メールボックスタスクは、ローカルの時計を使って日時を判断します。この時計が Microsoft Exchange Server コンピュータの時計と大きく異なる場合は、アーカイブに影響します。テストシステムではこの問題に十分に注意するため、時刻が数分だけ異なる場合でも気づく可能性があります。

Enterprise Vault で一部のアイテムがアーカイブされ、他のアイテムがアーカイブされない場合は、次のいずれかの問題である可能性があります。

- ユーザーがアーカイブ設定を上書きしたため、アイテムがまったくアーカイブされないか、まだアーカイブされる準備ができていません。
- 新しく Enterprise Vault をインストールしたため、システムがまだ通常の状態ではありません。アーカイブされる準備ができていないすべてのアイテムが実際に処理されるまでに、Exchange メールボックスタスクが複数回実行される場合があります。
- ユーザーがアーカイブに対するアクセス権を持っていません。アプリケーションイベントログに目を通し、問題を解決するための助けとなるメッセージがないかチェックします。
- アイテムのアーカイブの準備ができる前にユーザーが時間を変更したため、アイテムがアーカイブの対象外になっています。
- アイテムのメッセージクラスが Enterprise Vault がアーカイブするメッセージクラスの一覧に追加されていません。さらにメッセージクラスを追加するには、[Exchange メッセージクラス] タブの [ディレクトリプロパティ] を使います。
- Enterprise Vault のメールボックスが削除されています。

アイテムがショートカットに変更されない場合は、次のことをチェックします。

- **Exchange** メールボックスタスクが実行されています。
- ストレージサービスが実行されています。
- ボルトストアプロパティの[セーフコピー]ページの設定。ボルトストアが元の場所にセーフコピーを維持している場合は、ボルトストアのバックアップを作成するかまたはボルトストアをレプリケートしないとアイテムはショートカットになりません。

## ドメイン間のアーカイブの設定: Exchange アーカイブまたはジャーナルタスク

Enterprise Vault サーバーのドメインと異なるドメインにある Exchange Server コンピュータに Exchange メールボックスタスクまたは Exchange ジャーナルタスクを追加する場合、タスクを追加する前に E2KAutoCreateMailboxContainerADsPath レジストリ値を設定する必要があります。

### E2KAutoCreateMailboxContainerADsPath レジストリ値を設定する方法

- 1 リモートドメインにある Exchange Server コンピュータにタスクを追加するには、Enterprise Vault Configuration プログラムまたは管理コンソールを使うコンピュータにログオンします。
- 2 レジストリエディタを起動します。
- 3 次のキーを検索します。

32 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥Software
    ¥KVS
      ¥Enterprise Vault
        ¥Admin
```

64 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  ¥Software
    ¥Wow6432Node
      ¥KVS
        ¥Enterprise Vault
          ¥Admin
```

- 4 文字列値 E2KAutoCreateMailboxContainerADsPath が存在しない場合は作成します。
- 5 E2KAutoCreateMailboxContainerADsPath に値 Users を入力します。

これで、リモート Exchange Server コンピュータにタスクを追加できます。タスクの追加後、E2KAutoCreateMailboxContainerADsPath の値をデフォルト値に変更したり、Users のままにしておくことができます。

## トラブルシューティング: アイテムの復元

アイテムの復元時に問題が発生した場合は、次の操作を行います。

- アプリケーションイベントログで詳細をチェックします。
- **Exchange** メールボックスタスクが実行されていることをチェックします。
- ストレージサービスが実行されていることをチェックします。
- アイテムがオフラインの場合は、**HSM**ソフトウェアが正しく実行されていることをチェックします。
- アーカイブと **Exchange** メールボックスの適切な権限を持っていることをチェックします。アイテムを復元するには、少なくともアーカイブに対する読み取りアクセス権を持っている必要があります。

## トラブルシューティング: インデックス

インデックスサービスが正しく機能するために、年の形式がグレゴリオ暦に該当するコンピュータにインストールする必要があります (現在 **2018**)。たとえば、コンピュータのグレゴリオ暦をタイの暦に設定すると、インデックスサービスが失敗します。これは、タイ太陽暦の現在の年が、サービスがサポートする日付範囲から外れるために発生します。

インデックスとインデックスボリュームを管理できるようにするために、インデックスツールを利用できます。

p.153 の「[インデックスウィザードについて](#)」を参照してください。

インデックスのトラブルシューティングを支援するために、次のようないくつかのドキュメントと記事をベリタスサポート **Web** サイトから入手できます。

- インデックスタスクのトラブルシューティングと監視については  
<https://www.veritas.com/docs/100030729>
- インデックスボリュームのエラーコードのトラブルシューティングについては  
<https://www.veritas.com/docs/100024458>

## トラブルシューティング: ストレージサービス

ストレージサービスのエラーは、**Windows** アプリケーションイベントログに分類[**Storage**]と[**Database**]で記録されます。

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- 「[ストレージサービスが起動しない: ストレージサービス](#)」
- 「[キュー作成時の失敗: ストレージサービス](#)」
- 「[キューのアクセスに失敗する: ストレージサービス](#)」
- 「[ポルトストアを作成できない: ストレージサービス](#)」

- 「アーカイブ、復元、再実行、オンライン操作を実行できない: ストレージサービス」
- 「アーカイブできない: ストレージサービス」
- 「Exchange のメッセージがアーカイブ待ちのままである: ストレージサービス」
- 「メッセージが復元されない: ストレージサービス」
- 「ボルトストアの作成エラー: ストレージサービス」

## ストレージサービスが起動しない: ストレージサービス

次の操作を行います。

- アプリケーションイベントログで詳細をチェックします。
- ディレクトリサービスが実行されていることをチェックします。
- インデックスサービスが実行されていることをチェックします。

## キュー作成時の失敗: ストレージサービス

次の操作を行います。

- アプリケーションイベントログで詳細をチェックします。
- MSMQ プライマリエンタープライズコントローラまたはバックアップエンタープライズコントローラが実行されていることをチェックします。
- Message Queue Explorer を使って、Exchange メールボックスタスクとジャーナルタスク、またはストレージサービスを実行しているコンピュータのエントリが、正しい権限を持っていることをチェックします。

### 権限をチェックする方法

- 1 Windowsで、[コンピュータの管理]を開始します。
- 2 左ペインで[コンピュータの管理]ノードを展開し、[サービスとアプリケーション]ノードを展開します。
- 3 [メッセージキュー]を右クリックし、コンテキストメニューで[プロパティ]をクリックします。が表示されます。
- 4 [メッセージキューのプロパティ]ウィンドウで、[追加]をクリックします。
- 5 [ユーザー、コンピュータ、またはグループの選択]ウィンドウで、[場所]の次に[ディレクトリ全体]を選択します。
- 6 一覧の[Administrators]をクリックし、[追加]をクリックします。
- 7 [OK]をクリックして、[メッセージキューのプロパティ]ウィンドウに戻ります。
- 8 [Administrators]をクリックします。
- 9 [権限]の下に[フルコントロール]の横の[許可]を選択します。

10 [OK]をクリックします。

11 [コンピュータの管理]を閉じます。

## キューのアクセスに失敗する: ストレージサービス

キューのアクセス権限をチェックします。

## ボルトストアを作成できない: ストレージサービス

次の操作を行います。

- アプリケーションイベントログで詳細をチェックします。
- SQL Server が実行されていることをチェックします。
- ボルトストアデータベースファイル用の NTFS ボリュームのディスク領域をチェックします。
- SQL ログを調べて出力をトレースし、問題の詳細情報を確認します。

## アーカイブ、復元、再実行、オンライン操作を実行できない: ストレージサービス

次の操作を行います。

- アプリケーションイベントログで詳細をチェックします。
- ボルトストアデータベースがアクセス可能であることをチェックします。
- SQL Server が実行されていることをチェックします。
- SQL ログを調べて出力をトレースし、問題の詳細情報を確認します。

## アーカイブできない: ストレージサービス

インデックスサービスが実行されていることをチェックします。

## Exchange のメッセージがアーカイブ待ちのままである: ストレージサービス

次の操作を行います。

- ボルトストアプロパティの[セーフコピー]ページの設定を確認します。ボルトストアが元の場所にセーフコピーを維持している場合は、ボルトストアのバックアップを作成するかまたはボルトストアをレプリケートしないとアイテムはショートカットになりません。ボルトストアのバックアップを作成しているかまたはレプリケートしていることを確認します。
- Exchange メールボックスタスクが実行されていることをチェックします。

## メッセージが復元されない: ストレージサービス

次の操作を行います。

- **Exchange** メールボックスタスクが実行されていることをチェックします。
- **HSM** ソフトウェアを使っている場合は、実行されていることをチェックします。
- アプリケーションイベントログを確認して、**Enterprise Vault** がボルトインデックスを再構築しているかどうかをチェックします。

**Enterprise Vault** が一部のアーカイブのインデックスを再構築している場合は、その再構築が完了するまですべてのアーカイブ操作と該当するアーカイブの取り込み操作を拒否します。その他のアーカイブは影響されないため、その他のアーカイブでのアーカイブ操作と取り込み操作は通常どおり続行できます。

## ボルトストアの作成エラー: ストレージサービス

ボルトストアの作成時にエラーメッセージを受信した場合は、ストレージサービスの再起動を試行してください。

この問題に関連するアプリケーションイベントログのエントリは次のとおりです。

Event ID 13360

An error was detected while accessing the Vault Database  
'FasterVS':

Description:

[Microsoft][ODBC SQL Server Driver][SQL Server]Unable to connect. The maximum number of '30' configured user connections are already connected. System Administrator can configure to a higher value with sp\_configure.

Event ID 13336

Unable to create Device EVFasterVS on path D:\%mssql%data

Event ID 13360

An error was detected while accessing the Vault Database  
'FasterVS':

## トラブルシューティング: ショッピングサービス

このセクションには、次のトピックが含まれます。

- 「よく起きる問題: ショッピングサービス」
- 「パフォーマンスの低下: ショッピングサービス」
- 「失われたディスク領域の回復: ショッピングサービス」
- 「ショッピングデータの移動: ショッピングサービス」

よく起きる問題: ショッピングサービス

ショッピングで問題が発生した場合は、すべての適切なサービスが起動されていることを最初にチェックします。ショッピングサービスが動作するには、次のすべてのものが実行されている必要があります。

- IIS Admin Service
- World Wide Web Publishing サービス
- Enterprise Vault Shopping Service
- Enterprise Vault Directory Service
- Enterprise Vault Exchange メールボックスタスク

すべてのタスクとサービスが実行されている場合は、ショッピングサービスをホストするコンピュータと、Exchange メールボックスタスクをホストするコンピュータのアプリケーションイベントログをチェックします。高水準のエラーのほとんどは一目瞭然で、その解決策は単純です。

表 C-7 に、表示される可能性があるエラーメッセージを示します。

表 C-7                      ログメッセージ

メッセージ	手順の内容
The Shopping Service root directory (<...>) does not exist.	フォルダを作成し再試行します。
Failed to connect to the Shopping Service	ショッピングサービスが起動されていることを確認します。

メッセージ	手順の内容
Failed to create new basket <i>BasketName</i>  Failed to create file: <i>filespec</i> .  Failed to open file <i>filespec</i>	次のとおり、ショッピングフォルダのアクセス権限をチェックします。  <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Enterprise Vault¥Shopping¥。ショッピングを使うすべての Enterprise Vault ユーザーは、ショッピングフォルダへの書き込みアクセス権を必要とします。ユーザーがこのアクセス権を確実に持つようにする1つの方法は、ショッピングフォルダへの書き込みアクセス権を[認証済みユーザー]グループに付与することです。Enterprise Vault のユーザーのみが含まれる、より小さいグループにアクセス許可を付与することを推奨します。</li> <li>■ Enterprise Vault¥Shopping Access。すべてのユーザーがフルコントロールを持つ必要があります。</li> <li>■ Enterprise Vault¥Shopping¥Domain。すべてのユーザーがフルコントロールを持つ必要があります。</li> <li>■ Enterprise Vault¥Shopping¥Domain¥user。Web Server コンピュータ (<i>WebServerComputer¥Administrators</i>) 上のユーザー (<i>Domain¥user</i>) と管理者グループの両方にフルコントロールアクセス権が必要です。</li> </ul>
Failed to open file: <filespec>	ファイルのアクセス権限をチェックします。Web Server コンピュータ ( <i>WebServerComputer¥Administrators</i> ) 上のユーザー ( <i>Domain¥user</i> ) と管理者グループの両方にフルコントロールアクセス権が必要です。
Failed to retrieve the Shopping Service directory information	ディレクトリサービスが起動されていることを確認します。

アプリケーションイベントログにエラーがない場合や、一覧表示されたエラーが明確な解決策を示していない場合は、すべての Enterprise Vault タスクとサービスを停止して再起動してください。タスクとサービスを再起動しても問題が修正されない場合は、トレースレベルを上げてアプリケーションイベントログに追加情報が生成されるかどうかを確認してください。

## パフォーマンスの低下: ショッピングサービス

ショッピングバスケットが大きくなるとパフォーマンスが低下し、取り込みの確認中にロックする機会が増えるという問題が発生します。バスケットのサイズを制限する方法はありませんが、一般的に、ユーザーはバスケットを適切なサイズ (通常は 100 以下のアイテム数) に維持する必要があります。



## 失われたディスク領域の回復: ショッピングサービス

ユーザーが復元するアイテムを選択すると、これらのアイテムのレコードはショッピングサービスコンピュータの .des ファイルに保持されます。ユーザーがすべてのショッピングバスケットを削除した場合でも、ユーザーがアイテムを取り込むにつれ、.des ファイルのサイズは次第に大きくなります。

サイズの増加が問題になる場合は、次の操作を行います。

- 1 影響するユーザーに、すべてのバスケットを削除するように依頼します。
- 2 管理者として、各 .des ファイルを手動で削除します。

新しい空の .des ファイルは、必要に応じて自動的に作成されます。

## ショッピングデータの移動: ショッピングサービス

ユーザーがショッピングを開始したら、ショッピングデータを移動しないことを推奨します。データを別のボリュームに移動すると、個々のすべてのファイルの権限が失われ、手動で再適用する必要があります。

データを同じボリュームの別の場所にコピーではなく移動する場合は、ファイルの権限が保持されます。

### データを同じボリュームの別の場所に移動する方法

- 1 IIS を停止します。
- 2 ショッピングサービスを停止します。
- 3 データを移動します(コピーしないでください)。
  - 管理コンソールで、適切なボルトサイトが表示されるまで左ペインを展開します。
  - [コンピュータ] が表示されるまで、ボルトサイトを展開します。
  - [コンピュータ] を展開します。
  - ショッピングサービスを実行しているコンピュータを展開します。
  - 右ペインで、修正するショッピングサービスをダブルクリックします。
  - ショッピングサービスプロパティの [全般] タブで、[変更] をクリックします。
  - ボルトサービスアカウントのパスワードの入力を求めるメッセージが表示されたら、パスワードを入力して [OK] をクリックします。
  - [新規フォルダ] ダイアログボックスで、新しいフォルダを選択して [OK] をクリックします。
- 5 ショッピングサービスと IIS を起動します。

## トラブルシューティング: Web Access アプリケーション

このセクションには、次のトピックが含まれます。

- 「ユーザーから Web ページが見えない: Web Access アプリケーション」
- 「Web Access アプリケーションが機能しません: Web Access アプリケーション」
- 「その他の問題: Web Access アプリケーション」

### ユーザーから Web ページが見えない: Web Access アプリケーション

IIS の仮想ディレクトリの設定が間違っている場合は、ユーザーから Web ページが見えません。Web Access アプリケーションのデフォルトの URL は /EnterpriseVault であり、これは IIS 内での Web Access アプリケーションの仮想ディレクトリの名前です。

管理コンソールの[サイトプロパティ]ダイアログボックスの[全般]タブで、Web Access アプリケーション設定をチェックします。表示されるプロトコルとポートは、/EnterpriseVault 仮想ディレクトリが含まれる IIS のデフォルトの Web サイトに設定されているプロトコルとポートに一致する必要があります。

### Web Access アプリケーションが機能しません: Web Access アプリケーション

Web Access アプリケーションが動作するには、次のすべてが実行されている必要があります。

- IIS
- World Wide Web Publishing サービス
- Enterprise Vault Directory Service
- Enterprise Vault Shopping Service
- Enterprise Vault インデックスサービス

サービスが起動されていないために発生する可能性のあるエラーは、次のとおりです。

- Web Access アプリケーションへの初回アクセス時に[Enterprise Vault サービスは利用できません]というメッセージが表示されます。
- 検索の実行時に「検索要求を実行できませんでした。」というメッセージが表示されます。
- ショッピングバスケットが作成されません。

### その他の問題: Web Access アプリケーション

- Web ブラウザの言語のテキストではなく、英語のテキストが表示されます。言語ファイルは、英語のファイル(en.lan)や Active Server Page(.asp) ファイルと同じフォル

ダに存在する必要があります。言語は IIS コンピュータの言語ではなく、ユーザーの Web ブラウザの言語です。正しい言語ファイルが存在しない場合は、英語が使われます。言語ファイルの名前は、`language.1an` です。

- 不正なユーザー名またはパスワードのエントリ形式。ログオンが正しく動作するために、ユーザー名は「ドメイン¥ユーザー名」の形式である必要があります。
- メッセージが予想外にすべての添付ファイルとともに復元されます。ユーザーが復元する添付ファイルを選択したときに、Enterprise Vault によってメッセージ全体とそのメッセージのすべての添付ファイルが復元されます。これは正しい動作です。
- アイテムをバスケットに 2 回追加できません。すでにバスケットに追加されているアイテムを追加すると、アイテムは再び追加されず、警告メッセージも表示されません。
- エラー: ASP 0115。Web Access アプリケーションが使っているサービスの 1 つがアクセス違反を起こした場合、このエラーがログに記録されます。Web Server システムのアプリケーションイベントログを調べ、エラーが発生したサービスとエラーの内容を探します。
- エラー: ASP 0177。これは次のいずれかが原因である可能性があります。
  - ショッピングサービス、インデックスサービス、ストレージサービスのいずれかが Web Server コンピュータに登録されていません。
  - 仮想ディレクトリに間違った権限が設定されています。

## トラブルシューティング: Enterprise Vault Operations Manager と監視データベース

Enterprise Vault Operations Manager にアクセスしようとしたとき、またはこれを使ってシステムを監視しているときにエラーページが表示された場合は、ベリタスサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100018176>

この記事には、Operations Manager のインストールと使用に関する詳細なトラブルシューティング情報が記載されています。

監視データベースと監視エージェントのトラブルシューティングに関する情報については、ベリタスサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100018087>

## トラブルシューティング: Enterprise Vault Reporting と FSA レポート

Enterprise Vault Reporting のインストールまたはレポートへのアクセスや表示で問題が発生した場合は、ベリタスサポート Web サイトの次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100018177>

この記事には、Enterprise Vault Reporting の詳細なトラブルシューティング情報が記載されています。

FSA レポートの設定中または使用中に問題が発生した場合は、次の Enterprise Vault の記事でトラブルシューティングに関するアドバイスを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100029185>

## 特定の問題

- Enterprise Vault タスクとサービスが起動しません (ログインエラー)。  
Enterprise Vault タスクとサービスが起動せず、ログインエラーがレポートされた場合、この問題の最も可能性の高い原因は、ボルトサービスアカウントに指定したパスワードが間違っていることです。不正なパスワードを指定した場合、すべての Enterprise Vault タスクとサービスでログインエラーが発生します。
- ユーザー /o=aaaa/ou=bbbb/cn=Recipients/cn=ccccc のメールボックスの有効化の実行中に、または有効にしたときのメッセージの送信中にエラーが発生します。  
Enterprise Vault はメールボックスを有効にしたときのメッセージを送信できません。このメッセージは、Exchange メールボックスタスクコンピュータの EnableMailboxMessage.msg というファイルに格納されます。
- Enterprise Vault タスクまたはサービスへの変更が反映されません。  
多くの変更可能な設定では、新しい設定を取得できるようにするために、適切な Enterprise Vault タスクまたはサービスを停止して再起動する必要があります。一部の設定は複数のタスクまたはサービスに影響するため、複数のタスクとサービスを停止して再起動する必要がある場合があります。
- Windows アカウントに関連付けされていないメールボックスがアーカイブされません。  
これは正しい動作です。Exchange メールボックスタスクでは、このようなメールボックスのアーカイブを自動的に無効にします。
- BCC 受信者がメッセージから消失しています。  
BCC 受信者を持つ未送信のメッセージをアーカイブして復元する場合、BCC 受信者は復元されたメッセージから消失しています。
- 別のフォルダへの Outlook アドインの再インストールが動作しません。  
Outlook アドインを削除して別のフォルダにインストールする際に、Outlook がキャッシュを更新せず、新しい場所を認識しない場合があります。  
Outlook が強制的に新しいインストールを参照するようにするには、次の手順を記載順に実行します。
  - Outlook を終了します。
  - コンピュータから Enterprise Vault Outlook アドインを削除します。
  - Outlook を起動して、終了します。

- Enterprise Vault Outlook アドインを再インストールします。
- Outlook を起動します。
- アーカイブからアイテムを削除できません。  
これは問題ではない場合があります。ユーザーがアーカイブから何かを削除し、インデックスサービスがそれに追いつくまでに 5 分かかるため、ユーザーは、アイテムが削除されたことをチェックする前にしばらく待機する必要があります。
- アーカイブが失敗したときにアイテムが余分にコピーされます。  
何らかの理由でアイテムをアーカイブできず、Enterprise Vault Exchange ポリシーのプロパティの[アーカイブ処理]タブでアーカイブ後に元のアイテムを削除しないよう選択している場合、アイテムが余分にコピーされる場合があります。
- ユーザーがアーカイブにアイテムを格納できません。  
電源やディスクの故障の直後には、Enterprise Vault では 1 つ以上のアーカイブのインデックスの再構築が必要になる場合があります。Enterprise Vault が一部のアーカイブのインデックスを再構築している場合、再構築が完了するまで、それらのアーカイブに対するすべてのアーカイブと取り込みの操作が拒否されます。そのため、それらのアーカイブのユーザーはアイテムのアーカイブと取り込みを実行できません。アーカイブのインデックスが再構築中のユーザーはアイテムをアーカイブできませんが、エラーメッセージを受信しません。その他のアーカイブは[再実行]の操作の影響を受けないため、アーカイブと取り込みの操作は通常どおり続行できます。解決策は、Enterprise Vault がインデックスの再構築を終えるまで待つことです。
- アーカイブは動作しているようだがログにエラーが表示されます。  
「An error was detected whilst accessing the Vault Database "vaultstore"」というエラーメッセージが表示される場合、ボルトストアに対するパスワードの変更にストレージサービスの停止と再起動が行われていない可能性があります。サービスが新しいパスワードを使えるように、ストレージサービスを停止して再起動します。
- Error:RPC サーバーを利用できません  
次のような状況で RPC サーバーを利用できないというメッセージを受信する可能性があります。
  - 管理コンソールを使って Enterprise Vault タスクまたはサービスを追加する場合
  - Enterprise Vault Configuration プログラムを実行してシステムを設定する場合
  - Enterprise Vault タスクとサービスを実行しているコンピュータをリモートで管理している場合各 Enterprise Vault コンピュータには登録済みの IP アドレスが必要で、TCP/IP プロトコルの DNS プロパティが定義されている必要があります。  
この問題は、Enterprise Vault タスクとサービスを設定しているコンピュータに WINS サーバーが定義されておらず、WINS の TCP/IP プロトコルのプロパティで Windows 名前解決に DNS を使わないよう選択している場合に発生する場合があります。サー

ビスコントロール管理に DNS を使うことも、Windows 名前解決に DNS を使うこともできます。

これによって問題が解決しない場合は、DNS 名ではなく LAN マネージャ名を使ってコントロールパネルのサービスアプレットに接続するように、管理コンソールコンピュータを設定します。これを行うには、次のレジストリの文字列値を 1 に設定します。

32 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Admin
¥UseLanmanNameForSCM
```

64 ビット版 Windows でのインストール:

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Admin
¥UseLanmanNameForSCM
```

- アイテムがアーカイブの対象にならない、手動アーカイブが機能しない、アイテムが復元できません。

これらすべての問題は、Enterprise Vault サーバーに必要な Windows のコードページがインストールされていない場合に発生する可能性があります。追加で言語をインストールする必要がある場合は、Microsoft ナレッジベースで次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=177561>

- Microsoft メッセージキューサーバー: MQIS 初期化エラー。  
MSMQ サーバーの既知の問題により、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Error: 0xc00e0013 No connection with the Site's
controller.
```

代わりに、次のエラーメッセージが Windows アプリケーションイベントログに記録される場合があります。

```
MQIS Database Initialization Error.
```

これらのエラーは、SQL Server から MQIS データベースへの接続に使われる ODBC システムのデータソース名 (DSN) が存在しない、または場所が間違っていることが原因で発生する場合があります。この問題を解決する方法について詳しくは Microsoft ナレッジベースの次の記事を参照してください。

<http://support.microsoft.com/?kbid=193510>

## ユーザーのアイテムの復元

ユーザーの代理としてアイテムの復元が必要な場合があります。適切な権限があれば、すべてのアーカイブからすべてのメールボックスにアイテムを復元できます。

アイテムを取り込むために使うアカウントは、次の機能を備えている必要があります。

- ドメインの管理者権限があります
- ユーザーのメールボックスに書き込み可能な権限があります
- アーカイブの読み取り権限があります
- 適切な Exchange メールボックスタスクを実行している Enterprise Vault コンピュータの Local Administrators グループのメンバーです。

### ユーザーの代理としてアイテムを復元する方法

- 1 Enterprise Vault 管理コンソールで、復元するアイテムを含むアーカイブのプロパティを表示します。
- 2 [権限]タブをクリックし、[追加]をクリックします。
- 3 ユーザーの一覧に自分自身を追加します。
- 4 Enterprise Vault Web アプリケーションを起動し、自分のアカウントでログオンします。
- 5 [ボルトの検索]アイコンをクリックします。
- 6 [アーカイブを検索]ページで、復元するアイテムを含むアーカイブを選択します。
- 7 適切なメールボックスにアイテムを復元します。

## トラブルシューティングを支援する技法

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- 「[Veritas Quick Assist](#)」
- 「[オンデマンド実行: \[今すぐ実行\]](#)」
- 「[Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用](#)」
- 「[Exchange メールボックスタスクから移動されたアイテムのレポート](#)」
- 「[管理コンソールからの DTrace の実行](#)」
- 「[Deployment Scanner の使用](#)」
- 「[Outlook アドインログが含まれているメールメッセージの作成](#)」
- 「[レジストリ設定の修正方法](#)」

## Veritas Quick Assist

Veritas Quick Assist (VQA) はシステムをスキャンして一般的な問題がないか、およびインストールの必要条件に適合しているかを調べる診断ツールです。このツールは、診断した問題を示し、可能な場合に有効な解決策を提供するレポートを生成します。VQA はベリタステクニカルサポートが使用するデータを収集して、アップロードすることも可能です。

VQA を実行して、テクニカルサポートに連絡する前に Enterprise Vault のシステムの必要条件に適合していることを確認してください。

Deployment Scanner から VQA を実行したり、ベリタスサポート Web サイトにある次の記事から最新バージョンをダウンロードしたりできます。

[https://www.veritas.com/support/en\\_US/vqa](https://www.veritas.com/support/en_US/vqa)

## オンデマンド実行: [今すぐ実行]

通常、アーカイブタスクは、設定したスケジュールに従って実行されます。ただし、このスケジュール以外でタスクの実行が必要な場合もあります。そのような場合は、[今すぐ実行]を使ってタスクをすぐに実行できます。[今すぐ実行]は、Enterprise Vault のパイロットやデモを行う場合に便利です。

### Exchange メールボックスタスクまたはパブリックフォルダタスクをすぐに実行する方法

- 1 管理コンソールの左側のペインのサイト階層を展開し、[Enterprise Vault サーバー] コンテナを表示します。
- 2 [Enterprise Vault サーバー]コンテナを展開します。
- 3 起動するタスクを実行するコンピュータを展開します。
- 4 [タスク]をクリックします。
- 5 右ペインで実行するタスクを右クリックし、ショートカットメニューで[今すぐ実行]をクリックします。
- 6 [今すぐ実行]ダイアログボックスが完了したら、[OK]をクリックします。

## Exchange メールボックスアーカイブレポートの使用

Exchange メールボックスアーカイブタスクが実行されるたびに、アーカイブレポートが自動的に作成されます。Exchange メールボックスアーカイブの問題は、これを調べることによってトラブルシューティングできます。

p.43 の「[Exchange メールボックスアーカイブレポートについて](#)」を参照してください。

Exchange メールボックスのアーカイブレポートを使ってトラブルシューティングする方法については、Veritas サポート Web サイトのテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100038085>



## Exchange メールボックスタスクから移動されたアイテムのレポート

Exchange メールボックスタスクの[移動されたアイテム]レポートには、移動またはコピーされたショートカットの数に関する情報が表示されます。このレポートには、Exchange メールボックスタスクの実行時に Enterprise Vault によって処理されるメールボックスの各フォルダに関する情報が表示されます。移動またはコピーされたショートカットの情報には、保持カテゴリが更新されたショートカットに関する情報も表示されます。

Enterprise Vault は、次の種類の Exchange メールボックスタスクの実行後にレポートを生成します。

- スケジュールされた実行
- [アーカイブとショートカット処理]モードまたは[ショートカット処理]モードで[今すぐ実行]オプションを使って開始する実行

非表示のメールボックスはレポートに表示されません。

レポートファイルは、Enterprise Vault のインストール先フォルダの Reports\Exchange Mailbox Archiving サブフォルダ (たとえば、C:\Program Files (x86)\Enterprise Vault\Reports\Exchange Mailbox Archiving) にあります。

ファイル名は次のようになります。

MovedItemsUpdateSummary\_exchangeserver\_yyyymmdd.txt

exchangeserver はタスクに関連付けされた Exchange Server で、yyymmdd はレポートが生成された日付です。

ファイル内のフィールドはタブで区切られているため、内容を簡単に表計算プログラムに転送して分析できます。

レポートには、各メールボックスフォルダに関して、表 C-8 に示す詳細が提供されます。

**表 C-8** Exchange メールボックスタスクの[移動されたアイテム]レポートのフィールド

フィールド	説明
メールボックス名	従来の識別名。
関連アカウント	メールボックスのプライマリ Windows アカウント。
メールボックスフォルダ	情報が適用されるメールボックスフォルダ。
日付	タスクによってメールボックスが処理された日付。
開始時刻	処理が開始された時刻。
終了時刻	処理が完了した時刻。

フィールド	説明
移動されたショートカットの数	メールボックスの別のフォルダからこのフォルダに移動したショートカットの数。
コピーされたショートカットの数	メールボックスの別のフォルダからこのメールボックスのフォルダにコピーしたショートカットの数。
保持カテゴリが更新されたショートカットの数	保持カテゴリが更新されたショートカットの数。
失敗した更新の数	更新が失敗したショートカットの数。
適用されたアーカイブポリシー	メールボックスに適用される <b>Exchange</b> メールボックスポリシー。

## 管理コンソールからの DTrace の実行

管理コンソールには、ローカルの **Enterprise Vault** サーバーのトレース情報を収集する **DTrace** スクリプトが複数用意されており、それらを選択することができます。

### 管理コンソールから DTrace を実行する方法

- 1 管理コンソールで、[**Enterprise Vault** サーバー] コンテナが表示されるまで **Enterprise Vault** サイトを展開します。
- 2 **Enterprise Vault**[サーバー] コンテナを展開します。
- 3 トレースを実行する **Enterprise Vault** サーバーを展開します。
- 4 [ツール]メニューで、[拡張機能]を選択します。  
 この設定は記憶されないことに注意してください。この内容は管理コンソールの現在のセッションのみに適用されます。
- 5 **F5** を押して表示を更新します。サーバーの下に、[トレース]コンテナが表示されます。
- 6 [トレース]コンテナを右クリックし、次に[新規] > [トレース]をクリックします。  
 このオプションを使用できるのは、トレースを実行するサーバーで、管理コンソールが実行されている場合のみであることに注意してください。
- 7 新規トレースウィザードで、次の情報を入力してください。
  - トレースが必要な **Enterprise Vault** サブシステムに最も近いトレースカテゴリ。たとえば、「**Search and Indexing issues**」または「**Restoring and Retrieval issues(Exchange)**」などを選択できます。
  - トレースのタイトルおよび説明。Veritas サポートへのコールを記録する場合、トレースのタイトルに受付番号を含めると便利です。タイトルは管理コンソールのトレースリストとトレースログファイルの冒頭に表示されます。

- トレースを実行する時間の長さ。トレースファイルのサイズはすぐに大きくなるため、通常は数分で十分です。
- ログファイルの最大サイズ。ログファイルがこの最大サイズに達するとトレースは停止します。
- ログファイルを保存するフォルダ。

トレースを開始した後、管理コンソールでトレースのタイトルをダブルクリックするとプロパティを表示できます。[トレースプロパティ]ダイアログボックスではログファイルを開いたりコピーしたりできるオプションが提供されますが、トレースが完了するまでは利用できません。

## Deployment Scanner の使用

解決しようとしている問題がある場合は、**Deployment Scanner** を実行してサーバーの環境を解析すると便利です。また、Veritas のサポートに連絡した場合に、**Deployment Scanner** を実行するように要求される場合があります。

**Enterprise Vault Deployment Scanner** は、このセクションの説明に従って管理コンソールから実行できます。また、**Enterprise Vault** インストールフォルダから、または **Enterprise Vault** メディアの Veritas Enterprise Vault¥Deployment Scanner フォルダから **Deployment Scanner** を実行することもできます。ファイル `Deployment_Scanner.exe` をダブルクリックして **Deployment Scanner** ウィザードを起動します。

### Deployment Scanner を管理コンソールで有効にする方法

- 1 **Deployment Scanner** を実行するサーバーで、管理コンソールを起動します。
- 2 [ツール]メニューで、[拡張機能]をクリックして選択します。

この設定は保存されないことに注意してください。設定は管理コンソールの現在のセッションにのみ適用されます。

これで、**Deployment Scanner** を実行する準備ができました。

### Deployment Scanner を管理コンソールから実行する方法

- 1 管理コンソールで、[Enterprise Vault サーバー]コンテナが表示されるまで **Enterprise Vault** サイトを展開します。
- 2 **Enterprise Vault** [サーバー]コンテナを展開します。

- 3 管理コンソールを実行している Enterprise Vault サーバーを右クリックし、ショートカットメニューの[Deployment Scanner]をクリックします。
- 4 Deployment Scanner ウィザードに従って操作します。  
Deployment Scanner は Enterprise Vault の Deployment Scanner\Reports フォルダにレポートを保存します。  
[Veritas Quick Assist を通じて情報を取得]オプションを選択すると、Deployment Scanner が Veritas Quick Assist ツールを起動して、Veritas のサポートに送るサポート情報を集めます。

---

**メモ:** Veritas Quick Assist からインターネットにアクセスできる場合は、自動的に新しいバージョンを調べてダウンロードします。詳しくは Veritas サポート Web サイトで次の記事を参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100014202>

---

## Outlook アドインログが含まれているメールメッセージの作成

Outlook アドインログビューアの[ログを送信する]ボタンを使って、Outlook アドインログの含まれたメールメッセージを作成できます。

ユーザーのコンピュータ上の SendLogFileMaxSizeMB レジストリ値と SendLogFileRecipients レジストリ値を使って、[ログを送信する]の動作を制御できます。SendLogFileMaxSizeMB はメッセージの最大サイズ（デフォルト値は 5 MB）を制御し、SendLogFileRecipients はデフォルトの受信者を指定します。詳しくは『レジストリ値』を参照してください。

### Outlook アドインログをメールで送信する方法

- 1 Outlook で[Enterprise Vault 情報]ダイアログボックスを開きます。
  - [ファイル]タブをクリックし、[Enterprise Vault]をクリックして、[その他のサポート情報]をクリックします。
- 2 [Enterprise Vault 情報]ダイアログボックスで[ログを送信]をクリックします。  
Outlook によって、ログのテキストが含まれているメールメッセージが作成されます。件名行が[Enterprise Vault Outlook アドインログファイル]に設定されて、[宛先]フィールドが空白のままになります。
- 3 必要に応じて情報を追加し、メッセージを送信します。

## レジストリ設定の修正方法

Enterprise Vault のほとんどの設定は Enterprise Vault 管理コンソールを使って行えますが、他のツールを使う必要がある場合もあります。このセクションでは、Enterprise Vault の動作を変更できる Windows レジストリの変更について説明します。

このセクションには、次のトピックに関する情報が含まれます。

- 「MSMQ のタイムアウトの設定」
- 「アイテムの共有によるオフラインストレージの最適化」
- 「内容の変換の制御」
- 「メッセージ受信者の最大数の設定」

### MSMQ のタイムアウトの設定

Enterprise Vault には、サービスが MSMQ からの応答を待機する時間の限度となるタイムアウト値があります。通常は、タイムアウトになった場合は、問題が生じています。ただし、タイムアウトになることが予想される場合もあるため、コンポーネントが長時間アイドル状態にならないようにするために、適度に短い待機時間が必要です。

タイムアウト値が短すぎる場合、負荷が高いシステムでは要求を完了する時間がないためにタイムアウトエラーが発生する可能性があります。タイムアウト値が長すぎると、一部の環境ではタイムアウトの発生が予想されるため、Enterprise Vault のスループット全体が遅くなる可能性があります。

デフォルトタイムアウトは 240 秒です。最大値はありません。適した値になるまで、タイムアウト値を 5 秒など小刻みに調整することを推奨します。タイムアウトの値を大きく増やす必要がある場合は、MSMQ と Enterprise Vault のパフォーマンスを調べる必要があります。

#### タイムアウト値を変更する方法

- 1 Enterprise Vault Storage Service を実行しているコンピュータのレジストリを編集します。
- 2 次の DWORD 値を編集または追加 (必要な場合) します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
  \SOFTWARE
    \Wow6432Node
      \KVS
        \Enterprise Vault
          \Storage
            \QueueTimeout
```

- 3 待機する秒数を値に設定します。
- 4 ストレージサービスと **Exchange** メールボックスタスクを停止して再起動します。

## アイテムの共有によるオフラインストレージの最適化

一部の **HSM** ソフトウェア製品は、ファイルが **HSM** セカンダリストレージに移動されたことを示すオフラインファイル属性をサポートしていません。このような場合、ストレージサービスは、ファイルが最後に更新されてから特定の日数が経過した場合にファイルがオフラインであると見なします。

ストレージサービスによってファイルがオフラインであると見なされるまでの日数を指定するには、**OfflineDays** というレジストリ値を使います。デフォルト値は **0** で、これはストレージサービスがアイテムを常にオンラインであると見なしていることを表します。

複数のユーザーがアイテムを共有している場合、ストレージサービスはアイテムの別のコピーをアーカイブします。共有アイテムのすべてのコピーは、通常 **1** つのアイテムだけがアーカイブされるように同時にアーカイブされます。

### オフラインの設定を変更する方法

- 1 **Enterprise Vault Storage Service** を実行しているコンピュータのレジストリを編集します。
- 2 次の **DWORD** 値を編集または追加 (必要な場合) します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥OfflineDays
```

- 3 アイテムをオンラインにしておく日数を値に設定します。デフォルト値は **0** で、これはストレージサービスがセカンダリのオフライン状態のチェックを停止することを示します。**OfflineDays** を **0** に設定した場合、オフラインの状態はオフラインファイル属性の設定値によって決まります。

新しい設定値はすぐに使われます。

## 内容の変換の制御

デフォルトでは、**Enterprise Vault** は、アーカイブ済みアイテムの圧縮されたテキストまたは **HTML** バージョンを格納します。これにより、ユーザーはアイテムを取り込む前にアイテムを検索して内容を表示できます。ユーザーがアイテムを検索したり内容を表示したりする必要がない場合は、内容の変換を無効にしてパフォーマンスを改善できます。

## 内容の変換を制御する方法

- 1 Enterprise Vault Storage Service を実行しているコンピュータのレジストリを編集します。
- 2 次の DWORD 値を編集または追加 (必要な場合) します。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥BypassConversions
```

- 3 BypassConversions の値に、内容の変換を実行する場合は 0、内容の変換を無効にする場合は 1 を設定します。
- 4 ストレージサービスを停止して再起動し、変更を有効にします。

## メッセージ受信者の最大数の設定

デフォルトでは、Enterprise Vault は受信者が 5,000 人を超えるメッセージをアーカイブしませんが、この設定は制御できます。

### メッセージ受信者の最大数を設定する方法

- ◆ Exchange メールボックスタスクのコンピュータで、MaxNumOfRecipients レジストリ値を編集します。この値は次のレジストリキーの下にあります。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE
¥SOFTWARE
¥Wow6432Node
¥KVS
¥Enterprise Vault
¥Agents
```

また、SkipRecipCheckSize レジストリ値を使って、受信者数をチェックするメッセージの最小サイズを設定できます。サイズには、受信者の一覧自体のサイズも含まれます。SkipRecipCheckSize のデフォルトは 750 KB です。これより大きいメッセージは受信者数をチェックされるのに対して、これより小さいメッセージは最大受信者数より少ないと見なされます。

# インデックスサービスの移動について

このセクションの手順では、次の操作を実行できます。

- インデックスサービスとそのすべてのデータを別のコンピュータに移動します。

- 2 つ以上のインデックスサービスを 1 つに組み合わせます。
- インデックスサービスの一部のデータを別のインデックスサービスに移動します。

---

**警告:** インデックスサービスを移動すると大量の作業が発生し、それに伴う間違いを修正するのに時間がかかる可能性があるため、インデックスサービスは移動しないことを推奨します。

---

Enterprise Vault Directory Service に格納されているデータを表示または変更するには、データベースツールが必要です。ツールの例としては、VisData (Microsoft Visual Basic で提供されるサンプルアプリケーション) やクエリーアナライザ (Microsoft SQL Server に含まれる) があります。次の手順には、ボルトディレクトリデータベースにアクセスするためのデータベースツールを設定する方法の詳細は含まれていません。

## ボルトディレクトリデータベースのインデックスのデータ構造の注意点

各インデックスサービスには、ディレクトリデータベースに `IndexingServiceEntry` というエントリがあります。各 `IndexingServiceEntry` には、ディレクトリデータベースの `ComputerEntry` の ID が含まれます。`ComputerEntry` にはインデックスサービスがインストールされているコンピュータの名前が含まれます。

インデックスサービスには 1 つ以上のルートパスの場所があります。ルートパスの場所とは、`D:\¥VaultData¥Indexes` などの、インデックスサービスがインデックスデータを格納するローカルコンピュータの場所です。

各ルートパスの場所にはボルトディレクトリデータベースのエントリがあります。このエントリは `IndexRootPathEntry` です。各 `IndexRootPathEntry` には `IndexRootPath` フィールドのルートパスの場所のフォルダ名と、`IndexServiceEntryID` フィールドの対応するインデックスサービスの `IndexingServiceID` が含まれます。

`IndexingServiceEntry` には `IndexRootPathEntry` レコードの一覧は含まれません。逆のリンクはあり、`IndexRootPathEntry` に `IndexingServiceEntry` へのポインタが含まれます。

各アーカイブには、ボルトディレクトリデータベースエントリがあります。このエントリは `VaultEntry` です。各 `VaultEntry` には、アーカイブのインデックスデータが格納されている `IndexRootPathEntry` の ID が含まれています。

## インデックスサービスの移動

インデックスサービスのデータを移動するときに、ルートパス全体をそのまま移動し、個々のアーカイブによって使われる `IndexRootPathEntry` を変更しないことを推奨します。次の手順ではルートパス全体の移動について説明します。

以下の手順では、インデックスサービスの移動元となるコンピュータを「移動元コンピュータ」、サービスの移動先となるコンピュータを「移動先コンピュータ」と表します。



---

**メモ:** インデックスサービスが正しく機能するために、年の形式がグレゴリオ暦に該当するコンピュータにインストールする必要があります (現在 **2018**)。たとえば、コンピュータのグレゴリオ暦をタイの暦に設定すると、インデックスサービスが失敗します。これは、タイ太陽暦の現在の年が、サービスがサポートする日付範囲から外れるために発生します。

---

## インデックスサービスを移動する方法

- 1 『Enterprise Vault インストール/設定』ガイドの説明に従って、移動先コンピュータに Enterprise Vault ソフトウェアをインストールします。

- 2 移動先コンピュータでインデックスサービスを設定します。

管理コンソールを使ってルートパスの場所を作成する必要はありません。管理コンソールを使って作成した場所は、移動先コンピュータに移動されたインデックスに対しては使われません。

また、以下の手順とまったく同じ手順を使って、既存のインデックスサービスにデータを移動できます。移動されたインデックスは新しいルートパスの場所に配置され、既存のルートパスの場所を共有しません。

- 3 次の手順を実行して、移動先コンピュータのインデックスサービスのボルトデータベースディレクトリのエントリを取得します。
  - 移動先コンピュータのエントリが見つかるまで、ディレクトリの **ComputerEntry** レコードを検索します。
  - このエントリの **ComputerEntryId** を書き留めます。
  - この **ComputerEntryId** を含む **IndexingServiceEntry** レコードをディレクトリで検索します。
  - この **IndexingServiceEntry** レコードの **IndexingServiceEntryId** を書き留めます。
  - 9 でこれを使います。
- 4 次の手順を実行して、移動元コンピュータのインデックスサービスのディレクトリデータベースのエントリを検索します。
  - 移動元コンピュータのエントリが見つかるまで、ディレクトリの **ComputerEntry** レコードを検索します。
  - このエントリの **ComputerEntryId** を書き留めます。
  - この **ComputerEntryId** を含む **IndexingServiceEntry** レコードをディレクトリで検索します。
  - この **IndexingServiceEntry** レコードの **IndexingServiceEntryId** を書き留めます。
  - 5 でこれを使います。

- 5 次の手順を実行して、移動元コンピュータのすべてのインデックスサービスのルートパスの場所を識別します。
  - 移動元コンピュータの **IndexingServiceEntryId** を含む **IndexRootPathEntry** レコードをディレクトリで検索します。
  - これは4で取得した値です。
  - 移動先コンピュータに移動するルートパスの場所を決定します。新しいコンピュータにインデックスサービス全体を移動する場合にすべてを移動するように選択したり、2つのインデックスサービス間で負荷を分散させる場合に一部のみを移動するように選択したりすることができます。
  - 移動するすべてのルートパスの場所の一覧を作成します。この一覧には、各ルートパスの **IndexRootPathEntryID** と、インデックスデータが格納される **IndexRootPath** フォルダを記録する必要があります。
- 6 次の手順を実行して、ルートパスの場所に対応するフォルダを移動先コンピュータに作成します。
  - 移動先コンピュータで、5で作成した一覧にあるルートパスごとに 1 つのフォルダを手動で作成します。

通常は、インデックスデータの格納に使うディスクごとに 1 つのルートパスを作成します。移動元コンピュータよりも移動先コンピュータのディスクが少ない場合は、このように作成できない場合があります。その場合は、同じディスク上に複数のフォルダを作成します。このように作成しても問題はありません。重要なのは、移動するルートパスと同じ数のフォルダを作成することです。

複数のルートパスを 1 つに組み合わせたり、1 つのルートパス内のデータを分割して複数のルートパスに格納したりしないでください。
  - これらのフォルダを5で作成した一覧の各ルートパスに 1 つずつ割り当てます。
  - 移動先コンピュータの十分な空き領域を持つディスクに新しいフォルダをそれぞれ作成し、移動元コンピュータの対応するルートパスに格納されたすべてのデータを保持する必要があります。
  - NTFS を使っている場合は、各フォルダ (およびフォルダに作成された各ファイル) のセキュリティ権限を修正し、**Administrators** グループは完全にアクセス可能にして、その他のユーザーからはアクセスできないようにします。
- 7 コントロールパネルのサービスアプレットを使って、移動元コンピュータと移動先コンピュータの両方のインデックスサービスを停止します。
- 8 両方のサービスが停止するまで待機します。
- 9 手順5で作成した一覧のそれぞれのルートパスの場所で、次の操作を実行します。
  - 移動元コンピュータのルートパスの場所からすべてのファイルとサブフォルダを、移動先コンピュータの対応するフォルダ (6 で作成したフォルダ) に再帰的にコピーします。

移動元コンピュータのルートパスの場所と移動先コンピュータの新しいフォルダは、1 対 1 で対応する必要があります。移動先コンピュータの既存のフォルダは使わないでください。また、複数のルートパスを同じフォルダにコピーしないでください。

- データが安全にコピーされたら、データベースツールを使い、5 で作成した一覧に記録されている ID を使って、ディレクトリにあるルートパスの **IndexRootPathEntry** を選択します。
- **IndexingServiceEntryID** フィールドの値を3 で取得した ID に変更します。
- これにより、移動先コンピュータのインデックスサービスと **IndexRootPathEntry** が関連付けされます。
- **IndexRootPath** フィールドの値を、このルートパスのデータがコピーされた移動先コンピュータのフォルダ名に変更します。ドライブ文字を含む、フォルダの正確な絶対パスを使います。
- 修正された **IndexRootPathEntry** がディレクトリに書き戻されていることを確認します。

この段階では移動元コンピュータからデータを削除しないでください。

## 10 次の手順を実行してインデックスサービスを起動します。

- 移動先コンピュータでインデックスサービスを起動します。
- 5 で作成した一覧の **IndexRootPathEntry ID** の 1 つが含まれるすべての **VaultEntry** レコードをディレクトリで検索することによって、データが移動されたアーカイブを識別します。
- データがコピーされ、ボルトディレクトリデータベースが正しく更新されていることを確認するために、各アーカイブを検索します。
- 移動先コンピュータが正しく動作しており、移動されなかった他のルートパスがまだ残っている場合は、移動元コンピュータのインデックスサービスを再起動します。
- 移動先コンピュータで安全にバックアップが作成されるまでは、移動元コンピュータからインデックスデータを削除しないでください。

# Enterprise Vault アカウントとパーミッション

この付録では以下の項目について説明しています。

- [アカウントおよび権限について](#)

## アカウントおよび権限について

さまざまなアカウントの概要と Enterprise Vault に必要なパーミッションについては次のテクニカルノートを参照してください。

<https://www.veritas.com/docs/100022472>